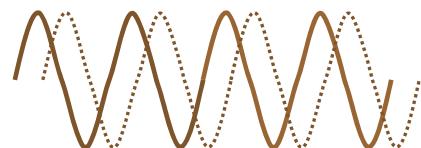


特定の課題に関する調査（音楽）
調査結果
(小学校・中学校)



平成22年7月
国立教育政策研究所
教育課程研究センター

目次

特定の課題に関する調査（音楽）のポイント	1
----------------------	---

特定の課題に関する調査（音楽） 調査結果

I 調査の概要	5
1 調査の趣旨	5
2 調査実施学年と出題の範囲	5
3 調査実施期間	5
4 調査の内容	5
5 調査対象の抽出	6
6 調査実施学校数及び児童生徒数	6
7 調査対象学校における実施方法	6
8 採点及び集計	7
【各調査問題の概要】	8
II 小学校における調査結果	11
1 調査Ⅰにおける調査結果	11
(1) 問題1	11
(2) 問題2	18
(3) 問題3	33
2 調査ⅡAにおける調査結果	41
(1) 問題1	41
(2) 問題2	54
3 調査ⅡBにおける調査結果	66
(1) 問題1	66
(2) 問題2	83
4 児童質問紙調査における調査結果	95
(1) 児童質問紙調査結果の概要	95
(2) 児童質問紙調査と調査Ⅰ、調査ⅡA、調査ⅡBとの関連	102
5 学校質問紙調査における調査結果	108
学校質問紙調査結果の概要	108
III 中学校における調査結果	113
1 調査Ⅰにおける調査結果	113
(1) 問題1・2	113
(2) 問題3・4・5	120

(3) 問題 6	128
(4) 問題 7・8	133
(5) 問題 9・10	146
2 調査ⅡAにおける調査結果	152
(1) 問題 1	152
(2) 問題 2	158
(3) 問題 3	164
(4) 問題 4	171
(5) 歌唱実技	175
3 調査ⅡBにおける調査結果	185
(1) 問題 1・2・3	185
(2) 問題 4	194
(3) 問題 5	199
(4) 問題 6	205
(5) 問題 7	212
4 生徒質問紙調査における調査結果	219
(1) 生徒質問紙調査結果の概要	219
(2) 生徒質問紙調査と調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBとの関連	225
5 学校質問紙調査における調査結果	229
学校質問紙調査結果の概要	229
IV 分析結果から見た主な課題と指導上の改善	233
特定の課題に関する調査（音楽） 委員名簿等	241

特定の課題に関する調査（音楽）のポイント

特定の課題に関する調査(音楽) のポイント

音楽についての学力調査を実施

- 基礎的・基本的な知識、感じ取って工夫する力、音楽表現の技能、鑑賞する力の実現状況を把握。
- リズムづくり(小学校)や歌唱(中学校)などの実技調査を実施。
- 全国規模の音楽科の学力調査は、小学校では42年ぶり、中学校では初めての実施。実技調査は初めての実施。
- 学習内容に関連した児童生徒の意識や、教師の指導の実際等に関する質問紙調査も実施。
- ビデオやコンピュータを用いた映像や音声を伴う出題を工夫し、児童生徒が興味をもって取り組めるようにすることなどに配慮。

【調査の概要】

- 調査対象学年／小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査実施日／小学校 平成20年12月 3日～平成21年 2月27日
中学校 平成20年10月 1日～平成20年11月28日
- 調査実施学校数及び児童生徒数／全国の国公私立学校から無作為抽出。
小学校：約110校 約3,000人 中学校：約100校 約3,000人
- 調査内容・調査方法／

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ	質問紙
小学校	内容A	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト】	○調査ⅡA（約1,000人） 感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心 【ペーパーテスト及びリズムづくりなどの実技（コンピュータによる出題）】	学習内容 に関連した児童の 意識等
	内容B	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	○調査ⅡB（約2,000人） 鑑賞する力を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	
中学校	内容A	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト】	○調査ⅡA（約1,000人） 感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心 【ペーパーテスト及び歌唱の実技（コンピュータによる出題）】	学習内容 に関連した生徒の 意識等
	内容B	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	○調査ⅡB（約2,000人） 鑑賞する力を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	

【出題における工夫・配慮】

- ビデオやコンピュータを用いて、演奏の様子や、教師と児童生徒の会話などの授業風景を視聴することによって、親しみや興味をもって調査問題に取り組めるようにした。
- コンピュータによる出題では、児童生徒一人一人がコンピュータとマイク付きヘッドホンを使用し、つくった音楽や歌唱を録音・再生するなどして、確認をしたり試したりしながら取り組めるようにした。



«授業風景の視聴»

«バレエ・能等の視聴»

【主な調査結果】

【小学校】

《用語や記号などに関する問題》

- 音楽を聴き、拍子(3拍子)を正しく選択したり、スラーとスタッカートの記号が正しく付された楽譜を選択したりした児童は約7割。音楽の長調・短調を選択する問題では、3曲すべて正しく選択した児童は約3割。

指導改善

- 用語や記号の名称などを知ることだけではなく、児童が実感をもって用語や記号を理解できるように、それらと音楽の雰囲気とを結び付ける指導の工夫。

《創作(音楽づくり)に関する問題》

- 変化させたリズムをつくった児童は約9割。変化させたリズムとその工夫の記述とが整合していた児童は約4割。

指導改善

- 創作(音楽づくり)では、反復や変化などの構成を工夫する過程を大切にし、思いや意図をもち、それを生かしてつくることができるような指導の工夫。



《リズムを和太鼓の音と共に唱えてみる》

《鑑賞に関する問題》

- 4つの部分から成る音楽を聴き、どのような様子が表されているかについて約7割の児童が記述しているが、その音楽の強弱の変化をとらえて記述した児童は約2割。

指導改善

- 音楽の要素(音色や強弱など)のうち、児童が感じ取りやすいものを取り上げて、その要素に自ら気付いたり、その要素と他の要素とのかかわり合いを聞き取ったりしながら、曲想の感じ取りを深めるような指導の工夫。



《ビデオによる楽曲の視聴》

【中学校】

《用語や記号などに関する問題》

- 楽譜を見ながら音楽を聴き、強弱の変化記号を正しく選択した生徒は約8割、速度の変化記号を正しく選択した生徒は約4割など、音楽の用語や記号などに関する問題の正答率は約4～8割。

指導改善

- 表現や鑑賞の活動を通して、楽譜に親しみ、用語や記号の意味や役割について理解できるような指導の工夫。

《歌唱実技に関する問題》

- おおむね正しい音程で歌った生徒は約6割、おおむね正しいリズムで歌った生徒は約8割。また、豊かな表現で歌っていると認められる生徒は約6割だが、自分なりに歌で表したいことを考え、それを生かして歌っている生徒は約3割。
- 音程やリズムを正しく歌ったり、豊かな表現で歌つたりした生徒は、用語や記号などに関する問題で正答数が多い傾向が見られた。

★歌唱実技調査の流れ

- 新曲(平易な2部合唱曲)の歌詞や楽譜を見たり合唱を聴いたりしながら、上のパートや下のパートを歌唱する。
- 次の問題に取り組む。
 - ・ 歌詞の内容(情景や心情)を考える
 - ・ 上下のパートのかかわりを考える
 - ・ 歌詞の内容や上下のパートのかかわりなどから歌唱表現の工夫を考える
- 歌唱の練習をした後、前問までに考えてきたことを生かして歌う。
〔歌唱→録音を聴く→歌唱(採点対象)〕



指導改善

- 音程やリズムなどを正しく歌うだけではなく、歌詞の内容、楽曲の構造(旋律や強弱などの要素やそれらのかかわり合い)などを基にして、表現したいことを考え、それらを生かして豊かな表現で歌うことができるような指導の工夫。

《鑑賞に関する問題》

- 音楽を聴いて紹介文を記述する問題では、気持ちや想像したことを約8割の生徒が記述しているが、音楽の要素を2つ挙げ、音楽の移り変わりに触れて具体的に記述するなどの条件を満たした生徒は約3割。

指導改善

- 音楽を聴き、その要素が生み出す曲想の変化をとらえたり、音楽が醸し出す表情と生活経験を結び付けたりして、音楽を解釈し、味わいを深めるような指導の工夫。



《ビデオによる楽曲の視聴》

【質問紙調査】

- 音楽の学習が好きだ、大切だと回答した児童生徒は約7～8割。
- 音楽の学習は生活を明るく楽しく(豊かに)する、心を豊かにすると回答した児童生徒は約9割。
- ふだんの生活における音楽活動の中で、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていると回答した児童生徒は約3～5割。

【小・中学校を通じた状況】

- 音楽を愛好する心情などに特にかかる質問（「音楽の学習が好きですか。」など）に肯定的な回答をした児童生徒の方が、否定的な回答をした児童生徒より、ほとんどの問題で正答率が高かった。

指導改善

- 音楽活動の楽しさや喜びを感じながら、授業で学んだことをふだんの生活における音楽活動の中に生かしていくとする態度を養うよう、自ら取り組む意欲を高める授業の進め方や教材の選択・提示の仕方を工夫するなどし、音楽表現や鑑賞にかかる諸能力をはぐくんでいく指導の工夫。

- 音楽を聴いて感じ取ったことや自分が考えた表現の工夫などを一定の条件に基づいて記述する問題では、小・中学校ともに正答率が低い傾向が見られた。

指導改善

- 音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、音楽のよさや美しさ、表現の工夫を、音楽に関する言葉を用いて述べるなど、言語活動を適切に取り入れる指導の工夫。

- 自分が考えた表現の工夫と実際につくったリズムや歌唱実技とが整合していた児童生徒は、約3～4割。

指導改善

- 音楽の要素やそれらの働きをとらえ、それを手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりするような指導の工夫。

指導の改善のポイント

- 音楽活動の喜びを味わうとともに、生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる基礎的な能力を養うよう、音楽を形づくっている要素を手掛かりとしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現する力や鑑賞を深める力を育成することが大切。

小学校：旋律やリズムなどの要素を聞き取り、それらの働きを感じ取り、歌唱や楽器の演奏、音楽づくりにおいて創意工夫して表現したり、音楽のよさや面白さなどを感じ取りながら想像豊かに鑑賞したりする能力を育成することが大切。

中学校：小学校の学習を基に、音楽の基礎的な能力を更に伸ばし、自らの考えを音楽で表現したり、要素の働きによる自分のイメージなどを意識し、音楽の背景にある文化や歴史などを理解しながら鑑賞したりする能力を育成することが大切。

調査結果

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の趣旨

特定の課題に関する調査は、平成15年10月7日の中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」において提言され、児童生徒の学力の総合的な状況を把握するために、従来から実施してきた「教育課程実施状況調査」の枠組では把握が難しい内容について調査研究を行い、今後の教育課程や学校における指導の改善に資するものである。

音楽科の調査の実施に当たっては、国立教育政策研究所（以下「研究所」という。）が委嘱した「特定の課題に関する調査（音楽）」の問題作成委員会において、過去の音楽等質問紙調査の結果等も踏まえて検討した結果、音楽科における基礎的・基本的な知識等、感じ取って工夫する力、音楽表現の技能、鑑賞する力の状況を見る調査を行うこととした。

2 調査実施学年と出題の範囲

(1) 調査実施学年

小学校第6学年

中学校第3学年（中等教育学校前期課程第3学年を含む。）

(2) 出題の範囲

小学校については、小学校学習指導要領第2章各教科第6節音楽（平成10年告示）に示されている事項（「A表現」及び「B鑑賞」）を出題範囲とした。

中学校については、中学校学習指導要領第2章各教科第5節音楽（平成10年告示）に示されている事項（「A表現」及び「B鑑賞」）を出題範囲とした。

3 調査実施期間

小学校：平成20年12月3日（水）～平成21年2月27日（金）

中学校：平成20年10月1日（水）～平成20年11月28日（金）

4 調査の内容

今回の調査では、音楽科における基礎的・基本的な知識を中心に把握する調査（調査I）、感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心に把握する調査（調査II A）、鑑賞する力を中心に把握する調査（調査II B）を行うこととした。

小学校、中学校とも、調査Iと調査II Aを組み合わせた調査（「内容A」）、調査Iと調査II Bを組み合わせた調査（「内容B」）の2種類の調査を実施することとした。

それぞれの調査の概要等は【各調査問題の概要】（8頁）に示すとおりとした。

なお、学習内容に関連した児童生徒の意識や、教師の指導の実際等に関する質問紙調

査もあわせて実施した。

5 調査対象の抽出

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒について、それぞれ約3,000人（内容Aについては約1,000人、内容Bについては約2,000人）の調査結果を得ることとして、全国の国公私立の小学校及び中学校から無作為に抽出した調査対象学校における対象学年の全学級から、研究所が示す方法によりそれぞれ1学級を抽出し、その学級の児童生徒全員を調査対象とした。

6 調査実施学校数及び児童生徒数

	種類	学校数（校）		児童生徒数（人）	
小学校	内容A	36	113	1,012	3,292
	内容B	77		2,280	
中学校	内容A	34	102	1,090	3,229
	内容B	68		2,139	

7 調査対象学校における実施方法

（1）調査Ⅰ、調査ⅡA、調査ⅡB

本調査においては、内容に応じて、ペーパーテストと実技調査などを組み合わせて実現状況を把握した。

小学校、中学校とも、調査Ⅰ及び調査ⅡBは、ビデオ（DVD）を視聴し、ビデオの指示に従って調査票に筆記で解答する方法（ペーパーテスト）をとった。

調査ⅡAはコンピュータにより出題し、その指示に従って解答することとした。解答の方法は、調査票への筆記（ペーパーテスト）のほか、小学校では創作（音楽づくり）、中学校では歌唱の実技を行った。

（調査の方法）

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ	質問紙
小学校	内容A	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	○調査ⅡA（約1,000人） 感じ取って工夫する力と音楽表現の技能を中心 【ペーパーテスト及びリズムづくりなどの実技（コンピュータによる出題）】 ○調査ⅡB（約2,000人） 鑑賞する力を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	学習内容に関連した児童の意識等
	内容B			
中学校	内容A	○調査Ⅰ（約3,000人） 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	○調査ⅡA（約1,000人） 感じ取って工夫する力と音楽表現の技能を中心 【ペーパーテスト及び歌唱の実技（コンピュータによる出題）】 ○調査ⅡB（約2,000人） 鑑賞する力を中心 【ペーパーテスト（ビデオによる出題）】	学習内容に関連した生徒の意識等
	内容B			

上記のとおり、本調査においては、ビデオ（D V D）やコンピュータを用いた映像や音声を伴う出題を工夫し、児童生徒が興味をもって取り組めるように以下の配慮をした。

- ・ ビデオ（D V D）やコンピュータを用いて、演奏の様子や、教師と児童生徒の会話などの授業風景を視聴することによって、親しみや興味をもって調査問題に取り組めるようにした。
- ・ コンピュータによる出題では、児童生徒一人一人がコンピュータとマイク付きヘッドホンを使用し、つくった音楽や歌唱を録音・再生するなどして、確認をしたり試したりしながら取り組めるようにした。

(2) 児童・生徒質問紙調査

調査対象学級の児童生徒に対し、音楽の学習に対する意識や学習内容に関する意識などについて調査した。

(3) 学校質問紙調査

調査対象学級で音楽の指導を行っている教員を対象として、指導の工夫や児童生徒の学習状況などについて調査した。

8 採点及び集計

本調査においては、研究所が設定した問題ごとの解答類型に従って採点し、集計を行った。

（参考）調査結果を見るに当たって

(1) 正答、準正答

解答については、正答のほか、問題によって、完全な正答とはいえないが、学習指導要領の目標、内容に照らしての学習の実現状況を判断しようとする際、その問題のねらいからは正答をしたものと同等に扱ってよいと判断できるものとして「準正答」を設けた。

(2) 通過率

調査実施児童生徒数（有効な解答を行ったものとして、集計対象とした児童生徒の人数。無解答も含まれる。）から、正答又は準正答いずれかを解答した児童生徒数の割合の数値を「通過率」とした。

【各調査問題の概要】

(1) 小学校

<調査 I >

○リズムを聴き取ることと楽譜とのかかわり

問題1 (1)聴いたリズムと同じリズムを、聴き取って選択する

(2)聴いたリズムと同じリズムが示された楽譜を選択する

○音楽を特徴付けている要素を聴き取ること

問題2 音楽を聴いて以下の内容について選択する

(1)長調・短調, (2)記号, (3)拍子, (4)演奏の仕方, (5)合唱の形態

○楽譜の音高や記号の理解

問題3 (1)楽譜を見て、階名を書く

(2)①記号の名称を選択する

②反復記号に従った演奏順を選択する

<調査 II >

○曲の構成を工夫したリズムづくり

問題1 変化の仕組みを使ってリズムをつくり、工夫したことを記述する

○まとまりのある旋律づくり

問題2 4つの旋律（カード）の組合せを工夫してまとまりのよい旋律をつくり、まとまりがよいと考えた理由を記述する

<調査 II B >

○音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわり合い

問題1 (1)曲想を醸し出しているリズムの変化を選択する

(2)曲想を醸し出している楽器の音色、強弱、速度のそれぞれの変化の記述の適否を選択する

(3)特定の旋律が楽曲の各部に表れているか否かを選択する

(4)楽曲の強弱の変化によって、はなやかな行列や行進のどのような様子が表されているかを記述する

○楽曲の構成と曲想とのかかわり合い

問題2 (1)要素（強弱）の特徴を記述する

(2)要素の特徴（音色と音の重なり、拍節感の特徴）の記述の適否を選択する

(3)作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する

(2) 中学校

<調査 I >

○楽器の音色と奏法などとの関連

問題1 音楽を聴き、奏法を選択する

問題2 音楽を聴き、楽器名と楽器の形を選択する

○旋律やリズムの特徴

問題3 音楽を聴き、調性を選択する

問題4 音楽を聴き、拍子を選択する

問題5 音楽を聴き、リズムが示された楽譜を選択する
○階名・移動ド唱法

問題6 (1) 楽譜を見て階名を書く
(2) 音楽を聴いて階名を選択する

○音楽の用語や記号

問題7・8 音楽を聴いたり楽譜を見たりして、音楽の用語や記号、その意味を選択する

○音楽の表現上の特徴

問題9 音楽を聴き、和声を含む音と音とのかかわり合いの特徴を選択する
問題10 音楽を聴き、拍の特徴を選択する

<調査ⅡA>

○歌詞が表す情景や心情

問題1 歌詞にふさわしい情景と心情を選択する

○声部の役割

問題2 楽譜を見て、声部の役割を選択する

○歌詞の内容や声部の役割と表現の工夫

問題3 歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げて表現の工夫を記述する

○歌詞の内容や声部の役割と強弱の工夫

問題4 強弱による表現の工夫を考え、楽譜に記入する

○表現の工夫を生かした歌唱

歌唱実技 問題1～4の解答を通して思考してきたことを基に歌唱する

<調査ⅡB>

○イメージと音楽を形づくっている要素とのかかわり

問題1 ピアノ曲を聴き、楽曲のA部のイメージに合う天気を選択する

問題2 ピアノ曲を聴き、楽曲のB部のイメージに合う天気を記述する

問題3 ピアノ曲を聴き、A部からB部について変化した要素を選択する

○音楽の特徴と音楽を形づくっている要素とのかかわり

問題4 ピアノ曲を聴き、楽曲のC部の特徴的な要素を選択し、その特徴を記述する

○曲想と音楽を形づくっている要素の働き

問題5 ピアノ曲を聴き、楽曲の紹介文を記述する

○音の特徴と楽器の奏法とのかかわり

問題6 リコーダーと尺八の音楽を聴き、リコーダーと比べた尺八の音の特徴について、奏法と結び付けて説明する

○音楽と他の芸術とのかかわり

問題7 総合的な芸術を視聴し、音楽と他の芸術とのかかわりを記述する

調査結果

II 小学校における調査結果

II 小学校における調査結果

1 調査 I における調査結果

(1) 問題 1

リズムを聴き取ることと楽譜とのかかわり

—聴いたリズムと同じリズムについて、聴き取って選択したり、
楽譜を選択したりする—

① 出題の趣旨

リズムを聴き取ることや聴き取ったリズムと楽譜とのかかわりを意識することは、表現及び鑑賞の様々な活動の中で、リズムの働きが生み出す音楽のよさや面白さなどを感じ取ることにつながっていく。

問題 1 では、リズムを聴き取っているか、聴き取ったリズムを楽譜とかわらせているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年 2 内容 A 表現(1)ア、イ、(2)イ、B 鑑賞(1)イに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1 (1)	リズムを聴き取っているかを問う	聴いたリズムと同じものを聴き取ったリズムの中から選択する	A (1)ア B (1)イ
1 (2)	リズムを聴き取り、そのリズムを楽譜とかわせているかを問う	聴き取ったリズムを表している楽譜を選択する	A (1)ア・イ (2)イ B (1)イ

② 調査問題の概要

問題 1 (1)は、出題の手拍子によるリズムと同じリズムを、アニメーションによる 3 人の児童が打ったリズムの中から選択する問題である。本問の導入として、手拍子のリズム問答の授業風景を視聴した後、3 人の児童（わたるさん、ようこさん、たけしさん）による次のリズムを繰り返し視聴し、それらを覚えるように促した。

わたるさんのリズム



ようこさんのリズム



たけしさんのリズム



問題 1 (2)は、提示された 4 小節間の楽譜を見ながら、リコーダーで演奏される音楽を聴き、音符が書かれていない 2 小節目と 4 小節目のリズムについて、4 つの楽譜の中から選択する問題である。

なお、音符や休符は、児童が授業の中で日ごろから親しんでいると考えられるものを用いた。

【調査問題 問題 1 (1)】

問題

1

「音楽をきいて答える問題」です。(1)と(2)の問題に答えてください。

(1) これからきく演奏は、三人のうち、だれの演奏でしょう
か。下の1から3の中から一つ選んで、その番号を答えの
の中に書いてください。

演奏をききながら答えてください。音楽は二回ききます。

1 わたるさん

2 ようこさん

3 たけしさん

答 え	
--------	--

【調査問題 問題 1(2)】

(2) これからリコーダーによる演奏をききます。次の楽譜の
2 小節目と 4 小節目に入るリズムを、下の 1 から 4 の中か
ら 一つずつ選んで、その番号を答えの の中に書いてく
ださい。

演奏をききながら答えてください。音楽は三回ききます。

2 小節目

4 小節目



答 え	2 小節目		4 小節目	

【出題ビデオ 問題1(1)】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(ナレーション) これはある授業の様子です。手拍子でリズム問答をしています。
	(先生が打ったリズムに続けて反復したり、変化させたりしている授業の様子を視聴する) (ナレーション) このように先生の打ったリズムに続いて、手拍子を打ちます。
	(ナレーション) この授業で、わたるさん、ようこさん、たけしさんがリズムをつくりました。それぞれ聴いてみましょう。
	(ナレーション) わたるさんのリズムです。 (先生の手拍子に続けて、わたるさんのリズムを聞く)
	(ナレーション) ようこさんのリズムです。 (先生の手拍子に続けて、ようこさんのリズムを聞く)
	(ナレーション) たけしさんのリズムです。 (先生の手拍子に続けて、たけしさんのリズムを聞く)

もう一度きます。 覚えてください。	<p>(ナレーション) もう一度、わたるさん、ようこさん、たけしさんの順に、つくったリズムを聴きますので、今度は覚えてください。</p> <p>わたるさんのリズムです。(リズムを聴く) ようこさんのリズムです。(リズムを聴く) たけしさんのリズムです。(リズムを聴く)</p>
問題 1(1)	<p>(ナレーション) 表紙を開いてください。問題 1(1)です。これから聴く演奏は、3人のうち、だれの演奏でしょうか。下の1から3の中から一つ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。演奏を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。</p> <p>1回目です。(リズム演奏を聴く) 2回目です。(リズム演奏を聴く)</p>
1回目	

【出題ビデオ 問題 1(2)】

ビデオの内容	ナレーション (抜粋)
問題 1(2)	<p>(ナレーション) 問題 1(2)です。これからリコーダーによる演奏を聴きます。次の楽譜の2小節目と4小節目に入るリズムを、下の1から4の中から一つずつ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。演奏を聴きながら答えてください。音楽は3回聴きます。</p>
3回目	<p>1回目です。(演奏を聴く) 2回目です。(演奏を聴く) 3回目です。(演奏を聴く)</p>

③ 調査結果の概要

- 聴いたリズムと同じものを聴き取ったリズムの中から選択した児童は約9割であった。

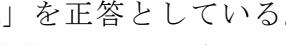
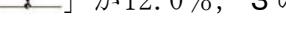
(1)では、1のわたるさんのリズム()を正答としている。正答した児童が87.7%と最も多く、次に、2のようこさんのリズム()が11.4%であった。

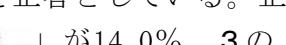
【解答類型ごとの反応率】

通過率 87.7%

類型番号	問題1(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	1と解答しているもの（わたるさん）	87.7%	
2	2と解答しているもの（ようこさん）	11.4%	
3	3と解答しているもの（たけしさん）	0.3%	
9	上記以外の解答	0.2%	
0	無解答	0.4%	

- 聴き取ったリズムを表している楽譜を選択した児童は約7割であった。

(2)の2小節目では4の「」を正答としている。正答した児童が72.2%と最も多く、次に、2の「」が12.0%，3の「」が9.7%であった。

4小節目では、2の「」を正答としている。正答した児童が73.1%と最も多く、次に、4の「」が14.0%，3の「」が10.4%であった。

また、2小節目と4小節目の両方を正答した児童（解答類型1）は67.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 72.2%

類型番号	問題1(2) 2小節目 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの	5.0%	
2	2と解答しているもの	12.0%	
3	3と解答しているもの	9.7%	
◎ 4	4と解答しているもの	72.2%	
9	上記以外の解答	0.0%	
0	無解答	1.1%	

通過率 73.1%

類型番号	問題1(2) 4小節目 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの	1.0%	
◎ 2	2と解答しているもの	73.1%	
3	3と解答しているもの	10.4%	
4	4と解答しているもの	14.0%	
9	上記以外の解答	0.1%	
0	無解答	1.3%	

通過率 67.1%

類型番号	問題 1 (1) × (2) 解答類型 (◎ : 正答)	反応率
◎1	2小節目の解答類型が4, かつ, 4小節目の解答類型が2	67.1%
2	2小節目の解答類型が2・3・9・0, かつ, 4小節目の解答類型が2	4.6%
3	2小節目の解答類型が4, かつ, 4小節目の解答類型が3・4・9・0	4.9%
4	2小節目の解答類型が2・3・4・9・0, かつ, 4小節目の解答類型が1	1.0%
5	2小節目の解答類型が1, かつ, 4小節目の解答類型が2・3・4・9・0	5.0%
6	2小節目の解答類型が1, かつ, 4小節目の解答類型が1	0.0%
9	上記以外の解答	16.6%
0	無解答	0.9%

④ 分析・考察

○ 音楽を聴き, リズムを聴き取ることは, 相当数の児童ができていた。

(1)は, リズムを聴き取っているかを問う問題である。本問の通過率は87.7%であり, 音楽を聴き, リズムを聴き取ることは, 相当数の児童ができていた。

しかし, 12.3%の児童は通過しておらず, その理由として, リズムの特徴をとらえていない, 拍の流れの中でリズムを聴き取っていないなどが考えられる。

○ 音楽活動を通して, 音符や休符の意味や働きを理解し, 音楽の特徴を感じ取ることに結び付くよう指導を工夫する。

(2)は, リズムを聴き取り, そのリズムを楽譜とかかわらせているかを問う問題である。

2小節目と4小節目の両方を通過した児童は67.1%であり, 32.9%の児童がいずれか又は両方の問題を通過しなかった。

その理由として, 2小節目については, ①拍の流れの中で1~2拍目にかけてのリズムを聴き取っていない, ②リズムは聴き取っているが, 楽譜とかかわらせていない, 4小節目については, ①拍の流れの中で1~2拍目のシンコペーションのリズム (♪ ♪ ♪) を聴き取っていない, ②シンコペーションのリズムは聴き取っているが, 楽譜とかかわせていない, また, 2小節目と4小節目の両方について, ①八分音符と四分音符の意味や働きが理解できていないなどが考えられる。

このことから, 音符や休符の意味や働きについて理解すること, 拍の流れの中でリズムを聴き取ること, 聽き取ったリズムを楽譜とかかわせることに課題があると考えられる。

指導に当たっては, 音楽活動を通して, 音符や休符の意味や働きを理解し, 音楽の特徴を感じ取ることに結び付くよう工夫する必要がある。その際, 拍の流れの中でリズムを打つなど, 実感を伴った学習となるよう留意することが大切である。

また, これらを特定の時間で集中的に扱うのではなく, 低学年から児童の実態などを考慮しながら, 繼続的に指導していくことが必要である。

(2) 問題 2

音楽を特徴付けている要素を聴き取ること

—音楽を聴いて、長調・短調、記号、拍子、演奏の仕方、合唱の形態を選択する—

① 出題の趣旨

音楽は、様々な要素によって形づくられている。音楽の学習では、音色、リズム、速度、旋律などの音楽を特徴付けている要素に気付き、それらの働きが音楽のよさや面白さなどを生み出していることを感じ取ることができるようになることが大切である。

問題 2 では、音楽を聴き、要素を聴き取っているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年 2 内容 A 表現(1)イ、(2)イ、(3)イ、B 鑑賞(1)イ、ウに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
2 (1)	長調・短調を聴き取っているかを問う	音楽を聴き、調性（長調・短調）を選択する	A (1)イ B (1)イ
2 (2)	旋律を聴き取って、記号とかかわらせているかを問う	旋律を聴き、演奏に合う記号が付された楽譜を選択する	A (1)イ (3)イ B (1)イ
2 (3)	拍子を聴き取っているかを問う	音楽を聴き、拍子を選択する	A (2)イ B (1)イ
2 (4)① 2 (4)②	楽器の音色と演奏の仕方との関連を理解しているかを問う	楽器の音を聴き、演奏の仕方を選択する	A (3)イ B (1)ウ
2 (5)	合唱の響きを聴き取り、いろいろな声の特徴をとらえているかを問う	合唱の演奏を聴き、混声合唱であるか否かを選択する	B (1)ウ

② 調査問題の概要

各調査問題の概要は以下のとおりである。

問題 2 (1) は、ピアノ演奏による楽曲①～③を聴き、それぞれについて長調か短調かを選択する問題である。

① $\text{♩} = 45$ (演奏時間約11秒)

② $\text{J} = 45$ (演奏時間約11秒)

Piano

A musical score for piano in G major, 8/8 time. The melody is played in the treble clef staff, featuring eighth notes and sixteenth-note patterns. The bass clef staff provides harmonic support with sustained notes and chords.

③ $\text{J} = 74$ (演奏時間約7秒)

Piano

A musical score for piano in A major, 2/4 time. The melody is played in the treble clef staff, consisting of eighth and sixteenth notes. The bass clef staff shows harmonic progression with sustained notes and chords.

問題2(2)は、ヴァイオリンで演奏された以下の旋律を聴き、記号（スラー、スタッカート）が付された3種類の楽譜から、演奏に合うものを選択する問題である。

$\text{J} = 112$

Violin

A musical score for violin in G major, 3/4 time. The melody is played in the treble clef staff, consisting of eighth notes. The score includes a slurred eighth note and a grace note.

問題2(3)は、オーボエとピアノで演奏された楽曲を聴き、4分の2拍子、4分の3拍子、4分の4拍子から正しいものを選択する問題である。以下はオーボエの旋律である。

$\text{J} = 112$

Oboe

A musical score for oboe in G major, 3/4 time. The melody is played in the treble clef staff, consisting of eighth and sixteenth notes. The score includes a grace note and a fermata over two measures.

問題2(4)は、即興による箏の演奏と尺八の演奏を聴き、演奏している楽器をイメージし、どのような演奏の仕方をしているかについて、適したものを選択する問題である。

問題2(5)は、女声合唱、男声合唱、混声合唱で演奏した楽曲を聴き、その特徴を聞き取り、混声合唱であるか否かを選択する問題である。

さわやかに(♩=112)

朝のそよかぜ

まどをあけるとやさしいかぜが
ぼくのこころにかたりかけれるよ
おはようきょうもすてきなひだねひだね
あさのかおりがむねにひろがる

なお、(1)～(5)において提示した楽曲は、本調査のために新たに作曲したものである。

【調査問題 問題 2(1)】

問題
2

「音楽をきいて答える問題」です。(1)から(5)の問題に答え
てください。

(1) これからきく①から③の音楽は、「長調」ですか、「短
調」ですか。下の1と2の中から、一つずつ選んで、その
番号を答えの□の中に書いてください。

音楽をききながら答えてください。音楽はそれぞれ二回
ききます。

1 長調

2 短調

答 え	①の音楽	②の音楽	③の音楽

【調査問題 問題 2 (2)】

(2) 下の1から3の楽譜を見てください。三曲とも同じ旋律ですが、音符についている記号がちがいます。これから聞く音楽は、どの楽譜を演奏したものでしょうか。下の1から3の中から一つ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。

音楽をききながら答えてください。音楽は三回ききます。



答 え	
--------	--

【調査問題 問題 2(3)】

(3) これからきく音楽は何分の何拍子ですか。下の1から3の中から正しいものを一つ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。

音楽をききながら答えてください。音楽は二回ききます。

1 $\frac{2}{4}$ (4分の2拍子)

2 $\frac{3}{4}$ (4分の3拍子)

3 $\frac{4}{4}$ (4分の4拍子)

答 え	
--------	--

【調査問題 問題 2(4)】

(4) これから①と②の楽器の音をききます。これらの音をきいてどのような演奏の仕方を思い浮かべますか。下の1から4の中からふさわしいと思うものを一つずつ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。同じ番号を選んでもかまいません。

音をききながら答えてください。音はそれぞれ一回ききます。

1 木を打っている

2 弦げんをこすっている

3 弦をはじいている

4 管に息ふを吹き込いんでいる

答 え	①の音	②の音

【調査問題 問題 2 (5)】

(5) これからきく①から③の演奏の中で、混声合唱で演奏されているものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの□の中に書いてください。

演奏をききながら答えてください。演奏はそれぞれ一回ききます。

答 え	①	②	③

【出題ビデオ 問題 2 (1)】

ビデオの内容	ナレーション (抜粋)
問題 2 (1)	(ナレーション) 問題 2 (1)です。これから聴く①から③の音楽は、「長調」ですか、「短調」ですか。下の1と2の中から一つずつ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。音楽を聴きながら答えてください。音楽はそれぞれ2回聴きます。
①の音楽 1回目	(ナレーション) ①の音楽、1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く)
②の音楽 2回目	(ナレーション) ②の音楽、1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く)

③の音楽 2回目	<p>(ナレーション) ③の音楽、1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く)</p>
----------	--

【出題ビデオ 問題2(2)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
問題 2 (2)	<p>(ナレーション) 問題2(2)です。下の1から3の楽譜を見てください。 3曲とも同じ旋律ですが、音符に付いている記号が 違います。これから聴く音楽は、どの楽譜を演奏し たものでしょうか。下の1から3の中から一つ選ん で、その番号を答えの四角の中に書いてください。 音楽を聴きながら答えてください。音楽は3回聴き ます。</p>
3回目	<p>1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く) 3回目です。(音楽を聴く)</p>

【出題ビデオ 問題2(3)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
問題 2 (3)	<p>(ナレーション) 問題2(3)です。これから聴く音楽は何分の何拍子で すか。下の1から3の中から正しいものを一つ選ん で、その番号を答えの四角の中に書いてください。 音楽を聴きながら答えてください。音楽は2回聴き ます。</p>
1回目	<p>1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く)</p>

【出題ビデオ 問題2(4)】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
 <p>問題 2 (4)</p>	<p>(ナレーション) 問題2(4)です。これから①と②の楽器の音を聴きます。これらの音を聴いてどのような演奏の仕方を思い浮かべますか。下の1から4の中からふさわしいと思うものを一つずつ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。同じ番号を選んでもかまいません。</p> <p>音を聴きながら答えてください。音はそれぞれ1回聴きます。</p>
 <p>①の音</p>	<p>①の音です。（音を聴く） ②の音です。（音を聴く）</p>

【出題ビデオ 問題2(5)】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
 <p>問題 2 (5)</p>	<p>(ナレーション) 問題2(5)です。これから聴く①から③の演奏の中で、混声合唱で演奏されているものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの四角の中に書いてください。演奏を聴きながら答えてください。演奏はそれぞれ1回聴きます。</p>
 <p>③の演奏</p>	<p>①の演奏です。（演奏を聴く） ②の演奏です。（演奏を聴く） ③の演奏です。（演奏を聴く）</p>

③ 調査結果の概要

○ 音楽を聴き、長調と短調をすべて正しく選択した児童は約3割であった。

(1)では、①を長調、②を短調、③を短調と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が31.7%と最も多く、次に、①を長調、②を短調以外、③を短調と選択したもの（解答類型3）が25.9%，①を長調以外、②を短調以外、③を短調と選択したもの（解答類型5）が23.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 31.7%

類型番号	問題2(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	①を1(長調)、②を2(短調)、③を2(短調)と解答しているもの	31.7%	
2	①を1(長調)、②を2(短調)、③を2(短調)以外と解答しているもの	12.6%	
3	①を1(長調)、②を2(短調)以外、③を2(短調)と解答しているもの	25.9%	
4	①を1(長調)以外、②を2(短調)、③を2(短調)以外と解答しているもの	2.6%	
5	①を1(長調)以外、②を2(短調)以外、③を2(短調)と解答しているもの	23.1%	
6	①を2(短調)、②を1(長調)、③を1(長調)と解答しているもの	3.4%	
9	上記以外の解答	0.4%	
0	無解答	0.3%	

○ 旋律を聴き、演奏に合う記号（スラーとスタッカート）が正しく付された楽譜を選択した児童は約7割であった。

(2)では、2の3小節目の5つの音にスラーが、最後の音にスタッカートが付された楽譜を正答としている。正答した児童が74.8%と最も多く、次に、1の3小節目にスラーがなく、スタッカートが5つの音に付された楽譜を選択したものが14.2%，3の3小節目の2音ごとにスラーが、2つ目、4つ目、5つ目の音にスタッカートが付された楽譜を選択したものが10.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 74.8%

類型番号	問題2(2) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの	14.2%	
◎ 2	2と解答しているもの	74.8%	
3	3と解答しているもの	10.8%	
9	上記以外の解答	0.0%	
0	無解答	0.2%	

○ 音楽を聴き、拍子を正しく選択した児童は約7割であった。

(3)では、**2**の「4分の3拍子」を正答としている。正答した児童が最も多く、65.5%であった。次に、**3**の「4分の4拍子」が18.7%，**1**の「4分の2拍子」が15.5%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 65.5%

類型番号	問題2(3) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（4分の2拍子）		15.5%
◎ 2	2と解答しているもの（4分の3拍子）		65.5%
3	3と解答しているもの（4分の4拍子）		18.7%
9	上記以外の解答		0.1%
0	無解答		0.3%

○ 楽器の音を聴き、その楽器の演奏の仕方を正しく選択した児童は9割以上であった。

(4)において、^{そう}箏の音を聴く①では、**3**の「弦をはじいている」を正答としている。正答した児童が93.7%と最も多く、次に、**2**の「弦をこすっている」が5.8%であった。

尺八の音を聴く②では、**4**の「管に息を吹き込んでいる」を正答としている。正答した児童が98.6%と最も多く、次に、**2**の「弦をこすっている」が1.0%であった。

また、^{そう}箏の音を聴く①と尺八の音を聴く②の両方を正答した児童（解答類型1）は92.7%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 93.7%

類型番号	問題2(4)① 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（木を打っている）		0.3%
2	2と解答しているもの（弦をこすっている）		5.8%
◎ 3	3と解答しているもの（弦をはじいている）		93.7%
4	4と解答しているもの（管に息を吹き込んでいる）		0.1%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.1%

通過率 98.6%

類型番号	問題2(4)② 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（木を打っている）		0.2%
2	2と解答しているもの（弦をこすっている）		1.0%
3	3と解答しているもの（弦をはじいている）		0.0%
◎ 4	4と解答しているもの（管に息を吹き込んでいる）		98.6%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.1%

通過率 92.7%

類型番号	問題2(4)①×② 解答類型 (◎: 正答)	反応率
◎ 1	①の解答類型が3かつ②の解答類型が4	92.7%
2	①の解答類型が3かつ②の解答類型が4以外	1.0%
3	①の解答類型が2かつ②の解答類型が4	5.7%
4	①の解答類型が1・4・9・0かつ②の解答類型が4	0.2%
9	上記以外の解答	0.3%
0	無解答	0.1%

- 合唱の演奏を聴き、混声合唱であるか否かをすべて正しく選択した児童は約7割であった。

女声合唱、男声合唱、混声合唱による演奏を聴き、混声合唱による演奏であるか否か選択する問題2(5)では、①×、②○、③×を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が71.9%と最も多く、次に、①×以外、②○、③×を選択したもの（解答類型3）が13.3%であった。また、①○、②×、③○とすべてを逆に選択したもの（解答類型7）は3.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 71.9%

類型番号	問題2(5) 解答類型 (◎: 正答)	反応率
◎ 1	①を×、②を○、③を×と解答しているもの	71.9%
2	①を×、②を○、③を×以外と解答しているもの	3.8%
3	①を×以外、②を○、③を×と解答しているもの	13.3%
4	①を×、②を○以外、③を×以外と解答しているもの	0.5%
5	①を×以外、②を○、③を×以外と解答しているもの	6.4%
6	①を×以外、②を○以外、③を×と解答しているもの	0.8%
7	①を○、②を×、③を○と解答しているもの	3.1%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.1%

④ 分析・考察

- 楽器の音色と演奏の仕方とを関連させることは、相当数の児童ができていた。

楽器には、固有の音色があり、その音色と演奏の仕方には関連がある。

(4)は、楽器の音色と演奏の仕方との関連を理解しているかを問う問題である。

本問で①と②の両方を通過した児童は92.7%であり、^{そう}箏と尺八の音色と演奏の仕方とを正しく関連させることは、相当数の児童ができていた。

なお、①の音楽において、「弦をこすっている」を選択した児童（解答類型2）は5.8%おり、音色の特徴から弦をはじく演奏の仕方をとらえることができていないと考えられる。

- 人の声には様々な種類や特徴があることをとらえ、人の声が重なり合う響きを感じ取るなどして、いろいろな演奏形態に親しむよう指導を工夫する。

人の声が重なり合う響きを感じ取ることは、合唱などのいろいろな演奏形態の楽曲について興味や関心を高めることにつながっていく。

(5)の通過率は71.9%であった。誤答のうち、解答類型3の児童(13.3%)は男声合唱と混声合唱の響きの違いについて、また、解答類型2の児童(3.8%)は、女声合唱と混声合唱の響きの違いについて、解答類型7の児童(3.1%)は、混声合唱の響きについて、それぞれ区別できていないと考えられる。

指導に当たっては、人の声には様々な種類や特徴があることをとらえ、人の声が重なり合う響きを感じ取ったり、重奏や合奏の響きの美しさを感じ取ったりするなどして、いろいろな演奏形態に親しむようにすることが大切である。

○ 音楽を聴き、長調と短調を判別することに課題が見られた。

(1)は、長調と短調を聴き取っているかを問う問題であり、通過率は31.7%と問題2の中で最も低かった。

①、③を正しく選択しているが、②を正しく短調と選択していない児童(解答類型3)は、①と②は拍子、速度が類似していることや、曲の演奏時間が比較的長いことから、①、②ともに同じ調を選択したことが考えられる。

また、①、②を正しく選択しているが、③を正しく短調と選択していない児童(解答類型2)は、③の楽曲は速度が速く、スタッカートが用いられており、そのはずんだ感じをとらえて、長調を選択したことが考えられる。

このことから、長調、短調の判別について課題があると考えられる。

○ 拍の流れを一定のまとまりとして正しくとらえ、拍子記号とかかわらせることに課題が見られた。

拍が一定の時間的な間隔をもって刻まれることによって拍の流れが生まれ、そのまとまりを拍子としてとらえることができる。

(3)の出題に用いた楽曲は、オーボエがモチーフを繰り返し、ピアノの伴奏とともに3拍子を明確に表現したものであり、選択肢では、3拍子系の拍子のものを1つのみとした。本問の通過率は65.5%であり、34.5%の児童は通過しなかった。

通過しなかった理由として、

- ・ 拍の流れを一定のまとまりとして正しくとらえることができなかつた
- ・ 拍子記号の理解が不十分であった

ことなどが考えられる。

○ 音楽を特徴付けていたる要素を聴き取り、その働きを記号や用語とかかわらせながら表現や鑑賞の活動に生かしていくよう指導を工夫する。

(1)では、長調、短調の判別に、(3)では拍の流れを一定のまとまりとして正しくとらえ、拍子記号とかかわせることに課題が見られた。また、(2)についても、旋律を聴き、演奏に合う記号(スラーとスタッカート)が正しく付された楽譜を選択することができなかつた児童は25.2%であった。

これらのことから、音楽を特徴付けている要素を聴き取ることや聴き取った要素の働きと音符、休符、記号や音楽にかかわる用語とをかかわらせることに課題があると考えられる。

指導に当たっては、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の名称や意味を知ることだけではなく、音楽を特徴付けている要素を聴き取り、それらの働きが生み出す音楽の表情などを記号や用語とかかわらせながら感じ取り、記号や用語を理解できるように工夫することが大切である。このことによって、記号や用語を表現や鑑賞の活動に生かしていくことが求められる。そのためには、音楽を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことについて、記号や用語を用いて説明したり話し合ったりする場面を設定するなどして、児童が記号や用語と要素の働きとのかかわりに気付き、有用性を実感できるようにすることが必要である。

(3) 問題 3

楽譜の音高や記号の理解

—階名を書いたり、記号の名称や働きを選択したりする—

① 出題の趣旨

音符、休符、記号や音楽にかかわる用語は、名称やその意味を知ることだけではなく、音楽活動を通してその働きを理解したり、表現や鑑賞の各活動に生かしたりすることが大切である。

問題 3 では、楽譜の音高や記号を理解しているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年 2 内容 A 表現(1)イ、(2)ア、B 鑑賞(1)イに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
3 (1)	楽譜の音高を理解しているかを問う	ト音譜表・ヘ音譜表を見て、階名を書く	A (1)イ
3 (2)①	記号の名称を理解しているかを問う	楽譜に示された記号(スラー、スタッカート)の名称を選択する	A (1)イ B (1)イ
3 (2)②	記号の働きを理解しているかを問う	楽譜に示された反復記号に従った演奏順を選択する	A (1)イ (2)ア B (1)イ

② 調査問題の概要

問題 3 (1)は、ト音譜表、ヘ音譜表に示されたそれぞれ 3 つの音について、「ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ」の中から該当する階名を書く問題である。

問題 3 (2)①は、楽譜に示された 2 種類の記号(スラー、スタッカート)の名称の組合せを選択肢の中から選択する問題である。

問題 3 (2)②は、楽譜に示された反復記号に従った演奏順を選択する問題である。

また、本問は、音楽の視聴を用いず、調査票の楽譜を見て解答する問題とした。

【調查問題 問題 3(1)】

問題
3

「樂譜を見て答える問題」です。(1)と(2)の問題に答えてください。

(1) 次のト音記号とヘ音記号の楽譜の（①）から（⑥）のそれぞれについて、階名（ド, レ, ミ, ファ, ソ, ラ, シ）を一つずつ選んで、答えの□の中に書いてください。同じ階名を何度も選んでもかまいません。

ト音記号の楽譜

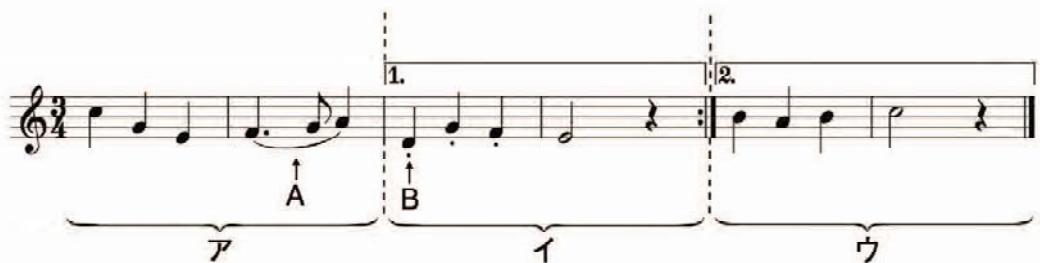
A musical staff in G major (one sharp) and common time. It consists of eight measures. The first measure has one eighth note. The second measure has one eighth note. The third measure has one eighth note. The fourth measure has one quarter note. The fifth measure has one eighth note. The sixth measure has one half note. The seventh measure has one half note. The eighth measure has one eighth note followed by a fermata. Below the staff, three groups are labeled: (1) covers the first two measures; (2) covers the third and fourth measures; (3) covers the fifth through eighth measures.

へ音記号の楽譜

答 案	①	②	③	④	⑤	⑥
范 例						

【調査問題 問題3(2)①】

(2) 次の楽譜を見て、①と②に答えてください。



① A, Bの矢印で示した記号の名前について、組み合わせが正しいものを下の1から4の中から一つ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。

- | | | |
|---|-------|----------|
| 1 | A スラー | B アクセント |
| 2 | A タイ | B スタッカート |
| 3 | A スラー | B スタッカート |
| 4 | A タイ | B アクセント |

答 え	
--------	--

【調査問題 問題3(2)②】

② この楽譜のアからウについて、正しい演奏の順番を、下の1から4の中から一つ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。

1 ア → イ → ア → イ → ウ

2 ア → イ → イ → ウ

3 ア → イ → ウ

4 ア → イ → ア → ウ

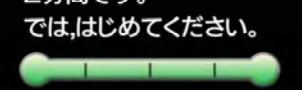
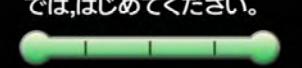
答 え	
--------	--

【出題ビデオ 問題3(1)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
	(ナレーション) 問題3は楽譜を見て答える問題です。 (1)と(2)の問題に答えてください。

問題 3 (1)	<p>(ナレーション)</p> <p>問題 3 (1)です。次のト音記号とへ音記号の楽譜の(①)から(⑥)のそれぞれについて、階名「ド, レ, ミ, ファ, ソ, ラ, シ」を一つずつ選んで、答えの四角の中に書いてください。同じ階名を何度も選んでもかまいません。時間は2分間です。では、始めてください。</p>
----------	---

【出題ビデオ 問題 3 (2)】

ビデオの内容	ナレーション (抜粋)
<p>問題 3 (2)</p> 	<p>(ナレーション)</p> <p>問題 3 (2)です。次の楽譜を見て、①と②に答えてください。</p> <p>① A, Bの矢印で示した記号の名前について、組合せが正しいものを、下の1から4の中から一つ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。</p> <p>② この楽譜のアからウについて、正しい演奏の順番を、下の1から4の中から一つ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。</p> <p>時間は①と②を合わせて2分間です。では、始めてください。</p>
<p>時間は①と②を合わせて 2分間です。 では、はじめてください。</p> 	

③ 調査結果の概要

- ト音譜表を見て、階名を正しく書いた児童は約6割であった。

(1) ①～③では、①をド、②をソ、③をドと書いたもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が64.3%と最も多く、次に①をド、②をソ以外、③をド以外と書いたもの（解答類型5）が18.0%であった。なお、①をドと書いた児童（解答類型1, 2, 3, 5）は92.1%、②をソと書いた児童（解答類型1, 2, 4, 6）は75.5%、③をドと書いた児童（解答類型1, 3, 4, 7）は69.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 64.3%

類型番号	問題 3 (1)①～③ 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	①をド、②をソ、③をドと解答しているもの	64.3%	
2	①をド、②をソ、③をド以外と解答しているもの	7.7%	
3	①をド、②をソ以外、③をドと解答しているもの	2.0%	
4	①をド以外、②をソ、③をドと解答しているもの	2.3%	
5	①をド、②をソ以外、③をド以外と解答しているもの	18.0%	
6	①をド以外、②をソ、③をド以外と解答しているもの	1.2%	
7	①をド以外、②をソ以外、③をドと解答しているもの	0.5%	

9	上記以外の解答（①をド以外、②をソ以外、③をド以外と解答しているもの）	3.6%
0	無解答	0.3%

○ ヘ音譜表を見て、階名を正しく書いた児童は約3割であった。

(1) ④～⑥では、④をド、⑤をミ、⑥をドと書いたもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が26.9%と最も多く、次に、解答類型1～8以外の階名を書いた児童（解答類型9）が26.2%、④をラ、⑤をド、⑥をラと書いた児童（解答類型6）が13.9%、④をド、⑤をレ、ファ、ソ、ラ、シのいずれか、⑥をレ、ファ、ソ、ラ、シのいずれかを書いた児童（解答類型5）が10.3%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 26.9%

類型番号	問題3(1)④～⑥ 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	④をド、⑤をミ、⑥をドと解答しているもの	26.9%	
2	④をレ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ、⑤をミ、⑥をドと解答しているもの	2.6%	
3	④をド、⑤をレ・ファ・ソ・ラ・シ、⑥をドと解答しているもの	2.9%	
4	④をド、⑤をド、⑥をラと解答しているもの	2.0%	
5	④をド、⑤をレ・ファ・ソ・ラ・シ、⑥をレ・ファ・ソ・ラ・シと解答しているもの	10.3%	
6	④をラ、⑤をド、⑥をラと解答しているもの	13.9%	
7	④をレ・ミ・ファ・ソ・シ、⑤をド、⑥をラと解答しているもの	9.9%	
8	④をラ、⑤をド・レ・ファ・ソ・ラ・シ、⑥をレ・ミ・ファ・ソ・ラ・シと解答しているもの (解答類型6を除く)	3.6%	
9	上記以外の解答	26.2%	
0	無解答	1.7%	

○ 楽譜に示された記号（スラーとスタッカート）の名称の組合せを正しく選択した児童は約6割であった。

(2) ①では、楽譜に示されたAとBの記号の名称の組合せとして、3の「Aスラー Bスタッカート」を正答としている。正答した児童が59.4%と最も多く、次に、2の「A タイ Bスタッカート」が16.8%，1の「A スラー B アクセント」が14.9%であった。Aの記号（スラー）の名称を正しく選択した児童（解答類型1、3）は74.4%，Bの記号（スタッカート）の名称を正しく選択した児童（解答類型2、3）は76.2%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 59.4%

類型番号	問題3(2)① 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの(Aスラー Bアクセント)	14.9%	
2	2と解答しているもの(Aタイ Bスタッカート)	16.8%	
◎ 3	3と解答しているもの(Aスラー Bスタッカート)	59.4%	
4	4と解答しているもの(Aタイ Bアクセント)	6.8%	
9	上記以外の解答	1.5%	
0	無解答	0.6%	

- 楽譜に示された反復記号に従った演奏順を正しく選択した児童は約5割であった。

(2)②では、4の「ア→イ→ア→ウ」を正答としている。正答した児童が49.8%と最も多く、次に、1の「ア→イ→ア→イ→ウ」が21.9%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 49.8%

類型番号	問題3(2)② 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（ア→イ→ア→イ→ウ）		21.9%
2	2と解答しているもの（ア→イ→イ→ウ）		14.2%
3	3と解答しているもの（ア→イ→ウ）		10.8%
◎4	4と解答しているもの（ア→イ→ア→ウ）		49.8%
9	上記以外の解答		0.2%
0	無解答		3.1%

④ 分析・考察

- 楽譜を見て階名を書くことや記号の理解に課題が見られた。

階名や楽譜に慣れ親しむことは、旋律の流れや特徴などをとらえることにつながる。

ト音譜表の階名を書く(1)①～③の通過率は64.3%であった。①～③のそれについて見ると、①をドと書いた児童（解答類型1, 2, 3, 5）は92.1%であり、一点ハ音の位置の階名がドであることは相当数の児童が理解している。しかし、①～③のそれぞれの階名を正しく書いた割合は、92.1%, 75.5%, 69.1%と、音の高さが高くなるにしたがって下がっている。

また、ヘ音譜表の階名を書く(1)④～⑥の通過率は26.9%と①～③のト音譜表と比較して理解が十分ではなく、誤答では、④をラ、⑤をド、⑥をラと、ヘ音譜表をト音譜表の階名で書いたもの（解答類型6）が13.9%であった。なお、⑤、⑥の音程関係について分析すると、⑥に⑤の3度下の階名を書いた児童が68.9%であった。これらの児童は、この2つの音の音程が3度の関係であることをとらえていたことがうかがわれる。

また、(2)②は楽譜に示された反復記号に従った演奏順を選択する問題である。通過率が49.8%であったことから、反復記号の働きの理解が不十分であったと考えられる。

これらのことから、楽譜を見て階名を書くことや記号の理解に課題が見られた。

- 表現や鑑賞の活動を通して、楽譜に慣れ親しみながら、階名や記号などを理解することができるよう指導を工夫する。

問題3では、楽譜を見て階名を書くこと、記号の理解に課題が見られた。

例えば、階名で歌うことが、音の相対的な高さを実感すること、また、スラー やスタッカートを意識することが、音のつながり方を工夫して表現することにつながっていくなど、階名や記号を理解することは、音楽の活動の充実に結び付い

ていく。

指導に当たっては、表現や鑑賞の活動を通して、楽譜に慣れ親しみながら、階名や記号などを理解することができるよう工夫することが大切である。具体的には、音の高さをとらえながら歌ったり聴いたり、譜表によって様々な音高を示すことができることに触れたりして、音と楽譜とのかかわりを意識しながら、音楽の流れを感じ取るようにすることなどが考えられる。

2 調査Ⅱ Aにおける調査結果

(1) 問題1

曲の構成を工夫したりズムづくり

—変化の仕組みを使ってリズムをつくり、工夫したことを記述する—

① 出題の趣旨

創作（音楽づくり）の活動は、児童が感性を働かせて創造性を発揮しながら、自分にとって価値のある音楽をつくることである。そのためには、曲の構成などの音楽を形づくっている要素を工夫しながら、自分なりの音楽をつくる喜びを味わうことができるようになることが大切である。

問題1では、変化の仕組みを使って、工夫してリズムづくりをしているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年2内容A表現(4)アに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1 (1)(2)	変化の仕組みを使って、工夫してリズムづくりをしているかを問う	(1)変化の仕組みを使って2小節のリズムをつくる (2)変化の仕組みを使ってリズムをつくったときの工夫を記述する	A(4)ア

② 調査問題の概要

問題1(1)は、変化の仕組みを使って2小節のリズムをつくる問題である。リズムをつくる過程でメモをしたり繰り返し練習をしたりした後、つくったリズムを唱え（口唱歌）、録音した。

なお、本問の導入として、和太鼓の授業風景とアニメーションで3人の児童がリズムをつくる場面を視聴した。ここでは、本問で用いる口唱歌をしたり、リズムづくりの練習問題に取り組んだりして、問題の内容や解答の方法を理解できるようにした。

問題1(2)は、(1)でつくったリズムの録音を聴いたり、メモを参考にしたりしながら、どのようなことを工夫してつくったのかを記述する問題である。

【調査問題 練習問題】

練習問題 リズムづくり

「ドンドンドンドン ドンドコドン」のリズムに続けて、みかさんが用いた『反復』を使ってリズムをつくりましょう。

反
復
メ
モ

ドンドンドンドン ドンドコドン

【調査問題 問題1(1)】

問題1 リズムづくり

(1) 「ドンドンドンドン ドンドコドン」のリズムに続けて、ひろしまんやあきらさんが用いた『変化』を使ってリズムをつくりましょう。

(1)
変
化
メ
モ

ドンドンドンドン ドンドコドン

【調査問題 問題1(2)】

(2) あなたは、『変化』させたりズムをつくったとき、どのようなことを工夫しましたか。

(2)
工
夫
し
た
こ
と

【出題プログラム 練習問題】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) 楽しい和太鼓のリズムがきこえてきました。とてもわくわくしてきましたね。</p>
	<p>(ナレーション) 子どもたちが「ドンコドンドン ドンコドン」とリズムを唱えながら和太鼓を打っています。 (和太鼓の練習風景を視聴する)</p>
	<p>(ナレーション) あなたも画面を見ながら、一緒に和太鼓のリズムを唱えてみましょう。 (リズムを唱える練習風景)</p>
	<p>(ナレーション) この「ドンコドンドン ドンコドン」に続くリズムを考えてつくりましょう。 最初に、ひろしさん、みかさん、あきらさんがリズムづくりにチャレンジします。3人がチャレンジしたリズムづくりの様子をしっかり見たり聴いたりしてください。あなたも後でリズムづくりをしますので、参考にしてください。</p>
	<p>(先生) 先生が演奏する「ドンコドンドン ドンコドン」のリズムに続けて自分で考えたリズムをつくりましょう。さて、ひろしさん、みかさん、あきらさん、どのようなリズムができましたか。</p>



(ひろし)

はい、先生、できました。僕は前半の「ドンコドンドン ドンコドン」の続きをゆったりしたリズムに変化させてつくりました。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドーン ドーン ドンドコドン」。



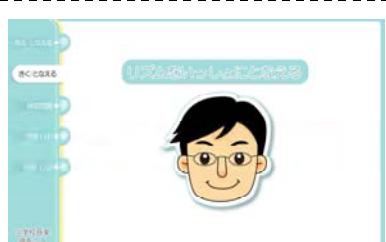
(みか)

先生、私もできました。私は前半の「ドンコドンドン ドンコドン」と同じリズムを繰り返してつくりました。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドンコドンドン ドンコドン」。



(あきら)

僕もできました。僕は前半の「ドンコドンドン ドンコドン」の続きを細かいリズムに変化させてつくりました。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドンドッコドッコドッコ ドンドッコドン」。



(先生)

3人ともよく工夫してリズムをつくりましたね。

(ナレーション)

では、あなたも3人のつくったリズムと一緒に唱えてみましょう。



(ひろし)

初めに僕のリズムだよ。聴いてね。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドーン ドーン ドンドコドン」。それの後に、僕のリズムを2回続けて唱えてね。それ。(太鼓の音と共に唱える)

(先生)

このリズムは、前半のリズムに比べて、後半のリズムがゆったりと変化していますね。

(あきら)

後半がゆったりして、どっしりと落ち着いた感じがする。よくまとまっているね。



(みか)

次は私のリズムよ。まず聴いてね。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドンコドンドン ドンコドン」。それの後に、私のリズムを2回続けて唱えてね。それ。(太鼓の音と共に唱える)

(先生)

このリズムは、前半のリズムを反復していますね。

(ひろし)

前半を反復すると、のりがよくて、安定した感じがしていいね。



(あきら)

最後に僕のリズムだよ。まず聴いてね。それ、「ドンコドンドン ドンコドン ドンドッコドッコドッコ ドンコドン」。それの後に、僕のリズムを2回続けて唱えてね。それ。(太鼓の音と共に唱える)

(先生)

このリズムは、前半のリズムに比べて、後半のリズムが細かく変化していますね。

(みか)

弾む感じにしたリズムの工夫は、変化があってとっても楽しいわね。



(ナレーション)

今度は、あなたがリズムづくりにチャレンジです。前半のリズムが変わります。まず前半のリズムを2回続けて演奏しますので、よく聴いてくださいね。

1回目です。それ、「ドンドンドンドン ドンドコドン」。

2回目です。それ、「ドンドンドンドン ドンドコドン」。

では、このリズムを太鼓に合わせて唱えてみましょう。

1回目です。それ。(太鼓の音と共に唱える)

2回目です。それ。(太鼓の音と共に唱える)



(ナレーション)

調査票を開いてください。最初に練習問題をします。練習問題です。

「ドンドンドンドン ドンドコドン」のリズムに続けて、みかさんが用いた『反復』を使ってリズムをつくりましょう。まず、反復のリズムが唱えられるように、調査票のメモ欄を使って、リズムを考えて、メモをしてください。メモを書く時間は1分間です。よーい、始め。

(ナレーション)

では、反復のリズムを練習します。ヘッドホンからは前半のリズムがきこえます。後半は拍だけきこえますので、今書いたメモや頭の中で考えたことをもとに、声に出して、唱えながらつくりましょう。練習は2回行います。

1回目です。(練習)

2回目です。(練習)

それでは録音します。録音は2回行います。1回目は録音したものあなたの確認をするためのものです。2回目が本番です。しっかりと声を出して唱えてください。

では、1回目の録音を始めます。(録音1回目)

1回目の録音を聴きます。(録音した音を聴く)

では、2回目の録音を始めます。(録音2回目)

2回目の録音を聴きます。(録音した音を聴く)

それでは答えを聴いてみましょう。

ドンドンドンドン ドンドコドン ドンドンドン
ドン ドンドコドン

うまくできましたか。では、次の問題にうつります。

【出題プログラム 問題1(1)】

プログラムの内容	ナレーション(抜粋)
	(ナレーション) 問題1(1)です。「ドンドンドンドン ドンドコドン」のリズムに続けて、ひろしさんやあきらさんが用いた『変化』を使ってリズムをつくりましょう。変化のリズムが唱えられるように、調査票のメモ欄を使って、リズムを考えて、メモをしてください。後でつくったときどのようなことを工夫

したか、を質問します。メモを書く時間は2分間です。よーい、始め。

(ナレーション)

では、変化のリズムを練習します。ヘッドホンからは前半のリズムがきこえます。後半は拍だけきこえますので、今書いたメモや頭の中で考えたことをもとに、声に出して、唱えながらつくりましょう。練習は2回行います。

1回目です。(練習)

2回目です。(練習)

それでは録音します。録音は2回行います。1回目は録音したものがあなたが確認をするためのものです。2回目が本番です。しっかりと声を出して唱えてください。

では、1回目の録音を始めます。(録音1回目)

1回目の録音を聴きます。(録音した音を聴く)

では、2回目の録音を始めます。(録音2回目)

2回目の録音を聴きます。(録音した音を聴く)

では、次の問題にうつります。

【出題プログラム 問題1(2)】

プログラムの内容	ナレーション(抜粋)
	<p>(ナレーション)</p> <p>問題1(2)です。あなたは、『変化』させたリズムをつくったとき、どのようなことをくふうしましたか。調査票の問題1(2)の四角の中に書きましょう。あなたがつくった変化させたリズムを2回聴きますので、聴いた後に答えてください。</p> <p>変化させたリズム、1回目です。</p> <p>(録音した音を聴く)</p> <p>変化させたリズム、2回目です。</p> <p>(録音した音を聴く)</p> <p>時間は2分間です。よーい、始め。</p>

③ 調査結果の概要

○ 変化の仕組みを使ってリズムをつくった児童は約9割であった。

(1)では、変化の仕組みを使ったリズムで、かつ、事前に示した3人の児童のリズムとは異なるリズムをつくったもの(解答類型1~4)を正答とし、事前に示した3人の児童のリズムと同じリズムをつくったもの(解答類型5)を準正答としており、それぞれ73.6%, 16.5%であり、通過率は90.1%であった。

正答のうち、「細かいリズム」に変化させたもの（解答類型2）が45.2%と最も多く、次に、「ゆったりしたリズム」と「細かいリズム」を組み合わせて変化させたもの（解答類型1）が12.9%、「ゆったりしたリズム」に変化させたもの（解答類型3）が9.6%、解答類型1, 2, 3に該当しないリズムに変化させたもの（解答類型4）が5.9%であった。児童は「ゆったりしたリズム」よりも「細かいリズム」に変化させる傾向が見られた。

採点に当たって口唱歌のリズムを採譜した結果、「ゆったりしたリズム」に変化させたもの（解答類型1, 3）では、二分音符や付点四分音符を用いた例が見られた。また「細かいリズム」に変化させたもの（解答類型1, 2）では、八分音符の連続、付点八分音符と十六分音符の組合せ、シンコペーションを用いた例が見られた。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 90.1%

類型番号	問題1(1) 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	「ゆったりしたリズム」と「細かいリズム」を組み合わせて変化させているもの	12.9%
◎ 2	「細かいリズム」に変化させているもの	45.2%
◎ 3	「ゆったりしたリズム」に変化させているもの	9.6%
◎ 4	解答類型1, 2, 3に該当しないリズムに変化させているもの	5.9%
○ 5	事前に示した3人の児童のリズムと同じリズムをつくっているもの	16.5%
6	前半を反復しているリズムのもの	6.1%
7	8拍のリズムのもの	1.0%
9	上記以外の解答（まとまりのないリズムのもの）	0.4%
0	無解答	2.4%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、録音したリズムを以下の観点から見て判定した。

【観点】

- ① まとまりのあるリズムを唱えているか
- ② 7拍の中にリズムがあるか
- ③ 前半のリズムを変化させたリズムであるか
- ④ 練習問題で例示したリズム以外であるか
- ⑤ 「ゆったりしたリズム」が含まれているか
- ⑥ 「細かいリズム」が含まれているか

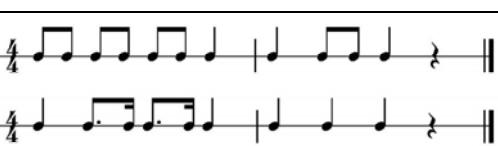
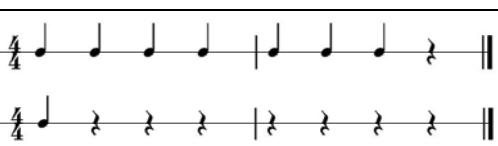
【解答類型における①～⑥の組合せ】

—は下位判定により判定せず

観点 類型 番号	① まとまりの あるリズム	② 7拍	③ 変化	④ 例示以外	⑤ ゆったりした リズム	⑥ 細かい リズム
1	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	×	○
3	○	○	○	○	○	×
4	○	○	○	○	×	×
5	○	○	○	×	—	—
6	○	○	×	—	—	—

7	○	×	-	-	-	-
9	×	-	-	-	-	-

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	リズムの種類	解答例	採譜した譜例
◎ 1	ゆったりしたリズムと細かいリズムの組合せ	・ドンドコドンドコ ドーンドン ・ドーンドーン ドコドコドン ・ドッコドッコドッコドッコ ドーンドン	
◎ 2	細かいリズム	・ドコドコドコドン ドンドコドン ・ドンドコドッコドン ドンドンドン	
◎ 3	ゆったりしたリズム	・ドンドンドンドン ドーンドン ・ドーンコドンドン ドーンコドン	
◎ 4	類型 1, 2, 3 に該当しない変化させたリズム	・ドンドンドンドン ドンドンドン ・ドン	

○ 変化の仕組みを使ってリズムをつくるときの工夫について記述した児童は約8割であった。

(2)では、「ゆったりしたリズム」や「細かいリズム」のように、どのようなことを工夫してリズムを変化させたのかに関する記述をしたもの（解答類型1～4）とし、事前に示した3人の児童のリズムであることに関する記述をしたもの（準正答（解答類型5）としており、それぞれ84.3%, 0.5%であり、通過率は84.8%であった。

正答のうち、「細かいリズム」に変化させたことのみに関する記述をしたもの（解答類型2）が29.5%と最も多く、次に、「ゆったりしたリズム」に変化させたことのみに関する記述をしたもの（解答類型3）が25.7%，解答類型1，2，3に該当しないリズムに変化させたことに関する記述をしたもの（解答類型4）が15.3%であった。

また、「明るい感じにしようと思った」のように、音価に触れた記述がないもの（解答類型6）が10.3%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 84.8%

類型番号	問題1(2) 解答類型 (◎ : 正答 ○ : 準正答)	反応率
◎ 1	「ゆったりしたリズム」と「細かいリズム」に変化させたことに関する記述をしているもの	13.7%
◎ 2	「細かいリズム」に変化させたことのみに関する記述をしているもの	29.5%
◎ 3	「ゆったりしたリズム」に変化させたことのみに関する記述をしているもの	25.7%
◎ 4	解答類型 1, 2, 3 に該当しないリズムに変化させたことに関する記述をしているもの	15.3%
○ 5	事前に示した3人の児童のリズムであることに関する記述をしているもの	0.5%
6	音価（リズム、音の長さ）に触れた記述がないもの	10.3%
7	変化させたことに触れた記述がないもの	1.0%
9	上記以外の解答（リズムをつくるときの工夫について記述がないもの）	2.1%
0	無解答	1.9%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、児童の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

- ① 工夫に触れているか
- ② 変化させたことに触れた記述があるか
- ③ 音価に触れた記述があるか
- ④ 自分なりの工夫について記述されているか
- ⑤ 「ゆったりしたリズム」に関して記述があるか
- ⑥ 「細かいリズム」に関して記述があるか

【解答類型における①～⑥の組合せ】

ーは下位判定により判定せず

観点 類型 番号	① 工夫	② 変化に触れた記述	③ 音価に触れた記述	④ 自分なりの工夫	⑤ ゆったりしたリズム	⑥ 細かいリズム
1	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	×	○
3	○	○	○	○	○	×
4	○	○	○	○	×	×
5	○	○	○	×	—	—
6	○	○	×	—	—	—
7	○	×	—	—	—	—
9	×	—	—	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題1(2) 解答例 (◎: 正答 ○: 準正答)
◎ 1	○最初の方をゆったりどっしりにして、後の方を早めにしました。最初を安定させて後ろの方でドンッときれいに終わるのがいいと思いこのようにしました。 ○最初は音をのばして力強くした。最後にはずんでいるようにした。ひろしまんとあきらさんのをませたような感じにしました。
◎ 2	○最初のリズムに合うようなリズムを作った事といきおいのあるリズムにした事を工夫しました。 ○前半のリズムに合わないようにしたくなかったので注意したけど、あきらさんのように大きく変えられるようにしたかった。
◎ 3	○1回目の「ドンドンドンドン ドンドコドン」に比べて、2回目の前半を「ドドーン」と波のように、ゆったりしているリズムにした。 ○ひろしまんと同じように前の部分をゆったりにさせる。その時、相手が聞いていて気持ちよくなるようにした。
◎ 4	○前のリズムに合うように工夫してつくった。前のリズムを考えながら工夫してつくった。 ○自分で知っているリズムを出来るだけ使ってこのたいこのリズムに入れました。それに出来るだけまとまったリズムがいいと思ったからです。
○ 5	○ひろしまんのまねをしただけです。 ○最初に聞いたことを頭に入れて、同じにとなえました。
6	○力強くたたいている様子を工夫した。 ○明るい感じにしようと思った。
7	○「反復」をつかって、くり返した。 ○みかさんがやったように反復した。
9	○リズムに合うように1回目のれん習と2回目を使ってどのリズムがいいか、考えた。 ○はつおんのし方を考えてリズムに合わせて歌いました。

※解答例は児童の記述のまま。ただし、一部抜粋等によって示した。以下、同じ。

○ 変化の仕組みを使ってつくったリズムとその工夫の記述とがほぼ整合していた児童は約4割であった。

(1)においてつくったリズムと(2)において記述した工夫の内容とがほぼ整合しているものを正答又は準正答とした。そのうち、事前に示した3人の児童のリズムとは異なるリズムをつくり、かつ、そのリズムの工夫について記述しているものを正答(解答類型1～5)とし、つくったリズム及び工夫の記述がともに事前に示した3人の児童のリズムによるもの(解答類型6)を準正答としており、それぞれ43.3%、0.3%であり、通過率は43.6%であった。

また、変化の仕組みを使ってリズムをつくることができ、変化させたリズムの工夫について記述している((1)と(2)を両方通過している)が、つくったリズムと工夫の記述との整合が認められない児童(解答類型7)は35.0%であった。

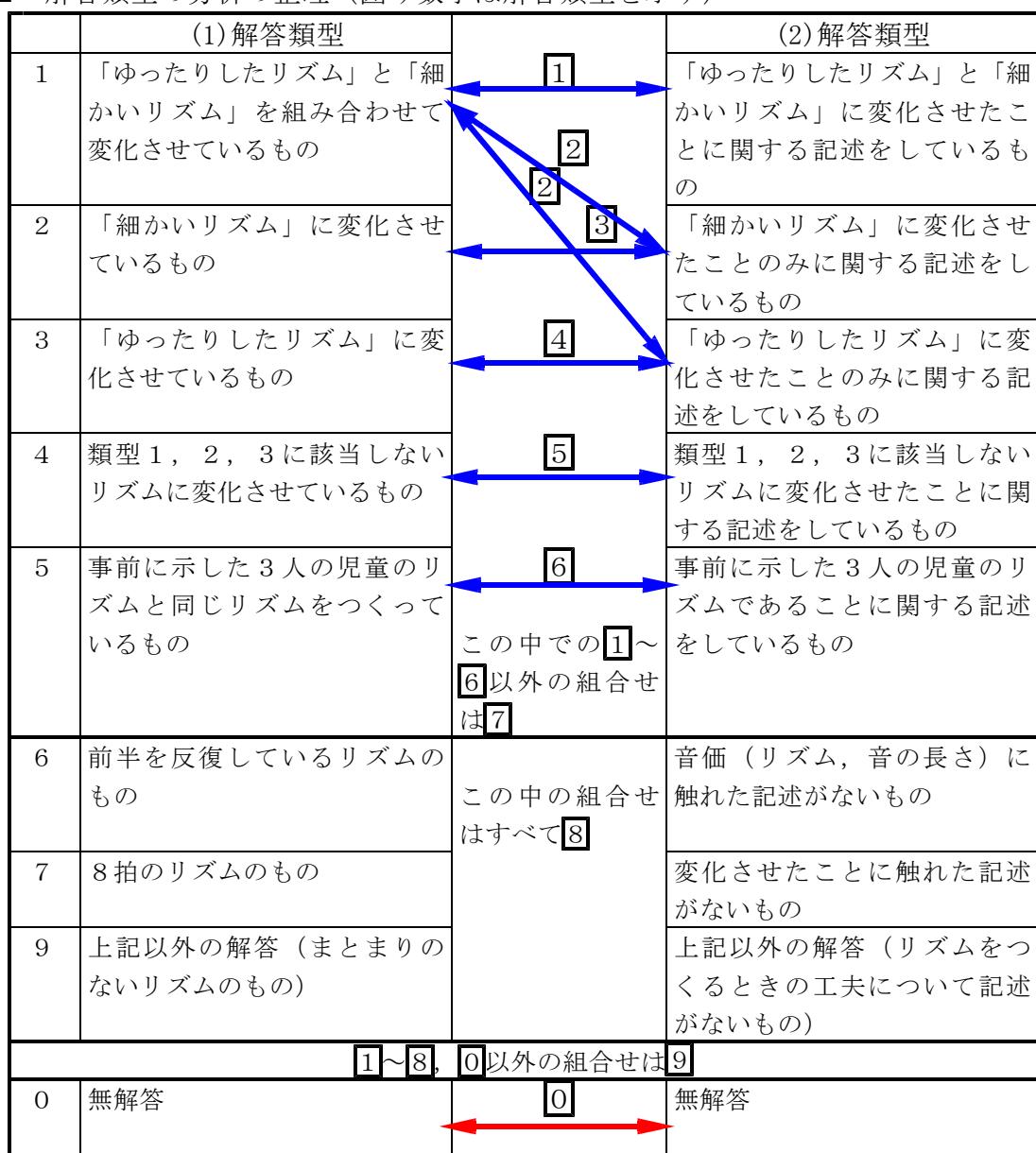
【解答類型ごとの反応率】

通過率 43.6%

類型番号	問題1(1)×(2) 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	(1)の解答類型が1かつ(2)の解答類型が1	7.3%
◎ 2	(1)の解答類型が1かつ(2)の解答類型が2・3	4.1%

◎ 3	(1)の解答類型が2かつ(2)の解答類型が2	24.1%
◎ 4	(1)の解答類型が3かつ(2)の解答類型が3	6.3%
◎ 5	(1)の解答類型が4かつ(2)の解答類型が4	1.5%
○ 6	(1)の解答類型が5かつ(2)の解答類型が5	0.3%
7	(1)の解答類型が1・2・3・4・5, かつ, (2)の解答類型が1・2・3・4・5((1)×(2)の解答類型1~6を除く)	35.0%
8	(1)の解答類型6・7・9, かつ, (2)の解答類型が6・7・9	17.8%
9	上記以外の解答	3.1%
0	無解答	0.6%

■ 解答類型の分析の整理 (囲み数字は解答類型を示す)



例：(1)の解答類型が1かつ(2)の解答類型が1の場合、(1)×(2)は解答類型1

④ 分析・考察

- 反復や変化などの構成を工夫する過程を大切にし、音楽を形づくっている要素の働きを意識しながら自分の意図を生かして音楽をつくることができるよう指導を工夫する。

音楽づくりの学習では、児童が表したい音楽をつくることができるようするために、反復や変化などの構成を手掛かりにして試行錯誤をする過程を大切にする必要がある。

問題1は、変化の仕組みを使って、工夫してリズムづくりをしているかを問う問題である。

(1)において、変化の仕組みを使ってリズムをつくることができた児童（解答類型1～5）は90.1%であった。一方、変化の仕組みを使ってリズムをつくることができ、かつ、つくるときの工夫について記述している((1)と(2)の両方を通過している)が、実際につくったリズムと記述した内容との整合が認められない児童（解答類型7）が35.0%であった。これらの児童は、リズムをつくるときに音価をどのように工夫するかについて、必ずしも自分の意図を明確にしていなかったことがうかがわれる。

一方、(2)の記述の内容において、例えば、「いきおいのあるリズムにした」「波のようにゆったりしているリズムにした」(いずれも一部を抜粋)のように、変化させたりズムの働きが醸し出すよさや面白さなどにも触れながら、音価をどのように工夫するかについて述べているものがあった。

指導に当たっては、反復や変化などの構成を工夫する過程を大切にし、音楽を形づくっている要素の働きを意識しながら自分の意図をもち、それを生かして音楽をつくることができるよう工夫することが大切である。具体的には、声や楽器を用いて自由に音を出して、その音をよく聴きながら活動をすること、特定のリズムを反復させる、変化させるなどの約束事を決めて、それを手掛かりにして活動をすることなどが考えられる。このような活動を通して、児童が音楽を形づくっている要素の働きによって醸し出される音楽のよさや面白さなどを感じ取りながら、自分はこのように表したいといった意図をもつことができるようになることが重要である。また、児童同士でつくっている音楽を聴き合い、よさを認め合ったり意見を述べ合ったりして、よりよい表現を目指すことも大切である。

(2) 問題2

まとまりのある旋律づくり

—4つの旋律（カード）の組合せを工夫する—

① 出題の趣旨

旋律づくりにおいては、旋律の基となる音高やリズムを意識し、音のつながりに興味をもち、児童一人一人が創造的に活動することが大切である。

問題2では、反復を理解しているか、また、音のつながりを意識しながら構成を工夫してまとまりのある旋律をつくっているか、まとまりがよいと考えた理由を述べているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年2内容A表現(4)アに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
2 (1)	反復を理解しているかを問う	楽譜を見て、1小節目と3小節目の仕組みを記述する	A (4)ア
2 (2) (3)	まとまりのある旋律をつくり、まとまりがよいと考えた理由を述べているかを問う	(2) 4つの旋律（カード）の組合せを工夫してまとまりのよい旋律をつくる (3)一番まとまりがよいと考えた旋律について、その旋律を選んだ理由を記述する	A (4)ア

② 調査問題の概要

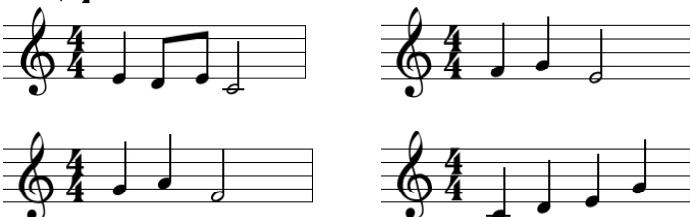
問題2(1)は、4小節からなる4分の4拍子の楽譜を見て、1小節目と3小節目の仕組みを記述する問題である。本問の導入として、アニメーションによる3人の児童が旋律づくりに取り組む学習場面を視聴し、これから行う旋律づくりのポイントを理解すると同時に、児童の創作への意欲が高まるようにした。そして、アニメーションに登場する児童がつくった旋律を階名唱した上で、1小節目と3小節目の仕組みについて気付いたことを「発見カード」に記述することとした。

問題2(2)は、それぞれ1小節の4つの旋律（「ミレミド」、「ファソミ」、「ソラファ」、「ドレミソ」）の組合せを工夫して、まとまりのよい旋律をつくる問題である。アニメーションで、旋律づくりの「3つのポイント」①最初は始まる感じにする、②曲の途中は続く感じにする、③最後は終わる感じにするを提示した。本問では、4つの旋律（カード）を組み合わせて、4小節の旋律をつくることとした。カードの組合せは24通りできるが、その組合せの工夫によって、始まる感じ、続く感じ、終わる感じが感じ取れるようにした。4小節の旋律を3つつくり、その中から

児童が一番まとまりがよいと考えた旋律を選ぶこととした。

なお、コンピュータの操作については、4枚のカードを組み合わせてつくった旋律を、**きく**をクリックすることによって自分で聴いたり、**やりなおし**をクリックすることによって、つくり直したり、**記録**をクリックすることによって、できあがった旋律を記録したりするなど、児童が試行錯誤しながら創作をすることができるようとした。

【4枚のカード】



問題2(3)は、(2)で一番まとまりがよい旋律として選んだ理由を記述する問題である。その際、先に提示された旋律づくりの3つのポイントを参考とするようナレーションで促した。

【調査問題 問題2(1)】

問題2

せんりつ
旋律づくり

- (1) みかさんは「おもしろいことを発見した」と言っています。どのようなことを発見したと思いますか。発見カードの()の中に入るふさわしい言葉を、答えの□の中に書きましょう。

発見カード

①の音を「ミ」にすると、
1小節目と3小節目が
()のしくみになっていておもしろい

(1) 答え

【調査問題 問題2(2)】

(2) 旋律づくりの「三つのポイント」を生かして、四枚の旋律カードを組み合わせて、まとまりのよい旋律をつくりましょう。一曲の中で、四枚のカードをすべて使ってつくります。コンピュータの画面で答えしてください。

旋律づくりの「三つのポイント」

- ①最初は、始まる感じにする
- ②曲の中は、続く感じにする
- ③最後は、終わる感じにする

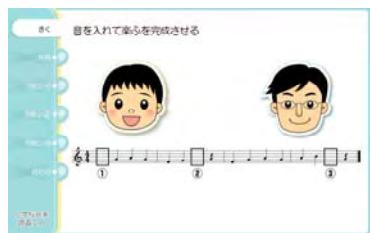
【調査問題 問題2(3)】

(3) あなたが「一番まとまりがよいと考えた旋律」を選んだ理由は何ですか。

(3)	-----
理	-----
由	-----

【出題プログラム 問題2(1)】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) 問題です。これから旋律づくりにチャレンジします。</p> <p>(先生) 次の楽譜を見てください。4分の4拍子の楽譜の空いているところに音を入れて、旋律を完成させましょう。どのような旋律ができるでしょうか。旋律は先生がリコーダーの演奏に合わせて、階名で歌います。では、聴いてください。（階名唱を聴く）</p>

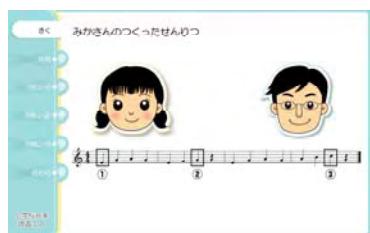


(ひろし)

先生、3箇所に音を入れて旋律をつくるんですか。

(先生)

そうです。それぞれにいろいろな音を入れて、まとまりのよい旋律にしましょう。どんなことに気を付けるとまとまりのよい旋律になるか、試してみましょう。

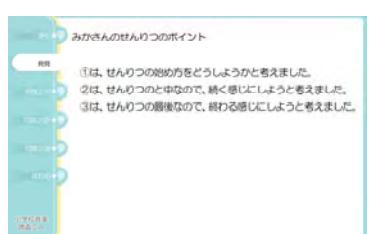


(みか)

こんな旋律ができました。(階名唱を聴く)

(先生)

まとまりのよいすてきな旋律ですね。あなたも一緒に歌いましょう。(階名で歌う)

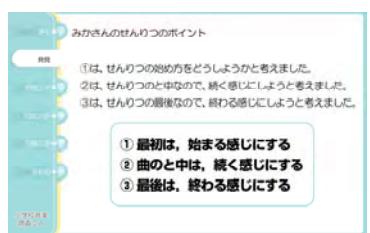


(先生)

みかさんは、どんなことに気を付けて旋律をつくりましたか。

(みか)

はい。①は、旋律の始め方をどうしようかと考えました。②は、旋律の途中なので、続く感じにしようと考えました。③は、旋律の最後なので、終わる感じにしようと考えました。



(あきら)

始め方と途中は続く感じ、最後は終わる感じ、だね。

(先生)

みかさんは、まとまりのよい旋律づくりの3つのポイントを発見しましたね。

(ひろし)

みかさんは、どうしてこの始め方にしたの。

(みか)

いろいろ試して、階名で書いてみたらおもしろいことを発見したの。それで、この旋律に決めました。

(ひろし)
おもしろいこと。



(ナレーション)
問題2(1)です。みかさんは「おもしろいことを発見した」と言っています。どのようなことを発見したと思いますか。発見カードの（　）の中に入るふさわしい言葉を、調査票の問題2(1)の答えの四角の中に書きましょう。時間は1分間です。よーい、始め。

【出題プログラム 問題2(2)】

プログラムの内容	ナレーション(抜粋)
 	<p>(ナレーション) 問題2(2)です。先ほどの旋律づくりの3つのポイントを生かして、4枚の旋律カードを組み合わせて、まとまりのよい旋律をつくりましょう。1曲の中で4枚のカードをすべて使ってつくります。組合せ方はたくさんありますから、いろいろ試して、3つの旋律をつくってください。</p> <p>カードの左上にある「きく」をクリックするとそれぞれの音を聞くことができます。カードの右上にある「選ぶ」をクリックすると、選んだ順番に旋律ができあがります。できあがった旋律の楽譜の下にある「再生」をクリックすると、全体を聞くことができます。つくったものをやり直したいときには「やりなおし」をクリックしてください。できあがったら「記録」をクリックして、次の組合せに進んでください。このようにして、それぞれ違った3曲をつくります。時間は7分間です。よーい、始め。</p>
	<p>(ナレーション) それぞれの楽譜の左にある、「きく」をクリックして、今記録した3つの旋律を聞き比べましょう。その中から、一番まとまりがよいと考えた旋律を選び、その楽譜の右上にある「選ぶ」をクリックしましょう。時間は2分間です。よーい、始め。</p>

【出題プログラム 問題2(3)】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) 問題2(3)です。 あなたが「一番まとまりがよい」と考えたせんりつを選んだ理由は何ですか。その理由を調査票の問題2(3)の四角の中に書きましょう。理由を書く時に、みかさんが発見した旋律づくりの3つのポイントを参考にしましょう。時間は3分間です。よーい、始め。</p>

③ 調査結果の概要

- 1小節目と3小節目が同じ旋律であることに気付き、そのことを記述した児童は約4割であった。

(1)では、「反復」、「繰り返し」など、曲の構成を適切な言葉で表しているもの（解答類型1, 2）を正答とし、「一緒」など、曲の構成を表す言葉とは言えないが、特徴はとらえているもの（解答類型3）を準正答としており、それぞれ10.6%, 31.6%であり、通過率は42.2%であった。曲の構成をとらえていないもの（解答類型9）が42.7%と最も多く、次に、曲の構成を表す言葉とは言えないが、特徴はとらえているもの（解答類型3）が31.6%，無解答が15.1%であった。

曲の構成をとらえていないもの（解答類型9）では、「なみ」、「階段」、「楽しい」、「高い音」など、音の上がり下がりを比喩的に表したり、音の高さの特徴そのものを記述している例が見られた。

【解答類型ごとの反応率】

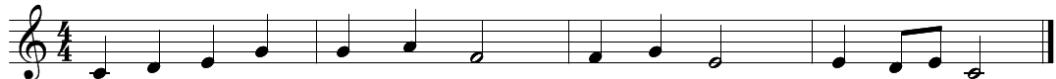
通過率 42.2%

類型番号	問題2(1) 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	曲の構成を「反復」で表しているもの	5.2%
◎ 2	曲の構成を「反復」以外の言葉で表しているもの	5.3%
○ 3	曲の構成を表す言葉とは言えないが、特徴はとらえているもの	31.6%
9	上記以外の解答（曲の構成をとらえていないもの）	42.7%
0	無解答	15.1%

- まとまりのある旋律をつくった児童は約9割である。

(2)では、「ミレミド」、「ファソミ」、「ソラファ」、「ドレミソ」の4枚のカードを、「3つのポイント」（①始まる感じ、②続く感じ、③終わる感じ）を生かして組み合わせたものとして、根音、第3音、第5音のいずれかで始まり、根音、第3音のいずれかで終止する旋律の組合せ（解答類型1～3）を正答とし、第4音で始まり根音で終止する組合せ（解答類型4）を準正答としており、それぞれ84.4%, 8.8%であり、通過率は93.2%であった。

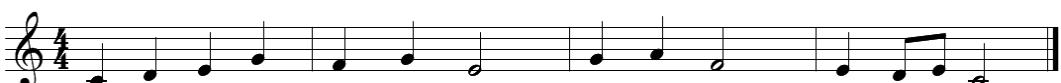
正答のうち、「ドレミソ→ソラファ→ファソミ→ミレミド」の組合せ（解答類型1の一部）が最も多く、26.3%であった。



次に「ソラファ→ファソミ→ドレミソ→ミレミド」の組合せ（解答類型2の一部）が24.6%，



「ドレミソ→ファソミ→ソラファ→ミレミド」の組合せ（解答類型1の一部）が21.4%であった。



また、すべての児童が4枚のカードを組み合わせて何らかの旋律を1つはつくることができ、無解答の児童は見られなかった。

なお、24通りのいずれの組合せであっても旋律づくりをすることができたという点において、また、つくった旋律の価値において、差異があるとは言えない。本問では、このことを踏まえつつ、①始まる感じ、②続く感じ、③終わる感じの「3つのポイント」の視点から、長音階の旋律として一般的に妥当と考えられるかどうかという観点で解答を分類した。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 93.2%

類型番号	問題2(2) 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	4枚のカードの組合せが (ドレミソ、ソラファ、ファソミ、ミレミド) (ドレミソ、ファソミ、ソラファ、ミレミド) のいずれかであり、まとまりのある旋律を解答しているもの	47.7%
◎ 2	4枚のカードの組合せが (ソラファ、ドレミソ、ファソミ、ミレミド) (ソラファ、ファソミ、ドレミソ、ミレミド) のいずれかであり、まとまりのある旋律を解答しているもの	27.8%
◎ 3	4枚のカードの組合せが (ドレミソ、ソラファ、ミレミド、ファソミ) (ドレミソ、ミレミド、ソラファ、ファソミ) (ソラファ、ドレミソ、ミレミド、ファソミ) (ソラファ、ミレミド、ドレミソ、ファソミ) (ミレミド、ドレミソ、ソラファ、ファソミ) (ミレミド、ソラファ、ドレミソ、ファソミ) のいずれかであり、まとまりのある旋律を解答しているもの	8.9%
○ 4	4枚のカードの組合せが	8.8%

	(ファソミ, ドレミソ, ソラファ, ミレミド) (ファソミ, ソラファ, ドレミソ, ミレミド) のいずれかであり, 始まる感じが出にくい旋律を解答しているもの	
5	4枚のカードの組合せが (ソラファ, ファソミ, ミレミド, ドレミソ) (ソラファ, ミレミド, ファソミ, ドレミソ) (ファソミ, ソラファ, ミレミド, ドレミソ) (ファソミ, ミレミド, ソラファ, ドレミソ) (ミレミド, ソラファ, ファソミ, ドレミソ) (ミレミド, ファソミ, ソラファ, ドレミソ) のいずれかであり, 終わる感じが出にくい旋律を解答しているもの	1.6%
6	4枚のカードの組合せが (ファソミ, ドレミソ, ミレミド, ソラファ) (ファソミ, ミレミド, ドレミソ, ソラファ) のいずれかであり, 始まる感じ, 終わる感じが出にくい旋律を解答しているもの	1.2%
7	4枚のカードの組合せが (ドレミソ, ファソミ, ミレミド, ソラファ) (ドレミソ, ミレミド, ファソミ, ソラファ) (ミレミド, ドレミソ, ファソミ, ソラファ) (ミレミド, ファソミ, ドレミソ, ソラファ) のいずれかであり, 終わる感じが出にくい旋律を解答しているもの	4.1%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.0%

○ まとめりがよい旋律として選んだ理由について、続く感じ又は終わる感じの視点で記述した児童は約9割であった。

(3)では、まとめりがよい旋律として選んだ理由として、①始まる感じ、②続く感じ、③終わる感じの「3つのポイント」のうち、2つ以上の視点で記述しているもの（解答類型1～4）を正答とし、終わる感じ又は続く感じのいずれかの視点のみで記述しているもの（解答類型5、6）を準正答としており、それぞれ75.5%，14.0%であり、通過率は89.5%であった。始まる感じ、続く感じ、終わる感じの視点で記述しているもの（解答類型1）が48.1%と最も多く、次に、始まる感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの（解答類型3）が15.2%，続く感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの（解答類型2）が8.8%であった。

なお、終わる感じと続く感じの視点がなく、始まる感じの視点のみで記述しているもの（解答類型7）については、旋律を全体的にとらえているとは言い難く、まとめりがよい理由として不十分であることから誤答とした。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 89.5%

類型番号	問題2(3) 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	始まる感じ、続く感じ、終わる感じの視点で記述しているもの	48.1%
◎ 2	続く感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの	8.8%
◎ 3	始まる感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの	15.2%
◎ 4	始まる感じ、続く感じの2つの視点のみで記述しているもの	3.4%
○ 5	終わる感じの視点のみで記述しているもの	7.7%
○ 6	続く感じの視点のみで記述しているもの	6.3%
7	始まる感じの視点のみで記述しているもの	1.5%
8	まとまりに触れているが、始まる感じ、続く感じ、終わる感じの視点のない記述をしているもの	2.9%
9	上記以外の解答（まとまりについて記述していないもの）	5.1%
0	無解答	1.0%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、児童の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

- ① まとまり（曲の構成）に触れた記述があるか
- ② 始まる感じであることを記述しているか（始まる感じの視点）
- ③ 続く感じであることを記述しているか（続く感じの視点）
- ④ 終わる感じであることを記述しているか（終わる感じの視点）

【解答類型における①～④の組合せ】

—は下位判定により判定せず

観点 解答 類型	① まとまり	② 始まる感じ	③ 続く感じ	④ 終わる感じ
1	○	○	○	○
2	○	×	○	○
3	○	○	×	○
4	○	○	○	×
5	○	×	×	○
6	○	×	○	×
7	○	○	×	×
8	○	×	×	×
9	×	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題2(3) 解答例 (◎: 正答 ○: 準正答)
◎ 1	<p>○ 3つの中で一番始まる感じと終わる感じがしたから。と中はリズムを反復させているのでつながった感じがするから。</p> <p>○最初はだんだん立ち上がって始まる感じ。と中は、にたものを続けて続く感じ、最後はいかにも終わりそうな感じにした。</p>
◎ 2	<p>○ミレミドが終わる感じなので、一番最後にしました。と中もドレミソと続く感じのものにしてまとまりがよくなるようにしました。</p> <p>○2・3小節目は続く感じにした。最後がドで終わるのでハ長調になってよか</p>

	<u>つた。</u>
◎ 3	<input type="radio"/> <u>最初はドレミソで始まる感じにして、最後は終わる感じにした</u> <input type="radio"/> <u>最初と最後をドにすると、サラッと初まってキュッと終わるかんじがして、最初と最後がくっきりしているかんじがしたから。</u>
◎ 4	<input type="radio"/> <u>曲が続くようにした。最初は始まる感じにした。</u> <input type="radio"/> <u>四つの中から一番はじめにふさわしいのをおいておわりになりにくいのを二つまん中にもってきた。</u>
◎ 5	<input type="radio"/> <u>最後が低い音で終わるとまとまったように聞こえたから。</u> <input type="radio"/> <u>音があついて終わる感じがでていたからです。</u>
◎ 6	<input type="radio"/> <u>曲の中は続く感じになるようにかんがえてつくった。</u> <input type="radio"/> <u>曲のと中は、続く感じにしたかったから、選んだ曲が一番曲の中へ続くかんじがしたから。</u>
7	<input type="radio"/> <u>最初は、ドから始めて、始まる感じにして。</u> <input type="radio"/> <u>最初はいい音で始まった方がいいと思ったから。</u>
8	<input type="radio"/> <u>リズムがまとまっていたからです。</u> <input type="radio"/> <u>きれいなまとまりをしていると思いました。</u>
9	<input type="radio"/> <u>いい音だから。</u> <input type="radio"/> <u>なんとなく考えて作っていいなと思ったから。</u>

○ つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とがほぼ整合していた児童は約8割であった。

ここでは、(2)でつくった旋律と、(3)においてまとまりのよい旋律として選んだ理由との間に整合性があるかを見ることとした。

(2)を通過し、かつ、つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とがほぼ整合しているものを正答または準正答とした。具体的には、(2)でつくった旋律に始まる感じ、続く感じ、終わる感じの構成があり、(3)で2つ以上の構成について整合した記述のあるものなど(解答類型1～4)を正答とし、(2)でつくった旋律に続く感じと終わる感じの構成が含まれ、そのいずれかの1つの構成についてのみ整合した記述のあるものなど(解答類型5～7)を準正答としており、それぞれ66.1%，18.4%であり、通過率は84.5%であった。(2)でつくった旋律に3つの構成があり、(3)で理由を3つの視点で記述している、又は、(2)でつくった旋律に続く感じ、終わる感じの構成があり、(3)で理由をその2つの視点で記述しているもの(解答類型1)が42.9%と最も多かった。また、(2)でつくった旋律に3つの構成があり、(3)で理由を始まる感じ、終わる感じの視点で記述しているもの(解答類型3)が13.3%，(2)でつくった旋律に3つの構成があり、(3)で理由を始まる感じ、続く感じ、終わる感じのいずれか1つの視点で記述しているもの(解答類型6)が12.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 84.5%

類型番号	問題2(2)×(3) 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	(2)の解答類型が1・2・3かつ(3)の解答類型が1, (2)の解答類型が4かつ(3)の解答類型が2	42.9%

◎ 2	(2)の解答類型が 1・2・3かつ(3)の解答類型が 2	7.3%
◎ 3	(2)の解答類型が 1・2・3かつ(3)の解答類型が 3	13.3%
◎ 4	(2)の解答類型が 1・2・3かつ(3)の解答類型が 4	2.6%
○ 5	(2)の解答類型が 4かつ(3)の解答類型が 5・6	1.4%
○ 6	(2)の解答類型が 1・2・3かつ(3)の解答類型が 5・6・7	12.8%
○ 7	(2)の解答類型が 4かつ(3)の解答類型が 1	4.2%
8	(2)の解答類型が 4かつ(3)の解答類型が 3・4	1.5%
9	上記以外の解答	14.0%
0	無解答	0%

■ 解答類型の分析の整理 (囲み数字は解答類型を示す)

	(2) 解答類型	(3) 解答類型
1	まとまりのあるもの（始まる感じ+続く感じ+終わる感じ）	始まる感じ、続く感じ、終わる感じの視点で記述しているもの
2	まとまりのあるもの（始まる感じ+続く感じ+終わる感じ）	続く感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの
3	まとまりのあるもの（始まる感じ+続く感じ+終わる感じ）	始まる感じ、終わる感じの2つの視点のみで記述しているもの
4	開始感が出にくいもの（続く感じ+終わる感じ）	始まる感じ、続く感じの2つの視点のみで記述しているもの
5	終止感が出にくいもの（始まる感じ+続く感じ）	終わる感じの視点のみで記述しているもの
6	開始感・終止感が出にくいものの（続く感じのみ）	続く感じの視点のみで記述しているもの
7	終止感が出にくいもの（始まる感じ+続く感じ）	始まる感じの視点のみで記述しているもの
8		まとまりに触れているが、始まる感じ、続く感じ、終わる感じの視点のない記述をしているもの
9	上記以外の解答	上記以外の解答（旋律のまとまりについて記述していないもの）
[1]~[8], [0]以外の組合せは 9		
0	無解答	無解答

例：(2)の解答類型が 1かつ(3)の解答類型が 1の場合、(2)×(3)の解答類型 1

④ 分析・考察

- 児童が音のつながりなどを感じ取りながら創意工夫し、自分にとって価値のある音楽をつくることができるよう指導を工夫する。

まとまりのある旋律をつくる(2)の通過率は93.2%であり、まとまりがよい旋律として選んだ理由を記述する(3)の通過率は89.5%であったことから、まとまりのある旋律をつくること、まとまりがよいと考えた理由を述べることは、相当数の児童ができていた。また、(2)を通過し、かつ、つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とがほぼ整合していた児童は84.5%であったことから、多くの児童が旋律の音高の自然なつながりなどを意識しながら旋律をつくっていることがうかがわれる。

(2)の旋律づくりにおいて、4つの旋律を「根音で始まる→○→○→根音で終わる」のように並べた児童（解答類型1）は47.7%であり、このうち、始まる感じ、続く感じ、終わる感じの3つの視点から理由を記述した児童は57.8%であった。このような児童は、主音「ド」の安定感や、曲全体のまとまった感じなどを感じ取りながら旋律をつくっていたことが考えられる。

指導に当たっては、児童が音のつながりなどを感じ取りながら創意工夫し、自分にとって価値のある音楽をつくることができるよう工夫することが大切である。具体的には、リズムや旋律などを視覚的に提示したり、つくるポイントを絞り込んだりして、それらを手掛けたりにして試行錯誤できるようにし、さらに、いくつかの短い音楽をつくって、それらの中から気に入った音楽を自ら選ぶなど児童の思考・判断を促すようにし、自分にとって価値のある音楽をつくることができるようになることが考えられる。

さらに、低学年の段階から音遊びや即興的な音楽表現の面白さなどを体験できるようにしたり、音を組み合わせて音楽をつくる楽しさなどを味わうことができるようになりして、継続的・系統的に創作の指導を行うようにすることが求められる。

3 調査ⅡBにおける調査結果

(1) 問題1

音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわり合い

－曲想を醸し出しているリズムの変化を選択したり、
楽曲の強弱の変化による曲想について記述したりする－

① 出題の趣旨

鑑賞の学習においては、音楽のよさや美しさを味わうことができるよう、楽曲の構成や音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりを意識して聴くことが大切である。

問題1では、標題をもつ管弦楽曲を聴き、標題からイメージすることを手掛かりにしながら、曲想とかかわらせて音楽を特徴付けている要素の変化を聴き取っているか、特定の旋律を聴き取っているか、楽曲の強弱の変化による曲想を感じ取っているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年2内容B鑑賞(1)ア、イ、ウに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1 (1)	曲想とかかわらせて、リズムの変化を聴き取っているかを問う	音楽を聴いて、曲想を醸し出しているリズムの変化を選択する	B (1)イ
1 (2)	曲想とかかわらせて、楽器の音色、強弱、速度のそれぞれの変化を聴き取っているかを問う	曲想を醸し出している楽器の音色、強弱、速度のそれぞれの変化として適切であるか否かを選択する	B (1)イ・ウ
1 (3)	旋律を聴き取っているかを問う	特定の旋律が、楽曲の各部に表れているか否かを選択する	B (1)イ
1 (4)	楽曲の強弱の変化をとらえ、曲想を感じ取っているかを問う	楽曲の強弱の変化によって、はなやかな行列や行進などのような様子が表されているのかについて記述し、紹介文を完成させる	B (1)ア・イ

② 調査問題の概要

問題1は、標題をもつ管弦楽曲を聴き、曲想を醸し出している要素の変化として適切なものを選択したり、特定の旋律を聴き取ったり、楽曲の強弱の変化による曲想について記述したりする問題である。

本問では、イベル(IBERT Jacques 1890-1962 フランス)が作曲した『室内管弦

楽のためのディベルティメント(喜遊曲)』から第5曲「パレード」(以下※参照)を用いた。楽曲が**A**, **B**, **C**, **D**の4つの部分から構成されていることを示した上で、(1)～(4)を出題した。

(1)は、**A**部から**B**部について、曲想を醸し出している伴奏部のリズムの変化を選択する問題である。

(2)は、**B**部から**C**部について、曲想を醸し出している要素の変化として述べられている、楽器の音色、強弱、速度のそれぞれの変化が適切であるか否かを選択する問題である。

(3)は、提示された特定の旋律を聴いて覚え、**A**, **B**, **C**, **D**の各部においてその旋律が表れているか否かを選択する問題である。

(4)は、楽曲の強弱の変化によって、はなやかな行列や行進のどのような様子が表されているのかについて記述し、紹介文を完成させる問題である。

なお、選曲に当たっては、演奏時間が短く、楽曲の構成や音楽を特徴付けている要素を聴き取りやすく、曲想を感じ取りやすいことを考慮した。この楽曲は、フェルマータのある2か所以外は、全曲が一定の速度で演奏され、近づいて来て、また去って行く行列や行進(パレード)の様子が楽器の編成や強弱の変化などによって描かれている。

楽曲が**A**, **B**, **C**, **D**の4つの部分から構成されていることをナレーションによって示すとともに、演奏を視聴させる際には、楽曲のどの部分が演奏されているかをテロップによって表示することにより、児童が楽曲のどの部分を聴いているのかが分かるようにした。

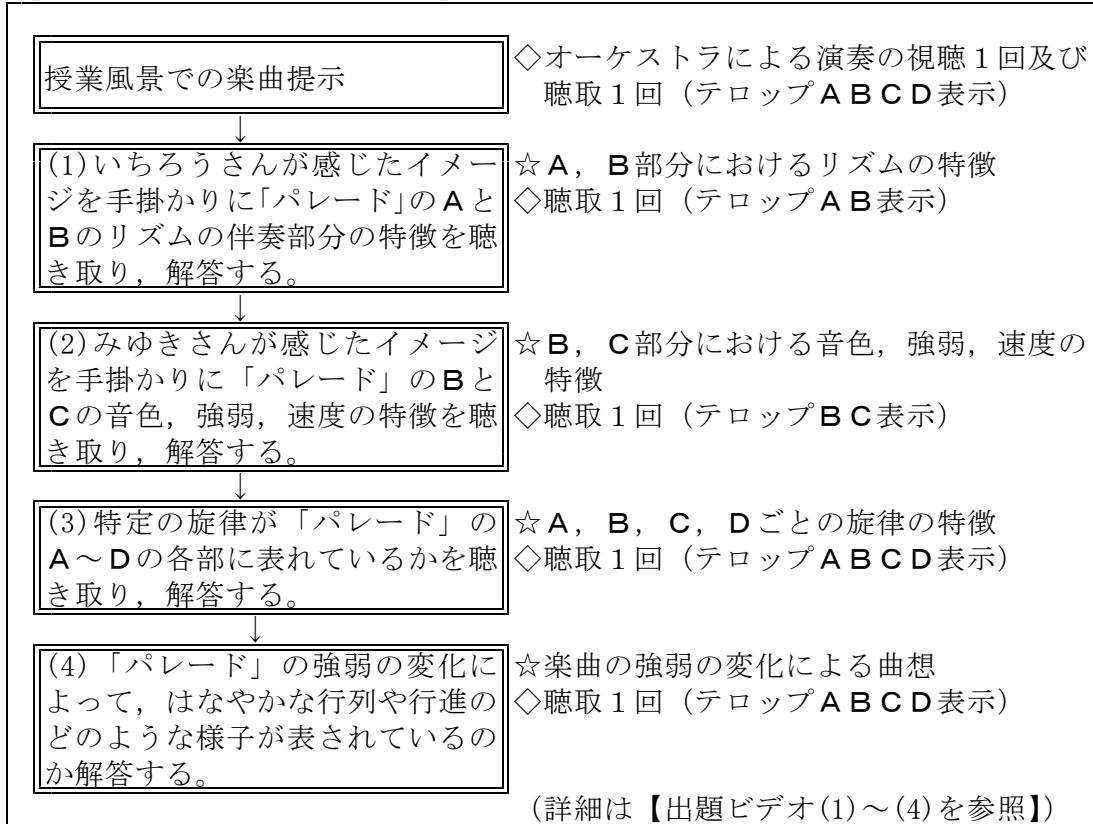
※原題[DIVERTISSMENT pour orchestre de chambre / V. Parade]

2/4拍子 Tempo di Marcia(マーチのテンポで) 演奏時間：約1分45秒

楽器編成：フルート、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、打楽器、ピアノ(以上各1), ヴァイオリン(3), ヴィオラ(2), チェロ(2), コントラバス(1)

(1), (2), (3)を解答することによって、楽曲の各部分を聴きながらリズム、音色、速度、旋律などの特徴を把握することができるようになり、このことが(4)の問題に取り組むことにつながるよう配慮した。オーケストラによる演奏の視聴は、最初に楽曲を提示する際の**A**～**D**全体1回のみとし、その後は、**A**～**D**全体を1回、(1)の解答に当たり**A** **B**部を1回、(2)の解答に当たり**B** **C**部を1回、(3), (4)の解答に当たり**A**～**D**全体をそれぞれ1回ずつ聴取した。

【問題1 (1)～(4)の出題の流れ】



【調査問題 問題 1 (1)】

問題
1

イペール作曲の『パレード』という曲をさきます。この曲はA, B, C, Dの四つの部分からできています。映像を見ながら(1)から(4)の問題に答えてください。

(1) いちろうさんは『パレード』の音楽のAの部分とBの部分をきいて、「遠くから足音がきこえてきたと思ったら、動物たちがにぎやかに行進してきたみたいだ」と感じました。

いちろうさんがこのように感じた理由としてもっともふさわしいと思うものを、下の1から3の中から一つ選んで、その番号を答えの□の中に書いてください。

Aの部分とBの部分の音楽を一回ききます。音楽をさながら答えてください。

1 AもBも、同じリズムの伴奏だから

2 Bは、Aよりゆったりしたリズムの伴奏だから

3 Bは、Aより軽快なリズムの伴奏だから

答 え	
--------	--

【調査問題 問題1(2)】

(2) みゆきさんは『パレード』の音楽のBの部分とCの部分をきいて、「広場に行列が入ってきたと思ったら、目の前ではなやかな演技が始まったみたいだ」と感じました。

以下の①から③について、みゆきさんがこのように感じた理由としてふさわしいものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの□の中に書いてください。

Bの部分とCの部分を一回ききます。音楽をききながら答えてください。

① Cから金管楽器と打楽器が加わるから

② CはBに比べて、強くなるから

③ CはBに比べて、速くなるから

答 え	①	②	③

【調査問題 問題 1 (3)】

(3) 今から流れる旋律をよくきいてください。この旋律は、
この曲の中で楽器をかえながら何度か出できます。

A, B, C, Dのそれぞれの部分について、この旋律が
あらわれるものには○を、そうでないものには×を、それ
ぞれ答えの□の中に書いてください。

音楽は全体を通して一回ききます。音楽をききながら答
えてください。

答 え	A	B	C	D

【調査問題 問題1(4)】

(4) この曲の紹介文をかずやさんが書きました。()に入る
もっともふさわしい文を考えて、答えの□の中に書いて、
紹介文を完成させてください。

音楽は全体を通して一回ききます。音楽をききながら答え
てもかまいません。

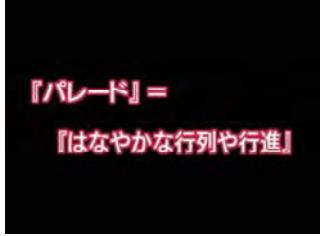
紹介文

この『パレード』は、イベルというフランスの作
曲家がつくった曲です。A, B, C, Dの四つの部分
からできています。

ぼくが、この曲をきいて一番おもしろかったのは、
強弱の変化です。この強弱の変化によって、はなやか
な行列や行進が()様子をあらわしていると感
じました。

答
え

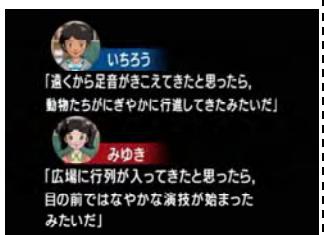
【出題ビデオ 問題1(1)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
 	<p>(先生) 今日は、フランスの作曲家イベルという人がつくった『パレード』という曲を聴きましょう。</p>
 	<p>(いちろう) 『パレード』ってなんですか。</p>
 	<p>(先生) はなやかな行列や行進という意味です。</p>
 	<p>(先生) 一度『パレード』を聴きますから、後で感想を言いましょう。演奏時間は約2分間です。 『パレード』の演奏を視聴する)</p>
 	<p>(先生) いちろうさんはどのような感想をもちましたか。</p> <p>(いちろう) ぼくは前半の部分を聴いて、遠くから足音がきこえてきたと思ったら、動物たちがにぎやかに行進してきたみたいだ、と感じました。</p>

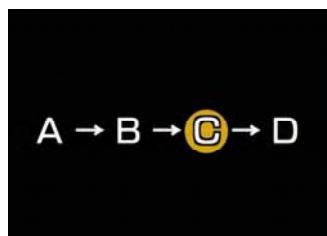
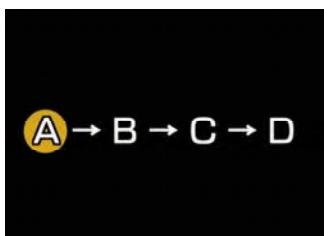


(先生)
みゆきさんの感想は。

(みゆき)
私はまん中の部分を聴いて、
広場に行列が入ってきたと思ったら、
目の前ではなやかな演技が始まった
みたいだ」と感じました。



(ナレーション)
では、教室のみなさんも一緒に、いちろうさんやみゆきさんの感想をヒントにして、もう一度、『パレード』を聴きましょう。
この曲は A, B, C, D の四つの部分からできています。四つの部分を示しますから、映像を見ながら聴きましょう。



(『パレード』の演奏を聴く)
(演奏の進行表示)



(ナレーション)
問題 1(1)です。いちろうさんは『パレード』の音楽の A の部分と B の部分を聴いて、「遠くから足音がきこえてきたと思ったら、動物たちがにぎやかに行進してきたみたいだ」と感じました。いちろうさんがこのように感じた理由として最もふさわしいと思うものを、下の 1 から 3 の中から一つ選んで、その番号を答えの四角の中に書いてください。A の部分と B の部分の音楽を 1 回聴きます。音楽を聴きながら答えてください。



1 から 3 を見てください。
音楽を聴きます。
(『パレード』の A から B を
聴く)
(演奏の進行表示)

【出題ビデオ 問題1(2)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
	(先生) 次はみゆきさんの感じた理由を B と C の部分を聴いて考えましょう。
	(ナレーション) 問題1(2)です。みゆきさんは『パレード』の音楽の B の部分と C の部分を聴いて、「広場に行列が入ってきたと思ったら、目の前ではなやかな演技が始まったみたいだ」と感じました。下の①から③について、みゆきさんがこのように感じた理由としてふさわしいものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの四角の中に書いてください。 B の部分と C の部分を1回聴きます。音楽を聴きながら答えてください。①から③を見てください。
	(ナレーション) 音楽を聴きます。 (『パレード』の B から C を聴く) (演奏の進行表示)
	

【出題ビデオ 問題1(3)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
	(先生) いちろうさんやみゆきさんのヒントのおかげで、曲のそれぞれの部分がよく分かってきましたね。

問題 1(3)	<p>(ナレーション) 問題 1(3)です。今から流れる旋律をよく聴いてください。この旋律は、この曲の中で楽器を変えながら何度か出でてきます。</p>
せんりつ 旋律をききましょう。	<p>(旋律を聴く)</p>
A → B → C → D	<p>(ナレーション) A, B, C, Dのそれぞれの部分について、この旋律が表れるものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの四角の中に書いてください。音楽は全体を通して1回聴きます。音楽を聴きながら答えてください。</p>
A → B → C → D	<p>(ナレーション) 音楽を聴きます。 (『パレード』の全体を聴く) (演奏の進行表示)</p>

【出題ビデオ 問題 1(4)】

ビデオの内容	ナレーション (抜粋)
	<p>(いちろう) うん。曲の全体がとてもよく分かってきました。</p> <p>(みゆき) そうね。せっかくだからこの曲をだれかに紹介したいわ。</p> <p>(先生) それはいいアイデアですね。</p>



(かずや)
じゃあ、僕が書いてみるよ。

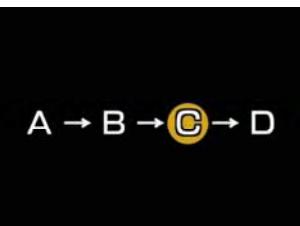


問題 1(4)



(ナレーション)
問題 1(4)です。この曲の紹介文をかずやさんが書きました。()に入る最もふさわしい文を考えて、答えの四角の中に書いて、紹介文を完成させてください。音楽は全体を通して1回聴きます。音楽を聴きながら答えるてもかまいません。

(ナレーション)
では、かずやさんの紹介文です。



(かずや)
この『パレード』は、イベルというフランスの作曲家がつくった曲です。A, B, C, Dの四つの部分からできています。

ぼくが、この曲をきいて一番おもしろかったのは、強弱の変化です。この強弱の変化によって、はなやかな行列や行進が()様子をあらわしていると感じました。

(ナレーション)
音楽を聴きます。
(『パレード』の全体を聴く)
(演奏の進行表示)

③ 調査結果の概要

- 曲想を醸し出しているリズムの変化を正しく選択した児童は約9割であった。
(1)では、伴奏のリズムの変化をとらえている3の「Bは、Aより軽快なリズムの伴奏だから」を正答としている。正答した児童が85.7%と最も多く、次に、2の「Bは、Aよりゆったりしたリズムの伴奏だから」が9.2%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 85.7%

解答類型番号	問題 1(1) 解答類型	(◎: 正答)	反応率
1	1と解答しているもの (AもBも、同じリズムの伴奏だから)	4.8%	
2	2と解答しているもの (Bは、Aよりゆったりしたリズムの伴奏だから)	9.2%	

◎ 3	3と解答しているもの（Bは、Aより軽快なリズムの伴奏だから）	85.7%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.2%

- 曲想を醸し出している楽器の音色、強弱、速度のそれぞれの変化が適切であるか否かをすべて正しく選択した児童は約6割であった。

(2)では、①の楽器の音色を○、②の強弱の変化を○、③の速度の変化を×と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が59.4%と最も多く、次に①○以外、②○、③×を選択したもの（解答類型4）が14.5%であった。

また、①の楽器の音色を正しく選択した児童（解答類型1, 2, 3, 5）は69.9%，②の強弱の変化を正しく選択した児童（解答類型1, 2, 4, 6）は91.2%，③の速度の変化を正しく選択した児童（解答類型1, 3, 4, 7）は76.2%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 59.4%

類型番号	問題1(2) 解答類型 (◎：正答)	反応率
◎ 1	①を○、②を○、③を×と解答しているもの	59.4%
2	①を○、②を○、③を×以外と解答しているもの	3.2%
3	①を○、②を○以外、③を×と解答しているもの	2.1%
4	①を○以外、②を○、③を×と解答しているもの	14.5%
5	①を○、②を○以外、③を×以外と解答しているもの	5.2%
6	①を○以外、②を○、③を×以外と解答しているもの	14.0%
7	①を○以外、②を○以外、③を×と解答しているもの	0.2%
8	①を×、②を×、③を○と解答しているもの	0.6%
9	上記以外の解答	0.4%
0	無解答	0.4%

- 特定の旋律が楽曲の各部に表れているか否かをすべて正しく選択した児童は約6割であった。

(3)では、A, B, C, Dの部分について、特定の旋律が異なる楽器で再現された場合も聴き取っている、Aを○、Bを○、Cを×、Dを○と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が60.8%と最も多く、次に、解答類型1～4以外の解答（解答類型9）が23.4%，Aを○、Bを○以外、Cを×、Dを○と選択したもの（解答類型2）が13.0%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 60.8%

類型番号	問題1(3) 解答類型 (◎：正答)	反応率
◎ 1	Aを○、Bを○、Cを×、Dを○と解答しているもの	60.8%
2	Aを○、Bを○以外、Cを×、Dを○と解答しているもの	13.0%
3	Aを○、Bを○、Cを×、Dを○以外と解答しているもの	2.1%
4	Aを○、Bを○以外、Cを×、Dを○以外と解答しているもの	0.4%
9	上記以外の解答	23.4%

0	無解答	0.3%
---	-----	------

○ 楽曲の強弱の変化をとらえ、「はなやかな行列や行進」の様子を記述した児童は約2割であった。

(4)では、楽曲の強弱の変化をとらえ、楽曲全体 ($A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D$) の曲想について記述しているもの（解答類型1）及び $A \rightarrow B$ と D のみの曲想について記述しているもの（解答類型2）を正答としており、それぞれ7.1%，8.0%，計15.1%であった。また、楽曲の強弱の変化をとらえ、 C と D のみ又は、 $A \rightarrow B$ と C のみの曲想について記述しているもの（解答類型3，4）を準正答としており、それぞれ3.8%，1.9%，計5.7%であった。通過率は20.8%であった。

曲想を記述しているが、楽曲のどの部分かが特定できず、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないもの（解答類型8）が最も多く35.0%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 20.8%

類型番号	問題1(4) 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	楽曲の強弱の変化をとらえ、楽曲全体($A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D$)の曲想について記述しているもの	7.1%
◎ 2	楽曲の強弱の変化をとらえ、 $A \rightarrow B$ と D のみの曲想について記述しているもの	8.0%
○ 3	楽曲の強弱の変化をとらえ、 C と D のみの曲想について記述しているもの	3.8%
○ 4	楽曲の強弱の変化をとらえ、 $A \rightarrow B$ と C のみの曲想について記述しているもの	1.9%
5	D のみの曲想を記述しているが、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないもの	3.0%
6	$A \rightarrow B$ のみの曲想を記述しているが、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないもの	7.7%
7	C のみの曲想を記述しているが、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないもの	7.4%
8	曲想を記述しているが、楽曲のどの部分かが特定できず、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないもの	35.0%
9	上記以外の解答	22.2%
0	無解答	3.9%

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題1(4) 解答例 (◎: 正答 ○: 準正答)
◎ 1	<p>○近づいてきて、目の前で楽しそうにおどったりして、最後に帰ってゆく</p> <p>○広場に入ってきて、演技をどうどうとひろうした後、また広場をでて遠ざかっていくような</p> <p>-----</p> <p>樂曲の強弱の変化をとらえ、楽曲全体 ($A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D$) の曲想について記述している。</p>
◎ 2	○少しずつ近づいてきてまたはなれていく

	○どんどん近づいてきて、それから遠ざかっていく 樂曲の強弱の変化をとらえ、A BとDのみの曲想について記述をしている。
○ 3	○もりあがっている様子とおりすぎていく様子 樂曲の強弱の変化をとらえ、CとDのみの曲想について記述している。
○ 4	○広場に入ってきたり、演技を見せたりしている 樂曲の強弱の変化をとらえ、A BとCのみの曲想について記述している。
5	○広場から去る Dのみの曲想を記述しているが、樂曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない。
6	○こちらに向かってくる A Bのみの曲想を記述しているが、樂曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない。
7	○はなやかにおおぜいの人とたのしくおどっている Cのみの曲想を記述しているが、樂曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない。
8	○楽しい ○はく力のある 曲想を記述しているが、樂曲のどの部分かが特定できず、樂曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない。
9	○いろいろな ○動物の ○やっている 解答類型1～8に当てはまらない記述をしている。

④ 分析・考察

○ 曲想とかかわらせてリズムの変化を聴き取ることは、相当数の児童ができていた。

(1)の通過率は、85.7%であり、曲想とかかわらせてリズムの変化を聴き取ることは、相当数の児童ができていた。

一方、正しく選択できなかった児童が14.3%いた。

この曲のAの部分は、チェロとコントラバス、ピアノが、、のリズムを刻むのに対し、Bの部分に入ると、ピアノが省かれ、チェロとコントラバスの、、のリズムに、ヴァイオリンとヴィオラの、、のリズムが加わる。したがって、伴奏のリズムはBに入って細くなる。

このことについて、正しく選択できなかった児童は、伴奏のリズムがどのように変化したかを聴き取ることができなかつたと考えられる。

○ 旋律に着目して音楽を聴き取ることができるよう指導を工夫する。

(3)の通過率は60.8%であり、A～Dのそれぞれについて正しく選択した児童は89.4%，76.0%，78.5%，84.7%であった。それぞれの誤答の理由として、

- ・ Aを×とした児童は、特定の旋律を提示した楽器で演奏しているにもかかわらず誤答であったこと、また、Cを○とした児童は、特定の旋律が表れないにもかかわらず誤答であったことから、これらの児童は特定の旋律そのものをとらえていない
- ・ BやDを×とした児童は、特定の旋律を提示した楽器とは異なる楽器でその旋律を演奏していることから、特定の旋律そのものをとらえていないか、楽器の音色が違うために同じ旋律ととらえていない

などが考えられる。

このことから、例えば、旋律を聴き取って歌ったり、異なる楽器による同じ旋律の演奏を聴き比べたりすることにより、旋律に着目して音楽を聴き取ることができるよう指導を工夫することが大切である。また、これらの学習活動の際、必要に応じて楽譜を用いることも考えられる。

○ 楽曲を特徴付けている要素を手掛かりにすることによって、楽曲の構成を意識しながら曲想を感じ取り、味わいを深めていくことができるよう指導を工夫する。

(4)の通過率は、20.8%であり、通過した児童（解答類型1～4）は、楽曲の強弱の変化をとらえ、その変化によって生み出される曲想について記述することができていた。例えば、「広場に入ってきて、演技をどうどうとひろうした後、また広場をでて遠ざかっていくような」様子を記述した児童（解答類型1）は、広場に入ってくる感じ（A Bの部分）、演技を堂々と披露している感じ（Cの部分）、また広場を出て遠ざかっていくような感じ（Dの部分）を記述している。このように、解答類型1の児童は、楽曲がA B→C→Dと移り変わっていく中で、強弱の変化が生み出している曲想を記述して紹介文を完成させていた。また、「広場に入ってきたり、演技を見せたりしている」様子を記述した児童（解答類型4）は、広場に入ってくる感じ（A Bの部分）、演技を見せている感じ（Cの部分）を記述している。このように、解答類型4の児童は、楽曲がA B→Cと移り変わっていく中で、強弱の変化が生み出している曲想を記述して紹介文を完成させていた。

一方で、解答類型5～7の児童は、楽曲の一部分についての曲想を記述しているが、楽曲の強弱の変化によって生み出されているとは言えないものであった。例えば、「広場からさる」様子を記述した児童（解答類型5）は、楽曲のDの部分のみの曲想を、また、「こちらに向かってくる」様子を記述した児童（解答類型6）は、楽曲のA Bの部分のみの曲想を記述している。強弱の変化についても、Dの部分のみ、あるいは、A Bの部分のみなど、楽曲のある一部分のみの強弱の変化を意識していることはうかがわれるが、楽曲の強弱の変化をとらえているとは言えないものであった。

また、解答類型8の児童は、曲想を記述しているが、楽曲のどの部分かが特定できず、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えないものであった。例えば、「楽しい」様子を記述した児童は、楽しさを楽曲のどの部分から感じたのかがあいまいであった。このように曲想を漠然と記述した児童が最も多く、35.0%であった。

(4)は、問題文における紹介文において、曲名と作曲者、楽曲がA、B、C、Dの4つの部分からできていること、強弱の変化が特徴的であることを示した上で、楽曲の中で強弱がどのように変化していくのかをとらえ、その変化が生み出す曲想について、児童が言葉で述べることができるかどうかを問う問題である。

調査の結果、何らかの曲想を記述しているが、それが楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない記述をした児童（解答類型5～8）が53.1%であつ

た。このことから、音楽を特徴付けている要素や楽曲の構成を聴き取り、それらとかかわらせて、感じ取った曲想を言葉で述べることに課題が見られた。

指導に当たっては、児童が、楽曲の中のある部分にのみ着目するだけではなく、楽曲を特徴付けている要素を手掛けたりすることによって、楽曲の構成を意識しながら曲想を感じ取り、味わいを深めていくことができるよう工夫することが大切である。具体的には、楽曲を形づくっている要素のうち、特に児童が感じ取りやすい要素を取り上げてその要素に気付くようにしたり、楽曲の様々な部分における特定の要素の働きの変化に関心をもつことによって楽曲の構成に目を向けたりして、曲想の感じ取りを深めていくことなどが考えられる。そのためには、感じ取った曲想を友達同士で伝え合い、どのような要素の働きや楽曲の構成からそのように感じ取ったのかについて話し合うことなどが有効である。

そして、これらの学習の上に、要素同士の関連や楽曲の構成を意識して、音楽全体のよさや美しさを感じ取ることができるようになることが必要である。

(2) 問題 2

楽曲の構成と曲想とのかかわり合い

—音楽を聴き、要素の特徴について記述・選択をしたり、作品全体の流れについて、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述したりする—

① 出題の趣旨

多様な種類の音楽について、楽曲全体の構成や音楽を特徴付けている要素などに着目して聴き取ることは、曲想を感じ取ったり味わったりすることにつながっていく。

問題 2 では、拍節感や調性をもたない音楽を聴き、強弱の変化、楽器の音色と音の重なり、拍節感のないリズムを聴き取っているか、楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き取り、曲想を感じ取っているかを把握する。

これは、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年 2 内容 B (1) ア、イ、ウに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
2 (1)	強弱の変化を聴き取っているかを問う	楽曲の構成と強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したのかを記述する	B (1) イ
2 (2)	楽器の音色と音の重なり、拍節感のないリズムを聴き取っているかを問う	音楽を聴き、楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを選択する	B (1) イ・ウ
2 (3)	楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き取り、曲想を感じ取っているかを問う	作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する	B (1) ア・イ

② 調査問題の概要

問題 2 (1) は、楽曲の構成と強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したのかを記述する問題である。問題 2 (2) は、音楽を聴き、楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを選択する問題である。問題 2 (3) は、作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する問題である。

なお、本問の導入として、ア、イ、ウごとに音楽を聴き、それぞれがどのような

感じの音楽であるかについてメモをとることにより、それぞれの特徴を感じ取った上で問題に取り組むことができるようとした。

【調査問題 導入】

問題
2

ア、イ、ウの三つの音楽について、(1)から(3)の問題に答え
てください。

[メモ]

ア、イ、ウの音楽をきいてみましょう。どのような感じの
音楽なのが忘れないように、^{わす} ^{とくちよう} 特徴について下の にメモ
をとりましょう。音楽はそれぞれ二回ききます。

(メモ欄は省略)

【調査問題 問題2(1)】

作曲者はア、イ、ウの三つの音楽を組み合わせて、「ア→イ→ウ
→ア→イ」の五つの部分でできた作品をつくりました。

(1) この作品のイの音楽からウの音楽へうつるとき、どのように音の大きさが変わりましたか。その変化を、答えの
の中に書いてください。

イの音楽とウの音楽を一回ききます。音楽をききながら答
えてもかまいません。

答え

【調査問題 問題 2 (2)】

(2) 次の①と②の中で、ウの音楽の特徴についてあらわしているものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの□の中に書いてください。

ウの音楽を一回ききます。音楽をききながら答えてください。

① 打楽器の音が重なり合っている

② 四拍子でできている

答 え	①	②

【調査問題 問題 2 (3)】

(3) ア→イ→ウ→ア→イの作品全体の流れについて、^{とくちょう}特徴とその特徴から想像したことや感じ取ったことを、下の言葉の中から一つ以上使って、答えの□の中に書いてください。

書くときには、5ページの【メモ】に書いたことを参考にしてください。

音楽は一回ききます。音楽をききながら答えてもかまいません。

音色の変化

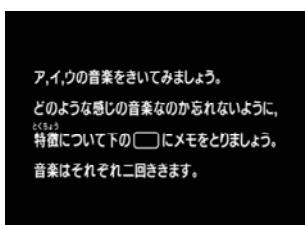
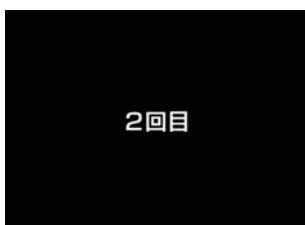
リズムの変化

音の高さの変化

音の長さの変化

答
え

【出題ビデオ 導入】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) これからは問題 2 です。ア, イ, ウの 3 つの音楽について, (1)から(3)の問題に答えてください。では, その音楽の作曲者にお話しを聴いてみましょう。</p>
	<p>(作曲者) 今日はみんなに紹介したい音楽があります。まず, 私がつくった 3 つの音楽を聴いてください。</p>
	<p>(ナレーション) ア, イ, ウの音楽を聴いてみましょう。どのような感じの音楽なのか忘れないように, 特徴について下の四角にメモをとりましょう。音楽はそれぞれ 2 回聴きます。それぞれの音楽の長さは 15 秒くらいです。 アの音楽, 1 回目です。(音楽を聴く) アの音楽, 2 回目です。(音楽を聴く)</p>
	<p>イの音楽, 1 回目です。(音楽を聴く) イの音楽, 2 回目です。(音楽を聴く)</p>
	<p>ウの音楽, 1 回目です。(音楽を聴く) ウの音楽, 2 回目です。(音楽を聴く)</p>

【出題ビデオ 問題 2 (1)】

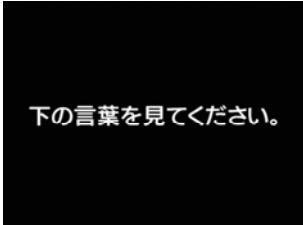
ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(作曲者) 私はア, イ, ウの 3 つの音楽を組み合わせて, ア→イ→ウ→ア→イの 5 つの部分でできた作品をつくりました。まず, その組合せに気を付けて, 全体を聴いてください。</p>

 ア→イ→ ウ →ア→イ	<p>(ア→イ→ウ→ア→イの5つの部分でできた作品を聴く) (演奏の進行表示)</p>
 問題 2(1)	<p>(ナレーション) 問題2(1)です。この作品のイの音楽からウの音楽へうつるとき、どのように音の大きさが変わりましたか。その変化を答えの四角の中に書いてください。イの音楽とウの音楽を1回聴きます。音楽を聴きながら答えてもかまいません。</p>
 イ → ウ	<p>(イ→ウの音楽を聴く) (演奏の進行表示) (ナレーション) 1分間待ちます。</p>

【出題ビデオ 問題2(2)】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(作曲者) 今度は、ウの音楽について注意して聴いてください。</p>
 ①と②を見てください。	<p>(ナレーション) 問題2(2)です。次の①と②の中で、ウの音楽の特徴について表しているものには○を、そうでないものには×を、それぞれ答えの四角の中に書いてください。ウの音楽を1回聴きます。音楽を聴きながら答えてください。 ①と②を見てください。（音楽を聴く）</p>

【出題ビデオ 問題2(3)】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
	(作曲者) では、いよいよ最後の問題です。今度は全体の特徴について聴いてください。
	(ナレーション) 問題2(3)です。ア→イ→ウ→ア→イの作品全体の流れについて、特徴とその特徴から想像したことや感じ取ったことを、下の言葉の中から一つ以上使って、答えの四角の中に書いてください。書くときには、5ページのメモに書いたことを参考にしてください。音楽は1回聴きます。音楽を聴きながら答えるてもかまいません。 下の言葉を見てください。
	音楽を聴きます。 (ア→イ→ウ→ア→イの5つの部分でできた作品を聞く) (演奏の進行表示)

③ 調査結果の概要

- 強弱の変化をとらえて記述した児童は約8割であった。

(1)は、イからウへ移る際の強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したかを記述する問題である。

強弱を表す言葉を適切に用いて、強弱の変化をとらえた記述をしたもの（解答類型1）を正答とし、強弱を表す言葉とは言えないが、強弱の変化をとらえた記述をしたもの（解答類型2）を準正答としており、それぞれ76.8%，6.2%であり、通過率は83.0%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 83.0%

類型番号	問題2(1) 解答類型	(◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	強弱を表す言葉を適切に用いて、強弱の変化をとらえた記述をしているもの	(◎：正答 ○：準正答)	76.8%
○2	強弱を表す言葉とは言えないが、強弱の変化をとらえた記述をしているものの	(◎：正答 ○：準正答)	6.2%
3	音に触れた記述をしているが、強弱の変化をとらえていないもの	(◎：正答 ○：準正答)	10.7%
9	上記以外の解答	(◎：正答 ○：準正答)	3.6%

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題2(1) 解答例	(◎: 正答 ○: 準正答)
◎ 1	○打楽器が入り、いろいろな音が入りすべて音が大きくなつた。 ○少し静かになつてからものすごく大きくなつた。	
○ 2	○一回音楽がとまつてから、おどろかすような変かでした。	
3	○音のテンポがいきなりはやくなつた。	
9	○ふつうに	

- 楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを正しく選択した児童は約9割であった。

(2)は、楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを選択する問題である。①の「打楽器の音が重なり合つていて」を○、②の「四拍子でできている」を×と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した児童が91.3%と最も多く、次に①を×、②を○と選択したもの（解答類型4）が4.2%であった。

また、内訳を見ると、①を○と選択した児童が95.0%，×と選択した児童が4.7%，②を×と選択した児童が91.8%，○と選択した児童7.6%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 91.3%

類型番号	問題2(2) 解答類型	(◎: 正答)	反応率
◎ 1	①を○、②を×と解答しているもの	91.3%	
2	①を○、②を○と解答しているもの	3.3%	
3	①を×、②を×と解答しているもの	0.4%	
4	①を×、②を○と解答しているもの	4.2%	
9	上記以外の解答のもの	0.5%	
0	無解答	0.2%	

- 楽曲全体の構成又はその一部について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述した児童は約6割であった。

(3)は、作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する問題である。楽曲全体の構成（アイ→ウ→アイ）について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述したもの（解答類型1，2）を正答とし、同様に楽曲の構成の一部について記述したもの（解答類型3，4）を準正答としており、それぞれ16.8%，39.3%であり、通過率は56.1%であった。

また、情景やストーリーを含めるなどして、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述した児童（解答類型1，3）は19.6%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 56.1%

類型番号	問題2(3) 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	楽曲全体の構成（アイ→ウ→アイ）について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述しているもの	7.0%
◎ 2	楽曲全体の構成（アイ→ウ→アイ）について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述しているもの	9.8%
○ 3	楽曲の構成の一部について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述しているもの	12.7%
○ 4	楽曲の構成の一部について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述しているもの	26.7%
5	楽曲の構成について、要素の変化を表す語句を用いて記述しているが、想像したことや感じ取ったことは記述していないもの	14.8%
6	要素の変化を表す語句を用いて記述しているが、楽曲の構成には触れていないもの	20.2%
9	上記以外の解答	5.6%
0	無解答	3.3%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、児童の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

- ① 要素の変化を表す語句を用いているか
- ② 楽曲の構成に触れた記述があるか
- ③ 想像したことや感じ取ったことに関する記述があるか
 - ◎：豊かに記述している（情景やストーリーを含めるなどして、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述しているもの）
 - ：触れている
- ④ 楽曲全体の構成に触れた記述があるか

【解答類型における①～④の組合せ】

—は下位判定により判定せず

観点 類型番号	解答の有無	① 要素の変化を表す語句	② 楽曲の構成に触れた記述	③ 想像したことや感じ取ったこと	④ 楽曲全体の構成に触れた記述
1	○	○	○	◎	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	◎	×
4	○	○	○	○	×
5	○	○	○	×	—
6	○	○	×	—	—
9	○	×	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題2(3) 解答例	(◎: 正答 ○: 準正答)
◎ 1	<p>○初めは水の中にいるような不思議な世界に入り込む感じだったけど、とつぜん大きな音色の変化をし、はげしく暴れるようで怖く感じた。でもそのあとすぐに静かになり、やはり不思議な気持ちになった。</p> <p>○初めは、暗い感じで何かが出てきそうなふいんきだった。ウに変わったらリズムの変化や音色の変化が出てきてはねるような感じに変わった。また、初めのように暗い感じになって終わっていった。</p> <p>樂曲全体の構成（アイ→ウ→アイ）について、要素の変化を表す語句を用いて、情景やストーリーを含めるなどして、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述している。</p>	(○: 準正答)
◎ 2	<p>○最初はしづかになっていてと中でリズムの変化や音の高さの変化がはげしくなっていて最後は最初と同じでしづかになった。</p> <p>○始めは、ゆったりしています。ウになるとリズムの変化や音の長さの変化があり、はげしくなります。アに戻るとまた、静けさが戻ってきます。ア、イは少し似た部分もありますが、ウは全くちがう音楽です。</p> <p>樂曲全体の構成（アイ→ウ→アイ）について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことに触れた記述をしている。</p>	(○: 準正答)
○ 3	<p>○南国の島について、海の中から始まる、次にジャングルが現れて、奥へつき進むと、ゆかいな合唱をしていたと感じた。これも音色の変化によって物語が作られるんだと思った。</p> <p>○暗い森に入って、と中、何かあって急いでにげているようにかんじました。ウの時にリズムの変化が大きかったのでウの時に何かあったと思います。音色も、急いでいるように激しい感じで、急いでにげてたのではないかと考えます。</p> <p>アイ→ウ（樂曲の構成の一部）について、要素の変化を表す語句を用いて、情景やストーリーを含めるなどして、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述している。</p>	(○: 準正答)
○ 4	<p>○音色の変化が激しく、静かで寒いような感じから音が大きくなったりして音の高さの変化もとても激しかった。</p> <p>○アとイはゆっくりで、音は低いのにイからウにかわるとき音色の変化や、リズムの変化が大きいので、しづかな感じからにぎやかな感じになるのを感じた。</p> <p>アイ→ウ（樂曲の構成の一部）について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことに触れた記述をしている。</p>	(○: 準正答)
5	<p>○イからウにかわるとき音色の変化やリズムの変化が大きかった</p> <p>○アイから、ウになる時に、リズムの変化がわかつた</p> <p>想像したことや感じ取ったことが記述されていない。</p>	(○: 準正答)
6	<p>○ふしぎな感じで、音色の変化があり、リズムの変化があつておもしろいかんじがした。</p> <p>○音の高さの変化が激しかった。</p> <p>樂曲の構成に触れていない。</p>	(○: 準正答)
9	<p>○よくできてるとおもいました</p> <p>○水に流されてジャングルにいった感じがした。</p> <p>要素の変化を表す語句を用いていない。</p>	(○: 準正答)

④ 分析・考察

○ 樂曲の構成と強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したかを記述することは相当数の児童ができていた。

(1)の通過率は83.0%であり、イからウへ移る際の強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したかを記述することは、相当数の児童ができていた。

しかし、音に触れた記述をしているが、強弱の変化をとらえていない児童（解答類型3）が10.7%いた。これらの児童は、「音のテンポがいきなり速くなった」

のように、速度の変化など、強弱の変化とは異なる内容を記述していた。

指導に当たっては、音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの要素を比較するなどして、それぞれの要素の特徴を言葉などで表すことのできるようにすることが大切である。

- 楽曲全体の流れの中で音楽を聴く楽しさを味わい、音楽を特徴付けている要素の動きをとらえ、イメージを豊かに膨らませて想像したり感じ取ったりして、それを言葉で表すことができるよう指導を工夫する。

(3)の通過率は56.1%であり、通過した児童（解答類型1～4）は、楽曲全体の構成又はその一部について、要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述することができていた。

通過した児童のうち、情景やストーリーを含めるなど、想像したことや感じ取ったことを豊かに記述することができた児童（解答類型1、3）は19.6%おり、例えば「初めは水の中にいるような不思議な世界」、「ジャングルが現れて、奥へつき進むと、ゆかいな合唱をしていた」（いずれも記述の一部）のように記述している。これらの児童は、音楽のよさや面白さなどについて、自分の生活経験と結び付けるなどしてイメージを豊かにもって想像したり感じ取ったりしていると考えられる。

一方で、通過しなかった児童のうち、解答類型6の児童は、例えば「ふしぎな感じで、音色の変化があり、リズムの変化があつておもしろいかんじがした」のように記述しており、楽曲の構成に触れた記述をすることができなかった。この解答類型6の児童が20.2%おり、通過しなかった児童の中で最も多かった。また、解答類型5の児童は、例えば「イからウにかわるとき音色の変化やリズムの変化が大きかった」のように記述しており、想像したことや感じ取ったことを記述することができなかった。この解答類型5の児童が14.8%おり、通過しなかった児童の中で、解答類型6の児童の次に多かった。

本問は、「作品全体の流れについて…想像したことや感じ取ったことを、下の言葉（音色の変化、リズムの変化、音の高さの変化、音の長さの変化）の中から一つ以上使って…書いてください」と出題しており、作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述することを求めている。しかし、解答類型5又は解答類型6の児童が35.0%いたことから、楽曲の構成をとらえたり、想像したことや感じ取ったことを言葉で表したりすることに課題が見られた。

鑑賞の学習では、音楽を聴いて感動する体験などを大切にしながら、楽曲全体にわたるよさや美しさを想像豊かに味わうことができるようすることが求められる。

しかしながら前述の課題が見られたことから、指導に当たっては、楽曲全体の流れの中で音楽を聴く楽しさを味わい、音楽を特徴付けている要素の動きをとらえ、イメージを豊かに膨らませて想像したり感じ取ったりして、それを言葉で表すことができるよう工夫する必要がある。

そのためには、児童が、楽曲全体の中で音楽を特徴付けている要素がどのように働いているのかをとらえ、楽曲のよさや面白さなどを感じ取ることができるようになることが大切である。具体的には、楽曲の中の対照的な部分を聴き比べるなどして、様々な要素に関心をもち、それらの中から特徴的な要素の働きに気付く、それを手掛かりにして楽曲全体の曲想を味わって聴くことや、音楽が醸し出している表情などと自分の生活経験とを結び付けるように促して、イメージを膨らませていくようにすることが考えられる。

さらに、音楽を聴いて心の中に描いたこと、すなわち、想像したことや感じ取ったことを言葉などで表す活動を取り入れることも大切である。具体的には、音楽を形づくっている要素について音楽活動を通して理解し、児童が、音楽にかかる言葉を用いながら想像したことや感じ取ったことを発言したり記述したりする場面を設けることが考えられる。また、友達同士で伝え合う活動を行い、友達の感じ方のよさや違いを認め合ったり、自分の感じ方を広げたり深めたりして、それを言葉で表すことができるようになることも考えられる。

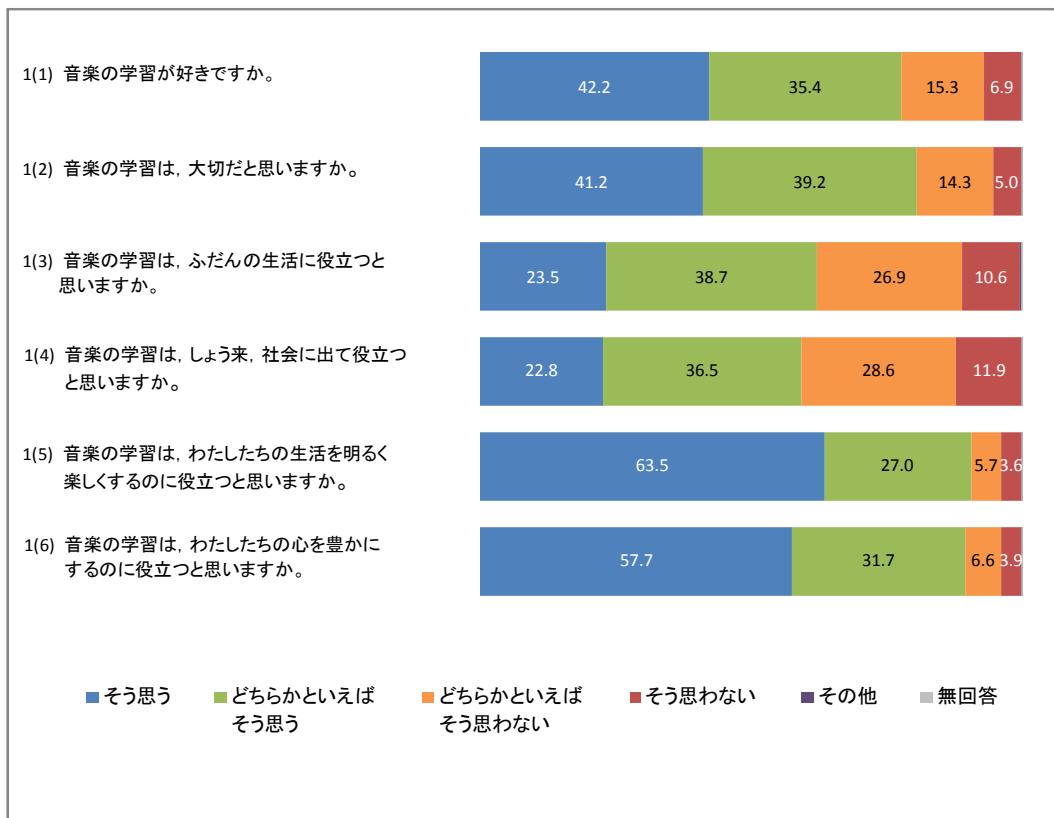
このように、想像したことや感じ取ったことなどを言葉で表す過程の中で、思考力や判断力などが高まり、結果として、楽曲全体のよさや美しさを味わって聴く力を育てていくこととなる。

4 児童質問紙調査における調査結果

(1) 児童質問紙調査結果の概要

① 音楽の学習に対する児童の意識（質問1）

○ 音楽の学習に対して、「好き」、「大切」という意識をもっている児童は約8割、音楽の学習は生活を明るく楽しくすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっている児童は約9割、音楽の学習がふだんの生活、社会に出て役立つという意識をもっている児童は約6割であった。



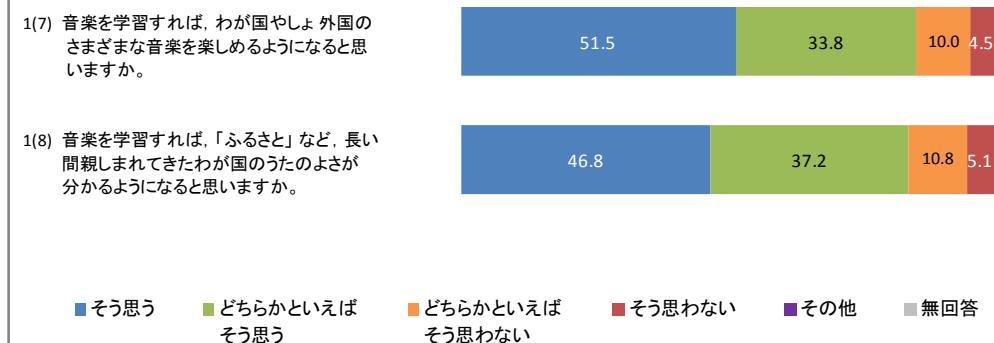
1 (1) 「音楽の学習が好きですか。」に対して肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をした児童は77.6%， 1 (2) 「音楽の学習は、大切だと思いますか。」に対して肯定的な回答をした児童は80.5%であり、約8割の児童が音楽の学習に対して肯定的な意識をもっていることが分かった。

また、1 (5) 「音楽の学習は、わたしたちの生活を明るく楽しくするのに役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした児童は90.6%， 1 (6) 「音楽の学習は、わたしたちの心を豊かにするのに役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした児童は89.4%であり、約9割の児童が音楽の学習は生活を明るく楽しくすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっていることが分かった。

一方、1 (3) 「音楽の学習は、ふだんの生活に役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした児童は62.1%， 1 (4) 「音楽の学習は、しょう来、社会に出て役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答した児童は59.3%と

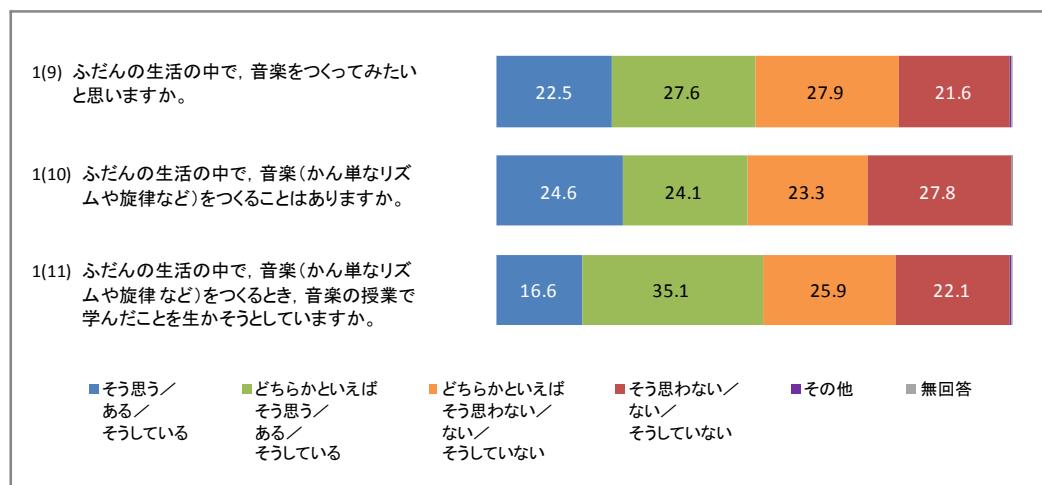
他の項目と比較すると低く、音楽の学習がふだんの生活、社会に出て役立つという意識をもっている児童は約6割であった。

- 音楽の学習によって、長い間親しまれてきた我が国の歌のよさが分かったり、我が国や諸外国の音楽を楽しめるようになったりするという意識をもっている児童は約8～9割であった。



我が国や諸外国の音楽に対する児童の意識を見ると、1(7)「音楽を学習すれば、わが国やしょ外国のさまざまな音楽を楽しめるようになると思ひますか。」に対して肯定的な回答をした児童は85.4%、1(8)「音楽を学習すれば、『ふるさと』など、長い間親しまれてきたわが国のうたのよさが分かるようになると思ひますか。」に対して肯定的な回答をした児童は84.0%であり、約8～9割の児童が、音楽の学習によって、長い間親しまれてきた我が国の歌のよさが分かったり、我が国や諸外国の音楽を楽しめるようになったりするという意識をもっていることが分かった。

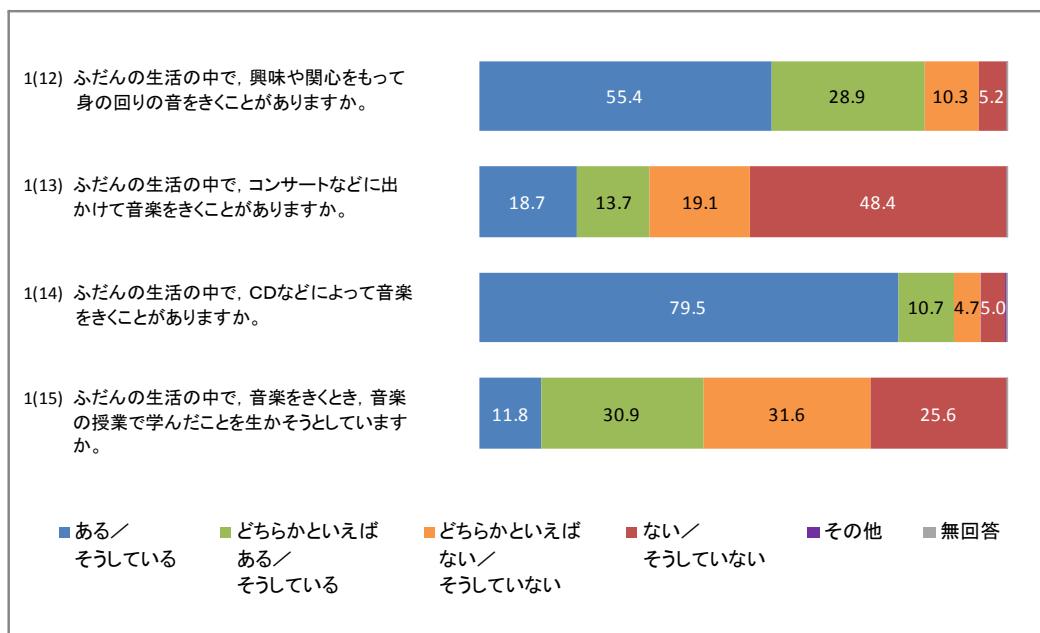
- ふだんの生活の中で、「音楽をつくってみたい」、「音楽をつくることがある」、「音楽をつくるとき、音楽の授業で学んだことを生かそう」という意識をもっている児童は約5割であった。



ふだんの生活の中で音楽をつくることについて見ると、1(9)「音楽をつくってみたいと思いますか。」に対して肯定的な回答をした児童は50.2%，1(10)「音楽（かん單なリズムや旋律など）をつくることはありますか。」に対して肯定的な回答（「ある」「どちらかといえばある」）をした児童は48.8%，1(11)「音楽（かん單なリズムや旋律など）をつくるとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」に対して肯定的な回答（「そうしている」「どちらかといえばそうしている」）をした児童は51.7%であった。

ふだんの生活の中で、「音楽をつくってみたい」、「音楽をつくることがある」、「音楽をつくるとき、音楽の授業で学んだことを生かそう」という意識をもっている児童は約5割であった。

- ふだんの生活において興味や関心をもって身の回りの音を聴いたり、CDなどによって音楽を聴いたりしている児童は約8～9割、「音楽を聴くとき、音楽の授業で学んだことを生かそう」という意識をもっている児童は約4割であった。



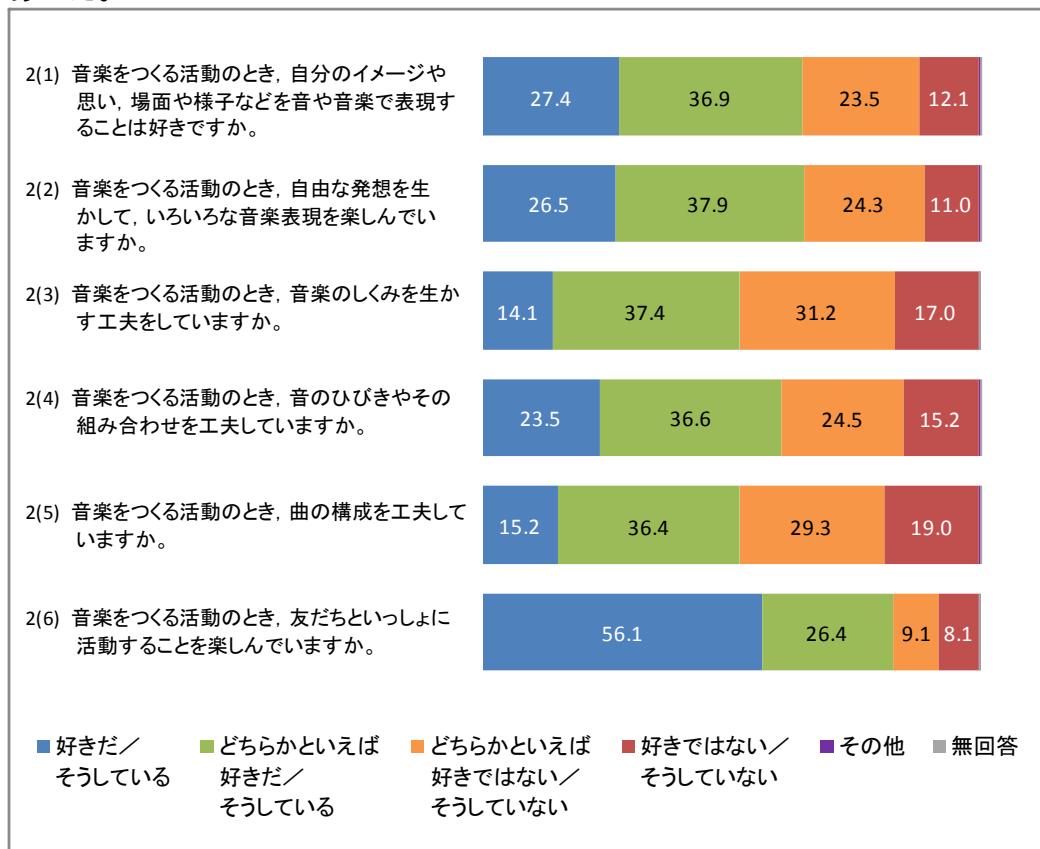
ふだんの生活において音や音楽を聞くことについて見ると、1(12)「興味や関心をもって身の回りの音をきくことがありますか。」に対して肯定的な回答をした児童は84.3%、1(14)「CDなどによって音楽を聞くことがありますか。」に対して肯定的な回答をした児童は90.1%であった。

一方、1(15)「音楽を聞くとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」に対して肯定的な回答をした児童は42.6%と他の項目と比較すると低く、音楽を聞くとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしている児童の割合は約4割であった。

また、1(13)「コンサートなどに出かけて音楽をきくことがありますか。」に対して肯定的な回答をした児童は32.4%であった。

② 学習内容に関する児童の意識（質問2）

○ 音楽をつくる活動において「好き」、「楽しんでいる」という児童は約6割、友達と一緒に活動することを楽しんでいる児童は約8割、「音楽の仕組み」、「音の響きやその組合せ」、「曲の構成」を工夫している児童は約5～6割であった。



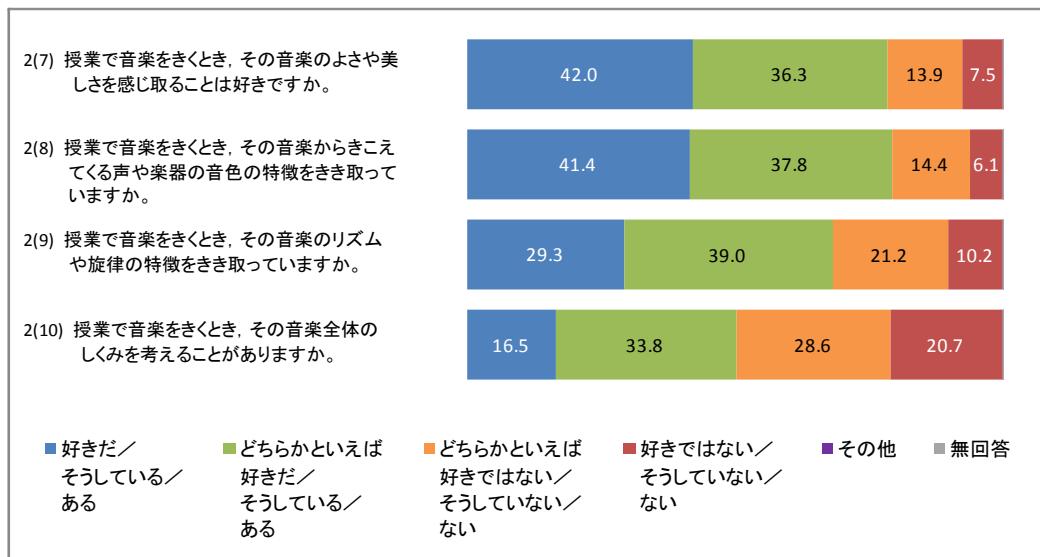
創作の学習に関する児童の意識を見ると、2(1)「自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現することは好きですか。」に対して肯定的な回答（「好きだ」「どちらかといえば好きだ」）をした児童は64.2%、2(2)「自由な発想を生かして、いろいろな音楽表現を楽しんでいますか。」に対して肯定的な回答（「そうしている」「どちらかといえばそうしている」）をした児童は64.4%であった。

また、2(6)「友だちといっしょに活動することを楽しんでいますか。」に対して肯定的な回答をした児童は82.5%であった。

次に、音楽をつくる活動を支える音楽を形づくっている要素とのかかわりを見ると、2(3)「音楽のしくみを生かす工夫をしていますか。」に対して肯定的な回答をした児童は51.5%、2(4)「音のひびきやその組み合わせを工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした児童は60.1%、2(5)「曲の構成を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした児童は51.5%であった。

このように、約5～6割の児童が音楽をつくる活動において、「音楽の仕組み」「音の響きやその組合せ」「曲の構成」を工夫していることが分かった。

- 音楽を聴く活動において、音楽のよさや美しさを感じ取ることが好きな児童は約8割、音楽を形づくっている要素について、「リズムや旋律の特徴」を聞き取っているとした児童は約7割、「音楽全体の仕組み」を考えることがあるとした児童は約5割であった。

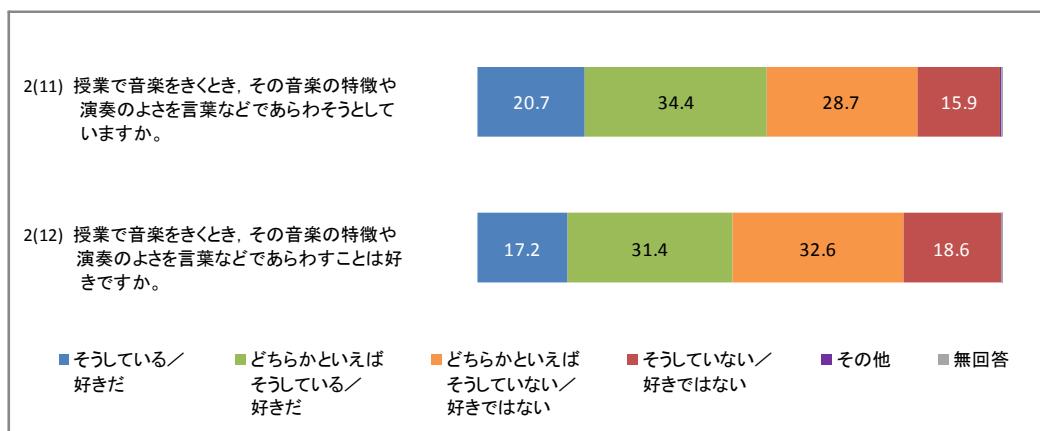


鑑賞の学習に関する児童の意識を見ると、2(7)「その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」に対して肯定的な回答をした児童は78.3%であった。

次に、鑑賞の活動を支える音楽を形づくっている要素とのかかわりを見ると、2(8)「その音楽からきこえてくる声や楽器の音色の特徴をきき取っていますか。」に対して肯定的な回答をした児童は79.2%，2(9)「その音楽のリズムや旋律の特徴をきき取っていますか。」に対して肯定的な回答をした児童は68.3%，2(10)「その音楽全体のしくみを考えることができますか。」に対して肯定的な回答（「ある」「どちらかといえばある」）をした児童は50.3%であった。

このことから、約8割の児童は音楽のよさや美しさを感じ取ることを好んでいるが、音楽を形づくっている要素については、「リズムや旋律の特徴」を聞き取っているとした児童は約7割、「音楽全体の仕組み」を考えることがあるとした児童は約5割であることが分かった。

- 音楽を聴く活動で、「音楽の特徴や演奏のよさを言葉などで表すこと」が好き、取り組んでいるとした児童は約5～6割であった。



鑑賞の学習に関する児童の意識を見ると、2(7)「その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」に対して肯定的な回答をした児童は78.3%であった。

一方、2(11)「その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などであらわそうとしていますか。」に対して肯定的な回答をした児童は55.1%，2(12)「その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などであらわすことは好きですか。」に対して肯定的な回答をした児童は48.5%であった。

(2) 児童質問紙調査と調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBとの関連

① 質問1と各調査との関連

ここでは、質問1（音楽の学習に対する児童の意識）の各質問項目のうち、音楽科の目標に示されている「音楽を愛好する心情」などに特にかかわる次の4つの質問項目を取り上げて、調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBとの関連を見ることとした。

- (1) 「音楽の学習が好きですか。」
- (2) 「音楽の学習は、大切だと思いますか。」
- (5) 「音楽の学習は、わたしたちの生活を明るく楽しくするのに役立つと思いますか。」
- (6) 「音楽の学習は、わたしたちの心を豊かにするのに役立つと思いますか。」

各質問項目に対して、肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした児童と、否定的な回答（「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」）をした児童の通過率をそれぞれ算出して分析した。

下の表は、4つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした児童の調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBの各問題における通過率、否定的な回答をした児童の通過率、及び肯定的な回答をした児童の通過率から否定的な回答をした児童の通過率を減算した値（以下、「通過率の差」という。）である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をついた。

【肯定的・否定的な回答をした児童の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率(%)	1(1)		1(2)		1(5)		1(6)						
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差				
1	1(1)	87.7	88.6	84.6	4.1	88.5	84.2	4.3	88.3	82.3	6.0	88.4	81.7	6.6
	1(2) 2小節	72.2	74.8	63.4	11.4	73.0	69.4	3.6	72.9	65.9	7.0	73.0	66.1	6.9
	1(2) 4小節	73.1	75.5	65.0	10.5	74.1	69.7	4.4	74.2	63.6	10.6	74.0	66.7	7.3
	1(1)(2)	67.1	70.1	56.7	13.4	68.2	62.9	5.2	68.3	56.1	12.2	68.1	59.1	9.0
	2(1)	31.7	33.4	26.2	7.2	32.7	28.2	4.4	32.1	29.2	2.9	31.7	32.2	-0.4
	2(2)	74.8	77.3	66.0	11.3	76.7	67.0	9.7	75.8	65.2	10.6	75.9	65.2	10.7
	2(3)	65.5	67.7	57.7	10.0	66.9	59.6	7.3	66.3	57.7	8.6	66.1	60.9	5.2
	2(4)(1)	93.7	93.9	93.2	0.8	94.2	92.1	2.1	94.2	90.2	4.0	94.0	92.2	1.8
	2(4)(2)	98.6	99.0	97.7	1.3	99.0	97.5	1.5	99.0	96.4	2.6	99.0	96.5	2.5
	2(4)	92.7	93.1	91.7	1.4	93.4	90.7	2.7	93.2	88.9	4.4	93.1	90.4	2.7
	2(5)	71.9	72.8	68.9	4.0	72.9	68.1	4.7	72.9	62.6	10.3	73.0	63.2	9.8
	3(1) ①②③	64.3	68.9	48.8	20.1	66.8	54.7	12.1	66.0	49.5	16.4	66.2	49.6	16.6
	3(1) ④⑤⑥	26.9	31.8	10.1	21.6	29.4	16.9	12.5	28.1	15.1	13.1	28.0	17.7	10.3
	3(2)(1)	59.4	62.1	50.4	11.7	60.5	55.8	4.6	60.4	50.5	10.0	60.4	52.2	8.2
	3(2)(2)	49.8	52.7	39.8	12.9	52.1	40.4	11.7	50.5	43.0	7.6	49.9	49.0	0.9

問題番号	通過率(%)	1(1)			1(2)			1(5)			1(6)			
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差										
II A	1(1)	90.1	91.2	85.9	5.3	90.8	86.6	4.2	90.9	82.0	8.9	91.0	82.2	8.8
	1(2)	84.8	86.4	78.6	7.7	86.5	76.2	10.4	85.6	76.4	9.2	86.3	72.0	14.3
	1(1)(2)	43.6	44.9	38.3	6.6	45.2	35.5	9.8	45.0	29.2	15.7	44.9	32.7	12.2
	2(1)	42.2	45.8	28.2	17.6	43.7	34.9	8.8	43.6	28.1	15.5	44.1	26.2	17.9
	2(2)	93.2	93.3	92.7	0.6	93.2	93.0	0.2	93.1	94.4	-1.3	93.5	90.7	2.8
	2(3)	89.5	91.1	83.5	7.6	90.5	84.9	5.6	90.2	82.0	8.2	90.8	78.5	12.3
	2(2)(3)	84.5	85.9	79.1	6.7	86.0	77.3	8.6	85.2	77.5	7.6	86.2	70.1	16.1
II B	1(1)	85.7	86.5	83.5	3.0	86.1	84.6	1.5	86.6	77.8	8.9	86.3	81.5	4.8
	1(2)	59.4	60.9	54.8	6.2	61.0	54.1	6.9	60.4	50.9	9.5	60.5	51.3	9.2
	1(3)	60.8	63.2	53.4	9.7	61.9	57.4	4.5	61.9	52.3	9.5	62.2	50.4	11.7
	1(4)	20.8	22.4	16.0	6.4	21.9	16.9	5.1	21.4	16.2	5.2	21.3	17.2	4.1
	2(1)	83.0	84.4	78.1	6.2	83.7	80.1	3.7	84.1	72.7	11.4	83.7	76.9	6.8
	2(2)	91.3	91.9	89.5	2.4	92.1	88.5	3.6	92.0	85.6	6.3	92.0	86.6	5.4
	2(3)	56.1	60.3	43.0	17.3	59.0	46.1	12.9	58.1	38.9	19.2	58.2	39.1	19.2

○ 各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、ほとんどの問題において通過率が高かった。

上の表のよう、音楽を愛好する心情などにかかわる各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、ほとんどの問題において通過率が高かった。このことから、音楽を愛好する心情などと、音楽活動に対する意欲を高め、表現と鑑賞の能力を養うこととは関連があると考えられる。

なお、調査Ⅱ Aの通過率の差に着目すると、1(6)「音楽の学習は、わたしたちの心を豊かにするのに役立つと思いますか。」において、問題1(1)×(2)(変化の仕組みを使ってつくったリズムとその工夫の記述とが整合しているか)は12.2ポイントであり、問題2(2)×(3)(つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とが整合しているか)は16.1ポイントであった。

このことから、音楽の学習が心を豊かにするのに役立つという意識の高い児童の方がそうではない児童より、変化の仕組みを使って工夫してリズムづくりをしたり、まとまりのよい旋律をつくった上でその理由を述べることができる傾向があった。

調査Ⅱ Bの通過率の差に着目すると、1(1), (2), (5), (6)において、問題2(3)(楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き取り、曲想を感じ取っているかを問う)が、それぞれ17.3, 12.9, 19.2, 19.2ポイントであった。

このことから、音楽を愛好する心情などにかかわる意識が高い児童の方がそうでない児童より、楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き取り、曲想を感じ取ることができる傾向があった。

② 質問2と調査Ⅱ Aとの関連

ここでは、質問2(学習内容に関する児童の意識)における各質問項目のうち、創作の学習に関する次の5つの質問項目を取り上げて、調査Ⅱ Aとの関連を見ることとした。

(1) 「音楽をつくる活動のとき、自分のイメージや思い、場面や様子などを音

や音楽で表現することは好きですか。」

- (2) 「音楽をつくる活動のとき、自由な発想を生かして、いろいろな音楽表現を楽しんでいますか。」
- (4) 「音楽をつくる活動のとき、音のひびきやその組み合わせを工夫していますか。」
- (5) 「音楽をつくる活動のとき、曲の構成を工夫していますか。」
- (6) 「音楽をつくる活動のとき、友だちといっしょに活動することを楽しんでいますか。」

各質問項目に対して、肯定的な回答（「好きだ」「どちらかといえば好きだ」等）をした児童と、否定的な回答（「どちらかといえば好きではない」「好きではない」等）をした児童の通過率をそれぞれ算出して分析した。

下の表は、5つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした児童の調査ⅡAの各問題における通過率、否定的な回答をした児童の通過率及び通過率の差である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をつけた。

【肯定的・否定的な回答をした児童の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率 ～%～	2(1)		2(2)		2(4)		2(5)						
		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)					
II A	1(1)	90.1	91.5	87.5	4.0	92.2	86.0	6.1	91.7	87.5	4.3	92.4	87.6	4.8
	1(2)	84.8	87.1	80.2	7.0	87.4	79.7	7.7	87.6	80.2	7.4	88.2	81.0	7.2
	1(1)(2)	43.6	47.3	36.4	10.9	47.4	36.0	11.4	47.6	37.1	10.5	48.7	38.1	10.5
	2(1)	42.2	46.9	33.2	13.6	46.8	33.4	13.4	47.1	34.2	12.9	47.5	36.5	11.0
	2(2)	93.2	92.5	94.5	-1.9	93.1	93.3	-0.2	93.8	92.2	1.6	93.7	92.6	1.1
	2(3)	89.5	92.4	84.0	8.4	92.2	84.3	7.9	91.4	86.4	5.0	93.2	85.6	7.6
	2(2)(3)	84.5	86.8	79.9	6.9	86.8	79.9	6.8	87.1	80.2	6.9	88.2	80.4	7.8
II A	問題番号		2(6)											
	通過率 ～%～	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差										
	1(1)	90.1	91.6	82.6	8.9									
	1(2)	84.8	86.2	77.2	9.0									
	1(1)(2)	43.6	44.3	39.5	4.8									
	2(1)	42.2	43.8	34.1	9.7									
	2(2)	93.2	93.3	92.2	1.1									
2(3)	89.5	91.6	79.0	12.5										
	2(2)(3)	84.5	86.5	74.3	12.2									

- 各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、調査ⅡAのほとんどの問題において通過率が高かった。

上の表のように、創作の学習に関する意識における各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、ほとんどの問題において通過率が高かった。

- 音楽をつくるときの学習に関する質問に肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、変化の仕組みを使ってつくったリズムとその工夫の記述が整合しているかにおいて通過率が高かった。

音楽をつくるときの学習に関する質問2(1), (2), (4), (5)について見る

と、調査ⅡA問題1(1)×(2)（変化の仕組みを使ってつくったリズムとその工夫の記述が整合しているか）の通過率の差は、それぞれ、10.9, 11.4, 10.5, 10.5ポイントであった。音楽をつくる活動において自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現することが好きであること、自由な発想を生かして、いろいろな音楽表現を楽しむこと、音の響きやその組合せを工夫すること、曲の構成を工夫することに対して肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、変化の仕組みを使って工夫してリズムづくりをすることができる傾向があった。

○ 音楽をつくるとき「友だちといっしょに活動することを楽しんでいますか」に対して肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とが整合しているかにおいて通過率が高かった。

質問2(6)「音楽をつくる活動のとき、友だちといっしょに活動することを楽しんでいますか。」に対する問題2(2)×(3)（つくった旋律とまとまりがよい旋律として選んだ理由とが整合しているかについて問う）の通過率の差は12.2ポイントであり、肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、まとまりがよい旋律をつくった上でその理由を述べることができる傾向があった。

③ 質問2と調査ⅡBとの関連

ここでは、質問2（学習内容に関する児童の意識）における各質問項目のうち、鑑賞の学習に関する次の6つの質問項目を取り上げて、調査ⅡBとの関連を見ることとした。

- (7) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」
- (8) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽からきこえてくる声や楽器の音色の特徴をきき取っていますか。」
- (9) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽のリズムや旋律の特徴をきき取っていますか。」
- (10) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽全体のしくみを考えることができますか。」
- (11) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などであらわそうとしていますか。」
- (12) 「授業で音楽を聞くとき、その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などであらわすことは好きですか。」

各質問項目に対して肯定的な回答（「好きだ」「どちらかといえれば好きだ」等）をした児童と、否定的な回答（「どちらかといえれば好きではない」「好きではない」等）をした児童の通過率をそれぞれ算出して分析した。

以下の表は、6つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした児童の

調査ⅡBの各問題における通過率、否定的な回答をした児童の通過率及び通過率の差である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をついた。

【肯定的・否定的な回答をした児童の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率(%)	2(7)			2(8)			2(9)			
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	
II B	1(1)	85.7	87.1	81.4	5.7	86.6	82.7	3.9	86.8	83.6	3.2
	1(2)	59.4	61.0	54.5	6.5	61.8	51.1	10.6	62.4	53.5	8.9
	1(3)	60.8	63.6	51.5	12.1	64.0	49.7	14.3	64.4	53.9	10.5
	1(4)	20.8	22.5	15.0	7.5	23.0	13.3	9.7	24.6	13.2	11.3
	2(1)	83.0	83.8	80.2	3.6	84.4	77.8	6.7	84.2	80.5	3.7
	2(2)	91.3	92.3	88.3	3.9	92.2	88.4	3.8	92.3	89.4	3.0
	2(3)	56.1	59.7	44.0	15.8	59.9	43.0	16.9	60.6	47.1	13.5

問題番号	通過率(%)	2(10)			2(11)			2(12)			
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	
II B	1(1)	85.7	86.9	84.8	2.1	85.7	86.0	-0.3	86.7	85.0	1.7
	1(2)	59.4	62.6	56.5	6.0	60.6	58.4	2.2	61.6	57.6	4.0
	1(3)	60.8	63.6	58.3	5.3	63.9	57.7	6.3	63.9	58.4	5.6
	1(4)	20.8	23.6	18.3	5.4	23.3	18.2	5.1	23.4	18.6	4.9
	2(1)	83.0	84.5	81.6	2.9	83.4	82.6	0.8	83.6	82.4	1.2
	2(2)	91.3	92.5	90.3	2.2	92.7	89.8	2.9	92.9	90.0	2.8
	2(3)	56.1	58.7	53.8	4.9	59.0	53.1	5.9	60.0	53.0	6.9

- 各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、調査ⅡBのほとんどの問題において通過率が高かった。

上の表のように、鑑賞の学習に関する意識における各質問項目で肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、ほとんどの問題において通過率が高かった。

- 「音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか」、「声や楽器の音色の特徴をきき取っていますか」、「リズムや旋律の特徴をきき取っていますか」に対して肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、旋律を聴き取っているかを問う問題、楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわせて聴き取り、曲想を感じ取っているかを問う問題において通過率が高かった。

質問2(7)「授業で音楽をきくとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」、2(8)「授業で音楽をきくとき、その音楽からきこえてくる声や楽器の音色の特徴をきき取っていますか。」、2(9)「授業で音楽をきくとき、その音楽のリズムや旋律の特徴をきき取っていますか。」について見ると、調査ⅡB問題1(3)（旋律を聴き取っているかを問う）の通過率の差は、それぞれ12.1、14.3、10.5ポイントであり、問題2(3)（楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き取り、曲想を

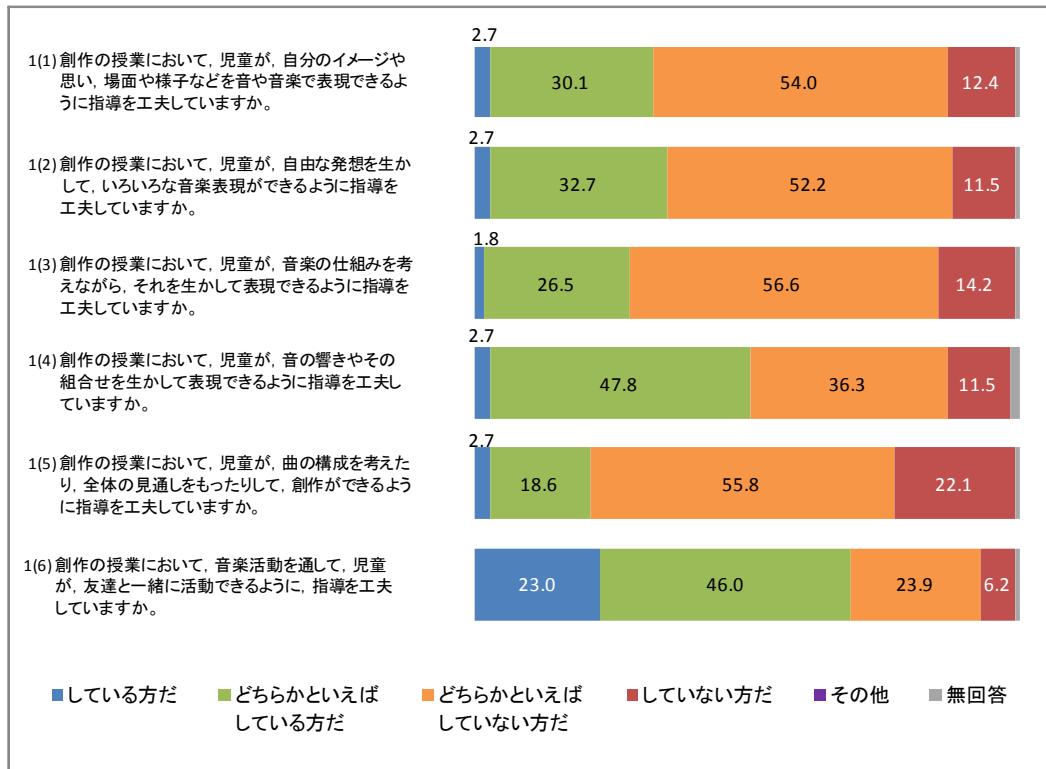
感じ取っているかを問う) の通過率の差は、それぞれ15.8, 16.9, 13.5ポイントであった。質問2(7)~(9)に対して肯定的な回答をした児童は、否定的な回答をした児童より、提示した旋律が表れる部分を聴き取ること、作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述することができる傾向があった。

5 学校質問紙調査における調査結果

学校質問紙調査結果の概要

① 指導の工夫（質問1）

○ 創作の授業において、児童が、友達と一緒に活動できるように、指導を工夫していると回答した教師は約7割、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現できるように指導を工夫していると回答した教師は約3割であった。



創作の授業における指導の工夫を見ると、1(6)「音楽活動を通して、児童が、友達と一緒に活動できるように、指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答（「している方だ」又は「どちらかといえばしている方だ」）をした教師は69.0%であった。

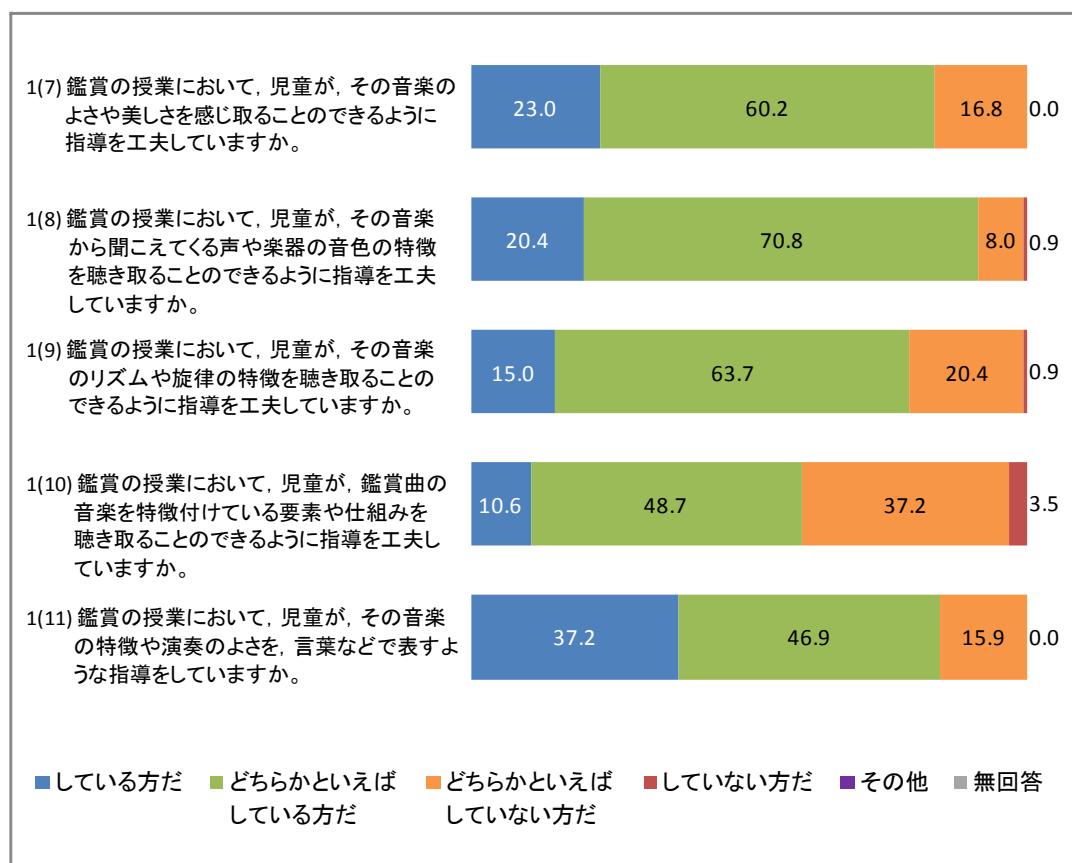
一方、1(1)「児童が、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現できるように指導を工夫していますか。」、1(2)「児童が、自由な発想を生かして、いろいろな音楽表現ができるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ32.7%，35.4%であった。

また、1(4)「児童が、音の響きやその組合せを生かして表現できるように指導を工夫していますか。」、1(5)「児童が、曲の構成を考えたり、全体の見通しをもったりして、創作ができるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ50.4%，21.2%であった。

創作の授業において、児童が、友達と一緒に活動できるように、指導を工

夫していると回答した教師は約7割、自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現できるように指導を工夫していると回答した教師は約3割であった。

- 鑑賞の活動において、声や楽器の音色の特徴を聴き取ること、音楽のよさや美しさを感じ取ることの指導の工夫、音楽の特徴や演奏のよさを言葉などで表すような工夫をしていると回答した教師は8～9割、音楽を特徴付けている要素や仕組みを聴き取ることのできるように指導の工夫をしていると回答した教師は約6割であった。



鑑賞の授業における指導の工夫を見ると、1(8)「児童が、その音楽から聞こえてくる声や楽器の音色の特徴を聴き取ることのできるように指導を工夫していますか。」、1(7)「児童が、その音楽のよさや美しさを感じ取ることのできるように指導を工夫していますか。」、1(11)「児童が、その音楽の特徴や演奏のよさを、言葉などで表すような指導をしていますか。」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ91.2%、83.2%、84.1%であった。

また、1(9)「児童が、その音楽のリズムや旋律の特徴を聴き取ることのできるように指導を工夫していますか。」、1(10)「児童が、鑑賞曲の音楽を特徴付けている要素や仕組みを聴き取ることのできるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ78.8%、59.3%であった。

鑑賞の活動において、声や楽器の音色の特徴を聴き取ること、音楽のよさや美しさを感じ取ることの指導の工夫、音楽の特徴や演奏のよさを言葉などで表すような指導をしていると回答した教師の割合は8～9割、音楽を特徴付けている要素や仕組みを聴き取ることのできるように指導の工夫をしていと回答した教師の割合は約6割であった。

② 児童の学習状況等（質問2）

- 自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむことは、児童にとって興味をもちやすいと回答した教師は約8割、曲の構成を工夫し、簡単な旋律やリズムをつくって表現することは、児童にとって興味をもちやすいと回答した教師は約7～9割であった。

教師から見て、「児童にとって興味をもちやすい」かを見ると、創作の学習については、2(1)「曲の構成を工夫し、簡単なリズムをつくって表現すること」、2(2)「曲の構成を工夫し、簡単な旋律をつくって表現すること」、2(3)「自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむこと」に対して肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした教師は、それぞれ86.8%，65.4%，83.1%であった。

※これらの値はすべて、各学習内容を指導していると回答した教師のうち、「児童にとって興味をもちやすい」に肯定的な回答をした教師の割合であり、以下の項目についても同様である。

- 楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くことは、児童にとって興味をもちやすいと回答した教師は約9割、主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くことは、児童にとって興味をもちやすいと回答した教師は約7割であった。

教師から見て、「児童にとって興味をもちやすい」かを見ると、鑑賞の学習については、2(4)「曲想を全体的に味わって聴くこと」、2(5)「主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くこと」、2(6)「楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと」、2(7)「楽器の音色及び人の声の重なりによる響きを味わって聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ82.9%，66.3%，87.5%，79.0%であった。

- 表現と鑑賞の活動を通して、音符、休符、記号などを学習することは、児童にとって興味をもちやすいと回答した教師は約5割であった。

音符、休符、記号などの学習について、教師から見て、「児童にとって興味をもちやすい」かを見ると、2(8)「音符、休符、記号などについて、表現及び鑑賞の活動を通して指導すること」に対して肯定的な回答をした教師は46.2%であった。

- 自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむことは、児童

にとってできやすいと回答した教師は約6割、曲の構成を工夫し、簡単な旋律をつくって表現することは、児童にとってできやすいと回答した教師は約2割であった。

教師から見て「児童にとってできやすい」かを見ると、創作の学習については、2(1)「曲の構成を工夫し、簡単なリズムをつくって表現すること」、2(2)「曲の構成を工夫し、簡単な旋律をつくって表現すること」、2(3)「自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむこと」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ69.8%、23.1%、64.6%であった。

- 楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くことは、児童にとってできやすいと回答した教師の割合は約9割、主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くことは、児童にとってできやすいと回答した教師は約6割であった。

教師から見て「児童にとってできやすい」かを見ると、鑑賞の学習について、2(4)「曲想を全体的に味わって聴くこと」、2(5)「主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くこと」、2(6)「楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと」、2(7)「楽器の音色及び人の声の重なりによる響きを味わって聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ86.5%、61.3%、89.4%，74.3%であった。

- 表現と鑑賞の活動を通して、音符、休符、記号などを学習することは、児童にとってできやすいと回答した教師は約5割であった。

音符、休符、記号などの学習について、教師から見て「児童にとってできやすい」かを見ると、2(8)「音符、休符、記号などについて、表現及び鑑賞の活動を通して指導すること」に対して肯定的な回答をした教師は50.0%であった。

調査結果

Ⅲ 中学校における調査結果

III 中学校における調査結果

1 調査 I における調査結果

(1) 問題 1・2

楽器の音色と奏法などとの関連

— 楽器の音を聴き、奏法、楽器名、楽器の形（絵）を選択する —

① 出題の趣旨

音楽表現は音を媒体としており、音色を知覚することは音楽活動の根幹となる。

問題 1 では、弦楽器、打楽器及び管楽器のそれぞれの音を聴き、楽器の音色と奏法との関連を理解しているかを把握する。

問題 2 では、三味線、^{そう}箏のそれぞれの音を聴き、和楽器の音色と楽器名及び楽器の形との関連を理解しているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 A 表現(1)キ、B 鑑賞(1)アのうち、特に「音色」に関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1 ア	楽器の音色と奏法との関連を理解しているかを問う	楽器の音を聴き、奏法を選択する	A (1) キ B (1) ア
1 イ			
1 ウ			
2 ア	和楽器の音色と楽器名や形との関連を理解しているかを問う	A 和楽器の音を聴き、楽器名を選択する B 和楽器の音を聴き、楽器の形（絵）を選択する	A (1) キ B (1) ア
2 イ			

② 調査問題の概要

問題 1 は、弦楽器（ヴィオラ）、打楽器（マリンバ）、管楽器（トランペット）の音を聴いて、それぞれの楽器の奏法を選択する問題である。3 つの楽器が同じ旋律（下の楽譜）で演奏した音を聴き、演奏している楽器をイメージし、どのような奏法で演奏しているかを選択することとしている。



問題 2 は、音を聴いて、選択肢から楽器の名称と楽器の形（絵）を選択する問題

である。楽器については、和楽器の中でも生徒が触れる機会が多いと考えられる三味線や箏を用いた。

【調査問題 問題1】

問題

1

これからアからウの楽器の音を聴きます。それぞれの楽器の演奏の仕方を、下の1から4の中から一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。同じ番号を選んでもかまいません。音を聴きながら答えてください。

1 木を打っている

2 弦をこすっている

3 弦をはじいている

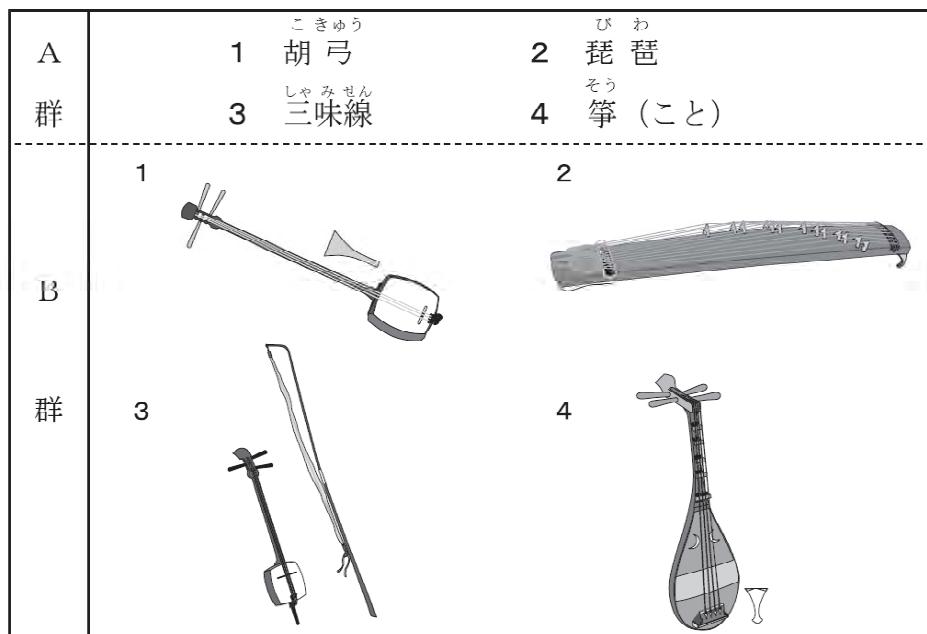
4 管に息を吹き込んでいる

解 答 欄	アの音	イの音	ウの音

【調査問題 問題 2】

問題
2

これから聴くアとイの音楽の中で使われている楽器の名前を、A群の1から4の中から、その楽器の絵を、B群の1から4の中から、それぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。



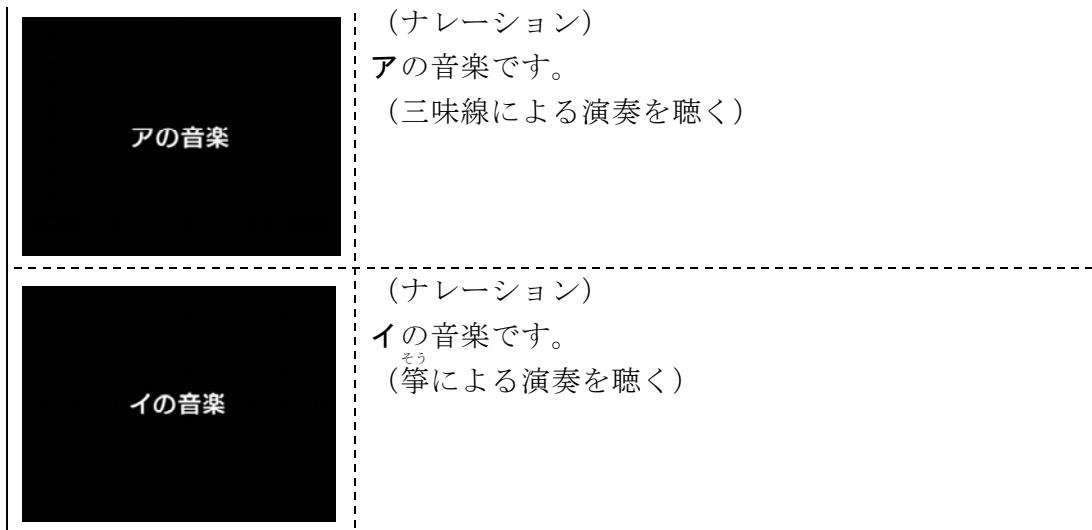
解 答 欄		アの音楽	イの音楽
	A 群		
B 群			

【出題ビデオ 問題 1】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) ではまず、楽器の音色や奏法について答える問題です。 1ページ目を開いてください。問題1、これからアからウの楽器の音を聴きます。それぞれの楽器の演奏の仕方を、下の1から4の中から一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。同じ番号を選んでもかまいません。音を聴きながら答えてください。</p>
	<p>(ナレーション) アの音です。 (ヴィオラによる演奏を聴く)</p>
	<p>(ナレーション) イの音です。 (マリンバによる演奏を聴く)</p>
	<p>(ナレーション) ウの音です。 (トランペットによる演奏を聴く)</p>

【出題ビデオ 問題 2】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) 2ページ目を開いてください。問題2、これから聞くアとイの音楽の中で使われている楽器の名前を、A群の1から4の中から、その楽器の絵を、B群の1から4の中から、それぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。</p>



③ 調査結果の概要

- 楽器の音を聴き、その楽器の奏法を正しく選択した生徒は9割以上であった。

問題1のヴィオラの音を聴くアの音楽では、2の「弦をこすっている」を正答としている。正答した生徒が93.3%と最も多く、次に、管楽器の奏法である4の「管に息を吹き込んでいる」が5.0%であった。

マリンバの音を聴くイの音楽では、1の「木を打っている」を正答としている。正答した生徒が98.3%であった。

トランペットの音を聴くウの音楽では、4の「管に息を吹き込んでいる」を正答としている。正答した生徒が99.3%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 93.3%

類型番号	問題1ア 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（木を打っている）		0.1%
◎ 2	2と解答しているもの（弦をこすっている）		93.3%
3	3と解答しているもの（弦をはじいている）		1.6%
4	4と解答しているもの（管に息を吹き込んでいる）		5.0%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.0%

通過率 98.3%

類型番号	問題1イ 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	1と解答しているもの（木を打っている）		98.3%
2	2と解答しているもの（弦をこすっている）		0.1%
3	3と解答しているもの（弦をはじいている）		1.5%
4	4と解答しているもの（管に息を吹き込んでいる）		0.1%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.0%

通過率 99.3%

類型番号	問題1ウ 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（木を打っている）		0.1%
2	2と解答しているもの（弦をこすっている）		0.3%
3	3と解答しているもの（弦をはじいている）		0.2%
◎4	4と解答しているもの（管に息を吹き込んでいる）		99.3%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.0%

- 楽器の音を聴き、楽器名及び楽器の形（絵）の両方を正しく選択した生徒は6割以上であった。

問題2の三味線の音を聴くアの音楽では、A群から3の三味線を選択し、かつB群から1の形（絵）を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が84.9%と最も多かった。

なお、A群で選択した名称とB群で選択した形（絵）が同じであるもの（三味線を除く）（解答類型5）が6.8%であった。楽器名と楽器の形（絵）が一致した生徒（解答類型1, 5）は91.8%であった。

さう 箏の音を聴くイの音楽では、A群から4の箏を選択し、かつB群から2の形（絵）を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が68.3%と最も多かった。

なお、A群で選択した名称とB群で選択した形（絵）が同じであるもの（箏を除く）（解答類型5）が19.6%であり、楽器名と楽器の形（絵）が一致した生徒（解答類型1, 5）は88.0%であった。

さう 三味線の音を聴くアの音楽より箏の音を聴くイの音楽の通過率が低かった。

なお、箏の音を聴くイの音楽では、琵琶を選択した生徒が、A群では20.6%，B群では19.4%と箏に続いて多かった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 84.9%

類型番号	問題2ア 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎1	A群を3かつB群を1と解答しているもの		84.9%
2	A群を3かつB群を1以外と解答しているもの		5.4%
3	A群を3以外かつB群を1と解答しているもの		0.8%
4	A群を3以外かつB群を1以外と解答しているもの (解答類型5及びA群又はB群のいずれかが無解答であるものを除く)		1.5%
5	A群、B群の組合せが(1, 3), (2, 4), (4, 2)と解答しているもの		6.8%
9	上記以外の解答		0.3%
0	無解答		0.2%

通過率 68.3%

類型番号	問題2イ 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	A群を4かつB群を2と解答しているもの	68.3%	
2	A群を4かつB群を2以外と解答しているもの	1.8%	
3	A群を4以外かつB群を2と解答しているもの	7.0%	
4	A群を4以外かつB群を2以外と解答しているもの (解答類型5及びA群又はB群のいずれかが無解答であるものを除く)	2.7%	
5	A群, B群の組合せが(1, 3), (2, 4), (3, 1)と解答しているもの	19.6%	
9	上記以外の解答	0.4%	
0	無解答	0.2%	

④ 分析・考察

○ 楽器の音色と奏法とを関連させることについては、相当数の生徒ができていた。

問題1において、通過率は9割以上であり、楽器の音色と奏法とを関連させることについては、相当数の生徒ができていた。

しかし、弦楽器であるヴィオラの音を聴くアの音楽について、管楽器の奏法を選択した生徒（解答類型4）は5.0%であった。弦楽器と管楽器はいずれも弓や息によって音を持続させて演奏しているため、音の質感の違いを聞き取ることができなかつたことが考えられる。

指導に当たっては、音楽の素材となる音を意識して聴き、個々の音がもつあたたかさや柔らかさなどといった音色に着目させるとともに、楽器の材質、形状、発音原理、奏法などの要因が重なり合って楽器固有の音色が生み出されていることについて理解できるようにすることが大切である。

○ 和楽器等の様々な楽器の音色の特徴を感じ取ることができるよう指導を工夫する。

問題2において、楽器名と形（絵）が一致した生徒は、正答・誤答を含めて、アの音楽では91.8%，イの音楽では88.0%であった。そのうち、正答である楽器の音色と楽器名及び形（絵）が一致した生徒は、アの音楽では84.9%，イの音楽では68.3%であった。このことから、楽器名と形（絵）は理解しているが、実際に楽器の音を聴き、楽器の音色と楽器名及び形（絵）を結び付けることができていない生徒がいると考えられる。特に三味線の音を聴くアの音楽より箏の音を聴くイの音楽の方が通過率が低く、箏固有の音色を聞き取ることができなかつたものと考えられる。

指導に当たっては、和楽器等の様々な楽器の名称や形状などに关心をもちながら、各楽器に固有の音色について、それぞれの特徴を感じ取ることができるようになることが大切である。

(2) 問題3・4・5

旋律やリズムの特徴

—音楽を聴いて、長調・短調、拍子、リズムが示された楽譜を選択する—

① 出題の趣旨

音楽活動の基礎的な能力を育成する上で、旋律が基づくところの音階、リズムなどを学習することは大切である。

問題3では、長調と短調の旋律、問題4では、拍子、問題5では、旋律を構成するリズムについて、音楽を聴き、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、特徴をとらえているか、楽譜とかかわらせているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)キ、B鑑賞(1)アのうち、特に、「旋律」、「リズム」に関する内容である。

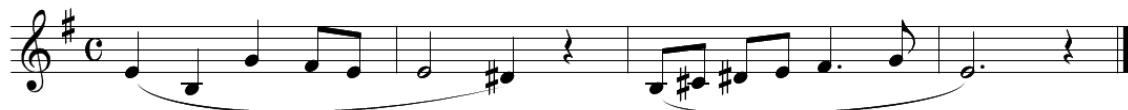
問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
3	長調と短調の旋律を知覚しているかを問う	音楽を聴き、調性（長調・短調）を選択する	A(1)キ B(1)ア
4	拍子を知覚しているかを問う	音楽を聴き、拍子を選択する	A(1)キ B(1)ア
5	リズムを知覚し、楽譜とかかわらせているかを問う	楽譜を見ながら音楽を聴き、リズムが示された楽譜を選択する	A(1)キ B(1)ア

② 調査問題の概要

問題3のアでは短音階の旋律を聴き、イでは長音階の旋律を聴き、それぞれ短調、長調から正しいものを選択する問題である。

なお、2つの旋律は、本調査のために新たに作曲したものである。

〈アの旋律〉



〈イの旋律〉



出題に当たっては、楽譜を示さず、アとイの2つの旋律について、ピアノの演奏を2回ずつ（ア→イ→ア→イ）聴いて選択させた。

問題4は、楽譜を示さず、金管合奏で演奏する四拍子の音楽（「トランペット・

チューン」(H・パーセル)) を聴き、三拍子、四拍子、五拍子、六拍子から正しいものを選択する問題である。

出題に当たっては、生徒が触れる機会が多いと考えられる四拍子を取り上げた。また、二拍子については四拍子と特徴が似ているため、選択肢には含めないこととした。

問題5は、提示された4小節間の楽譜を見ながら、アルトリコーダーで演奏される音楽を聴き、3小節目のリズムについて、4つの楽譜の中から選択する問題である。

出題に当たっては、音楽を聴きながら拍の流れをとらえ、リズムを知覚し、そのリズムを表すとしたらどのような楽譜になるかという一連の過程を通して生徒が解答できるようにした。

【調査問題 問題3】

問題
3

これから聴くアとイの旋律について、長調の音階でできているものには1を、短調の音階でできているものには2を、それぞれ解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回聴きます。

1 長調の音階

2 短調の音階

解 答 欄	アの旋律	イの旋律

【調査問題 問題 4】

問題
4

これから聴く音楽は何拍子ですか。正しいものを下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。

- 1 三拍子 2 四拍子 3 五拍子 4 六拍子

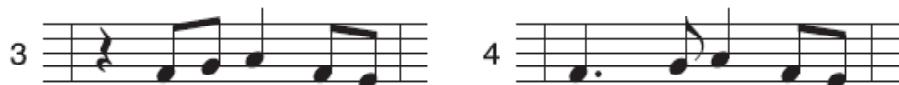
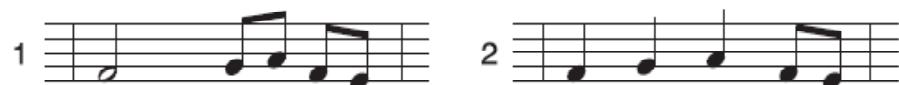
解 答 欄	
-------------	--

【調査問題 問題 5】

問題

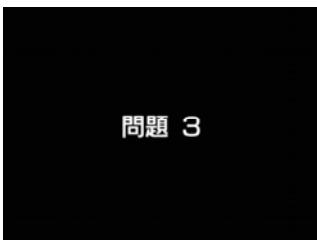
5

次の楽譜の三小節目のリズムを正しく示しているものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回聴きます。



解
答
欄

【出題ビデオ 問題 3】

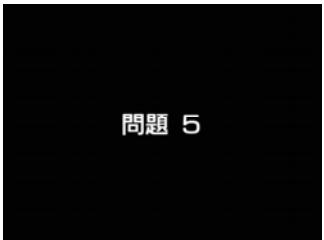
ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(ナレーション) 問題3、これから聴くアとイの旋律について、長調の音階でできているものには1を、短調の音階でできているものには2を、それぞれ解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。
	(ナレーション) アの旋律です。（アの旋律を聴く）

	(ナレーション) イの旋律です。(イの旋律を聴く)
	(ナレーション) もう一度聴きます。 アの旋律です。(アの旋律を聴く)
	(ナレーション) イの旋律です。(イの旋律を聴く)

【出題ビデオ 問題 4】

ビデオの内容	ナレーション(抜粋)
	(ナレーション) 4ページ目を開いてください。 問題4、これから聴く音楽は、何拍子ですか。正しいものを下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。
	(ナレーション) (音楽を聴く)

【出題ビデオ 問題5】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
問題5 	(ナレーション) 5ページ目を開いてください。 問題5、次の楽譜の3小節目のリズムを正しく示しているものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。
	(ナレーション) 1回目です。（音楽を聴く） 2回目です。（音楽を聴く）

③ 調査結果の概要

- 音楽を聴いて、長調、短調を両方正しく選択した生徒は約4割であった。

問題3では、アの旋律では2の「短調」、イの旋律では1の「長調」を選択したもの（解答類型4）を正答としており、39.2%であった。アの旋律を長調、イの旋律を短調と誤って選択したもの（解答類型1）が最も多く、60.1%であった。

なお、アの旋律を正しく選択した生徒は39.6%、イの旋律を正しく選択した生徒は39.4%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 39.2%

類型番号	問題3 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	アを1かつイを2と解答しているもの	60.1%	
2	アを1かつイを1と解答しているもの	0.2%	
3	アを2かつイを2と解答しているもの	0.4%	
◎4	アを2かつイを1と解答しているもの	39.2%	
9	上記以外の解答	0.1%	
0	無解答	0.1%	

- 音楽を聴いて、拍子を正しく選択した生徒は約7割であった。

問題4では、2の「四拍子」を正答としている。正答した生徒が74.0%と最も多く、次に、1の「三拍子」が12.2%、3の「五拍子」が10.6%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 74.0%

類型番号	問題4 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（三拍子）	12.2%	
◎2	2と解答しているもの（四拍子）	74.0%	
3	3と解答しているもの（五拍子）	10.6%	

4	4と解答しているもの（六拍子）	2.9%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.2%

- 楽譜を見ながら音楽を聴き、正しいリズムが示された楽譜を選択した生徒は約5割であった。

問題5では、4の付点四分音符を用いた楽譜を正答としている。正答した生徒が46.3%と最も多く、次に、1の二分音符を用いた楽譜が27.6%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 46.3%

類型番号	問題5 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの		27.6%
2	2と解答しているもの		16.5%
3	3と解答しているもの		9.3%
◎ 4	4と解答しているもの		46.3%
9	上記以外の解答		0.1%
0	無解答		0.2%

④ 分析・考察

- 楽曲とのかかわりの中で調性への関心をもち、長調・短調の違いを理解できるよう指導を工夫する。

問題3では、短調、長調を両方正しく選択した生徒は39.2%であり、正しく選択できなかった生徒は60.8%であった。正しく選択できなかった理由として、

- ・ 長調と短調の意味やそれぞれの音階の特徴を十分に理解していない
- ・ 長調と短調の意味やそれぞれの音階の特徴は理解しているが、音楽と結び付けて調性を聴き取ることができない

などが考えられる。

音階の特徴を理解し、音楽と結び付けて調性を聴き取ることは、曲想を感じ取り、より深く音楽を味わったり、表現を工夫したりすることにつながっていく。したがって、長調と短調の意味やそれぞれの音階の特徴を理解し、実際の音楽とのかかわりの中で長調・短調を判断できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、

- ・ 調性を意識して音楽を聴き、調性への関心をもつ
 - ・ 楽譜を用いて「長音階」「短音階」を比較し、それぞれその構成音などを知り、違いを確かめながら音楽を聴く
- などの工夫が大切である。

- 音楽を聴きながら、拍の流れを一定のまとまりとしてとらえることができるよう指導を工夫する。

問題4では、正答である四拍子を選択した生徒は74.0%であり、正しく選択できなかった生徒が26.0%であった。正しく選択できなかった理由として、

- ・ 拍子の概念を理解していない
 - ・ 拍子の概念は理解しているが、実際の音楽の拍子を知覚できない
- などが考えられる。

指導に当たっては、様々な拍子を楽譜上で確認し理解するだけではなく、表現や鑑賞の活動を通して、様々な拍子によって生み出される雰囲気などを感じ取る体験を積み重ねていくなどして、拍の流れを一定のまとまりとしてとらえることができるよう工夫することが大切である。

○ 音楽を聴きながら、拍とリズムとのかかわりをとらえ、楽譜に親しむことができるよう指導を工夫する。

問題5の通過率は46.3%であり、正しく選択できなかった生徒は53.7%であった。その理由として、実際に音楽を聴いてリズムを知覚し、楽譜とかかわらせる過程の中で、

- ・ 聴いている音楽の拍の流れをとらえ、リズムを知覚することができない
- ・ リズムを表す音符の意味を正しく理解していない
- ・ 知覚したリズムと楽譜とを結び付けることができない

などが考えられる。

指導に当たっては、

- ・ 拍の流れをとらえる活動を大切にして、拍の流れの中でリズムを知覚する
- ・ リズムを表す音符の基本的な意味を理解する
- ・ 音楽を楽譜に表したり、楽譜に表されたことを読み取ったりすることを通して楽譜の役割を把握する

などができるよう工夫する必要がある。

表現や鑑賞の各活動を行うに当たっては、このような指導を通して、楽譜に親しみがもてるようにすることが大切である。

(3) 問題6

階名・移動ド唱法

—楽譜を見て階名を書いたり、音楽を聴いて階名を選択したりする—

① 出題の趣旨

階名を理解することは、相対的な音程感覚を高め、音と音とがどのように関係し合って音楽が形づくられているかをとらえる力の育成につながる。そのため、音楽科の歌唱指導における階名唱については、移動ド唱法を用いることを原則としている。

問題6では、移動ド唱法に関して、(1)では、楽譜における階名の表し方について理解しているかを、(2)では、聴いた音同士のかかわりから音程を相対的にとらえ、階名で表すことができるかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)キ、B鑑賞(1)アのうち、特に「旋律」に関する内容のほか、指導計画の作成と内容の取扱い2(2)に関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
6(1)	階名を理解しているかを問う	楽譜を見て、階名を書く	A(1)キ B(1)ア
6(2)		スキヤットによる旋律を聴き、階名を選択する	

② 調査問題の概要

問題6(1)は、楽譜を提示し、その楽譜のドの音（主音）を示した上で、2つの音の階名を書く問題、(2)は、スキヤットによる旋律を聴き、階名を選択する問題である。問題6(2)は、相対的な音程を聴き取り、主音や開始音などをとらえて選択するように、選択肢は旋律の音高の変化の仕方が類似しているものを用いた。

また、問題6の導入として、授業場面の一部を出題ビデオで視聴させて、事前に次の事項を説明した。

- ・ 階名で歌うことを「移動ド唱法」ということ
 - ・ 最後の「ド」の音がこの旋律の主音であること
 - ・ 問題6(1)の楽譜の★印の音は、主音「ド」を示していること
- (2)で出題したスキヤットの楽譜は以下のとおりである。



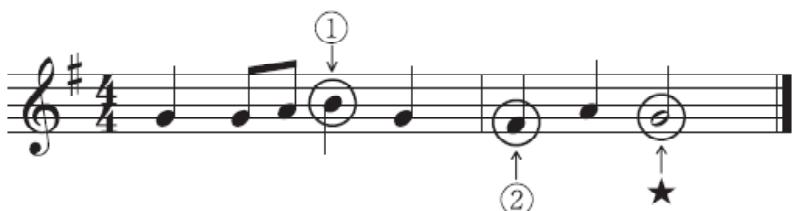
【調査問題 問題6】

問題

6

階名について、(1)と(2)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 下の楽譜の★の音は、主音（ド）を示しています。この楽譜の①と②の音について、移動ド唱法ではどのように読みますか。ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シの中から一つずつ選び、階名を解答欄に書きなさい。



解 答 欄	①の音	②の音

- (2) これから聴く旋律の階名として、正しいものを下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回聴きます。

1 ド レ ミ ド シ ド ラ

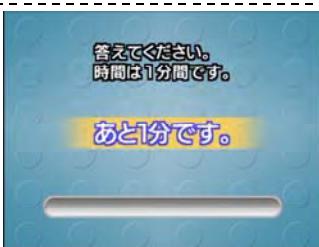
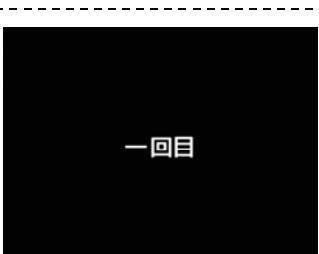
3 レ ミ フア ド シ ミ ラ

2 ミ フア ソ ミ レ ミ ド

4 フア ソ ラ ソ ミ ソ ド

解 答 欄	

【出題ビデオ 問題6】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) 6ページ目を開いてください。 問題に入る前に、ある中学校の授業を見てみましょう。 (授業の様子を視聴する 「ふるさと」 の階名唱)</p>
	<p>(ナレーション) 歌いやすい高さのいろいろな調で階名唱をしています。このように階名唱をすることを「移動ド唱法」と言います。最後の「ド」の音がこの旋律の主音です。</p>
	<p>(ナレーション) 問題6(1)、下の楽譜の星印の音は、主音「ド」を示しています。この楽譜の①と②の音について、移動ド唱法ではどのように読みますか。ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シの中から一つずつ選び、階名を解答欄に書きなさい。</p>
	<p>(ナレーション) (2)、これから聴く旋律の階名として、正しいものを下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。</p>
	<p>(ナレーション) 1回目です。(音楽を聴く) 2回目です。(音楽を聴く)</p>

③ 調査結果の概要

- 階名を正しく書いた生徒は約6割、音楽を聴いて正しい階名を選択した生徒は約5割であった。

(1)の移動ド唱法による2つの音の階名を書く問題では、①をミかつ②をシと書いたもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が58.9%と最も多く、次に、ハ調長音階の階名である①をシかつ②をファと書いたもの（解答類型5）が12.0%であった。また、2つの音の関係が4度の音程になっているもの（（ミ、シ）（シ、ファ）除く）（解答類型6）は4.6%であった。

(2)のスキヤットによる旋律を聴き、階名を選択する問題では、2の「ミファソミレミド」を正答としている。正答した生徒が51.7%と最も多く、次に、4の「ファソラソミソド」が28.2%であった。

問題(1)と(2)の両方を正答した生徒は、32.9%であった。(1)を正答した生徒（解答類型1）のうち(2)を正答した生徒（解答類型2）は55.9%，(2)を正答した生徒（解答類型2）のうち(1)を正答した生徒（解答類型1）は63.7%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 58.9%

類型番号	問題6(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	①をミかつ②をシと解答しているもの	58.9%	
2	①をミかつ②をシ以外と解答しているもの	7.3%	
3	①をミ以外かつ②をシと解答しているもの	3.9%	
4	①をシかつ②をミと解答しているもの	2.8%	
5	①をシかつ②をファと解答しているもの	12.0%	
6	①と②の組合せを（ファ、ド）、（ソ、レ）、（ラ、ミ）、（ド、ソ）、（レ、ラ）と解答しているもの	4.6%	
9	上記以外の解答	10.0%	
0	無解答	0.5%	

通過率 51.7%

類型番号	問題6(2) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（ドレミドシドラ）	7.9%	
◎ 2	2と解答しているもの（ミファソミレミド）	51.7%	
3	3と解答しているもの（レミファドシミラ）	11.8%	
4	4と解答しているもの（ファソラソミソド）	28.2%	
9	上記以外の解答	0.1%	
0	無解答	0.4%	

④ 分析・考察

○ 移動ド唱法に慣れ親しみ、階名を理解できるような指導を大切にする。

[楽譜を階名で読むことに課題]

(1)は、楽譜を見て階名を書く問題であり、移動ド唱法を行う上で必要な階名の知識・理解に当たるものである。ト調長音階の主音である「ド」の音を示して出題しているにもかかわらず、ハ調長音階の階名を解答している、4度の音程は読み取っているものの「ド」からの音程が理解できていないと考えられる解答をしているなどの誤答が見られた。このことから

- ・移動ド唱法の理解が十分ではない
 - ・主音「ド」と他の音との関係をとらえていない
- など、楽譜を階名で読むことに課題が見られた。

[音楽を聴いて音程を相対的にとらえ、階名で表すことに課題]

(2)は、スキヤットによる旋律を聴き、階名を選択する問題である。(1)のように楽譜を階名で読むこととは異なり、音楽を聴いて、音程を相対的にとらえ、それを階名で表すことができるかを見るものである。

最後の音を「ド」としているものを選択した生徒(解答類型2, 4)は79.8%であった。これらの生徒は、旋律が主音「ド」で終わることについては理解していることがうかがわれる。

しかし、最後の音を「ド」としているものの、他の音の階名に誤りのあるものを選択した生徒(解答類型4)は28.2%，また、最後の音についても誤っているものを選択した生徒(解答類型1, 3)は19.7%であったことから、音楽を聴いて音程を相対的にとらえ、階名で表すことに課題が見られた。

[楽譜を見て移動ド唱法で歌うことと、音楽を聴いて音程を相対的にとらえることの両面からの指導を工夫]

(1)及び(2)より、楽譜を階名で読むことと、音楽を聴いて音程を相対的にとらえ階名で表すことに課題が見られた。階名を理解することや相対的な音程感覚を身に付けることは、音と音との関係をとらえて音楽の構造を理解することにつながっていく。したがって、移動ド唱法に慣れ親しみ、階名を理解する学習を音楽活動の中に適切に位置付けることが求められる。

指導に当たっては、楽譜を見て移動ド唱法で歌うことと、音楽を聴いて音程を相対的にとらえることの両面の活動を、表現及び鑑賞の学習に適宜取り入れ、階名についての理解を深める学習を大切にする必要がある。

(4) 問題7・8

音楽の用語や記号

—演奏を聴いたり楽譜を見たりして、音楽の用語や記号、その意味を選択する—

① 出題の趣旨

音楽は、様々な要素によって形づくられており、音楽を形づくっている要素やそれらの働きは、楽譜の上では用語や記号によって示されている。そのため、音楽の表現や鑑賞の活動の中で、用語や記号について理解し、適切に用いることができるようすることは大切である。

問題7・8では、音楽の用語や記号について理解しているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)キ、ク、B鑑賞(1)ア、イに関する内容のほか、指導計画の作成と内容の取扱い2(9)に関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
7(1)	音楽の用語や記号を理解しているかを問う	音楽を聴き、速度の用語を選択する	A(1)ク B(1)イ
7(2)		楽譜を見ながら音楽を聴き、強弱の変化記号を選択する	A(1)キ B(1)ア
7(3) ①		楽譜を見ながら音楽を聴き、速度の変化記号を選択する	A(1)ク B(1)イ
7(3) ②		楽譜に示された変化記号(♭)の意味を選択する	A(1)キ B(1)ア
7(3) ③		楽譜に示された奏法上の記号(フェルマータ)の意味を選択する	A(1)キ・ク B(1)ア・イ
8(1)		楽譜に示された反復記号による演奏順を選択する	A(1)キ B(1)ア
8(2)		楽譜を見ながら音楽を聴き、その演奏が反復記号に従っているか否かを選択する	

② 調査問題の概要

問題7は、クラリネットとピアノによる新曲を聴きながら、音楽の用語や記号、記号の意味を選択する問題である。

問題8は、楽譜に示された反復記号による演奏順を選択する問題である。(1)は、楽譜に示された反復記号の意味を選択する問題、(2)は楽譜を見ながら音楽を聴き、演奏が反復記号に従っているか否かを選択する問題である。

各問題の作成上の配慮点は次のとおりである。

問題7(2)では、だんだん強く演奏される部分の楽譜を画面で見ながら聴くことにより、強弱の変化を生徒が知覚できるように配慮した。

問題7(3)①では、次第に遅く演奏される部分の楽譜を画面で見ながら聴くことにより、速度の変化を生徒が知覚できるように配慮した。

問題8(1)では、反復していることの理解、「1._____」、「2._____」(一番かつこ、二番かつこ)の記号の理解について把握するため、次の選択肢を用いた。

選択肢	予想される解答の理由
1 A→B→C→C	反復していることが理解できていない
2 A→B→A→C	正しく理解している
3 A→B→A→B→C	反復していることは理解できているが、一番かつこ、二番かつこが理解できていない
4 A→B→C→A→C	反復していることが理解できていない

問題8(2)では、反復記号を含む楽譜を見ながら演奏を3曲聴き、それぞれの演奏が反復記号に従っているか否かを判別することとした。

【調査問題 問題7(1)】

問題

7

クラリネットとピアノによる演奏を聴いて、(1)から(3)の問いに
答えなさい。

- (1) この曲の出だしのように速い速度の演奏にふさわしい「速度を示す用語」を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

1 Allegro

2 Moderato

3 Largo

4 Andante

解 答 欄	
-------------	--

【調査問題 問題 7 (2)】

(2) この曲を作曲したAさんは、次の楽譜の で示した部分について、だんだん強く演奏してほしいと考えました。この楽譜の演奏を聴いて、(ア)に入れる「強弱の変化を表す記号」としてもっともふさわしいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回聴きます。

A musical score excerpt in G major. The first measure shows a descending eighth-note pattern. The second measure starts with a quarter note followed by an eighth-note休符 (tie). The third measure shows a descending eighth-note pattern. The fourth measure starts with a sharp sign, followed by a descending eighth-note pattern. The fifth measure shows a descending eighth-note pattern. The sixth measure starts with a quarter note followed by an eighth-note休符 (tie). The seventh measure shows a descending eighth-note pattern. The eighth measure starts with a sharp sign, followed by a descending eighth-note pattern.

1 **p** (ピアノ)

2 **f** (フォルテ)

3 *cresc.* (クレシェンド) 4 *decresc.* (デクレシェンド)

解 答 欄	
-------------	--

【調査問題 問題 7 (3)①】

(3) この曲の次の楽譜に示したアからウについて、①から③の問い合わせに答えなさい。



① この楽譜の演奏では、二小節目から三小節目まで速度が変化しています。この「速度の変化を表す記号」として、(ア)に入れるもっともふさわしいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を右ページの解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回聴きます。

1 *accel.*

2 *a tempo*

3 *dim.*

4 *rit.*

【調査問題 問題 7 (3)②】

② この楽譜に示したイの記号の意味を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を右ページの解答欄に書きなさい。

1 半音下げる

2 もとの高さで

3 半音上げる

4 音を目立たせる

【調査問題 問題 7 (3)③】

③ この楽譜に示したウの記号の意味を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を下の解答欄に書きなさい。

1 ほどよく音をのばす 2 音をやわらかくする

3 音をふるわせる 4 音を強調する

解 答 欄	①	②	③

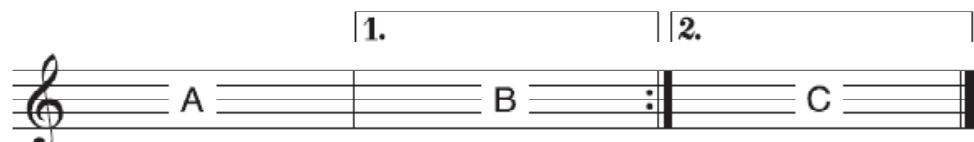
【調査問題 問題 8 (1)】

問題

8

反復記号について、(1)と(2)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の楽譜について、演奏の順が正しいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。



1 A → B → C → C

2 A → B → A → C

3 A → B → A → B → C

4 A → B → C → A → C

解 答 欄	
-------------	--

【調査問題 問題 8 (2)】

(2) これから聴くアからウの演奏について、次の楽譜の「1.」と「2.」の反復記号にしたがって演奏しているものには1を、そうでないものには2を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は二回ずつ聴きます。



1 反復記号にしたがっている演奏

2 反復記号にしたがっていない演奏

解 答 欄	アの演奏	イの演奏	ウの演奏

【出題ビデオ 問題 7】

ビデオの内容	ナレーション (抜粋)
	<p>(ナレーション) 7ページ目を開いてください。 クラリネットとピアノによる演奏を見ながら聴いてみましょう。 (演奏を視聴する)</p>
	<p>(ナレーション) 問題 7 (1), この曲の出だしのように速い速度の演奏にふさわしい「速度を示す用語」を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。</p>

問題 7 (2)



(ナレーション)

(2), 8ページ目を開いてください。

この曲を作曲したAさんは、次の楽譜の四角で示した部分について、だんだん強く演奏してほしいと考えました。(ア)に入れる「強弱の変化を表す記号」として最もふさわしいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。

1回目です。(音楽を聴く 楽譜進行表示)

2回目です。(音楽を聴く 楽譜進行表示)

問題 7 (3) ①



(ナレーション)

(3), 9ページと10ページ目を開いてください。

この曲の次の楽譜に示したアからウについて、①から③の問い合わせに答えなさい。

①, この楽譜の演奏では、2小節目から3小節目まで速度が変化しています。この「速度の変化を表す記号」として、(ア)に入れる最もふさわしいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を右ページの解答欄に書きなさい。音を聴きながら答えてください。音楽は2回聴きます。

1回目です。(音楽を聴く 楽譜進行一部表示)

2回目です。(音楽を聴く 楽譜進行一部表示)



問題 7 (3) ②

(ナレーション)

①, この楽譜に示したイの記号の意味を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を右ページの解答欄に書きなさい。

問題 7 (3) ③	<p>(ナレーション) ①、この楽譜に示したウの記号の意味を、下の1から4の中から一つ選び、その番号を下の解答欄に書きなさい。</p>
<p>②と③に答えてください。 時間は1分間です。</p> <p>あと30秒です。</p> 	<p>(ナレーション) それでは答えてください。 時間は1分間です。</p>

【出題ビデオ 問題8】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
問題 8 (1)	<p>(ナレーション) 11ページと12ページ目を開いてください。 問題8、反復記号について、(1)と(2)の問い合わせに答えなさい。</p> <p>(1)次の楽譜について、演奏の順が正しいものを、下の1から4の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。それでは答えてください。時間は30秒間です。</p>
問題 8 (2)	<p>(ナレーション) 問題8(2)、これから聴くアからウの演奏について、次の楽譜の反復記号に従って演奏してるものには1を、そうでないものには2を解答欄に書きなさい。 音を聴きながら答えてください。音楽は2回ずつ聴きます。</p>
ウの演奏	<p>(ナレーション) アの演奏です。（アの演奏を聴く） もう一度聴きます。（アの演奏を聴く） イの演奏です。（イの演奏を聴く） もう一度聴きます。（イの演奏を聴く） ウの演奏です。（ウの演奏を聴く） もう一度聴きます。（ウの演奏を聴く）</p>

③ 調査結果の概要

- 速い速度の演奏にふさわしい用語を選択する問題において、正しい速度を示す用語（Allegro）を選択した生徒は約4割であった。

問題7(1)の速い速度の演奏にふさわしい用語を選択する問題では、1の「Allegro」(快速に)を正答としている。正答した生徒が43.4%と最も多く、次に、2の「Moderato」(中庸の速さで)が20.6%、4の「Andante」(歩くような速さで)が20.5%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 43.4%

類型番号	問題7(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	1と解答しているもの (Allegro)	(◎：正答)	43.4%
2	2と解答しているもの (Moderato)		20.6%
3	3と解答しているもの (Largo)		15.0%
4	4と解答しているもの (Andante)		20.5%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.5%

- 「だんだん強く」を表す記号を選択する問題において、正しい記号(*cresc.*)を選択した生徒は約8割であった。

問題7(2)の「だんだん強く」を表す記号を選択する問題では、3の「*cresc.*」(だんだん強く)を正答としている。正答した生徒が76.4%と最も多く、次に、2の「*f*」(強く)が10.8%、4の「*decresc.*」(だんだん弱く)が10.5%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 76.4%

類型番号	問題7(2) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの (<i>p</i> (ピアノ))		1.7%
2	2と解答しているもの (<i>f</i> (フォルテ))		10.8%
◎ 3	3と解答しているもの (<i>cresc.</i> (クレシェンド))	(◎：正答)	76.4%
4	4と解答しているもの (<i>decresc.</i> (デクレシェンド))		10.5%
9	上記以外の解答		0.3%
0	無解答		0.2%

- 「だんだん遅く」を表す記号を選択する問題において、正しい記号(*rit.*)を選択した生徒は約4割であった。

問題7(3)①の「だんだん遅く」を表す記号を選択する問題では、4の「*rit.*」(だんだん遅く)を正答としている。正答した生徒が36.9%と最も多く、次に、2の「*a tempo*」(元の速さにもどす)が36.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 36.9%

類型番号	問題7(3)① 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの (<i>accel.</i>)		11.0%
2	2と解答しているもの (<i>a tempo</i>)		36.8%
3	3と解答しているもの (<i>dim.</i>)		14.9%
◎ 4	4と解答しているもの (<i>rit.</i>)	(◎：正答)	36.9%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.5%

- 「**b** (フラット)」の意味を選択する問題において、正しい意味（半音下げる）を選択した生徒は約6割であった。

問題7(3)②の「**b**」の意味を選択する問題では、1の「半音下げる」を正答としている。正答した生徒が56.9%と最も多く、次に、3の「半音上げる」が26.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 56.9%

類型番号	問題7(3)② 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	1と解答しているもの（半音下げる）	(◎：正答)	56.9%
2	2と解答しているもの（もとの高さで）		8.5%
3	3と解答しているもの（半音上げる）		26.8%
4	4と解答しているもの（音を目立たせる）		7.3%
9	上記以外の解答		0.0%
0	無解答		0.4%

- 「**h** (フェルマータ)」の意味を選択する問題において、正しい意味（ほどよく音をのばす）を選択した生徒は約7割であった。

問題7(3)③の「**h**」の意味を選択する問題では、1の「ほどよく音をのばす」を正答としている。正答した生徒が67.4%と最も多く、次に、4の「音を強調する」が13.0%，2の「音をやわらかくする」が12.9%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 67.4%

類型番号	問題7(3)③ 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	1と解答しているもの（ほどよく音をのばす）	(◎：正答)	67.4%
2	2と解答しているもの（音をやわらかくする）		12.9%
3	3と解答しているもの（音をふるわせる）		5.7%
4	4と解答しているもの（音を強調する）		13.0%
9	上記以外の解答		0.1%
0	無解答		1.0%

- 楽譜に示された反復記号による演奏順を正しく選択した生徒は約7割であった。

問題8(1)の楽譜に示された反復記号による演奏順を選択する問題では、2の「A→B→A→C」を正答としている。正答した生徒が65.8%と最も多く、次に、反復していることは理解しているが、「1. []」、「2. []」（一番かっこ、二番かっこ）の記号の理解ができていない3の「A→B→A→B→C」が20.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 65.8%

類型番号	問題8(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの（A→B→C→C）	(◎：正答)	5.0%

◎ 2	2と解答しているもの (A→B→A→C)	65.8%
3	3と解答しているもの (A→B→A→B→C)	20.8%
4	4と解答しているもの (A→B→C→A→C)	8.1%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.3%

- 楽譜を見ながら音楽を聴き、その演奏が反復記号に従っているか否かをすべて正しく選択した生徒は約7割であった。

問題8(2)の楽譜を見ながら音楽を聴き、その演奏が反復記号に従っているか否かを選択する問題では、アを2の「反復記号にしがっていない演奏」、イを2の「反復記号にしたがっていない演奏」、ウを1の「反復記号にしたがっている演奏」としたもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が74.8%と最も多かった。

なお、問題8(1)(2)について、(1)(2)を両方正答した生徒は57.6%，(1)のみ正答した生徒は8.2%，(2)のみ正答した生徒は17.2%，(1)(2)を両方正答しなかった生徒は17.0%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 74.8%

類型番号	問題8(2) 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	アを2、イを2、ウを1と解答しているもの	74.8%	
2	アを2、イを2、ウを1以外と解答しているもの	1.1%	
3	アを2、イを2以外、ウを1と解答しているもの	6.3%	
4	アを2以外、イを2、ウを1と解答しているもの	7.7%	
5	アを2、イを2以外、ウを1以外と解答しているもの	2.3%	
6	アを2以外、イを2、ウを1以外と解答しているもの	4.4%	
7	アを2以外、イを2以外、ウを1と解答しているもの	0.6%	
8	アを1、イを1、ウを2と解答しているもの	2.5%	
9	上記以外の解答	0.2%	
0	無解答	0.3%	

④ 分析・考察

- 用語や記号について、音楽を形づくっている要素に着目しながら、表現や鑑賞の各活動を通して理解できるよう指導を工夫する。

問題7の通過率は、(1)～(3)③のそれぞれ43.4%，76.4%，36.9%，56.9%，67.4%となっており、用語や記号の理解が十分ではないと考えられる。

特に、問題7(1)では、正答である「Allegro」を選択した生徒が43.4%と最も多いものの、「Moderato」や「Andante」を選択した生徒もそれぞれ20.6%，20.5%であった。

問題7(3)①では、正答である「rit.」を選択した生徒は36.9%であるが、「a tempo」を選択した生徒もほぼ同じ割合（36.8%）であった。この理由として、これらの記号は、楽譜の中で対で示されることが多く、生徒が意味を混同していると考え

られる。

生徒が授業の中で出会う教材の楽譜の多くには、表現等の手掛かりとなる用語や記号が示されているにもかかわらず、必ずしも通過率が高いとは言えないことから、これらの用語や記号の理解を深める必要がある。

また、反復記号の理解を問う問題8(1), (2)の通過率はそれぞれ65.8%, 74.8%であった。特に、(1)において、反復していることは理解しているが「1. []」, 「2. []」(一番かっこ, 二番かっこ)の意味が理解できていない(解答類型3)生徒が20.8%いたことから、「1. []」, 「2. []」についての指導が必要である。本問では、反復記号について、(1)では読譜する、(2)では演奏を聴くという視点から調査した。(1), (2)のいずれかのみを正答した生徒がいたことから、表現や鑑賞の活動において、楽譜に示された反復記号を確認するなどして、実際の音と関連させながら反復記号の理解を深めるようにする必要があると考えられる。

音楽は、様々な要素によって形づくられている。それらの多くは、楽譜の上では用語や記号によって示されている。指導に当たっては、個々の用語や記号を単に知識として知るだけではなく、表現や鑑賞の各活動を通して、楽譜などに親しませることによって、音楽を形づくっている要素に着目しながら、用語や記号の意味や役割などについて実感を伴った理解ができるようになることが大切である。

(5) 問題9・10

音楽の表現上の特徴

—音楽を聴き、和声を含む音と音とのかかわり合い（テクスチュア）
と拍の特徴を選択する—

① 出題の趣旨

音楽は、その音楽が生み出された時代や地域などによって、ある特定の表現上の特徴を示している。このような表現上の特徴を理解することは、音楽を表現したり鑑賞したりするときの大切な手掛かりになる。

問題9では、和声を含む音と音とのかかわり合い（テクスチュア）の特徴について、問題10では、拍の特徴について知覚しているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)キ、B鑑賞(1)アのうち、特に「リズム」、「和声を含む音と音とのかかわり合い」に関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
9	和声を含む音と音とのかかわり合い（テクスチュア）を知覚しているかを問う	音楽を聴き、和声を含む音と音とのかかわり合い（テクスチュア）の特徴を選択する	A(1)キ B(1)ア
10	拍を知覚しているかを問う	音楽を聴き、拍の特徴を選択する	A(1)キ B(1)ア

② 調査問題の概要

問題9では和声を含む音と音とのかかわり合い（以下「テクスチュア」という。）に、問題10では拍に焦点を絞り、選択肢としてそれらの特徴を表す文章を示した。

具体的には、問題9は、音楽を聴いてテクスチュアの特徴（旋律と和音による伴奏が組み合わされている、又は旋律がいくつかの声部で追いかけるように組み合わされている）を、問題10は、音楽を聴いて拍の特徴（拍が一定の間隔で刻まれている、又は拍が自由に伸び縮みしている）を選択することとした。なお、選択肢において表現上の特徴を表す語句は、生徒が理解・判別しやすくなるように配慮した。

【調査問題 問題9】

問 題
9

これから聴くアからウのパイプオルガンで演奏した三つの曲について、特徴を正しく述べたものを、下の1と2の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

- 1 旋律と和音による伴奏が組み合わされている
- 2 旋律がいくつかの声部で追いかけるように組み合わされている

解 答 欄	アの曲	イの曲	ウの曲

【調査問題 問題10】

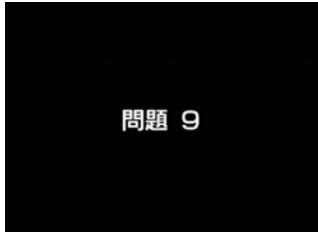
問 題
10

これから聴くアからウの三つの民謡について、特徴を正しく述べたものを、下の1と2の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

- 1 拍が一定の間隔で刻まれている
- 2 拍が自由に伸び縮みしている

解 答 欄	アの曲	イの曲	ウの曲

【出題ビデオ 問題9】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(ナレーション) 13ページ目を開いてください。 問題9、これから聴くアからウのパイプオルガンで演奏した三つの曲について、特徴を正しく述べたものを、下の1と2の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。
	(ナレーション) アの曲です。 (アの曲を視聴する)
	(ナレーション) イの曲です。 (イの曲を視聴する)
	(ナレーション) ウの曲です。 (ウの曲を視聴する)

【出題ビデオ 問題10】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(ナレーション) 14ページ目を開いてください。 問題10、これから聴くアからウの三つの民謡について、特徴を正しく述べたものを、下の1と2の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

	(ナレーション) アの曲です。 (アの曲を視聴する)
	(ナレーション) イの曲です。 (イの曲を視聴する)
	(ナレーション) ウの曲です。 (ウの曲を視聴する)

③ 調査結果の概要

- テクスチュアの違いを知覚し、その特徴をすべて正しく選択した生徒は約5割であった。

音楽を聴いてテクスチュアの特徴を選択する問題9の選択肢は、1を「旋律と和音による伴奏が組み合わされている」、2を「旋律がいくつかの声部で追いかけるように組み合わされている」とした。本問では、アを2、イを2、ウを1と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が46.1%と最も多かった。

なお、内訳を見ると、旋律と和音による伴奏が組み合わされているウの曲について正しく選択した生徒は87.8%であり、旋律がいくつかの声部で追いかけるように組み合わされているア、イの曲について正しく選択した生徒はそれぞれ72.8%，70.9%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 46.1%

類型番号	問題9 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	アを2, イを2, ウを1と解答しているもの	46.1%	
2	アを2, イを2, ウを1以外と解答しているもの	0.8%	
3	アを2, イを2以外, ウを1と解答しているもの	20.1%	
4	アを2以外, イを2, ウを1と解答しているもの	20.6%	
5	アを2, イを2以外, ウを1以外と解答しているもの	5.7%	
6	アを2以外, イを2, ウを1以外と解答しているもの	3.4%	
7	アを2以外, イを2以外, ウを1と解答しているもの	0.9%	

8	アを1, イを1, ウを2と解答しているもの	1.8%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.4%

【内訳】

	選択肢1	選択肢2	その他	無解答
アの曲	26.7%	72.8%	0.1%	0.4%
イの曲	28.4%	70.9%	0.1%	0.6%
ウの曲	87.8%	11.5%	0.1%	0.6%

- 拍の特徴の違いを知覚し、すべて正しく選択した生徒は約6割であった。

音楽を聴いて拍の特徴を選択する問題10の選択肢は、1を「拍が一定の間隔で刻まれている」、2を「拍が自由に伸び縮みしている」とした。本問では、アを1, イを2, ウを1と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が63.6%と最も多かった。

なお、内訳を見ると、拍が一定の間隔で刻まれているア、ウの曲について正しく選択した生徒はそれぞれ84.3%, 73.4%，拍が自由に伸び縮みしているイの曲について正しく選択した生徒は84.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 63.6%

類型番号	問題10 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	アを1, イを2, ウを1と解答しているもの	63.6%	
2	アを1, イを2, ウを1以外と解答しているもの	15.2%	
3	アを1, イを2以外, ウを1と解答しているもの	0.5%	
4	アを1以外, イを2, ウを1と解答しているもの	5.4%	
5	アを1, イを2以外, ウを1以外と解答しているもの	5.0%	
6	アを1以外, イを2, ウを1以外と解答しているもの	0.6%	
7	アを1以外, イを2以外, ウを1と解答しているもの	3.9%	
8	アを2, イを1, ウを2と解答しているもの	5.4%	
9	上記以外の解答	0.1%	
0	無解答	0.4%	

【内訳】

	選択肢1	選択肢2	その他	無解答
アの曲	84.3%	15.2%	0.0%	0.5%
イの曲	14.7%	84.8%	0.0%	0.5%
ウの曲	73.4%	25.9%	0.1%	0.7%

④ 分析・考察

- 音楽を聴いて、複数の声部のかかわり合いや拍など、音楽の表現上の特徴をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題9の通過率は46.1%であり、テクスチュアを知覚することに課題があった。

内訳を見ると、旋律と和音による伴奏が組み合わされているウの曲について正答した生徒は87.8%であり、旋律がいくつかの声部で追いかけるように組み合わされているア、イの曲について正答した生徒はそれぞれ72.8%，70.9%であった。このことから、特に、多声的なテクスチュアの音楽の特徴をとらえることに課題が見られた。なお、ア、イよりもウを正答した生徒が多かったのは、主旋律と和音を中心とした伴奏によってつくられている音楽に日常的に触れていることが理由として考えられる。

問題10の通過率は63.6%であり、拍の特徴をとらえることについて課題があった。

内訳を見ると、拍が一定の間隔で刻まれているア、ウの曲について正答した生徒はそれぞれ84.3%，73.4%であり、拍が自由に伸び縮みしているイの曲について正答した生徒は84.8%であった。アとウはいずれも拍節感が明確な音楽であるが、ウはアよりも10ポイント以上低かった。この理由として、ウの曲では、歌の出だしなどの旋律について、母音を長く延ばして歌われる特徴があるため、拍節的なリズムに着目できなかったことが考えられる。

テクスチュアや拍などの表現上の特徴をとらえることは、その音楽を解釈し、ふさわしい表現をしたり鑑賞を深めたりすることにつながっていくものである。

指導に当たっては、異なる様式の音楽についてテクスチュアの違いを比較しながら聴き、複数の声部のかかわり合いの特徴をとらえること、また、拍節的なリズムと拍節的でないリズムの音楽を比較しながら聴き、それぞれの持ち味などをとらえることができるよう工夫する事が大切である。

2 調査Ⅱ Aにおける調査結果

(1) 問題1

歌詞が表す情景や心情

—歌詞にふさわしい情景と心情を選択する—

① 出題の趣旨

歌唱曲において、歌詞は曲想にかかる重要な要素である。歌詞の内容に共感したり歌詞が表す情景に思いを馳せたりすることは、歌唱表現の充実につながっていく。

問題1では、歌詞の内容を理解しているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)アに関する内容である。

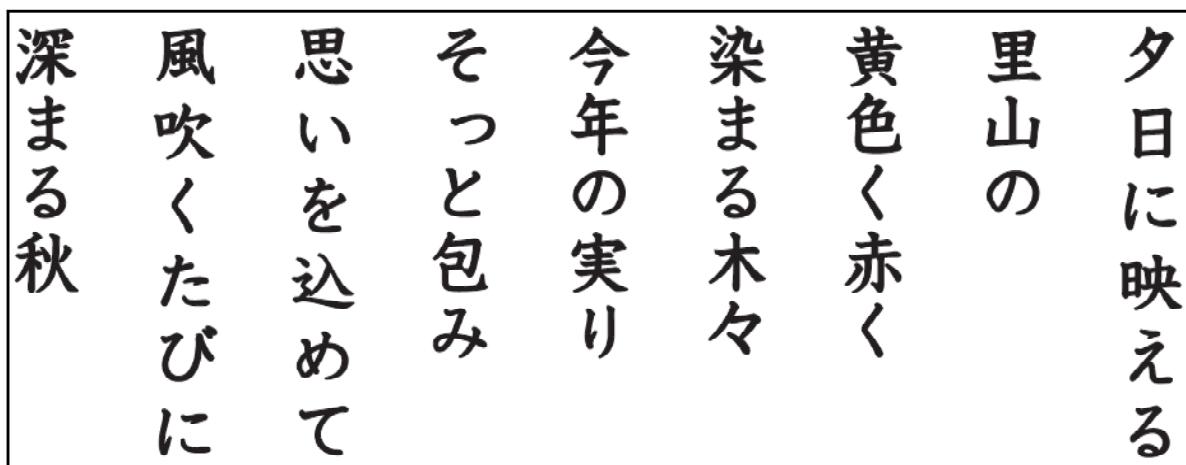
問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1 (1)	歌詞の内容を理解しているかを問う	歌詞にふさわしい情景を選択する	A (1)ア
1 (2)		歌詞にふさわしい心情を選択する	A (1)ア

② 調査問題の概要

問題1は、歌詞の内容について(1)情景、(2)心情を問う問題である。

課題曲は、本調査のために、新たに作詞・作曲したものである。

作詞・作曲に当たっては、身の回りの自然の美しさや豊かさに対する感性をはぐくむなどの観点と、言葉のリズムや抑揚と旋律とのかかわりに留意し、生徒が興味・関心をもち、表現活動への喜びを高めることができるように配慮した。



【課題曲：調査Ⅱ A歌唱曲】

上のパート

下のパート

ピアノ伴奏

ゆうひに はえる
ゆうひに はえる

さとやまーの きいろくあかく
さとやまーの きいろくあかく

そまるきぎ ことしのみの一り おも
そつとつみ

いをこめて かぜふくたびに
おもいをこめて かぜふくたびに

ふかまるあき
ふかまるあき

【調査問題 問題1】

問題1

歌詞の内容について、(1)と(2)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 歌詞が描いている情景について、解答欄の **問題1** の(1)のアからエの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。
- (2) 作詞者が歌詞によって表したかった心情について、解答欄の **問題1** の(2)のアからエの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

(1)

ア 枯れ草の野原
イ 木々が紅葉した里山
ウ 稲穂が実った田んぼ
エ 風が吹きわたる河原

(2)

ア いつまでも青々と葉が茂っていてほしい
イ 晩秋の雨は冷たくさびしい
ウ 今年の実りをそっと包んでおきたい
エ 里山の奥に見える山に登ってみたい

【出題プログラム 歌唱活動】

プログラムの内容	ナレーション (抜粋)
<p>これからの調査の流れ</p> <p>①課題曲を聴く ②上のパートや下のパートを歌う ③歌詞について考える ④表現の工夫を考える ⑤歌う速度を決めて録音をする</p>	<p>(ナレーション) 調査の流れを説明します。 課題曲全体を聴く、上のパート下のパートを歌う、歌詞について考える、表現の工夫を考える、歌う速度を決めて録音をする。 (説明とともに文字を濃く表示)</p>
	<p>(ナレーション) それでは課題曲を聴きます。 コンピュータの画面の歌詞を見て、歌詞が表す情景などを想像しながら聴きましょう。 (範唱を聴く 歌っている箇所を太字表示)</p>
<p>上のパートを聴いましょう</p>	<p>(ナレーション) コンピュータの画面の楽譜を見ながら上のパートを聴きましょう。 (範唱を聴く 普通のテンポ 歌っている箇所の音符を赤く表示)</p>



(ナレーション)

机の上の調査票を開いてください。

調査票は左側に楽譜のある大きな紙と問題が書いてある小さな紙の2種類です。

大きな紙が解答用紙です。答えはすべて解答用紙に記入します。

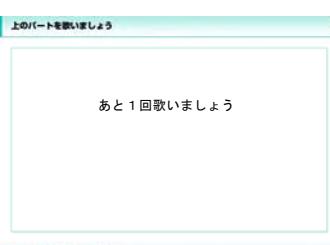
小さな紙が問題用紙です。問題用紙は指示があったら問題を読んで、答えてください。



(ナレーション)

歌う時は、画面のアニメーションのように楽譜を手に持って、背筋を伸ばして歌ってください。

準備はよいですか。



(ナレーション)

解答用紙の楽譜を見てください。

上のパートを2回歌います。

(範唱とともに歌う ゆっくりのテンポ)

あと1回歌います。

(範唱とともに歌う 普通のテンポ)

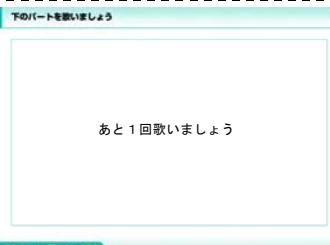


(ナレーション)

次は下のパートです。

まず、三段目から歌いますので、コンピュータの画面を見ながら歌ってください。

(範唱とともに歌う ゆっくりのテンポ 歌っている箇所の音符を赤く表示)



(ナレーション)

あと1回歌います。今度は解答用紙の楽譜を見ながら歌ってください。

(範唱とともに歌う 普通のテンポ)

下のパートを歌いましょう

全体を通して歌いましょう

（ナレーション）
次に全体を通して、下のパートを歌ってみましょう。
楽譜を手に持って、背筋を伸ばして歌ってください。
準備はよいですか。では、始めます。
(範唱とともに歌う 速いテンポ)

【出題プログラム 問題1】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
<p>問題1(1), (2)</p> <p>問題1(1)と(2)に答えてください。 問題は、問題用紙を見てください。 答えは解答欄に書いてください。 時間は3分間です。</p>	<p>（ナレーション） では、解答用紙の問題1の(1)と(2)を読んで答えてください。解答時間は3分間です。3分後に次の画面に移ります。答えは解答欄に書いてください。</p>

③ 調査結果の概要

- 歌詞にふさわしい情景を選択した生徒は約9割であった。

歌詞が描いている情景を問う(1)では、イの「木々が紅葉した里山」を正答としている。正答した生徒が88.7%と最も多かった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 88.7%

類型番号	問題1(1) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの（枯れ草の野原）	1.5%	
◎ 2	イと解答しているもの（木々が紅葉した里山）	88.7%	
3	ウと解答しているもの（稲穂が実った田んぼ）	7.4%	
4	エと解答しているもの（風が吹きわたる河原）	1.6%	
9	上記以外の解答	0.6%	
0	無解答	0.3%	

- 歌詞にふさわしい心情を選択した生徒は約9割であった。

作詞者が歌詞によって表したかった心情を問う(2)では、ウの「今年の実りをそっと包んでおきたい」を正答としている。正答した生徒が93.9%と最も多かった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 93.9%

類型番号	問題1(2) 解答類型	(◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの（いつまでも青々と葉が茂っていてほしい）	2.6%	
2	イと解答しているもの（晩秋の雨は冷たくさびしい）	0.6%	
◎ 3	ウと解答しているもの（今年の実りをそっと包んでおきたい）	93.9%	
4	エと解答しているもの（里山の奥に見える山に登ってみたい）	2.3%	

9	上記以外の解答	0.4%
0	無解答	0.3%

④ 分析・考察

○ 歌詞の内容を理解し、ふさわしい情景や心情を選択することについては、相当数の生徒ができていた。

(1), (2)の両方を正答した生徒は84.8%であった。このことから、歌詞の意味や内容を理解し、ふさわしい情景や心情を選択することについては、相当数の生徒ができていたと考えられる。

○ 歌詞を丁寧に読み、情景や心情を想像したり、言葉がもつ響きや語感など言葉への関心を高めたりするような指導を工夫する。

(1), (2)のいずれか又はその両方を正答しなかった生徒は、15.2%であった。その理由として、

- ・ 丁寧に歌詞を読んでいない
- ・ 歌詞の一部から直感的にとらえている
- ・ 歌詞から情景や心情を想像することができなかった
- ・ 言葉の意味するものに共感することができなかった

などが考えられる。

歌唱の活動では、歌詞の内容と曲想とのかかわりを理解し、思いや意図をもって歌唱表現できるようにする必要がある。そのためには、歌詞を丁寧に読むことや、直接的な言葉の意味だけではなく比喩的な表現などにも目を向けるなどして、歌詞が表す情景や心情を想像したり共感したりできるような指導の工夫が求められる。また、言葉がもつ響きや語感など言葉への関心を高めるような指導を工夫することも大切である。

(2) 問題 2

声部の役割

－楽譜を見て、声部の役割を選択する－

① 出題の趣旨

合唱曲など複数の声部をもつ楽曲においては、音楽の構造を理解し、それぞれの声部の役割を生かした表現の工夫をすることが重要である。

問題 2 では、合唱曲における声部の役割をどの程度理解しているか把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 A 表現(1)エに関する内容である。

なお、本問は、歌詞の内容や声部の役割から、どのように表現を工夫して歌うかを問う問題 3 や問題 4 の手掛かりとなるよう、問題 3 の前に位置付けた。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
2	声部の役割を理解しているかを問う	楽譜を見て、声部の役割を選択する	A(1)エ

② 調査問題の概要

問題 2 は、課題曲の楽譜を見て、楽曲の様々な部分の声部の役割を選択する問題である。課題曲は、次の表のとおり 16 小節からなる 2 部合唱であり、本問では下の表の A～C 部の声部の役割について問うものとした。

なお、声部という用語は、出題上、生徒が分かりやすいように「パート」という用語を用いた。

小節	楽曲の構成の特徴	部分
1～8 小節	上の声部と下の声部の両方が主旋律である	
9～12 小節	異なる旋律	A 部
9～10 小節	上の声部と下の声部が、交互に大切な旋律を受け持っている	
11～12 小節	上の声部が主旋律で、下の声部がそれを支えるようにハーモニーを生み出している	
13～16 小節	上の声部と下の声部の両方が主旋律である	C 部

A ----- B -----

上のパート
ことしのみのーり おもいをこめて

三段目

下のパート
そつとつみ おもいをこめて

C -----

かぜふくたびに ふかまるあき

四段目

【調査問題 問題2】

問題2

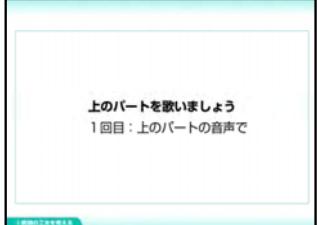
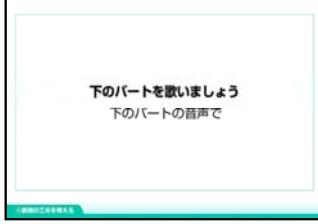
楽譜の**A**, **B**, **C**のそれぞれの部分について、上のパートと下のパートはどのような役割を受け持っていますか。次の1から3の中から一つずつ選び、その番号を解答欄の**問題2**に書きなさい。

- 1 上のパートと下のパートの両方が主旋律である。
- 2 上のパートが主旋律で、下のパートがそれを支えるようにハーモニーを生み出している。
- 3 上のパートと下のパートが、交互に大切な旋律を受け持っている。

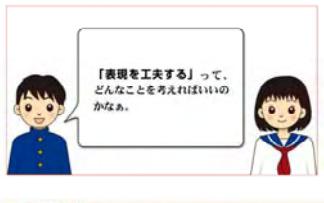
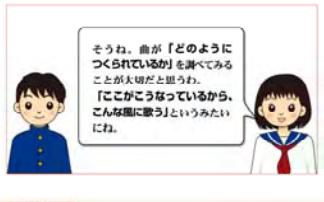
問題2

A	
B	
C	

【出題プログラム 歌唱活動】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション) さて、この曲をある中学生の皆さんに歌ってもらいました。コンピュータの画面の映像を見ながら聴いてください。 (合唱を視聴する)</p>
	<p>(ナレーション) 続いて、コンピュータの画面の楽譜を見ながらもう一度聴きましょう。 (範唱を聴く)</p>
	<p>(ナレーション) 上のパートと下のパートを歌いましょう。解答用紙の楽譜を見ながら歌ってください。はじめに上のパートを2回歌いましょう。1回目は上のパートを歌った演奏と一緒に歌います。 (範唱とともに歌う)</p>
	<p>もう一度上のパートを歌いましょう。上と下の両方のパートを歌った演奏と一緒に歌います。 (範唱とともに歌う)</p>
	<p>次に下のパートを1回 歌いましょう。下のパートを歌った演奏と一緒に歌います。 (範唱とともに歌う)</p>

【出題プログラム 問題2, 3, 4】

プログラムの内容	ナレーション(抜粋)
 <p>「表現を工夫する」って、どんなことを考えればいいのかなあ。</p>	(二人の生徒の会話) 「表現を工夫する」って、どんなことを考えればいいのかなあ。
 <p>そうね、曲が「どのようにつくられているか」を調べることが大切だと思うわ。「ここがこうなっているから、こんな風に歌う」というみたいにね。</p>	そうね。曲が「どのようにつくられているか」を調べることが大切だと思うわ。「ここがこうなっているから、こんな風に歌う」というみたいにね。
 <p>皆さんも考えてみてね。</p>	そうか、「歌詞が表している内容」を音楽で表すために、「旋律」や「リズム」などが、どのようにになっているかを見付ければいいよね。
<p>問題2,3,4</p> <p>問題2,3,4に答えてください。 問題は、問題用紙を見てください。 答えは解答欄に書いてください。 時間は6分間です。</p>	それに合唱の部分は、上と下のパートの旋律が、どのようにかかわっていて、どんな役割をもっているかを考えると、表現を工夫するヒントが見付かるんじゃない。 皆さんも考えてみてね。 (ナレーション) それでは、問題用紙の問題2、問題3、問題4を読んで答えてください。解答時間は6分間です。答えは解答欄に書いてください。ここでは、ヘッドホンを外して、コンピュータのキーボードの上に置いてから答えてください。

③ 調査結果の概要

○ 声部の役割についてすべてを正しく選択した生徒は約5割であった。

選択肢は、1を「上のパートと下のパートの両方が主旋律である」、2を「上のパートが主旋律で、下のパートがそれを支えるようにハーモニーを生み出している」、3を「上のパートと下のパートが、交互に大切な旋律を受け持っている」とした。本問では、Aを3、Bを2、Cを1と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が51.4%と最も多かった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 51.4%

類型番号	問題2 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎ 1	Aを3, Bを2, Cを1と解答しているもの	51.4%	
2	Aを3, Bを2, Cを1以外と解答しているもの	0.2%	
3	Aを3, Bを2以外, Cを1と解答しているもの	0.0%	
4	Aを3以外, Bを2, Cを1と解答しているもの	0.9%	

5	Aを3, Bを2以外, Cを1以外と解答しているもの	2.2%
6	Aを3以外, Bを2以外, Cを1と解答しているもの	30.4%
7	Aを3以外, Bを2, Cを1以外と解答しているもの	3.2%
9	上記以外の解答 (Aを3以外, Bを2以外, Cを1以外と解答しているもの)	11.4%
0	無解答	0.4%

- 両方の声部が主旋律であるC部について正しく選択した生徒は約8割、上下の声部が異なる役割をもつA部、B部について正しく選択した生徒はそれぞれ5割以上であった。

A～C部の内訳を見ると、C部について1の「上のパートと下のパートの両方が主旋律である」を選択した生徒は82.7%，A部について3の「上のパートと下のパートが、交互に大切な旋律を受け持っている」を選択した生徒が53.8%，B部について2の「上のパートが主旋律で、下のパートがそれを支えるようにハーモニーを生み出している」を選択した生徒が55.7%であった。

【内訳】

	選択肢1	選択肢2	選択肢3	その他	無解答
A	8.7%	37.0%	53.8%	0.2%	0.4%
B	9.3%	55.7%	34.5%	0.2%	0.4%
C	82.7%	7.6%	9.0%	0.4%	0.4%

④ 分析・考察

- 音楽の構造と声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うことの楽しさを実感できるよう指導を工夫する。

合唱の活動では、音楽の構造とそれぞれの声部の役割について理解を深め、全体の響きや旋律の受け渡しなどを意識しながら、自分の声部の歌い方を工夫することが大切である。

本問において、両方の声部が主旋律であるC部について正答した生徒は82.7%であるが、異なる旋律を受け持っているA、B部についてはそれぞれ53.8%，55.7%であった。この結果から、主旋律、旋律を支える、旋律がかわり合うなどの声部の役割についての理解に課題が見られた。

声部の役割が理解できない要因の一つとして、楽譜を読んで音楽の構造をとらえることができないことが考えられることから、本問と調査Iにおける問題6(1)「楽譜を見て、階名を書く」、問題8(1)「楽譜に示された反復記号による演奏順を選択する」とのかかわりを見た。その結果、下の表に示すように、調査I問題6(1)を通過した生徒のうち本問を通過した生徒は61.4%，調査I問題6(1)を通過しなかった生徒のうち本問を通過した生徒は35.5%，調査I問題8(1)を通過した生徒のうち本問を通過した生徒は60.1%，調査I問題8(1)を通過しなかった生徒のうち本問を通過した生徒は34.4%であり、両問とも、通過した生徒の方が通過しなかった生徒より、本問の通過率が高かった。なお、調査II A問題

2の通過率は51.4%であった。

		調査ⅡA問題2	
		通過	その他
		51.4% (560人)	48.6% (530人)
調査I 問題6(1)	通過	61.4% (410人)	38.6% (258人)
	その他	35.5% (150人)	64.5% (272人)
調査I 問題8(1)	通過	60.1% (433人)	39.9% (288人)
	その他	34.4% (127人)	65.6% (242人)

この結果、読譜に関する調査I問題6(1)、問題8(1)を通過した生徒は、声部の役割をより理解することができる傾向があると考えられる。

指導に当たっては、実際に声を出しながら自分の声部の役割をとらえることと併せて、他の声部が自分の声部にどのようにかかわっているかを理解できるようになるため、各声部の音の動きを楽譜で確認するなどして、音楽の構造と声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うことの楽しさを実感できるよう工夫することが大切である。

(3) 問題3

歌詞の内容や声部の役割と表現の工夫

—歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げて表現の工夫を記述する—

① 出題の趣旨

音楽表現においては、自分はどうのように表現したいのかを考え、思いや意図をもつことが重要である。思いや意図を確かなものにするためには、自己のイメージや感情と音楽を形づくっている要素の働きとを結び付けながら、作者の創作意図について自分なりに解釈することが考えられる。

問題3では、歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げ、どのように工夫して歌うかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)ア、エ、キ、クに関する内容である。

なお、問題1では、歌詞の内容を理解しているか、問題2では、声部の役割を理解しているかを問う問題としたことを踏まえ、本問はこれらと関連させた問題とした。さらに、問題4では上下の声部の強弱による表現の工夫について、強弱記号で表すことができるかを問うこととしており、本問はその手掛かりとなるよう問題4の前に位置付けた。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
3	歌詞の内容や声部の役割から、どのように表現を工夫して歌うかを問う	歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げて表現の工夫を記述する	A (1)ア・エ・キ・ク

② 調査問題の概要

問題3は、歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げて表現の工夫を記述する問題である。3段目は、曲の歌詞の内容が情景描写から作者の心情に向かっていること、テクスチュアが変化し、声部の役割が変わること、また、「思いを込めて」という感情の高まりを感じさせる歌詞の箇所に、旋律のうち最も高い音高を用いたり、同じ歌詞を上の声部に遅れて下の声部が歌ったりするなど、歌詞と音楽の構造との関連がとらえやすくなっているため、この箇所を出題箇所とした。

【調査問題 問題3】

問題3

楽譜の三段目について、あなたは上のパートをどのように工夫して歌いますか。あなたが考える表現の工夫とその理由を、次の条件にしたがって解答欄の**問題3**に書きなさい。

<条件>

- 歌詞の内容について具体的に触れること
- 上のパートと下のパートのかかわりについて具体的に触れるこ

【出題プログラム 問題2, 3, 4 (再掲)】

プログラムの内容	ナレーション(抜粋)
	(二人の生徒の会話) 「表現を工夫する」って、どんなことを考えればいいのかなあ。
	そうね。曲が「どのようにつくられているか」を調べることが大切だと思うわ。「ここがこうなっているから、こんな風に歌う」というみたいにね。
	そうか、「歌詞が表している内容」を音楽で表すために、「旋律」や「リズム」などが、どのようになっているかを見付ければいいよね。
	それに合唱の部分は、上と下のパートの旋律が、どのようにかかわっていて、どんな役割をもっているかを考えると、表現を工夫するヒントが見付かるんじゃない。
	皆さんも考えてみてね。 (ナレーション) それでは、問題用紙の問題2、問題3、問題4を読んで答えてください。解答時間は6分間です。答えは解答欄に書いてください。ここでは、ヘッドホンを外して、コンピュータのキーボードの上に置いてから答えてください。
	問題2,3,4に答えてください。 問題は、問題用紙を見てください。 答えは解答欄に書いてください。 時間は6分間です。

③ 調査結果の概要

- 「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に記述した生徒は約1割であった。

「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方に基づく表現の工夫を明確に記述したもの（解答類型1）を正答とし、いずれかに基づく表現の工夫を明確に記述したもの（解答類型2、3）を準正答としており、それぞれ5.4%、7.6%であり、通過率は13.0%であった。

なお、解答類型1から7までの生徒は、記述内容に違いはあるものの、いずれも「歌詞の内容」、「上下の声部のかかわり」の2点に触れるとともに表現の工夫を記述しており、全体の52.3%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 13.0%

類型番号	問題3 解答類型 (○: 正答 ○: 準正答)	反応率
○1	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」を具体的に記述し、それに基づいて三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて明確に記述しているもの	5.4%
○2	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」を具体的に記述し、それに基づいて三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、「歌詞の内容」にかかる工夫は明確に記述しているが、「上のパートと下のパートのかかわり」にかかる工夫は、記述はあるものの明確ではないもの	4.8%
○3	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」を具体的に記述し、それに基づいて三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、「上のパートと下のパートのかかわり」にかかる工夫は明確に記述しているが、「歌詞の内容」にかかる工夫は、記述はあるものの明確ではないもの	2.8%
4	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」を具体的に記述しているが、それに基づいて三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、記述はあるものの明確ではないもの	6.1%
5	「歌詞の内容」は具体的に記述しているが、「上のパートと下のパートのかかわり」は具体的に記述しておらず、三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、記述はあるものの明確ではないもの	9.9%
6	「上のパートと下のパートのかかわり」は具体的に記述しているが、「歌詞の内容」は具体的に記述しておらず、三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、記述はあるものの明確ではないもの	13.8%
7	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」に触れており、三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、記述はあるものの明確ではないもの	9.4%
8	「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」のいずれか	25.8%

	に触れており、三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて、記述はあるものの明確ではないもの	
9	上記以外の解答	8.2%
0	無解答	13.8%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、生徒の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

「歌詞の内容」と「上のパートと下のパートのかかわり」を具体的に記述し、それに基づいて① ② ③

- て三段目の上のパートをどのように工夫して歌うかについて明確に記述している。
 ① 「歌詞の内容」は、具体的に記述しているか（歌詞の意味に触れた上で、自分なりの解釈を記述しているか）
 ② 「上下のパートのかかわり」は、上下の声部の構造的なことを記述しているか
 ③ 「表現の工夫」は、歌い方の工夫について、次の観点を踏まえ記述しているか、総合的に判定する
 a ① 「歌詞の内容」に基づいた上の声部での歌い方を明確に記述しているか
 b ② 「上下のパートのかかわり」に基づいた上の声部での歌い方を明確に記述しているか

※生徒の解答例中の①～③ (ab) は、記述の判定の観点の①～③ (ab) に対応

【解答類型における①～③の組合せ】

ーは下位判定により判定せず

観点 類型 番号	① 歌詞の内容	② 上下の パートの かかわり	③ 表現の工夫	内訳	
1	○	○	◎	○	○
2	○	○	○	○	△
3	○	○	○	△	○
4	○	○	△	△	△
5	○	△	▲	—	
6	△	○	▲	—	
7	△	△	▲	—	
8	△	×	▲	—	
	×	△		—	

①歌詞	○	歌詞の意味に触れた上で、自分なりの解釈を記述している。
	△	歌詞に触れているのみ。

②上下のパート	○ 上下の声部の構造的なことを記述している。 △ 声部に触れているのみ。
③表現の工夫	◎ ①, ②に基づいた上の声部の歌い方が明確。 ○ ①, ②のいずれかに基づいた上の声部の歌い方が明確。 △ ①, ②に基づいた上の声部の歌い方に触れているのみ。 ▲ 上の声部の歌い方に触れいているのみ。
③の内訳	○ 上の声部の歌い方が明確。 △ 上の声部の歌い方に触れているのみ。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題3 解答例 (◎ : 正答 ○ : 準正答)
◎ 1	<p>①歌詞は情景について表現してきたが、ここでは「思いを込めて」と作者の意志、気持ちが表現されている。「おもいをこめて」の所を②感謝するように、やさしく歌う。下のパートが上のパートを②追いかけるようにハーモニーを創っている。また、②③b上のパートは主旋律だから少し強めに歌い、下のパートはそれをささえる感じに少し弱く歌う。</p> <p>①, ②, ③a, ③b のすべてを満たしている。</p>
○ 2	<p>①みのりを大切にしているようにかんじるから③aやさしくうたう、②パートにわかかれているので③bお互い支える気持ちで歌います。</p> <p>「上下のパートのかかわり」に基づく歌い方が明確でないので③bを満たさない。</p>
○ 3	<p>②③b次のパートにつながるよう、二分音符をしっかりと伸ばすこと。そして、①「おもいをこめて」という歌詞は③a感情を込めて。</p> <p>歌詞の内容に基づく歌い方が明確でないので③aを満たさない。</p>
4	<p>①「思いを込めて」という歌詞の部分は、歌詞の通り、③a思いを込めて歌いたいです。②下のパートと良いハーモニーを作れるように、③b気持ちを込めてきれいな声で歌いたいです。</p> <p>「歌詞の内容」と「上下のパートのかかわり」に基づく歌い方が明確でないので③a, ③bを満たさない。</p>
5	<p>①「おもいをこめて」の部分を、本当に③おもいをこめてうたう。歌詞は、①③みのりがきれいだったことを伝えたいと思うから、その部分をそう歌いたいと思う。②上のパートも下のパートも③思いをこめてうたう。</p> <p>上下の声部の構造の記述がなく声部に触れているのみであり、歌い方も明確でないので②, ③を満たさない。</p>
6	<p>①「今年の実り」と下のパートの「そっとつつみ」は、②2つのパートで、1つの歌詞になるので、③しっかりうたう。ふうけいをそうぞうしながらうたう。</p> <p>歌詞に触れているのみで、歌い方も明確ではないので①, ③を満たさない。</p>
7	<p>①今年のみのりを②③大事にするように上のパートを歌う</p> <p>歌詞に触れているのみで、上下の声部の構造の記述がなく声部に触れているのみであり、歌い方も明確ではないので①, ②, ③を満たさない。</p>
8	<p>①「おもいをこめて」の部分を③強く発音する。</p>

	歌詞に触れているのみであり、歌い方も明確でないので①、③を満たさない。また、上下の声部に関する記述がない。
9	②大きな声ではっきりとうたう 音程が③はずれないように歌う 解答類型 8までの条件に当てはまらない。

※解答例は生徒の記述のまま。ただし、一部抜粋等によって示した。以下、同じ。

④ 分析・考察

○ 表現の工夫に結び付くように、歌詞の内容を自分なりに解釈できるよう指導を工夫する。

歌詞にふさわしい情景や心情を選択する問題1(1), (2)の両方を正答した生徒は84.8%であった。しかし、本問では、「歌詞の内容」についてその意味に触れた上で自分なりの解釈を記述した生徒（解答類型1～5）は29.1%であった。このことから歌詞の内容を理解するだけではなく、表現の工夫に結び付くように、歌詞の内容を自分なりに解釈できるよう指導を工夫することが大切である。そのためには、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素の働きとをかかわらせて、どのように表現するのかについて思考する場面をもつことなどが考えられる。

問題3 ①歌詞の内容について具体的に記述 (解答類型1～5)	29.1%
問題1(1)と(2)の両方が正答	84.8%

○ 表現の工夫に結び付くように、上下の声部の役割について理解が深まるよう指導を工夫する。

課題曲の楽譜を見て、声部の役割を選択する問題2の通過率は51.4%であった。しかし、本問では、「上下の声部の役割」についてその構造を記述した生徒（解答類型1～4, 6）は32.9%であった。このことから、表現の工夫に結び付くように、声部のかかわりについて理解が深まるよう指導を工夫することが大切である。

問題3 ②上下のパートの役割について具体的に記述 (解答類型1～4, 6)	32.9%
問題2の通過率	51.4%

そのためには、自分の声部のみならず、他の声部も歌うなどして、それぞれの声部が音楽全体の中でどのような役割を担っているか、また、その役割が楽曲の中でどのように変化し、全体としてどのような調和を生み出しているかなどを実感しながら、ふさわしい表現について思考する場面をもつことなどが考えられる。

○ 表現の工夫とその理由について言葉で述べることができるよう指導を工夫する。

「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に記述した生徒（解答類型1～3）は13.0%であった。また、解答類型4～6の生徒は、いずれも「歌詞の内容」や「上下の声部のかかわり」の両方又はいずれかについて具体的に記述しているものの、表現の工夫について明確に記述することができていなかった。

のことから、表現の工夫とその理由をかかわらせることについて、次のような課題があると考えられる。

- ・ 音楽を形づくっている要素やそれらの働きと実際の歌唱表現の工夫とを結び付けて考えることができていない
- ・ 工夫したいことやその理由について、思考・判断したことを言葉で表すことができていない

これらのことから、歌唱の活動を通して、音楽を形づくっている要素とそれらの働きなどをとらえ、それを基にして、どのように表現するかについて理由を含めて考え、言葉で表すことができるようになることが必要であると考えられる。

そこで、表現の工夫を記述することと「楽譜の基礎知識」との関連を見るため、本問を通過した生徒と通過しなかった生徒に分けて、下に示す調査I問題3～8(全12問)について通過した問題数の平均を算出した。なお、調査Iにおける「楽譜の基礎知識」に関する問題は、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号の理解などを問うものである。

【調査I 「楽譜の基礎知識」に関する問題】

問題3 調性

問題6 階名

問題4 拍子

問題7・8 用語や記号

問題5 リズム

【問題3と「楽譜の基礎知識」との関連】

「楽譜の基礎知識」 通過した問題数の平均 (全12問)		
問題3	通過(142人)	8.7
	その他(948人)	6.7

この結果、上の表のように、問題3を通過した生徒が調査I問題3～8において通過した問題数の平均は、通過しなかった生徒の平均よりも2.0ポイント高かった。このことから、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、それらの働きを用語や記号などとかかわらせて理解することと、実際の歌唱表現の工夫とその理由について言葉で表すことには関連があると考えられる。

指導に当たっては、自分なりの歌唱表現の工夫とその理由について言葉で述べることができるよう、音楽活動を通して、生徒が音楽を形づくっている要素に着目し、それらの要素の働きが生み出す表情などを感じ取りながら、音楽の用語や記号などの楽譜の基礎知識と結び付けていくよう指導を工夫することが大切である。

(4) 問題 4

歌詞の内容や声部の役割と強弱の工夫

—強弱による表現の工夫を考え、楽譜に記入する—

① 出題の趣旨

歌唱の表現においては、歌詞の内容や旋律とのかかわり、楽曲の全体構成、声部の役割などをとらえて解釈するとともに、自らの表現意図をもつことが大切である。自発的な表現の工夫を行っていく上で大切な点の一つは、速度や強弱などの音楽を形づくっている要素が音楽の表現にどのようにかかわっているのかを理解し、それらの働きがもたらす曲想の変化などを意識することである。

問題 4 は、上下の声部の強弱による表現の工夫について、強弱記号で表しているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 A 表現(1) クに関する内容である。

なお、本問は、問題 2、問題 3 と関連させ、強弱についての表現の工夫に焦点を絞って出題した。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
4	上下の声部の強弱による表現の工夫について、強弱記号で表しているかを問う	強弱による表現の工夫を考え、強弱記号を楽譜に記入する	A(1) ク

② 調査問題の概要

問題 4 は、強弱による表現の工夫を考え、強弱記号を楽譜に記入する問題である。

歌詞の内容と旋律とのかかわりや楽曲の構造にも着目して強弱の工夫を考えられるように、強弱の記号を三段目と四段目に分けて記入するようにした。また、自分の担当する声部だけではなく、他の声部の役割なども理解し、全体の響きに調和させて歌唱することが大切であることから、本問では、強弱を上の声部と下の声部のそれぞれに記入することとした。

なお、強弱記号は、**p**, **mp**, **mf**, **f**, **<**, **>** の 6 種類を示し、これらの中から選択して、記入することとした。

【調査問題 問題4】

問題4

あなたはこの曲を歌うとき、楽譜の三段目と四段目について、どのように強弱を工夫して歌いますか。解答欄に示した選択肢から必要な記号を用いて、あなたが考えた強弱を左側の楽譜の□の中に書き入れなさい。その際、上のパートと下のパートのそれぞれに記号を書きなさい。また、同じ記号を繰り返し用いてもかまいません。

問題4 選択肢

p **mp** **mf** **f**



意味 (弱く) (少し弱く) (少し強く) (強く) (だんだん強く) (だんだん弱く)

■ 楽譜

上のパート *mf*

一音目 下のパート い う ひ に ぱ え る さ と 市 表 一 四

二段目 き い ろ る あ か く そ ま る き き

-----A----- B-----

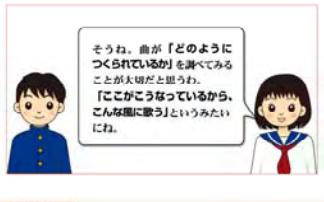
上のパート ことしのみ の 一 り お も い を こ め て

二段目 そ つ と つ み お ろ い を こ め て

-----C-----

四段目 か ぜ ふ く た ひ に ふ か ま る あ き
か せ ふ く た ひ に ふ か ま る あ き

【出題プログラム 問題2, 3, 4 (再掲)】

プログラムの内容	ナレーション (抜粋)
 <p>「表現を工夫する」って、どんなことを考えればいいのかなあ。</p>	(二人の生徒の会話) 「表現を工夫する」って、どんなことを考えればいいのかなあ。
 <p>そうね、曲が「どのようにつくられているか」を調べることが大切だと思うわ。「ここがこうなっているから、こんな風に歌う」というみたいにね。</p>	そうね。曲が「どのようにつくられているか」を調べることが大切だと思うわ。「ここがこうなっているから、こんな風に歌う」というみたいにね。
 <p>皆さんも考えてみてね。</p>	そうか、「歌詞が表している内容」を音楽で表すために、「旋律」や「リズム」などが、どのようにになっているかを見付ければいいよね。
<p>問題2,3,4に答えてください。 問題は、問題用紙を見てください。 答えは解答欄に書いてください。 時間は6分間です。</p>	それに合唱の部分は、上と下のパートの旋律が、どのようにかかわっていて、どんな役割をもっているかを考えると、表現を工夫するヒントが見付かるんじゃない。 皆さんも考えてみてね。 (ナレーション) それでは、問題用紙の問題2, 問題3, 問題4を読んで答えてください。解答時間は6分間です。答えは解答欄に書いてください。ここでは、ヘッドホンを外して、コンピュータのキーボードの上に置いてから答えてください。

③ 調査結果の概要

- 強弱記号を上下の声部の両方、又はいずれかに一つ以上記入した生徒は約9割であった。

本問では、強弱記号を「上のパート」と「下のパート」にそれぞれ一つ以上、記入したもの（解答類型1）を正答とし、強弱記号を「上のパート」のみに一つ以上、記入したもの（解答類型2）、及び強弱記号を「下のパート」のみに一つ以上、記入したもの（解答類型3）を準正答としている。正答した生徒が81.0%と最も多く、準正答である解答類型2、解答類型3の生徒はそれぞれ3.5%，6.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 90.6%

類型番号	問題4 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	強弱記号を「上のパート」と「下のパート」にそれぞれ一つ以上、記入しているもの	81.0%
○ 2	強弱記号を「上のパート」のみに一つ以上、記入しているもの	3.5%
○ 3	強弱記号を「下のパート」のみに一つ以上、記入しているもの	6.1%
9	上記以外の解答	0.2%
0	無解答	9.2%

④ 分析・考察

- 強弱による表現の工夫を考え、強弱記号を楽譜に記入することについては、相当数の生徒ができていた。

本問の通過率は90.6%であり、強弱による表現の工夫を考え、強弱記号を楽譜に記入することについては、相当数の生徒ができていた。しかし、無解答の生徒が9.2%いたことから、強弱記号を用いて自らの工夫を表すことに課題のある生徒がいることが考えられる。

指導に当たっては、強弱を表す記号の意味を理解することだけではなく、強弱の働きが音楽に様々な変化をもたらすことを実感できるよう工夫することが大切である。

(5) 歌唱実技

表現の工夫を生かした歌唱

—問題1～4の解答を通して思考してきたことを基に、上の声部を歌唱する—

① 出題の趣旨

歌唱の表現活動においては、歌詞の内容、声部の役割、速度や強弱の働きなどの様々な観点から学習を深め、曲想を味わい、表現の工夫を考え、それを実際に歌唱で表すために必要な技能を高めていくことが大切である。

歌唱実技では、生徒が問題1～4の解答を通して思考してきたことを基に、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌っているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容A表現(1)ア、エ、キ、クに関する内容である。

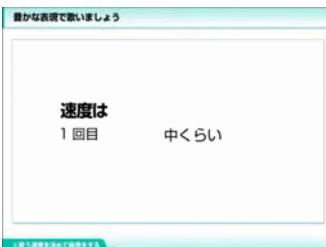
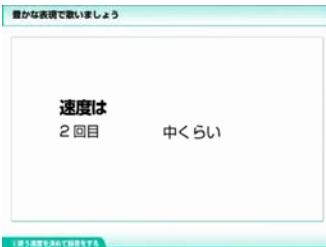
	出題の ねらい	出題 内 容	学習指導要領 との関連
歌 唱 実 技	豊かな表現で歌って いるかを問う	(1)音高	問題1～4の解答を通して思 考してきたことを基に、上の 声部を歌唱する
		(2)音価	A(1)キ
		(3)強弱	A(1)キ
		(4)総合的な 表現	A(1)ク A(1)ア・エ ・キ・ク

② 調査問題の概要

ここでは、問題3で解答した表現の工夫や問題4で解答した強弱などを生かして、生徒一人一人が課題曲を歌唱し、それを録音したデータについて(1)「音高」、(2)「音価」、(3)「強弱」、(4)「総合的な表現」の各観点から採点をすることによって歌唱実技の内容を把握することとした。

録音をする際は、生徒が3種類の異なる速度の伴奏の中から自分が歌唱したい速度を選べるようにした。録音は2回行い、1回目の録音をすぐに自分で聴くことができるようとした。1回目の録音を聴く前に、ナレーションによって「解答用紙にあなたが書いた表現で歌うことができましたか」と問い合わせたり、2回目の録音の前に「あなたが考えた表現の工夫を十分に生かした演奏となるように、しっかりと歌ってください」と語りかけたりして、問題3で解答した歌詞の内容と声部の役割に基づく表現の工夫、問題4で楽譜に記入した強弱などを生かし、豊かな表現で歌唱することができるよう配慮した。なお、この調査では2回目の歌唱を用いて分析を行った。

【出題プログラム 歌唱実技】

プログラムの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(ナレーション)</p> <p>問題3で答えた表現の工夫や問題4で答えた強弱を生かして、上のパートを3回歌いましょう。</p> <p>まず1回目は中くらいの速さで歌います。2回目からは少し速くしたり、少し遅くしたりして、歌う速さを変えることができます。楽譜を手に持って背筋を伸ばして歌いましょう。では、始めます。</p>
	<p>(歌唱練習1)</p> <p>(範唱とともに歌う 中くらいのテンポ)</p>
	<p>(ナレーション)</p> <p>あと2回歌います。コンピュータの画面の「速い」、「中くらい」、「遅い」のいずれかをクリックしてください。あなたが歌う速さを選ぶことができます。では、クリックしてください。なお、クリックしない場合は、「中くらい」になります。</p>
	<p>(歌唱練習2)</p> <p>(範唱とともに歌う 選択したテンポ)</p>
	<p>(ナレーション)</p> <p>あと1回歌います。歌う速さを選んでクリックしてください。</p>
	<p>(歌唱練習3)</p> <p>(範唱とともに歌う 選択したテンポ)</p>

	<p>(ナレーション) あなたがこの曲に最もふさわしいと思う速度を決定して、最終的に選んだ速さの「速い」、「くらい」、「遅い」のいずれかをクリックしてください。最終的にあなたが歌う速さになります。では、クリックしてください。</p>
	<p>(ナレーション) これまでの成果を歌で表現しましょう。あなたの声が録音されます。少し緊張するかもしれません、豊かな表現で歌いましょう。録音前に最後の練習を1回行います。あなたが選んだ速度で音声が流れます。</p>
	<p>(最後の歌唱練習) (範唱とともに歌う 選択したテンポ 楽譜表示なし)</p>
	<p>(ナレーション) これから録音します。録音は2回行います。しっかりと歌ってください。では、始めます。 (録音 1回目) (一人で歌う 選択したテンポ 楽譜表示なし)</p>
	<p>(ナレーション) ここで、今録音した歌を聴いてみましょう。 解答用紙にあなたが書いた表現で歌うことができましたか。 (録音した歌を聴く)</p>
	<p>(ナレーション) 次が最後の録音です。あなたが考えた表現の工夫を十分に生かした演奏となるように、しっかりと歌ってください。 それでは録音します。 (録音 2回目) (一人で歌う 選択したテンポ 楽譜表示なし)</p>

【採点方法】

(1) 音高採点

録音を聴き、正しい音高で歌っているかを採点した。

(2) 音価採点

三段目、四段目を4つのフレーズに分けて聴き、それぞれフレーズごとの音価について下の採点基準に照らして採点した。

- ・ 該当フレーズの音価はほぼ正しい
- ・ 該当フレーズの音価は誤っている
- ・ 該当フレーズを歌っていない

(3) 強弱採点

生徒が解答用紙の楽譜に記入した強弱記号を見ながら聴取し、三段目、四段目の4つのフレーズごとに、強弱の変化の様子を下の採点基準に照らして採点した。

- ・ そのフレーズにかかる強弱の記入があり、それをほぼ正しく表現していると聞き取れるもの
- ・ そのフレーズにかかる強弱の記入があり、それがうまく表現できていないと聞き取れるもの
- ・ そのフレーズにかかる強弱の記入がなく、フレーズ全体を歌っている
- ・ 一部又は全体を歌っていない

(4) 総合的な表現採点

次の①、②の順に採点を行った。

① 生徒の問題3の表現の工夫に関する解答は読まずに全体を通して聴き、下の

(a) 基づき採点した。

- ・ 豊かな表現が全体にわたって認められる
- ・ 豊かな表現がわずかに認められる
- ・ 豊かな表現が認められない

【豊かな表現が認められる例】

- 主体的、意欲的な表現
- 声の音色（思いや意図が声（音質や発音などを含む）に表れているなど）
- 音のつながり（楽曲のもち味としてのレガートなど）
- 自然な抑揚（旋律線のもつ方向性、微妙な速度や強弱の変化など）
- フレーズ（フレーズの始めから終わりまで）のまとまり
- 曲全体の構成感（三段目を他と比べて盛り上げているなど）

（留意点）

- ・ 発声そのものや資質として持ち合わせている声質を直接的に評価しない。
- ・ 上記全体に必然的に含まれる音高、リズムなどの正しさのみを取り出して評価しない。

② 生徒の問題3の解答を読んで、三段目の上の声部をどのように工夫して歌いたいかを把握した上で、再度全体を通して聴き、三段目上の声部の歌唱について下の(b)に基づき採点した。

(b)

- ・ 三段目の上の声部をどのように工夫して歌いたいかについて、問題3の解答に合う表現が認められる
- ・ 三段目の上の声部をどのように工夫して歌いたいかについて、問題3の解答に合う表現が認められない

これらの採点結果を基にそれぞれの解答類型に照らして類型を確定した。

③ 調査結果の概要

○ おおむね正しい音高で歌っている生徒は約6割であった。

(1)では、ほぼ正しい音高で歌っていると認められるもの（解答類型1）を正答とし、音高が違う箇所もあるが、ほぼ正しい音高で歌っていると認められるもの（解答類型2）を準正答としている。正答した生徒が42.2%と最も多く、次に準正答が20.9%であった。続いて、ほとんどの部分で違った音高で歌っているものと認められるもの（解答類型4）が12.6%，全体を通じて、まったく違った音高で歌っていると認められるもの（解答類型5）が12.1%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 63.1%

類型番号	歌唱実技(1) 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	ほぼ正しい音高で歌っていると認められるもの	42.2%
○ 2	音高が違う箇所もあるが、ほぼ正しい音高で歌っていると認められるもの	20.9%
3	一部を歌っていないが、歌っている箇所はほぼ正しい音高で歌っていると認められるもの	2.7%
4	ほとんどの部分で違った音高で歌っていると認められるもの	12.6%
5	全体を通じて、まったく違った音高で歌っていると認められるもの	12.1%
6	一部を歌わず、歌っている箇所は違った音高で歌っていると認められるもの	0.0%
9	上記以外の解答（ほとんどの部分を歌っていないと認められるもの）	1.6%
0	無解答（歌っていない）	8.0%

○ おおむね正しい音価で歌っている生徒は約8割であった。

(2)では、すべてのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの（解答類型1）を正答とし、3つのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの（解答類型2）を準正答としている。正答した生徒が60.7%と最も多く、次に準正答が19.4%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 80.1%

類型番号	歌唱実技(2) 解答類型 (◎ : 正答 ○ : 準正答)	反応率
◎ 1	すべてのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの	60.7%
○ 2	3つのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの	19.4%
3	2つのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの	8.3%
4	1つのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていると認められるもの	3.0%
9	上記以外の解答 (すべてのフレーズにおいて、音価を正しく歌っていないと認められるもの)	0.6%
0	無解答 (歌っていない)	8.0%

○ 楽譜に記入した強弱記号におおむね従って歌っている生徒は約3割であった。

(3)では、解答用紙の楽譜に記入した強弱記号を見ながら聴取し、採点した。楽譜に記入した強弱記号に従って表現しているもの（解答類型1）を正答とし、楽譜に記入した強弱記号にほぼ従って表現しているもの（解答類型2）を準正答としている。正答した生徒が9.5%であり、準正答が16.8%であった。楽譜に記入した強弱記号に従って、歌唱できていないもの（解答類型6）が31.2%と最も多く、次に、楽譜に記入した強弱記号に従って表現できているところとできていないところがあるもの（解答類型3）が20.9%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 26.3%

類型番号	歌唱実技(3) 解答類型 (◎ : 正答 ○ : 準正答)	反応率
◎ 1	楽譜に記入した強弱記号に従って表現しているもの	9.5%
○ 2	楽譜に記入した強弱記号にほぼ従って表現しているもの	16.8%
3	楽譜に記入した強弱記号に従って表現できているところとできていないところがあるもの	20.9%
4	一部を歌っていないが、歌っているところは、楽譜に記入した強弱記号に従って表現しているもの	0.1%
5	一部を歌っていないが、歌っているところは、楽譜に記入した強弱記号に従って表現できているところとできていないところがあるもの	0.6%
6	楽譜に記入した強弱記号に従って、表現できていないもの	31.2%
9	上記以外の解答 (楽譜に強弱記号の記入がないもの、歌ったり歌わなかつたりしているもの)	12.9%
0	無解答 (歌っていない)	8.0%

- 豊かな表現が全体又はわずかに認められ、かつ、自分が考えた表現の工夫を生かして歌った生徒は約3割であった。

(4)では、豊かな表現で歌うこと及び自分が考えた表現の工夫を生かして歌うことの両方を重視することとし、豊かな表現が全体にわたって認められ、工夫したいことを生かして歌っていると認められるもの（解答類型1）を正答とし、豊かな表現がわずかに認められ、かつ、工夫したいことを生かして歌っていると認められるもの（解答類型2）を準正答としている。正答した生徒は18.3%，準正答が8.9%，通過率が27.2%であった。

豊かな表現及び工夫したいことを生かして歌っていることが認められないもの（解答類型9）が29.5%で最も多く、次に、豊かな表現はわずかに認められるが、工夫したいことを生かして歌っていると認められないもの（解答類型4）が25.6%であった。

なお、「豊かな表現で歌うこと」が全体又はわずかに認められる生徒（解答類型1～4）は、61.3%であった。また、「自分が考えた表現の工夫を生かして歌うこと」が認められる生徒（解答類型1，2，5）は、28.4%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 27.2%

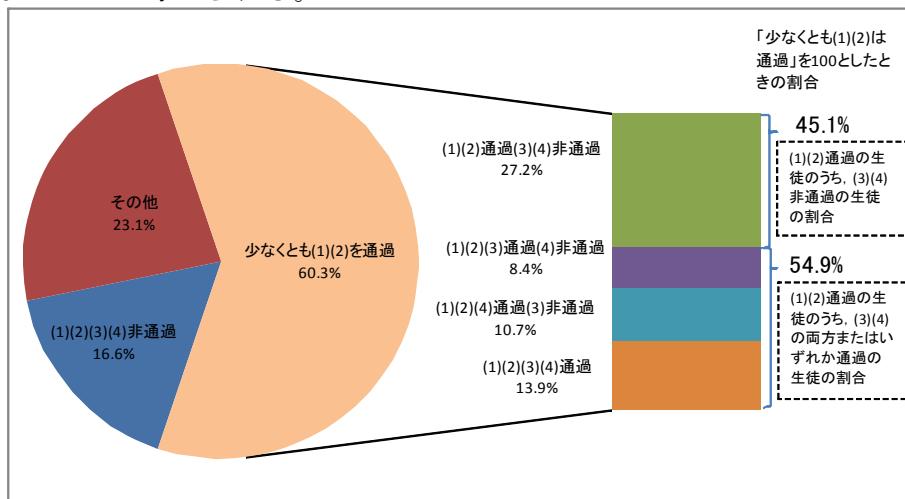
類型番号	歌唱実技(4) 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	豊かな表現が全体にわたって認められ、工夫したいことを生かして歌っていると認められるもの	18.3%
○ 2	豊かな表現がわずかに認められ、かつ、工夫したいことを生かして歌っていると認められるもの	8.9%
3	豊かな表現は全体にわたって認められるが、工夫したいことを生かして歌っていると認められないもの	8.4%
4	豊かな表現はわずかに認められるが、工夫したいことを生かして歌っていると認められないもの	25.6%
5	豊かな表現は認められないが、工夫したいことを生かして歌っていると認められるもの	1.2%
9	上記以外の解答 (豊かな表現及び工夫したいことを生かして歌っていることが認められないもの)	29.5%
0	無解答（歌っていない）	8.0%

④ 分析・考察

- 曲にふさわしい表現を自分なりに見いだし、歌唱できるよう指導を工夫する。
〔音高と音価の両方を正しく歌った生徒のうち約半数は、自分が考えた強弱や表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことができなかった〕

歌唱実技の結果から、下のグラフで示したように、課題曲の音高と音価の両方を正しく歌った生徒（少なくとも(1), (2)の両方を通過した生徒）は60.3%であった。このうち、自分が考えた強弱を生かして歌うこと、豊かな表現で歌うこと、自分が考えた表現の工夫を生かして歌うことができた生徒 ((1), (2)

の両方を通過し(3), (4)の両方又はいずれかを通過した生徒)は54.9%であった。このことから、音高と音価を正しく歌う技能を身に付けている生徒の約半数は、自分が考えた強弱や表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことができなかつたと考えられる。



なお、本問において(1)「音高」、(2)「音価」、(3)「強弱」、(4)「総合的な表現」のすべてを通過した生徒は13.9%，(1)，(2)，(3)を通過し、(4)のみ通過しなかつた生徒は8.4%，(1)，(2)，(4)を通過し、(3)のみ通過しなかつた生徒は10.7%であった。

[「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に表すことのできる生徒は、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことができた]

調査Ⅱ A問題3において、「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に記述した生徒（問題3を通過した生徒）のうち、本問(4)「総合的な表現」を通過した生徒は57.7%，また、調査Ⅱ A問題3を通過しなかつた（無解答除く）生徒のうち本問(4)を通過した生徒は26.9%であった。したがって、調査Ⅱ A問題3を通過した生徒の本問(4)の通過率は、調査Ⅱ A問題3を通過しなかつた（無解答除く）生徒の本問(4)の通過率より30.8ポイント高かった。

このことから、「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に表すことができる生徒は、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことがよりできる傾向があると考えられる。

Ⅱ A 歌唱実技 (4) 総合的な表現			
Ⅱ A 問題3	通過	通過	
		その他	その他 (無解答除く)
	通過	57.7% (82人)	42.3% (60人)
	その他 (無解答除く)	26.9% (215人)	73.1% (583人)

〔音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解することと、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことや、その表現を支える技能を身に付けることには関連が見られた〕

歌唱実技と「楽譜の基礎知識」との関連を見るため、本問を通過した生徒と通過しなかった生徒に分けて、下に示す調査I問題3～8（全12問）について通過した問題数の平均を算出した。なお、調査Iにおける「楽譜の基礎知識」に関する問題は、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号の理解などを問うものである。

【調査I 「楽譜の基礎知識」に関する問題】

問題3 調性

問題6 階名

問題4 拍子

問題7・8 用語や記号

問題5 リズム

【歌唱実技(1)～(4)と「楽譜の基礎知識」との関連】

「楽譜の基礎知識」 通過した問題数の平均 (全12問)		
歌唱実技	通過(688人)	7.7
(1)音高	その他(402人)	5.6
歌唱実技	通過(873人)	7.3
(2)音価	その他(217人)	5.3
歌唱実技	通過(287人)	8.3
(3)強弱	その他(803人)	6.4
歌唱実技	通過(297人)	8.5
(4)総合的な表現	その他(793人)	6.3

この結果、上の表のように、歌唱実技(1)～(4)のそれぞれについて、通過した生徒における調査I問題3～8の通過した問題数の平均は、通過しなかった生徒の同平均よりも約2.0ポイント高かった。

音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解することと、自分が考えた表現の工夫を生かして豊かな表現で歌うことや表現を支える技能を身に付けることには関連が見られた。

これまでの分析により、次のことが考えられる。

- ・ 音高と音価の両方を正しく歌った生徒のうち約半数は、自分が考えた強弱や表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことができなかつた
- ・ 「歌詞の内容」と「上下の声部のかかわり」を具体的に述べ、両方又はいずれかに基づく表現の工夫を明確に表すことのできる生徒は、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことができた
- ・ 音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解

することと、自分が考えた表現の工夫を生かし、豊かな表現で歌うことや、その表現を支える技能を身に付けることには関連が見られた

これらのことから、指導に当たっては、調査Ⅰで見たような楽譜の基礎的な知識などを身に付ける学習と関連させながら、曲にふさわしい表現を自分なりに見いだし、生徒一人一人が音楽で表したい思いや意図をもつこと、どのように歌うかについて言葉で表すことができるようになることなど、自分が表したいことを考える過程を重視する必要がある。その上で、音高や音価などを正しく歌うだけではなく表現のために必要な技能を伸ばしながら、自分が表したいことを豊かな表現で実現できるようにすることが求められる。

3 調査ⅡBにおける調査結果

(1) 問題1・2・3

イメージと音楽を形づくっている要素とのかかわり

—ピアノ曲を聴き、イメージに合う天気を選択・記述し、その要因となる要素を選択する—

① 出題の趣旨

音楽の鑑賞においては、音楽によって喚起される自己のイメージや感情、それらの変化などを意識することが重要である。イメージは音楽を形づくっている要素の働きを知覚することによってもつことができるものである。

問題1と問題2では、イメージをもって音楽をとらえているかを把握し、問題3では、そのイメージをもつことの要因となった要素の変化を知覚しているかを把握する。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年2内容B鑑賞(1)ア、イに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
1	イメージをもって音楽をとらえているかを問う	ピアノによる音楽を聴き、イメージに合う天気（空もよう）を選択する	B(1)ア・イ
2		ピアノによる音楽を聴き、イメージに合う天気（空もよう）を記述する	B(1)ア・イ
3	音楽を形づくっている要素の変化を知覚しているかを問う	ピアノによる音楽を聴き、変化した要素（リズム、調）を選択する	B(1)ア・イ

② 調査問題の概要

調査ⅡBは鑑賞の能力を把握する調査である。問題1～5では、次のA部～C部の3部から構成された平易なピアノ曲を使用した。（楽譜参照）

A部：短調による8小節の簡易な主題

B部：A部の主題を同主長調に転調させ、スキップの軽快なリズムに変化させたもの

C部：A部主題について、強弱や拍子、リズムなどを大きく変化させたもの

問題1は、短調による8小節の簡易な主題であるA部についてのイメージを問う問題である。鑑賞問題の第1問目であるので、生徒がイメージをもちやすいように、いくつかの天気（空もよう）を選択肢として挙げ、その中から自分のイメージに近いものを選択させるように配慮した。

問題2は、A部の主題を同主長調に転調させ、さらにスキップの軽快なリズムに変化させたB部について、イメージを天気（空もよう）で記述する問題である。問題1と同様、イメージとして、天気（空もよう）を取り上げることで、問題1が問題2を解答する手掛かりとなるように配慮した。

問題3は、A部からB部について、変化した要素（リズム、調）を選択する問題である。具体的には、短調による8小節の簡易な主題であるA部と、A部がそのまま同主長調に転調し、さらにスキップの軽快なリズムに変化しているB部を聴き、A部とB部の諸要素の働きの違いに対する知覚を問うこととした。

【調査II B鑑賞ピアノ曲】

A Andante ($\text{♩} = 76$)
 mp Cに入るまで同じ強さで
 (同じ速度で)
 mp
 Cresc.
 ff subito pp cresc. mp
 mf decresc. mp

【調査問題 問題1】

問 題

1

これから聴く音楽は、音楽A、音楽B、音楽Cの三つの部分でで
きています。

音楽Aを聴いた感じについて、そのイメージを天気（空もよう）
で言い表すとしたら、あなたはどのような天気（空もよう）をイメ
ージしますか。あなたのイメージにもっとも近いものを、下の1か
ら7の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

1 晴れ

2 うす曇り

3 どんよりとした曇り

4 小雨

5 大雨

6 小雪

7 大雪

【調査問題 問題2】

問 題

2

音楽Bを聴いた感じについて、天気（空もよう）で言い表すとし
たら、あなたはどのような天気（空もよう）をイメージしますか。
そのイメージを自由に解答欄に書きなさい。

解
答
欄

【調査問題 問題3】

問題
3

音楽Bは、はじめに聴いた音楽Aと比べて、どのようなところに違いがありましたか。その違いについて、下の1から6の中からふさわしいものを二つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。

1 楽器が変わった

2 リズムが変わった

3 形式が変わった

4 速度が変わった

5 調が変わった

6 強弱が変わった

解 答 欄		
-------------	--	--

【出題ビデオ 問題1，2，3】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(作曲家) やあ、中学生のみなさん、こんにちは。私が作曲したピアノの音楽を、ぜひ、皆さんに聴いてもらいたい。実は、この音楽は、昨日できたばかりの全く新しい曲なんだ。この曲はね、音楽A、音楽B、音楽Cの三つの部分でできているんだよ。では、一度全体を通して聴いてもらいます。
 音楽A	(音楽を視聴する)



(作曲家)

みなさん、私のこの曲、どのように感じてくれたかな。



(ナレーション)

では、ここで問題1です。表紙を開いて、1ページ目を開けてください。音楽Aを聴いた感じについて、そのイメージを天気や空もようで言い表すとしたら、あなたはどのような天気や空もようをイメージしますか。あなたのイメージに最も近いものを、下の1から7の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。それではもう一度、音楽Aだけ聴いてみましょう。



(音楽Aを聴く)

(ナレーション)

では、問題1の解答欄にその番号を書いてください。時間は15秒間です。



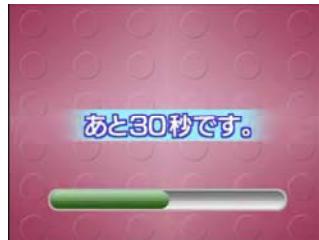
(作曲家)

次はこの曲の中間部、音楽Bについて、みなさんのイメージを聞かせてくれるかな。



(ナレーション)

では、問題2です。2ページ目を開いてください。音楽Bを聴いた感じについて、天気や空もようで言い表すとしたら、あなたはどのような天気や空もようをイメージしますか。そのイメージを自由に解答欄に書きなさい。



(音楽Bを聴く)

(ナレーション)

では、問題2の解答欄に書いてください。時間は1分間です。

	<p>(作曲家) 実は、音楽Bは、音楽Aとある違いをもたせて作つたんだ。みなさんが書いてくれた音楽Bのイメージは、その違いによって生まれたものではないかな。その違いは何か、考えてほしいんだ。</p>
<p>問題 3</p>	<p>(ナレーション) 3ページ目を開けて、問題3を見てください。音楽Bは、初めに聴いた音楽Aと比べて、どのようなところに違いがありましたか。その違いについて、以下の1から6の中からふさわしいものを二つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。</p>
<p>音楽A</p>	<p>(音楽AとBを聴く) (ナレーション) では、問題3の解答欄にその番号を記入してください。時間は30秒間です。</p>
<p>音楽B</p>	<p>(ナレーション) もう一度、音楽Aと音楽Bを続けて聴きます。 (音楽AとBを聴く)</p>

③ 調査結果の概要

- 音楽を聴き、選択肢の中から自分のイメージに近いものを選択することはほとんどの生徒ができていた。

問題1は、選択肢として提示された天気（空もよう）の中から自分のイメージに最も近いものを選択することとし、何らかのイメージを選択したもの（解答類型1～7）を正答としている。正答した生徒は99.8%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 99.8%

類型番号	問題1 解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	1と解答しているもの（晴れ）	1.6%
◎2	2と解答しているもの（うす曇り）	12.3%
◎3	3と解答しているもの（どんよりとした曇り）	20.1%
◎4	4と解答しているもの（小雨）	36.3%
◎5	5と解答しているもの（大雨）	3.4%
◎6	6と解答しているもの（小雪）	24.9%
◎7	7と解答しているもの（大雪）	1.1%

9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.2%

- 手掛かりを与えた中で自分のイメージを記述することはほとんどの生徒ができていた。

問題2では、イメージについて、A部（問題1の解答）とは異なる天気（空もよう）を豊かな表現で記述したもの（解答類型1）、イメージについて、A部（問題1の解答）とは異なる天気（空もよう）を簡便な表現で記述したもの（解答類型2）、イメージについて、A部（問題1の解答）と同じ天気（空もよう）を記述したもの（解答類型3）を正答とし、それぞれ68.2%，28.4%，0.7%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 97.4%

類型番号	問題2 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎1	イメージについて、A部（問題1の解答）とは異なる天気（空もよう）を豊かな表現で記述しているもの	68.2%	
◎2	イメージについて、A部（問題1の解答）とは異なる天気（空もよう）を簡便な表現で記述しているもの	28.4%	
◎3	イメージについて、A部（問題1の解答）と同じ天気（空もよう）を記述しているもの	0.7%	
4	天気（空もよう）とは特定できないイメージのみを記述しているもの	0.8%	
9	上記以外の解答	1.2%	
0	無解答	0.6%	

- 音楽を聴き、変化した要素としてリズムと調の両方を選択した生徒は約5割であった。

問題3では、リズムと調の両方を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が45.9%と最も多く、リズムあるいは調のいずれか一方のみを含む解答類型2、解答類型3はそれぞれ34.3%，14.5%であった。

【解答類型ごとの反応率】 通過率 45.9%

類型番号	問題3 解答類型	(◎：正答)	反応率
◎1	2と5（順不同）の両方を解答しているもの	45.9%	
2	2を含み、他方は5以外を解答しているもの	34.3%	
3	5を含み、他方は2以外を解答しているもの	14.5%	
9	上記以外の解答	5.0%	
0	無解答	0.3%	

④ 分析・考察

- イメージを豊かにもつことができるよう指導を工夫する。

問題2の正答のうち解答類型1の生徒（68.2%）は、一般的に使われている天

気（空もよう）を表す用語だけではなく、「白い雲が流れている青空」、「太陽の光に照らされて光る粉雪」のように音楽から感じ取ったことをイメージ豊かに記述していた。解答類型2の生徒（28.4%）は、「快晴」のように一般的に使われている天気（空もよう）を簡便に記述していた。さらに、解答類型3の生徒（0.7%）は、A部（問題1の解答）と同じ天気（空もよう）を記述していた。

解答類型1のように、聴いた音楽に対するイメージを膨らませていくことは、曲想の感じ取りを深めていくことにつながっていく。そのためには、生徒がイメージを豊かにもつことができるよう指導することが大切である。具体的には、音楽から喚起された感情を比喩的な言葉に置き換えて表すこと、音楽が醸し出す表情と生活経験を結び付けて述べること、友達との話し合いを通して人によって異なるイメージをもつことを体験することなどが考えられる。

○ 様々な要素に気付き、それらの働きとイメージとを結び付けて、曲想を深く味わうことができるよう指導を工夫する。

問題3では、リズムと調の両方を選択したものを正答としている。そこで、本問と調査Iにおける問題3（長調と短調の知覚）及び問題5（リズムの知覚と楽譜とのかかわり）の結果との関連を見ることとした。下の表に示すように、調査I問題3を通過した生徒のうち本問を通過した生徒（解答類型1）は54.3%，調査I問題3を通過しなかった生徒のうち本問を通過した生徒は40.3%，調査I問題5を通過した生徒のうち本問を通過した生徒は54.8%，調査I問題5を通過しなかった生徒のうち本問を通過した生徒は38.7%であり、両問とも、通過した生徒の方が通過しなかった生徒より、本問の通過率が高かった。なお、調査II B問題3の通過率は45.9%であった。

調査II B問題3			
		通過	その他
		45.9% (982人)	54.1% (1,157人)
調査I 問題3 (長調と短調の知覚)	通過	54.3% (465人)	45.7% (392人)
	その他	40.3% (517人)	59.7% (765人)
調査I 問題5 (リズムの知覚と譜とのかかわり)	通過	54.8% (526人)	45.2% (434人)
	その他	38.7% (456人)	61.3% (723人)

また、問題2において、B部についてA部と異なるイメージをもった生徒（解答類型1，2）のうち、本問を通過した生徒（解答類型1）は46.6%であった。このことから、B部に対してA部とは異なるイメージをもつことができた生徒のうちの半数以上の生徒は、八分音符の連続からスキップのリズムへの変化、短調から長調への変化の両方又はいずれかについてとらえることができなかつたことが分かる。

A部とB部の音楽について、それぞれ異なるイメージをもてていても、その根拠となる音楽を形づくっている要素の変化をとらえることができなかつた理由と

して、

- ・ リズムや調の概念を十分に理解していない
- ・ 概念は理解しているが、音楽と結び付けて、リズムや調性を聴き取ること
ができない

ことが考えられる。また、楽曲中の1つの要素の変化をとらえることは可能であっても、変化した2つの要素の両方をとらえることが困難であったことも考えられる。

したがって、指導に当たっては、要素同士の関連によって音楽が形づくられていることから、様々な要素に気付くことができるようになることが大切である。さらに、漠然と感じたことやイメージを述べたり記述したりするだけではなく、イメージの根拠を要素の知覚に求め、その要素の働きとイメージとを結び付けていくことが求められる。このような学習を通して、生徒が曲想を深く味わうことができるよう工夫することが大切である。また、音楽の活動を通して、「リズムとはこういうものである」、「長調や短調とはこういうものである」のように、要素について理解を図る指導も大切である。

(2) 問題 4

音楽の特徴と音楽を形づくっている要素とのかかわり

—ピアノ曲を聴き、特徴的な要素を選択し、その特徴を記述する—

① 出題の趣旨

音楽の特徴は、その音楽を形づくっている要素とそれらの働きによってもたらされる。音楽の特徴をとらえることは、楽曲全体を味わって鑑賞することへつながっていく。

問題 4 では音楽の特徴を音楽を形づくっている要素と結び付けて理解しているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 B 鑑賞(1)ア、イに関する内容である。

なお、問題 3 は楽曲の 2 つの部分を比較し、変化した要素の知覚を問うものであったが、問題 4 は、部分を比較することなく、特徴的な要素を自分で探し、どのような特徴があるのかを記述することとした。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
4	音楽の特徴を音楽を形づくっている要素と結び付けて理解しているかを問う	ピアノによる音楽を聴き、特徴的な要素を選択し、その特徴を記述する	B(1)ア・イ

② 調査問題の概要

問題 4 は、C 部について、特徴的な要素を見いだし、提示された要素から選択するとともに、その働きを適切にとらえ、その働きがもたらす特徴を記述する問題である。この C 部は、A 部の主題について、強弱や拍子、リズムなどを大きく変化させたものである。また、要素は「リズム」、「拍子」、「強弱」、「調」、「旋律」、「速度」を提示した。

【調査問題 問題4】

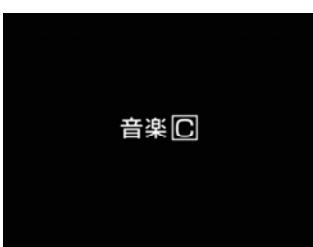
問題
4

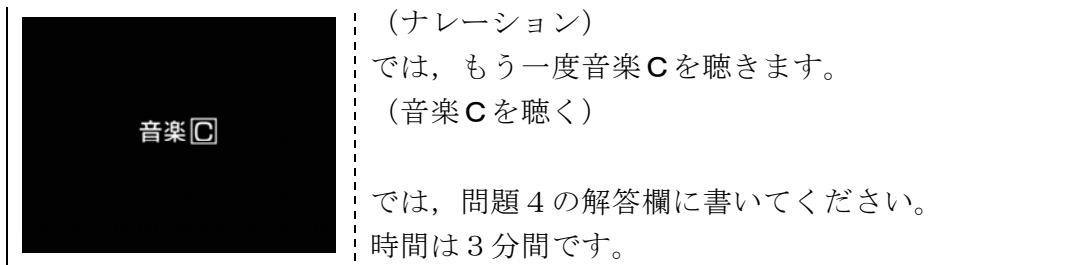
音楽Cを聴いて、もっとも特徴的と思われる音楽の要素を、下の1から6の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。また、選んだ要素について、どのような特徴があるか、解答欄に簡潔に書きなさい。

- | | | |
|-------|------|------|
| 1 リズム | 2 拍子 | 3 強弱 |
| 4 調 | 5 旋律 | 6 速度 |

解 答 欄	要素	特 徵

【出題ビデオ 問題4】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	(作曲家) では、いよいよこの曲の最後の部分、音楽Cを聴いてもらうよ。この音楽Cは、どのような特徴があるか、よく聴いてもらいたい。
	(音楽Cを聴く)
	(ナレーション) では、調査票の4ページ目を開いて、問題4を見てください。音楽Cを聴いて、最も特徴的と思われる音楽の要素を、下の1から6の中から一つ選び、その番号を解答欄に書きなさい。また、選んだ要素について、どのような特徴があるか、解答欄に簡潔に書きなさい。



③ 調査結果の概要

- 選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的かつ心情的、又はそのいずれかの視点で適切な記述をした生徒は約6割であった。

楽曲（音楽C）の特徴となる要素を選択し、その要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的かつ心情的、又はそのいずれかの視点で適切な記述をしたもの（解答類型1～3）を正答としており、正答した生徒は56.3%であった。

正答の内訳をみると、要素の働きがもたらす特徴について客観的に記述したもの（解答類型3）が最も多く46.7%であり、要素の働きによってもたらされている特徴について心情的に記述したもの（解答類型2）が4.7%，その両方について記述したもの（解答類型1）が4.9%であった。

この結果、56.3%（解答類型1～3）の生徒が、選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的かつ心情的、又はそのいずれかの視点で適切に記述することができていた。

また、誤答では、楽曲（音楽C）の特徴として妥当でない記述をしたもの（解答類型5）が27.3%であり、最も多かった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 56.3%

類型番号	問題4 解答類型 (◎：正答)	反応率
◎ 1	選択肢を一つ選択し、かつ、音楽Cの特徴として妥当な記述をしており、その記述は選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的かつ心情的に適切であるもの	4.9%
◎ 2	選択肢を一つ選択し、かつ、音楽Cの特徴として妥当な記述をしており、その記述は選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、心情的に適切であるもの	4.7%
◎ 3	選択肢を一つ選択し、かつ、音楽Cの特徴として妥当な記述をしており、その記述は選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的に適切であるもの	46.7%
4	選択肢を一つ選択し、かつ音楽Cの特徴として妥当な記述をしているが、その記述は選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて誤っている、又は不明瞭であるもの	9.7%
5	選択肢を一つ選択し、かつ音楽の特徴にかかわる記述をしているが、その記述は音楽Cの特徴として妥当でないもの	27.3%

9	上記以外の解答	5.9%
0	無解答	0.7%

■ 解答類型の判定について

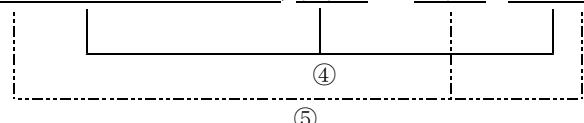
解答類型の判定については、生徒の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

選択肢を一つ選択し、音楽の特徴であり、かつ、音楽Cの特徴として妥当な記述をしており、その記述は

- ① ② ③

選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、客観的かつ心情的に適切である



④

⑤

- ① 選択肢から要素を一つ選択しているか
- ② 音楽の特徴にかかわる記述であるか
- ③ 楽曲（音楽C）の特徴として妥当性があるか
- ④ 選択した要素の働きによってもたらされる特徴について、客観的に適切な記述をしているか
- ⑤ 選択した要素の働きによってもたらされる特徴について、心情的に適切な記述をしているか

【解答類型における①～⑤の組合せ】

ーは下位判定により判定せず

観点 類型 番号	解答の有無	① 要素の選択	② 音楽の特徴 にかかわる 記述	③ 音楽Cの特 徴としての 妥当性	④ 要素の特徴 について客 観的に適切 な記述	⑤ 要素の特徴 について心 情的に適切 な記述
1	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	×	○
3	○	○	○	○	○	×
4	○	○	○	○	×	×
5	○	○	○	×	—	—
9	○	×	—	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型 番号	問題4 解答例		(◎：正答)
	選択肢	記述	
◎ 1	強弱	強弱をはっきりつけることで、一瞬くらい感じになったり、明るい感じになったりする。 客観的かつ心情的に適切な記述をしている。	
◎ 2	拍子	踊りたくなるよう。 心情的に適切な記述をしている。	

◎ 3	リズム	連続して「タタタン」というリズム 客観的に適切な記述をしている。
4	速度	音の高さが上がったり下がったりしている。 要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて、誤った記述をしている。
5	強弱	速くなると大きくなり、小さくなると遅くなる。 特徴として妥当でない記述である。
9	選択肢のみの解答や「なんとなく」のような解答など。	

④ 分析・考察

- 音楽を形づくっている要素に着目し、楽曲の特徴をより深くとらえることができるよう指導を工夫する。

本問の通過率は56.3%であるが、誤答の中でも、楽曲（音楽C）の特徴として妥当でない記述をした生徒（解答類型5）が27.3%と多かった。解答例にあるように、例えば、「強弱」を選択し、「速くなると大きくなり、小さくなると遅くなる」と記述した生徒は、音楽の特徴にかかわることは記述しているが、その内容が楽曲（音楽C）の特徴として妥当でなかった。この理由として、音楽を聴いて、音楽Cがどのような特徴であるかをとらえることや言葉で表すことができなかつたことが考えられる。

また、楽曲（音楽C）の特徴として妥当な記述をしているが、その記述は選択した要素の働きによってどのような特徴がもたらされているかについて誤っている、又は、不明瞭である生徒（解答類型4）が9.7%であった。解答例にあるように、例えば「速度」を選択し、「音の高さが上がったり下がったりしている」と記述した生徒は、楽曲（音楽C）の特徴として妥当な記述をしているが、表したい特徴を指し示す適切な要素を選択できていなかった。

指導に当たっては、音楽を形づくっている要素に着目し、楽曲の特徴をより深くとらえることができるよう工夫することが大切である。具体的には、「この曲の特徴的なところはどこですか」、「特徴的だと思ったのは、音楽のどのようなところからですか」など、要素の働きや楽曲の特徴について生徒が気付くように促すことが考えられる。

また、音楽を形づくっている要素の働きによってもたらされる特徴について、客観的にとらえたり、感性を働かせて心情的にとらえたりし、それらを言葉などで表すことができるような指導を工夫することも望まれる。

(3) 問題 5

曲想と音楽を形づくっている要素の働き

—ピアノによる音楽を聴き、紹介文を記述する—

① 出題の趣旨

鑑賞では、音楽の構造がどのようにになっているのかをとらえることと同時に、音楽全体に関心をもって聴き、自分にとってどのような意味や価値があるのかについて意識することが重要である。構造をとらえるためには、その音楽を形づくっている要素が手掛かりとなる。そして、その音楽を鑑賞したときの自分の感情（気持ち）の変化を、要素の働きと関連させることが大切である。また、自分の感情（気持ち）を自分の内にとどめることなく、他者に対して自分の言葉で述べることが大切である。

問題 5 では、自分の気持ちや想像したことを、音楽を形づくっている要素を含めて説明しているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 B 鑑賞(1)ア、イに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
5	自分の気持ちや想像したことを、音楽を形づくっている要素を含めて説明しているかを問う	ピアノによる音楽を聴き、気持ちや想像したことを書くこと、2つの音楽の要素を使用することの2つを条件として、その音楽の紹介文を記述する	B(1)ア・イ

② 調査問題の概要

問題 5 は、音楽全体をとらえやすくするために、A 部→B 部→C 部の変化に注目させ、変化していくときの自分の感情について、「変化していったときのあなたの気持ちや想像したこと」と具体的に指示して紹介文を記述させた。また、音楽の要素の働きの視点からも紹介しているかを見るため、選択肢で示した要素から 2 つを用いて記述させることとした。

さらに、「他者に言葉で伝える」ことが具体的にできるかどうかを見るため、「家族や友人など、あなたがおすすめしたい人に宛てたこの曲の紹介文」を書くという場面を設定した。

【調査問題 問題 5】

問題
5

家族や友人など、あなたがおすすめしたい人に宛てたこの曲の紹介文を、次の条件にしたがって解答欄に書きなさい。

<条件>

- 音楽Aから音楽B、音楽Cへと順に変化していったときのあなたの気持ちや想像したことを具体的に書くこと。
- 音楽の要素を表す言葉を下から二つ使用して書くこと。

音色 リズム 旋律

音と音とのかかわり合い 形式 調

拍子 速度 強弱

解
答
欄

	----- ----- ----- ----- -----
--	---

【出題ビデオ 問題5】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(作曲家) では、最後にもう一度、全体を通して聴いてもらうよ。私はね、この曲をもっとたくさんの人々に知ってもらいたいんだ。そこで、みなさんにお願いなんだけど、この曲をまだ聴いたことのない人たちに紹介してくれないかな。</p>
	<p>(ナレーション) では、調査票の5ページ目を開いて、問題5を見てください。家族や友人など、あなたがおすすめしたい人に宛てたこの曲の紹介文を、次の条件にしたがって解答欄に書きなさい。</p> <p>条件、音楽Aから音楽B、音楽Cへと順に変化していったときのあなたの気持ちや想像したことを具体的に書くこと。</p> <p>音楽の要素を表す言葉を下から二つ使用して書くこと。</p>
	<p>(ナレーション) 全体を通して一度聴きます。その後、3分間書く時間を取ります。そして、最後にもう一度聴き、また書く時間を2分間取りますので、答えてください。</p> <p>(全体を聴く) では、解答欄に書いてください。</p>
	<p>(ナレーション) もう一度聴きます。聴きながら解答を続けていてもかまいません。</p> <p>(全体を視聴する) (演奏映像) では、あと2分間取りますので、解答を続けてください。</p>

③ 調査結果の概要

- 気持ちや想像したことを書くこと、2つの音楽の要素を使用することの2つを条件として、紹介文を妥当に記述した生徒は約3割であった。

自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に記述し、かつ選択肢から要素を2つ挙げ、適切に用いており、紹介文として妥当であるもの（解答類型1）を正答としており、7.6%であった。また、選択肢から挙げた2つの要素を適切に用いていないが、自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に記述しており、紹介文として妥当であるもの（解答類型2）、自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に具体的ではないが触れており、かつ選択肢から要素を2つ挙げ、適切に用いており、紹介文として妥当であるもの（解答類型3）を準正答としており、それぞれ4.0%，22.2%であった。

なお、自分の気持ちや想像したことを記述した生徒（解答類型1～7）は76.3%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 33.8%

類型番号	問題5 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に記述し、かつ選択肢から要素を2つ挙げ、適切に用いており、紹介文として妥当であるもの	7.6%
○ 2	選択肢から挙げた2つの要素を適切に用いていないが、自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に記述しており、紹介文として妥当であるもの	4.0%
○ 3	自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に具体的ではないが触れており、かつ選択肢から要素を2つ挙げ、適切に用いており、紹介文として妥当であるもの	22.2%
4	自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて記述しているが具体的でなく、かつ選択肢から挙げた2つの要素を適切に用いておらず、紹介文として妥当でないもの	16.8%
5	自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて記述しているが具体的でなく、かつ選択肢から2つの要素を挙げていないもの	3.4%
6	自分の気持ちや想像したことを記述しているが、音楽A, B, Cの変化には触れられてなく、かつ選択肢から2つの要素を挙げているものの	20.8%
7	自分の気持ちや想像したことを記述しているが、音楽A, B, Cの変化に触れられてなく、かつ選択肢から2つの要素を挙げていないものの	1.4%
9	上記以外の解答	20.8%
0	無解答	2.9%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、生徒の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

※ α 1 ~ 3, β 1 ~ 2 は解答例の下線に対応

自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に記述

α 1

α 2

α 3

し、かつ選択肢から要素を2つ挙げ、適切に用いているもの。

β 1

β 2

【解答類型における α , β の組合せ】

—は下位判定により判定せず

観点 類型 番号	解答の 有無	気持ち や想像 の有無 (α 1)	A B C の変化 の有無 (α 2)	選択肢 2つの 有無 (β 1)	紹介文 として の妥当 性	内訳 具体的 な記述 (α 3)	選択肢 の記述 の適切 性 (β 2)	解答類型の 文章構造
1	○	○	○	○	○	○	○	α 1, 2, 3 β 1, 2
2	○	○	○	○	△	○	×	α 1, 2, 3 β 1
3	○	○	○	○	△	×	○	α 1, 2 β 1, 2
4	○	○	○	○	×	×	×	α 1, 2 β 1
5	○	○	○	×	—	—	—	α 1, 2
6	○	○	×	○	—	—	—	α 1 β 1
7	○	○	×	×	—	—	—	α 1
9	○	×	—	—	—	—	—	

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題5 解答例	(◎ : 正答 ○ : 準正答)
◎ 1	この曲は、 <u>$\alpha_2 \beta_1 \beta_2$</u> A～Cに変化するにあたって速度があがり、音色が明るくなっています。 <u>α_1</u> 最初は雲っていたり雨が降っていたりと少し暗いイメージですが、 <u>α_3</u> B, Cとなるにつれて、 <u>α_1</u> 雨がやみ、晴れてくるようなきれいな曲です。 α 1, α 2, α 3, β 1, β 2 すべてを満たしている。	◎ : 正答 ○ : 準正答
○ 2	<u>$\alpha_1 \alpha_2 \alpha_3$</u> 音楽「A」は少し暗い感じがして天気で表すと雲っている気がします。「B」はだんだん晴れてきて明るい気持ちになっていく気がして、「C」はすごく晴れている日を思い浮べることができます。 <u>$\alpha_2 \alpha_3$</u> 「A」から「B」へと β_1 速度が少しづつはやくなっている、 <u>β_1</u> 「C」では強弱も、ついていてとても α_1 楽しそうな曲です。 AからBの部分の速度は一定であることから β 2は満たしていない。	○ : 準正答
○ 3	この曲は3つに分かれています、 <u>$\alpha_1 \alpha_2 \beta_1 \beta_2$</u> 一番目はゆったりとしていて、二番目になると明るい感じのリズムで、三番目は、強弱がついていて最後落ちついて終わる曲です。	○ : 準正答

	音楽A, B, Cの変化について具体的な記述がなくα3は満たしていない。
4	<u>α1 α2 β1</u> 「A」と「B」は似ていて、調が変わったりしただけで印象も少し変わ る。「C」は後半の旋律が特にキレイで優しい終わり方も印象的。 要素について適切性を欠くためβ2、また、具体性がなくα3は満たしていない。
5	<u>α1 α2</u> 「A」のやわらかな音は気持ちを落ち着かせて、「B」の軽快なテンポの音 は気分を上げ、「C」の強弱がついている音は迫力があり、段々と強くなっ いく音はかなりの迫力が感じられると思います。 選択肢を一つしか挙げていないためβ1は満たしていない。
6	<u>α1 β1</u> 強弱がはっきりしていて、リズムもかろやかな感じで、きいていてとても 気持ちいい曲です。 A～Cの変化に触れていないためα2は満たしていない。
7	<u>α1</u> リズムが変わっていた。雨がふってることを想像した。強のときも弱のとき もわかっていて雪がふってることを想像した。 A～Cの変化がないためα2、選択肢がないためβ1は満たしていない。
9	これいい曲だから聞いてみて 自分の気持ちや想像したことに触れていないためすべてを満たしていない。

④ 分析・考察

○ 楽曲全体の流れの中で、自分の気持ちや想像したことがどのように変化していくかを、要素の働きとかかわらせて言葉で表すことができるよう指導を工夫する。

本問の通過率は33.8%であり、自分の気持ちや想像したことを音楽A, B, Cの変化に触れて具体的に述べることと、要素を適切に用いて述べることに課題があると考えられる。

指導に当たっては、音楽が醸し出す表情を自己の生活経験などと結び付けてとらえることを通して、自分なりの感じ方や解釈を広げたり深めたりして、自分の気持ちや想像したことを述べることができるようになる必要がある。そのためには、楽曲のある一部分だけではなく、楽曲全体の流れに関心をもって聴き、自分にとってどのような意味や価値があるのかについて意識できるように工夫することが大切である。

また、音楽を形づくっている要素の働きについては、特定の要素の変化をとらえることにとどまらず、様々な要素の働きによって、音楽の表情、雰囲気や味わいがどのように変化したのかをとらえることができるよう、生徒の思考を促すことが大切である。

さらに、自分の気持ちや想像したことと要素の働きをそれぞれ別に取り扱うのではなく、自分の気持ちや想像したことがどのように変化していくかを、要素の働きとかかわらせて言葉で表すことができるようになることも大切である。

(4) 問題 6

音の特徴と楽器の奏法とのかかわり

—リコーダーと比べた尺八の音の特徴について、奏法と結び付けて説明する—

① 出題の趣旨

音楽の多様性を理解して鑑賞をするためには、それぞれの音楽に特有の音の特徴を感じ取ることが大切である。

問題 6 では、楽器の奏法と結び付けて、リコーダーと比べた尺八の音の特徴をとらえているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 B 鑑賞(1)ウに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
6	楽器の奏法と結び付けて、音の特徴をとらえているかを問う	リコーダーと尺八による演奏を視聴し、リコーダーと比べた尺八の音の特徴についての文を完成させる（奏法の選択、音の特徴の記述）	B (1)ウ

② 調査問題の概要

問題 6 は、尺八、リコーダーそれぞれの演奏を視聴し、選択肢として挙げた「あごや首の使い方」、「息の吹き込み方」、「指の使い方」のうちの一つを選択した上で、「リコーダーと比べて尺八は、（ ）よって、（ ）が生み出されている」という文章を完成させる問題である。

聴取させる楽器として、我が国の楽器の中でも特徴的な音色や奏法をもつ尺八を取り上げた。唇の角度とあごの位置による「カリ」や「メリ」、指の使い方による「摺り上げ」や「摺り下げ」、「コロコロ」といった多彩な奏法をもち、奏者自身が音色をつくることのできる楽器である。ほとんど倍音を含まない純音のような音から、風のような音「ムラ息」まで出すことができる。また、リコーダーと対比させることにより、尺八の奏法や音の特徴をよりとらえやすくした。

なお、出題する前に、雅楽「越天楽（残楽三返）」とオーケストラ「交響曲第 5 番（ベートーヴェン）」の演奏、及びそれらについて中学生が指揮者の有無や服装の違いを指摘しているアニメーションの映像を視聴させ、音楽の多様性に着目して鑑賞することへの意識付けを行った。

次に、問題文を提示し、続いてリコーダー、尺八の順で音のみの演奏を聴取させ、その後、映像を伴った同じ演奏を視聴させて解答させることとした。

【調査問題 問題6】

問題

6

リコーダーと比較して尺八は、どのような「音の特徴」がありますか。次の文章の（①）と（②）にあてはまる言葉を下の条件にしたがって書き入れ、文章を完成させなさい。

リコーダーと比べて尺八は、（①）によって、（②）が生み出されている。

<条件>

○ （①）には、下の1から3の中から一つ選び、その番号を解答欄に書くこと。

1 あごや首の使い方

2 息の吹き込み方

3 指の使い方

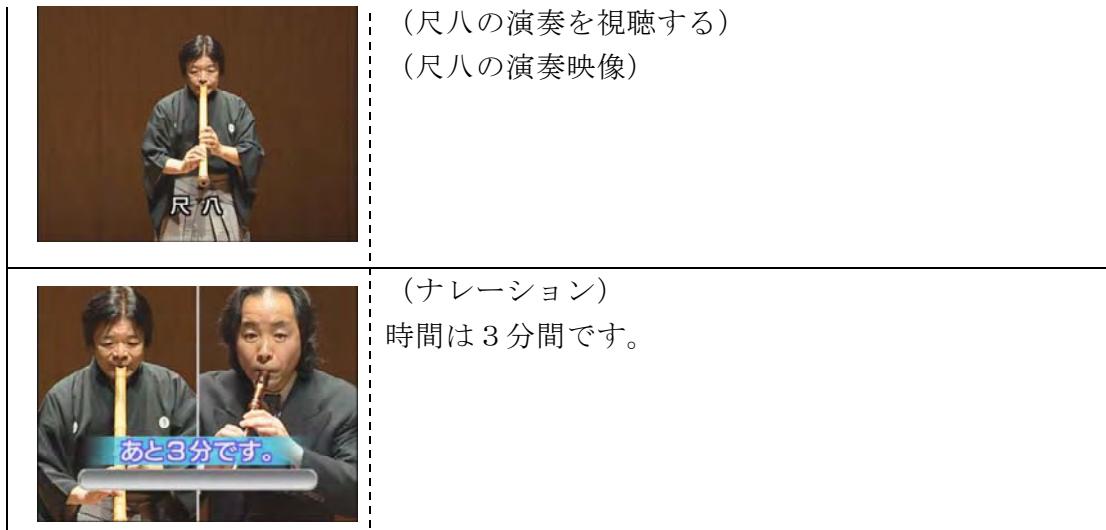
○ （②）は、尺八の「音の特徴」について具体的に解答欄に書くこと。

解 答 欄	①	②

【出題ビデオ 問題6】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(二人の生徒の会話) みなさんこんにちは。</p> <p>さて、続いて日本や世界のいろいろな音楽を鑑賞してみましょう。</p>
	<p>(オーケストラ演奏を視聴する) 「交響曲第5番」(ベートーヴェン作曲)より</p>
	<p>(雅樂演奏を視聴する) 越天楽「残楽三返」より</p>
	<p>(二人の生徒の会話) どちらもたくさんの楽器を使った合奏ね。でも、オーケストラは指揮者に合わせて演奏していたけれど、雅樂はどうやって合わせているのかしら。</p> <p>そうだね。衣装もずいぶん違っていたね。</p>
	<p>雅樂って日本の伝統音楽よね。この音楽は聴いたことがあるわ。他にももっと聞いてみましょう。</p> <p>うん。今度は同じ管楽器で、ヨーロッパで生まれたリコーダーと日本の尺八を聴いてみよう。</p> <p>え、ちょっと待って。楽器が違うってことは分かるけれど、何を聴けばいいのかしら。</p> <p>そうだね。じゃあ、まず、音の特徴について聴いてみるのはどうかな。</p> <p>そうね。では、みなさんもこの二つの楽器の音の特</p>

	<p>徴に注目して聴いてくださいね。</p>
問題 6	<p>(ナレーション) では、調査票の6ページ目を開けて、問題6を見てください。 リコーダーと比較して尺八は、どのような「音の特徴」がありますか。次の文章の（①）と（②）に当てはまる言葉を下の条件にしたがって書き入れ、文章を完成させなさい。 リコーダーと比べて尺八は（①）によって、（②）が生み出されている。 条件、（①）には、下の1から3の中から一つ選び、その番号を解答欄に書くこと。（②）は、尺八の「音の特徴」について具体的に解答欄に書くこと。 最初はリコーダーの演奏、次に尺八の演奏を音だけで聴きます。</p>
リコーダー	(リコーダーの演奏を聴く)
尺 八	(尺八の演奏を聴く)
問題 6	<p>(ナレーション) さて、あなたはどのようなことに気が付きましたか。今度は、演奏の様子も見ながら聴いてみましょう。鑑賞の最中でも終わった後でもいいので、問題6に答えてください。</p>
	(リコーダーの演奏を視聴する) (リコーダーの演奏映像)



③ 調査結果の概要

- 選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について記述した生徒は約4割であった。

選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について具体的に記述したもの（解答類型1～3）を正答とし、選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について記述したもの（解答類型4, 5）を準正答としており、それぞれ23.9%, 20.9%であり、通過率は44.9%であった。また、解答類型7が最も多く、26.6%，次に解答類型6が15.4%であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 44.9%

類型番号	問題6 解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について適切かつ具体的で、客観的かつ心情的に記述しているもの	2.2%
◎ 2	選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について適切かつ具体的で、客観的に記述しているもの	14.0%
◎ 3	選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について適切かつ具体的で、心情的に記述しているもの	7.8%
○ 4	選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について適切に記述しているが、具体的ではないもの	12.4%
○ 5	選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について記述しているが、設定した文章につながらないもの	8.5%
6	選択した奏法によって生み出される音の特徴ではあるが、尺八に特有とはいえない記述をしているもの	15.4%
7	選択した奏法によって生み出されるとはとらえられない音の特徴を記述しているもの	26.6%
9	上記以外の解答	12.2%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、生徒の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

選択した奏法によって生み出されるリコーダーと比べた尺八の音の特徴について

① ② ③ ④

適切かつ具体的で、客観的かつ心情的に記述しているもの

⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ① 奏法を選択しているか
- ④ 音の特徴を記述しているか
- ②+④選択した奏法によって生み出される音の特徴であるか
- ③ リコーダーと比べた尺八に特有の音の特徴であるか
- ⑤ 記述が「が生み出されている」につながるか
- ⑥+⑦客観的にとらえた具体的な記述があるか
- ⑥+⑧心情的にとらえた具体的な記述があるか

【解答類型における①～⑧の組合せ】

—は下位判定により判定せず

観点 類型 番号	解答の 有無	① 奏法の 選択	④ 音の 特徴	②+④ 奏法によ って生み 出される 特徴	③ 比較 しての 特徴	⑤ 記述の 適切性	⑥ 具 体 的 な記 述	⑦ 客 観 的 な記 述	⑧ 心 情 的 な記 述
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	×
3	○	○	○	○	○	○	○	×	○
4	○	○	○	○	○	○	×	×	×
5	○	○	○	○	○	×	—	—	—
6	○	○	○	○	×	—	—	—	—
7	○	○	○	×	—	—	—	—	—
9	○	×	—	—	—	—	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型 番号	問題6 解答例		(◎ : 正答 ○ : 準正答)
	選択肢	記述	
◎ 1	2	音の強弱の中で激しいところもあり、どこかおだやかな、やんわりした感じの音色 ①～⑧のすべてが満たされている。	
◎ 2	2	音のかすれた感じや、ちょっとしたゆれ、強弱など 客観的な音の特徴を記述している。	

◎ 3	3	竹がこするような音 心情的な音の特徴を記述している。
○ 4	2	日本風のしぶさ 具体的ではない記述をしている。
○ 5	1	くぐもった音になったり、抜けた音になったりしている 設定した文章につながらない記述をしている。
6	3	独特的な音色 リコーダーと比べた尺八に特有の音の特徴を記述していない。
7	1	音の高低や強弱 選択した奏法によって生み出される音の特徴とは判断できない記述をしている。
9	2	音 音の特徴とは判断できない記述をしている。

④ 分析・考察

○ 多様な楽器の音の特徴をそれぞれの奏法と結び付けて聴くことを通して、音楽文化についての理解を深めるよう指導を工夫する。

本問の調査結果から、選択した奏法によって生み出される音の特徴を記述できていないことや、その奏法と特徴がリコーダーと比較して記述できていないことが課題として挙げられる。特に、選択した奏法によって生み出されるとはとらえられない音の特徴を記述している生徒（解答類型7）が最多く、これらの生徒は、楽器の音色や強弱、音高などがどのような奏法とのかかわりによって生み出されるかについて理解が十分でないことが考えられる。

我が国や諸外国の様々な音楽には、それぞれ、生み出され、はぐくまれてきた歴史的・文化的背景がある。音の特徴や楽器の奏法についても、それをはぐくんできた人々の感性や美意識などと結び付いていると考えられる。このことから、我が国や諸外国の楽器の音の特徴や奏法を理解することは、その楽器や音楽がどのように生み出され、はぐくまれてきたかを学習することにもつながる。このような学習を通して、我が国や諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解することは重要である。

指導に当たっては、多様な楽器の音の特徴をそれぞれの奏法と結び付けて聴くことを通して、音楽文化についての理解を深めることができるように工夫することが大切である。

(5) 問題 7

音楽と他の芸術とのかかわり

—総合的な芸術を視聴し、音楽と他の芸術とのかかわりを記述する—

① 出題の趣旨

我が国や諸外国の多様な音楽を幅広く鑑賞し、音楽文化を理解する上で、音楽を含む総合的な芸術を鑑賞することは大切である。

問題 7 では、総合的な芸術を視聴し、音楽が他のどのような芸術とかかわっているか、そして音楽はそれらとどのようなかかわり方をしているのかについて、理解しているかを把握する。

これは、学習指導要領第 2 学年及び第 3 学年 2 内容 B 鑑賞(1)エに関する内容である。

問題番号	出題のねらい	出題内容	学習指導要領との関連
7	音楽と他の芸術とのかかわりを理解しているかを問う	総合的な芸術を視聴し、音楽と他の芸術（美術、演劇、舞踊、文学）とのかかわりを記述する	B(1)エ

② 調査問題の概要

問題 7 は、総合的な芸術を視聴し、音楽と他の芸術（美術、演劇、舞踊、文学）とのかかわりを記述する問題である。本問では、出題の前に、総合的な芸術の実例として、バレエ、人形浄瑠璃、オペラ、能について、それぞれ一部分を視聴させた。その後、それらも参考としながら総合的な芸術において音楽が他の芸術とどのようにかかわっているかについて、自分の考えを記述させた。他の芸術として、美術、演劇、舞踊、文学の 4 つを選択肢として挙げ、その中から 1 つを選択し、その語を用いながら記述するように求めた。

【使用楽曲】

バレエ くるみ割り人形（チャイコフスキイ）

人形浄瑠璃 傾城阿波の鳴門（近松半二 他）

オペラ カルメン（ビゼー）

能 道成寺（作者不詳）

【調査問題 問題 7】

問題

7

今、鑑賞したような総合的な芸術において、音楽は他の芸術とどのようにかかわっていますか。あなたの考えを下の語群から言葉を一つ使用して、解答欄に書きなさい。

美術 演劇 舞踊 文学

解答欄

【出題ビデオ 問題7】

ビデオの内容	ナレーション（抜粋）
	<p>(二人の生徒の会話)</p> <p>今度は、世界の国々や日本の総合的な芸術をいくつか鑑賞してみよう。</p> <p>総合的な芸術って何？</p> <p>それは見てのお楽しみ。</p> <p>じっくり鑑賞しましょう。</p>
	<p>(視聴する)</p> <p>(バレエ「くるみ割り人形」より)</p>
	<p>(視聴する)</p> <p>(人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」より)</p>
	<p>(視聴する)</p> <p>(オペラ「カルメン」より)</p>
	<p>(視聴する)</p> <p>(能「道成寺」より)</p>
	<p>(二人の生徒の会話)</p> <p>こういうのが総合的な芸術なのね。総合的な芸術って音楽の他にも演技や衣裳、照明、それに台本の元となる文学など、いろいろなものが楽しめるのね。</p> <p>そうそう、いいところに気が付いたね。</p>

問題 7

(ナレーション)

それでは、調査票 7 ページ目を開いて、問題 7 を見てください。

今、鑑賞したような総合的な芸術において、音楽は他の芸術とどのようにかかわっていますか。あなたの考えを、下の語群から言葉を一つ使用して、解答欄に書きなさい。

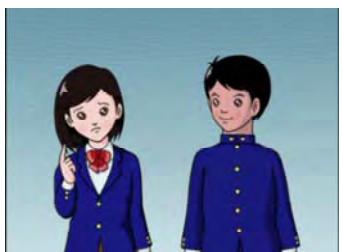
(二人の生徒の会話)

うーん。もう一度、この 4 つを見てみたいな。

うん。じゃあ、そうしよう。

(ナレーション)

では、もう一度鑑賞します。鑑賞の最中でも終わった後でもいいので、問題 7 に答えてください。



(総合的な芸術を視聴する 項目テロップなし)

(バレエ「くるみ割り人形」より)

(人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」より)

(オペラ「カルメン」より)

(能「道成寺」より)

③ 調査結果の概要

- 総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりについて妥当な記述をした生徒は約 4 割であった。

総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりについて、妥当かつ明確に記述しているもの（解答類型 1）を正答とし、妥当ではあるが、明確ではない記述をしているもの（解答類型 2）を準正答としており、それぞれ 19.8%, 22.2% であり、通過率は 42.0% であった。

誤答のうち最も多かったのは、選択肢の言葉を一つ使用しているが、総合的な芸術における音楽と他の芸術とがどのようにかかわっているかについての記述をしていないもの（解答類型 4）であり、28.8% であった。

【解答類型ごとの反応率】

通過率 42.0%

類型番号	問題7 解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎ 1	選択肢の言葉を一つ使用して、総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりについて、妥当かつ明確に記述しているもの	19.8%
○ 2	選択肢の言葉を一つ使用して、総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりについて、妥当ではあるが、明確ではない記述をしているもの	22.2%
3	選択肢の言葉を一つ使用しているが、総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりについて、妥当ではない記述をしているもの	9.4%
4	選択肢の言葉を一つ使用しているが、総合的な芸術における音楽と他の芸術とがどのようにかかわっているかについての記述をしていないもの	28.8%
5	選択肢の言葉を一つ使用しているが、総合的な芸術における音楽と他の芸術について記述をしていないもの	13.8%
9	上記以外の解答	1.1%
0	無解答	4.9%

■ 解答類型の判定について

解答類型の判定については、生徒の記述を以下の観点から見て判定した。

【観点】

選択肢の言葉を一つ使用して、総合的な芸術における
① ②
音楽と他の芸術とのかかわりについて、妥当かつ明確に記述しているもの
③ ④ ⑤

- ① 選択肢の中から言葉を選択しているか
- ② 総合的な芸術と音楽に触れた記述があるか
- ③ 他の芸術と音楽とのかかわりが説明されているか
- ④ 内容が妥当であるか
- ⑤ 内容が明確であるか

【解答類型における①～⑤の組合せ】

ーは下位判定により判定せず

観点 類型番号	解答の有無	① 選択肢からの選択	② 総合的な芸術における音楽についての記述	③ 他の芸術とのかかわり	④ 妥当な記述	⑤ 明確な記述
1	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	×
3	○	○	○	○	×	—

4	○	○	○	×	—	—
5	○	○	×	—	—	—
9	○	×	—	—	—	—

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	問題7 解答例	(◎: 正答 ○: 準正答)
◎1	美術は、音楽と合わせることで絵の中にある物語や、人物をはっきり分かりやすくすることができます。逆に音楽の中の物語なども美術によって視覚化することができます。 ①～⑥のすべてが満たされている。	○
○2	ぶたいでの演劇などから伝わる風景などに合わせて音楽などでさらにわかりやすく伝える 音楽と演劇とのかかわりについて明確ではない。	○
3	音楽はおどりだけでは表現しにくい元となっている文学のストーリーを表している。 音楽と文学のかかわりについて妥当性を欠いている。	○
4	音楽にあわせ舞踊、客をよろこばせている。 音楽と舞踊のかかわりについて説明が不足している。	○
5	どれも一つの物語のようなもので、演劇のようだった。 音楽に触れていない。	○
9	音楽は、他の世界も文化の1つだと思います。 選択肢が見あたらない。	○

④ 分析・考察

- 音楽と他の芸術とのかかわりを理解し、自分なりに言葉で表し、総合的な芸術を味わうことができるよう指導を工夫する。

本問の通過率は42.0%であり、総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりをとらえ、それを言葉で説明することに課題が見られた。総合的な芸術を鑑賞する学習においては、音楽と視覚的要素や物語の展開などとが相互に与える効果について考え、解釈したことを自分なりに言葉で表すことができるよう指導を工夫することが大切である。

本問の通過率は42.0%であったが、望ましい解答である「妥当かつ明確に記述しているもの」(解答類型1)は19.8%であったことから、妥当性と明確性をもった記述ができるように指導を工夫する必要がある。

具体的には、様々な総合的な芸術に触れ、その芸術に含まれる媒体について把握し、美術、演劇、舞踊、文学などと音楽が相互に補完し合っていることや表現したいことを強調していることに着目し、音楽が他の芸術に与える影響や他の芸術が音や音楽に与える影響に気付いたりすることが必要である。また、総合的な芸術では音のみならず、演者の動きや表情、舞台美術、照明など、視覚によって情景や心情をとらえることができる。それらと音楽を形づくっている要素とのか

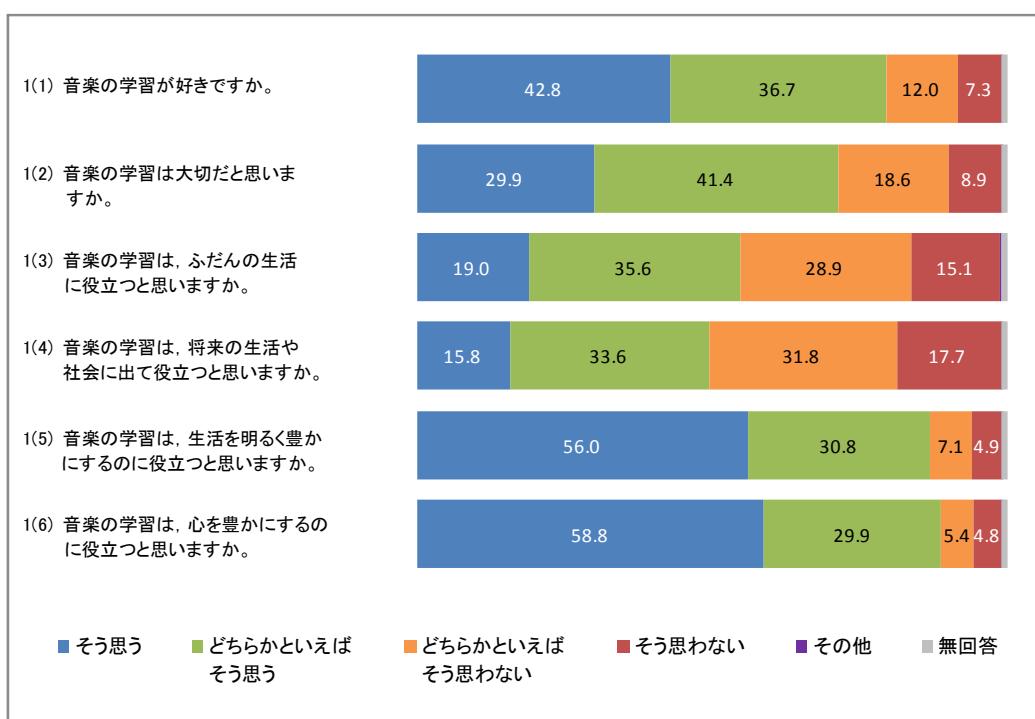
かわりなどに着目し、自分なりに言葉で表し、総合的な芸術を味わうことができるよう指導することが大切である。その際、それぞれの総合的な芸術が生み出された文化や歴史などの背景にも触れ、興味や関心を育て、視野を広げる指導も大切である。

4 生徒質問紙調査における調査結果

(1) 生徒質問紙調査結果の概要

① 音楽の学習に対する生徒の意識（質問1）

○ 音楽の学習に対して、「好き」、「大切」という意識をもっている生徒は約7～8割、音楽の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっている生徒は約9割、音楽の学習がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっている生徒は約5割であった。

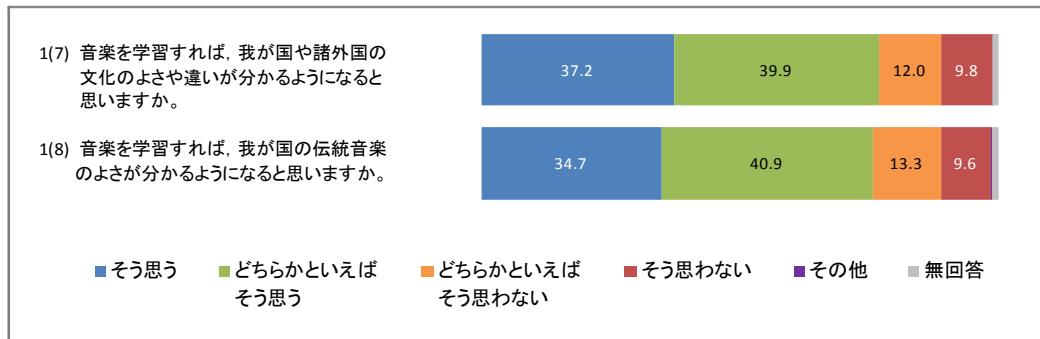


1 (1) 「音楽の学習が好きですか。」に対して肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした生徒は79.5%， 1 (2) 「音楽の学習は大切だと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は71.3%であり、約7～8割の生徒が音楽の学習に対して肯定的な意識をもっていることが分かった。

また、1 (5) 「音楽の学習は、生活を明るく豊かにするのに役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は86.8%， 1 (6) 「音楽の学習は、心を豊かにするのに役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は88.7%であり、約9割の生徒が音楽の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっていることが分かった。

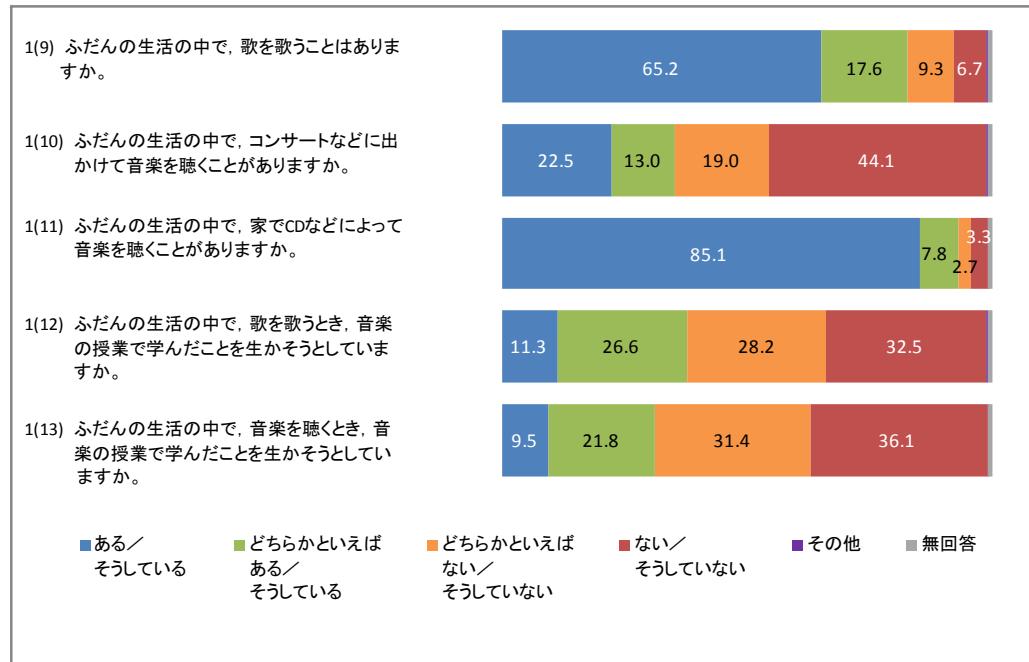
一方、1 (3) 「音楽の学習は、ふだんの生活に役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は54.7%， 1 (4) 「音楽の学習は、将来の生活や社会に出て役立つと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は49.3%と他の項目と比較すると低く、音楽の学習がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっている生徒は約5割であった。

- 音楽の学習によって、我が国や諸外国の文化のよさや違い、我が国の伝統音楽のよさが分かるようになるという意識をもっている生徒は約8割であった。



文化や伝統音楽に対する生徒の意識を見ると、1(7)「音楽を学習すれば、我が国や諸外国の文化のよさや違いが分かるようになると思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は77.1%，1(8)「音楽を学習すれば、我が国の伝統音楽のよさが分かるようになると思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は75.7%であり、約8割の生徒が音楽の学習によって我が国や諸外国の文化のよさや違い、我が国の伝統音楽のよさが分かるようになるという意識をもっていることが分かった。

- ふだんの生活の中で、「歌を歌うこと」、「音楽を聞くこと」がある生徒は約8～9割、「音楽の授業で学んだことを生かそう」という意識をもっている生徒は約3～4割であった。



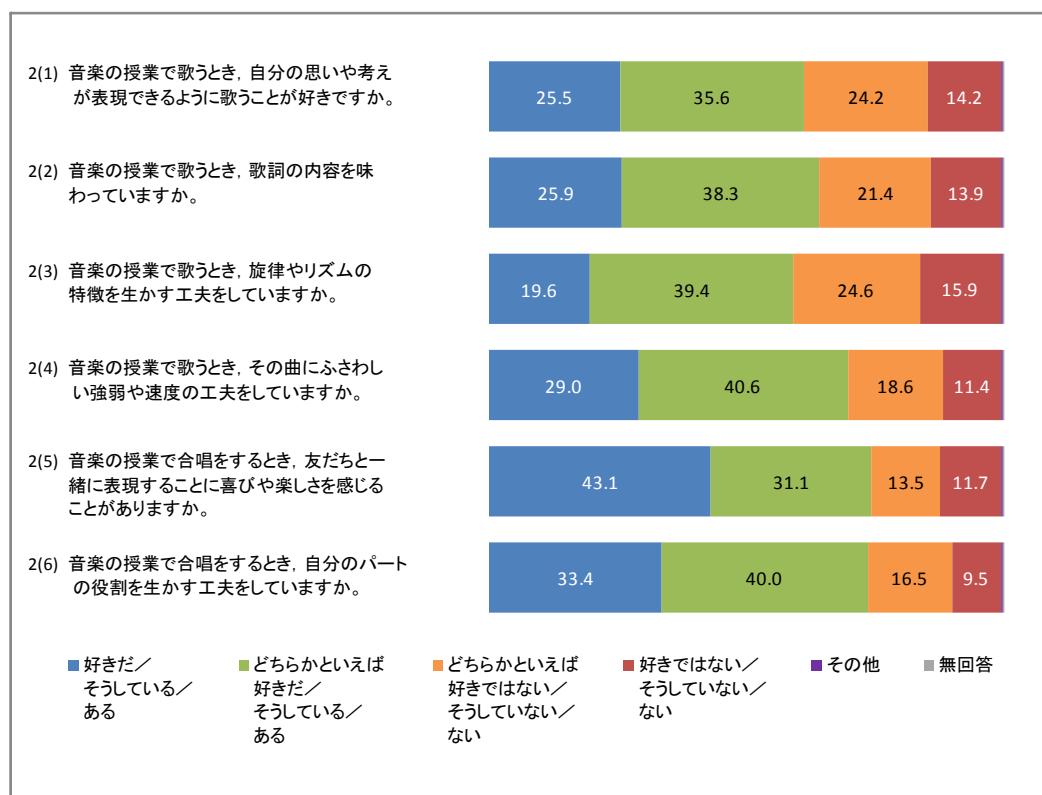
ふだんの生活における音楽とのかかわりを見ると、1(9)「歌を歌うことはありますか。」に対して肯定的な回答（「ある」又は「どちらかといえばある」）をした生徒は82.8%，1(11)「家でCDなどによって音楽を聞くことがありますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は92.9%であり、約8～9割の生徒がふだんの生活の中で音楽に親しんでいることが分かった。

一方、1(12)「歌を歌うとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」に対して肯定的な回答（「そうしている」又は「どちらかといえばそうしている」）をした生徒は37.9%，1(13)「音楽を聞くとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は31.3%と他の項目と比較すると低く、音楽の授業で学んだことをふだんの生活の中で生かそうとしている生徒の割合は約3～4割であった。

また、1(10)「コンサートなどに出かけて音楽を聞くことがありますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は35.4%であった。

② 学習内容に関する生徒の意識（質問2）

- 歌唱の学習において、「歌詞の内容」を味わい、「旋律やリズム」、「強弱や速度」、「パートの役割」を工夫している生徒、友達と一緒に表現することに喜びや楽しさを感じている生徒は、約6～7割であった。



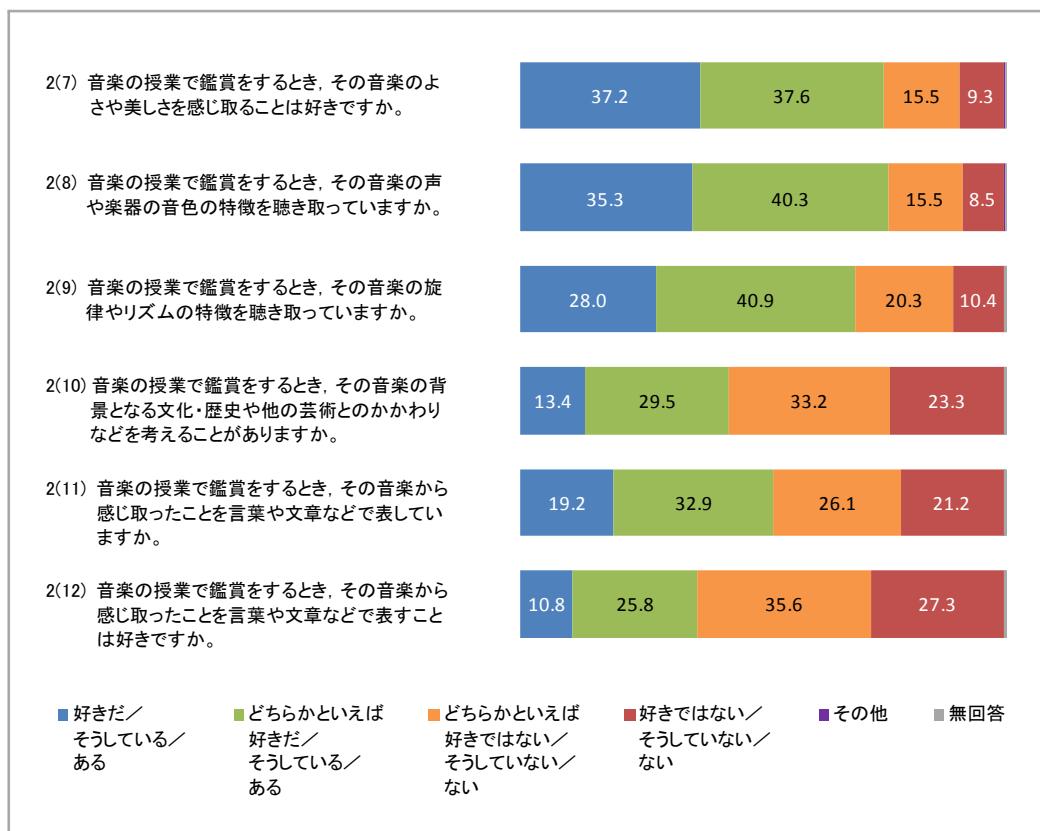
歌唱の学習に関する生徒の意識を見ると、2(2)「歌詞の内容を味わっていますか。」に対して肯定的な回答（「そうしている」又は「どちらかといえばそうしている」）をした生徒は64.2%，2(3)「旋律やリズムの特徴を生かす工夫をしていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は59.0%，2(4)「その曲にふさわしい強弱や速度の工夫をしていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は69.7%，2(6)「合唱をするとき、自分のパートの役割を生かす工夫をしていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は73.5%であった。

このように、歌唱の学習において、約6～7割の生徒が「歌詞の内容」を味わい、「旋律やリズム」、「強弱や速度」、「パートの役割」を工夫していることが分かった。

また、2(1)「自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか。」に対して肯定的な回答（「好きだ」又は「どちらかといえば好きだ」）をした生徒は61.1%であった。

次に、2(5)「合唱をするとき、友だちと一緒に表現することに喜びや楽しさを感じことがありますか。」に対して肯定的な回答（「ある」又は「どちらかといえばある」）をした生徒は74.2%であった。

- 鑑賞の学習において、音楽のよさや美しさを感じ取ることが好きな生徒、「声や楽器の音色」、「旋律やリズム」を聞き取っているとした生徒は約7～8割、音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりを考えることがある、感じ取ったことを言葉や文章などで表すことが好きとした生徒は約4割であった。



鑑賞の学習に関する生徒の意識を見ると、2(7)「その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」に対して肯定的な回答をした生徒は74.8%，2(8)「その音楽の声や楽器の音色の特徴を聞き取っていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は75.6%，2(9)「その音楽の旋律やリズムの特徴を聞き取っていますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は68.9%であった。

一方、2(10)「その音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどを考えることができますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は42.9%，2(11)「その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表していますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は52.1%，2(12)「その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表すことは好きですか。」に対して肯定的な回答をした生徒は36.5%であった。

鑑賞の学習において、「声や楽器の音色」、「旋律やリズム」を聞き取っているとした生徒は約7～8割に対して、背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどを考えることがあるとした生徒や、感じ取ったことを言葉や文章などで表すことが好きとした生徒は約4割であった。

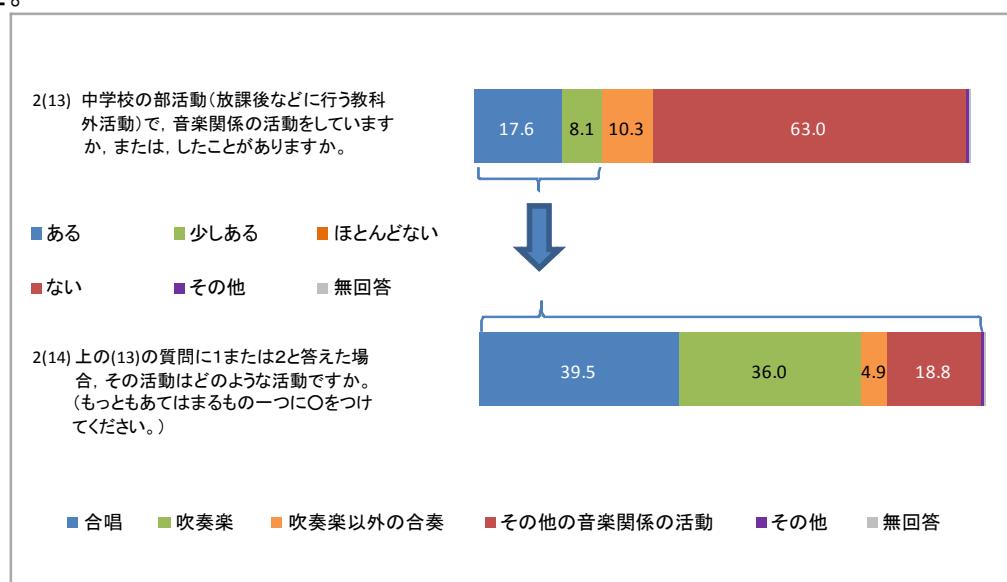
- 音楽の学習によって我が国や諸外国の文化のよさや違いが分かるようになるという意識をもっている生徒は約8割、その音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりについて考えることがあるとした生徒は約4割であった。

音楽の学習に対する生徒の意識で述べた1(7)「音楽を学習すれば、我が国や諸外国の文化のよさや違いが分かるようになると思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は、77.1%であった。

一方、2(10)「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどを考えることができますか。」に対して肯定的な回答をした生徒は42.9%であった。

このことから、「我が国や諸外国の文化のよさや違いが分かるようになる」という意識をもっていても、実際の鑑賞の授業において「背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどを考えること」には、結び付いていないことがうかがわれる。

- 音楽関係の部活動をしている、又は、したことがある生徒は約3割であった。



2(13)「中学校の部活動（放課後などに行う教科外活動）で、音楽関係の活動をしていますか、または、したことがありますか。」に対して「ある」又は「少しある」と回答をした生徒は25.7%であった。そのうち、合唱が39.5%、吹奏楽が36.0%、吹奏楽以外の合奏が4.9%であった。

(2) 生徒質問紙調査と調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBとの関連

① 質問1と各調査との関連

ここでは、質問1（音楽の学習に対する生徒の意識）の各質問項目のうち、音楽科の目標に示されている「音楽を愛好する心情」などに特にかかわる次の4つの質問項目を取り上げて、調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBとの関連を見ることとした。

- (1) 「音楽の学習が好きですか。」
- (2) 「音楽の学習は大切だと思いますか。」
- (5) 「音楽の学習は、生活を明るく豊かにするのに役立つと思いますか。」
- (6) 「音楽の学習は、心を豊かにするのに役立つと思いますか。」

各質問項目に対して、肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした生徒と、否定的な回答（「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」）をした生徒の通過率をそれぞれ算出して分析した。

下の表は、4つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした生徒の調査Ⅰ, 調査ⅡA, 調査ⅡBの各問題における通過率、否定的な回答をした生徒の通過率、及び肯定的な回答をした生徒の通過率から否定的な回答をした生徒の通過率を減算した値（以下「通過率の差」という。）である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をついた。

【肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率(%)	1(1)			1(2)			1(5)			1(6)			
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差										
I	1ア	93.3	93.8	91.2	2.6	93.7	92.3	1.4	93.8	89.7	4.1	93.7	89.6	4.1
	1イ	98.3	98.8	96.3	2.5	98.7	97.3	1.4	98.7	95.9	2.8	98.7	95.4	3.2
	1ウ	99.3	99.5	98.1	1.5	99.4	98.9	0.5	99.3	98.7	0.6	99.4	97.9	1.5
	2ア	84.9	85.9	81.4	4.5	86.2	82.0	4.2	85.4	82.2	3.2	85.6	79.6	6.0
	2イ	68.3	69.8	63.4	6.4	69.9	65.0	4.9	69.1	63.9	5.2	69.1	62.8	6.3
	3	39.2	41.1	31.8	9.3	42.3	31.6	10.6	39.7	37.1	2.6	39.5	38.4	1.1
	4	74.0	77.1	61.4	15.7	77.2	66.0	11.2	75.3	65.5	9.8	75.3	63.7	11.6
	5	46.3	49.6	33.3	16.3	50.6	35.6	15.0	48.1	34.5	13.6	47.8	34.5	13.4
	6(1)	58.9	62.2	45.9	16.2	63.0	48.4	14.6	60.6	46.9	13.7	60.4	46.0	14.4
	6(2)	51.7	54.0	42.4	11.6	54.2	45.2	9.1	52.7	44.6	8.1	52.5	44.8	7.7
	7(1)	43.4	45.1	37.0	8.1	46.4	36.1	10.2	44.2	38.9	5.2	44.2	37.2	7.0
	7(2)	76.4	78.5	68.6	9.9	78.7	71.1	7.7	77.9	67.5	10.4	77.9	65.9	12.0
	7(3)(1)	36.9	38.9	29.0	9.9	39.4	30.4	9.0	38.2	28.1	10.1	37.7	29.9	7.8
	7(3)(2)	56.9	60.1	45.0	15.1	60.6	48.0	12.6	58.2	49.7	8.4	58.0	49.4	8.6
	7(3)(3)	67.4	69.7	58.9	10.8	70.9	59.3	11.5	68.5	61.3	7.2	68.8	56.7	12.1
	8(1)	65.8	68.9	53.8	15.2	69.6	56.6	12.9	67.4	56.2	11.2	67.3	54.6	12.7
	8(2)	74.8	78.2	61.8	16.4	78.8	65.1	13.7	76.8	62.1	14.7	76.5	62.5	14.0
	9	46.1	49.0	35.7	13.3	49.8	37.4	12.4	47.8	36.6	11.2	47.4	37.8	9.6
	10	63.6	66.2	52.5	13.7	66.0	57.2	8.8	65.1	52.6	12.5	64.6	54.6	10.0
通過率(%)		1(1)			1(2)			1(5)			1(6)			
問題番号		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差										
II A	1(1)	88.7	89.4	85.9	3.5	89.4	87.0	2.4	89.5	83.2	6.3	89.4	83.0	6.4
	1(2)	93.9	95.0	90.2	4.7	94.3	93.3	1.0	94.6	89.4	5.2	94.4	91.0	3.4
	2	51.4	53.8	39.7	14.1	53.9	43.9	10.0	52.8	38.9	13.9	52.3	42.0	10.3
	3	13.0	14.9	4.9	10.0	15.3	6.7	8.6	14.1	5.3	8.8	13.9	6.0	7.9
	4	90.6	91.8	86.4	5.4	93.1	84.0	9.1	91.6	84.1	7.6	91.7	82.0	9.7
	歌 (1)	63.1	70.0	30.4	39.6	68.4	47.2	21.2	65.8	40.7	25.1	66.3	32.0	34.3
	(2)	80.1	84.0	64.1	19.9	83.7	70.6	13.1	82.5	62.8	19.7	82.6	60.0	22.6
	実 (3)	26.3	29.6	12.0	17.6	31.1	12.6	18.4	27.7	15.9	11.8	27.7	15.0	12.7
	技 (4)	27.2	31.1	10.3	20.8	32.2	13.4	18.8	29.2	13.3	15.9	29.1	12.0	17.1
	1	99.8	99.9	99.3	0.6	99.9	99.4	0.6	99.9	98.9	1.0	99.9	98.7	1.2
II B	2	97.4	98.4	94.1	4.3	98.5	95.2	3.4	98.0	94.5	3.4	98.3	91.2	7.1
	3	45.9	48.1	37.9	10.2	48.5	39.6	8.9	46.9	39.6	7.3	47.1	36.8	10.2
	4	56.3	59.1	46.9	12.2	59.0	50.7	8.3	58.6	43.6	15.0	58.3	42.5	15.8
	5	33.8	37.9	19.0	18.8	37.3	26.2	11.1	35.8	22.2	13.6	35.5	21.9	13.6
	6	44.9	47.4	34.9	12.5	47.0	39.6	7.4	46.4	35.3	11.1	46.5	31.6	14.9
	7	42.0	44.4	33.1	11.2	45.2	34.4	10.8	44.1	28.7	15.4	43.4	30.7	12.7

○ 各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、すべての問題において通過率が高かった。

上の表のように、音楽を愛好する心情などに特にかかわる各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、すべての問題において通過率が高かった。このことから、音楽を愛好する心情などと、音楽活動に対する意欲を高め、表現と鑑賞の能力を養うこととは関連があると考えられる。指導に当たっては、音楽を愛好する心情などにかかわる意識を高めながら表現と鑑賞の学習を充実することが大切である。

なお、1(1)「音楽の学習が好きですか。」について見ると、調査ⅡAにおいて通過率の差がもっとも大きかったのは、歌唱実技の(1)音高であり、39.6ポイントであった。また、調査ⅡBにおいて通過率の差がもっとも大きかったのは、問題5（自分の気持ちや想像したことを、音楽を形づくっている要素を含めて説明しているかを問う）であり、18.8ポイントであった。

② 質問2と調査ⅡAとの関連

ここでは、質問2（学習内容に関する生徒の意識）における各質問項目のうち、歌唱の学習に関する次の6つの質問項目を取り上げて、調査ⅡAとの関連を見ることとした。

- (1) 「音楽の授業で歌うとき、自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか。」
- (2) 「音楽の授業で歌うとき、歌詞の内容を味わっていますか。」
- (3) 「音楽の授業で歌うとき、旋律やリズムの特徴を生かす工夫をしていますか。」
- (4) 「音楽の授業で歌うとき、その曲にふさわしい強弱や速度の工夫をしていますか。」
- (5) 「音楽の授業で合唱をするとき、友だちと一緒に表現することに喜びや楽しさを感じことがありますか。」
- (6) 「音楽の授業で合唱をするとき、自分のパートの役割を生かす工夫をしていますか。」

各質問項目で肯定的な回答（「好き」「どちらかといえれば好き」等）をした生徒と、否定的な回答（「どちらかといえれば好きではない」「好きではない」等）をした生徒の通過率をそれぞれ算出して分析した。

下の表は、6つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした生徒の調査ⅡAの各問題における通過率、否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をつけた。

【肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率(%)	2(1)			2(2)			2(3)			2(4)			
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差										
II A	1(1)	88.7	89.1	1.2	90.5	85.0	5.5	90.5	85.7	4.8	90.3	84.4	5.9	
	1(2)	93.9	94.4	1.3	93.9	93.9	0.1	94.6	93.0	1.7	95.0	91.0	4.0	
	2	51.4	56.9	4.1	15.0	56.1	42.1	14.1	56.3	43.9	12.3	54.6	43.2	11.5
	3	13.0	15.9	8.0	8.0	16.3	6.7	9.6	16.4	7.8	8.6	15.8	6.0	9.8
	4	90.6	93.1	2.5	7.0	92.6	86.6	5.9	93.2	86.4	6.7	92.6	85.4	7.2
	歌唱(1)	63.1	74.4	43.2	31.2	70.2	49.0	21.2	72.9	47.3	25.6	68.9	48.2	20.7
	歌唱(2)	80.1	87.4	67.1	20.3	86.1	67.7	18.4	86.5	69.4	17.0	83.6	70.8	12.8
	実技(3)	26.3	32.5	15.7	16.8	33.1	13.1	20.0	33.3	15.0	18.3	31.3	13.6	17.7
	実技(4)	27.2	36.9	10.3	26.6	33.8	14.5	19.3	36.0	13.1	22.9	33.4	11.6	21.7

問題番号	通過率(%)	2(5)			2(6)				
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差		
II A	1(1)	88.7	90.0	1.2	84.2	5.8	89.5	86.0	3.5
	1(2)	93.9	94.9	1.0	90.7	4.2	94.5	92.6	1.8
	2	51.4	54.4	3.0	42.1	12.3	54.7	41.9	12.8
	3	13.0	15.2	2.2	6.1	9.1	15.1	7.0	8.1
	4	90.6	92.2	1.6	85.0	7.2	92.3	85.7	6.6
	歌唱(1)	63.1	68.1	5.0	46.6	21.5	68.6	46.7	21.9
	歌唱(2)	80.1	83.9	3.8	66.8	17.1	83.8	68.8	15.0
	実技(3)	26.3	30.1	3.8	14.2	15.9	30.1	15.4	14.7
	実技(4)	27.2	32.7	5.5	9.3	23.4	33.0	10.7	22.3

○ 各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、調査Ⅱ A のすべての問題において通過率が高かった。

上の表のように、歌唱の学習に関する意識における各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、すべての問題において通過率が高かった。

○ 音楽の授業で歌ったり、合唱したりする学習に肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、歌唱実技において通過率が高かった。

音楽の授業で歌ったり、合唱したりする学習に関する各質問において、歌唱実技(1)～(4)における通過率の差はいずれも大きく、最もその差が大きかったのは 2(1) 「自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか。」という質問における歌唱実技(1) 音高であった。

さらに、各質問項目を比較すると、調査Ⅱ A 歌唱実技(1), (2), (4)において、2(1) 「自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか。」という質問は、他の質問よりも通過率の差が大きかった。このうち、(4)の総合的な表現に着目すると、その通過率の差は26.6ポイントであり、「自分の思いや考えが表現できるように歌うことが好きですか。」に対して肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、自分の思いや考えが表現できるように歌うことができる傾向があった。

③ 質問2と調査Ⅱ Bとの関連

ここでは、質問2（学習内容に関する生徒の意識）における各質問項目のうち、鑑賞の学習に関する次の4つの質問項目を取り上げて、調査Ⅱ Bとの関連

を見ることとした。

- (7) 「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか。」
- (8) 「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽の声や楽器の音色の特徴を聴き取っていますか。」
- (9) 「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽の旋律やリズムの特徴を聴き取っていますか。」
- (11) 「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表していますか。」

各質問項目で肯定的な回答（「好きだ」「どちらかといえば好きだ」等）をした生徒と、否定的な回答（「どちらかといえば好きではない」「好きではない」等）をした生徒の通過率をそれぞれ算出して分析した。

下の表は、4つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした生徒の調査ⅡBの各問題における通過率、否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をついた。

【肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

問題番号	通過率(%)	2(7)		2(8)		2(9)		2(11)		差
		肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	
II B	1	99.8	99.9	0.6	99.9	99.3	0.7	99.9	99.4	0.5
	2	97.4	98.1	2.1	98.1	95.7	2.4	98.2	96.0	2.2
	3	45.9	48.9	38.1	10.8	47.5	41.4	47.8	42.3	5.5
	4	56.3	59.7	47.0	12.8	58.9	48.7	10.2	60.5	47.9
	5	33.8	37.0	25.2	11.8	37.1	24.2	13.0	37.4	26.6
	6	44.9	47.3	38.4	8.9	47.5	37.8	9.6	47.5	39.9
	7	42.0	45.3	33.4	11.9	45.0	33.7	11.2	45.7	34.9

○ 各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、調査ⅡBのすべての問題において通過率が高かった。

上の表のように、鑑賞の学習に関する意識における各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、すべての問題において通過率が高かった。

○ 「音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表わしていますか」に対して肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、音楽を聴き、紹介文を記述する問題において通過率が高かった。

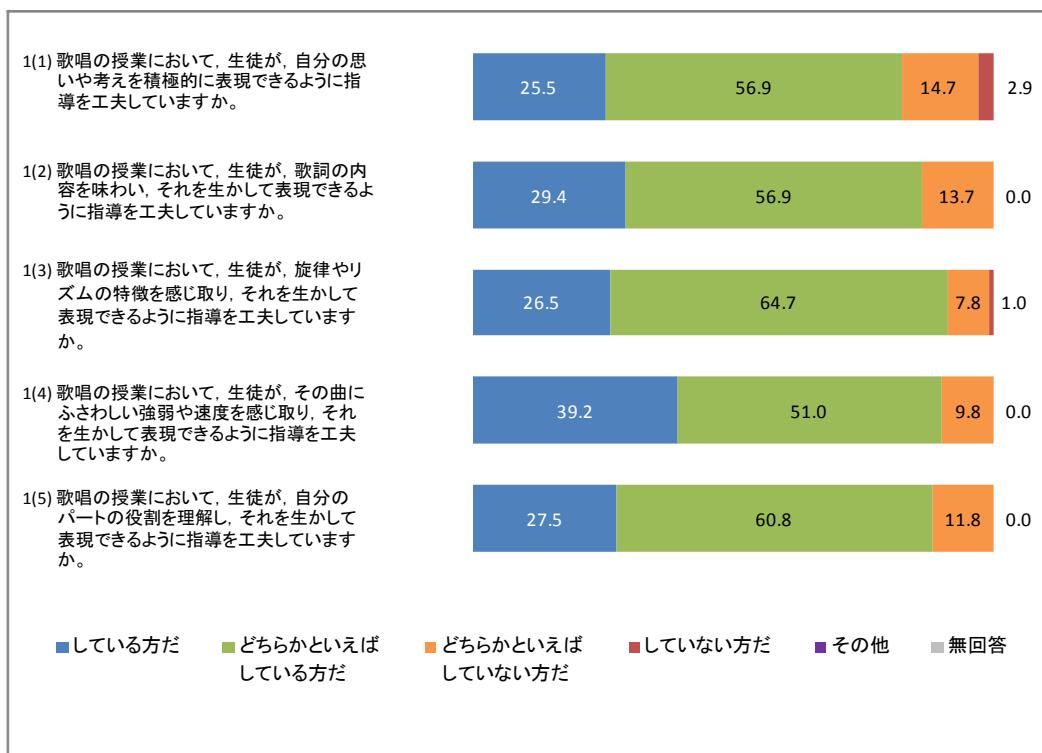
2 (11) 「音楽の授業で鑑賞をするとき、その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表していますか。」について見ると、調査ⅡB問題5（自分の気持ちや想像したことを、音楽を形づくっている要素を含めて説明しているかを問う）における通過率の差は14.0ポイントであり、肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、聴いた音楽を相手に伝える紹介文を記述することができる傾向があった。

5 学校質問紙調査における調査結果

学校質問紙調査結果の概要

① 指導の工夫（質問1）

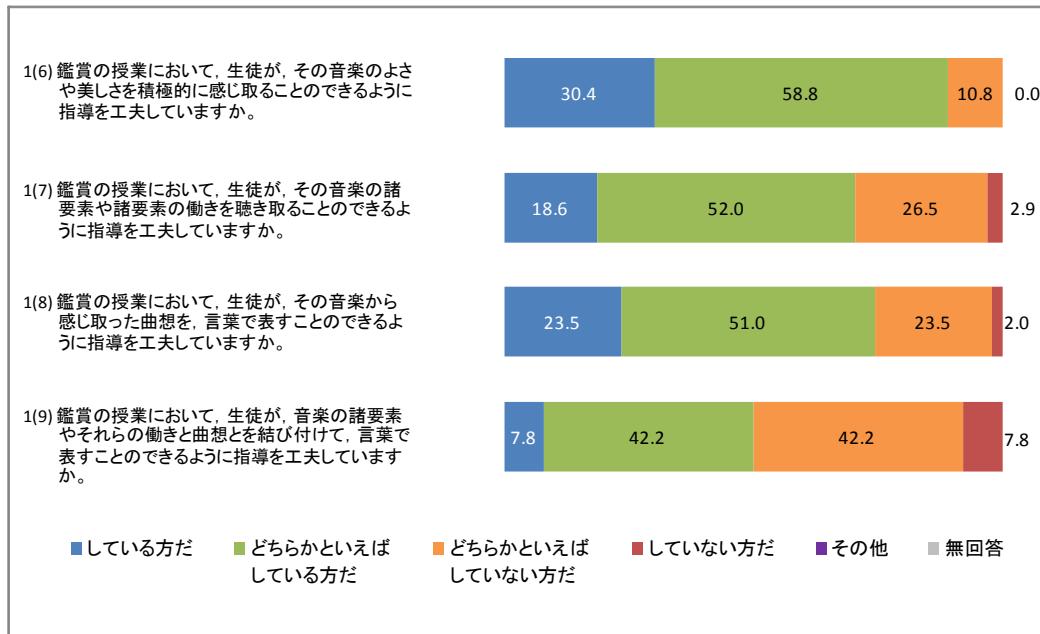
- 歌唱の授業において、「自分の思いや意図」、「歌詞の内容」、「旋律やリズムの特徴」、「強弱や速度」、「パートの役割」について指導を工夫していると回答をした教師は、約8～9割であった。



歌唱の授業における指導の工夫を見ると、1(1)「生徒が、自分の思いや考えを積極的に表現できるように指導を工夫していますか。」、1(2)「生徒が、歌詞の内容を味わい、それを生かして表現できるように指導を工夫していますか。」、1(3)「生徒が、旋律やリズムの特徴を感じ取り、それを生かして表現できるように指導を工夫していますか。」、1(4)「生徒が、その曲にふさわしい強弱や速度を感じ取り、それを生かして表現できるように指導を工夫していますか。」、1(5)「生徒が、自分のパートの役割を理解し、それを生かして表現できるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答（「している方だ」又は「どちらかといえばしている方だ」）をした教師は、それぞれ82.4%、86.3%、91.2%、90.2%、88.2%であった。

歌唱の授業において、「自分の思いや意図」、「歌詞の内容」、「旋律やリズムの特徴」、「強弱や速度」、「パートの役割」について指導を工夫していると回答をした教師は、いずれも約8～9割であった。

- 鑑賞の授業において、生徒が、その音楽のよさや美しさを積極的に感じ取ることのできるように指導を工夫していると回答をした教師は約9割、生徒が、音楽の諸要素やそれらの働きと曲想とを結び付けて、言葉で表すことのできるように指導を工夫していると回答をした教師は約5割であった。



鑑賞の授業における指導の工夫を見ると、1(6)「生徒が、その音楽のよさや美しさを積極的に感じ取ることのできるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は89.2%であった。

一方、1(9)「生徒が、音楽の諸要素やそれらの働きと曲想とを結び付けて、言葉で表すことのできるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は50.0%であった。

また、1(7)「生徒が、その音楽の諸要素や諸要素の働きを聞き取ることのできるように指導を工夫していますか。」、1(8)「生徒が、その音楽から感じ取った曲想を、言葉で表すことのできるように指導を工夫していますか。」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ70.6%、74.5%であった。

鑑賞の授業において、生徒が、その音楽のよさや美しさを積極的に感じ取ることのできるように指導を工夫していると回答をした教師は約9割、生徒が、音楽の諸要素やそれらの働きと曲想とを結び付けて、言葉で表すことのできるように指導を工夫していると回答をした教師は約5割であった。

② 生徒の学習状況等（質問2）

- 歌詞の意味や曲想を味わって歌うことや演奏の速度や強弱の変化を聞くことは生徒にとって興味を持ちやすいと回答をした教師は約9割、我が国の伝統音楽のよさを味わって聴くことは生徒にとって興味を持ちやすいと回答をした教師は約5割であった。

教師から見て「生徒にとって興味を持ちやすい」かを見ると、歌唱の学習については、2(1)「歌詞の意味や曲想を味わって歌うこと」、2(4)「速度

や強弱の変化を感じ取って、表現を工夫すること」、2(2)「パートの役割を考えて合唱すること」、2(3)「曲の音色、リズムなどを感じ取って、表現を工夫すること」に対して肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした教師は、それぞれ92.6%、85.7%、78.3%、72.7%であった。

鑑賞の学習については、2(5)「曲の旋律やリズムなどの特徴を聴くこと」、2(6)「演奏の速度や強弱の変化を聴くこと」、2(7)「世界の諸民族の音楽の特徴を感じ取って聴くこと」、2(9)「曲の背景や他の芸術のかかわりを考えて聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ76.5%、88.0%、85.3%、82.0%であった。一方、2(8)「我が国の伝統音楽のよさを味わって聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は52.9%であった。

※これらの値はすべて、各学習内容を指導していると回答した教師のうち、「生徒にとって興味を持ちやすい」に肯定的な回答をした教師の割合であり、以下の項目についても同様である。

- 歌詞の意味や曲想を味わって歌うことや演奏の速度や強弱の変化を聴くことは生徒にとってできやすいと回答をした教師は約9割、我が国の伝統音楽のよさを味わって聴くことは生徒にとってできやすいと回答をした教師は約5割であった。

教師から見て「生徒にとってできやすい」かを見ると、歌唱の学習については、2(1)「歌詞の意味や曲想を味わって歌うこと」、2(2)「パートの役割を考えて合唱すること」、2(4)「速度や強弱の変化を感じ取って、表現を工夫すること」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ89.4%、78.3%、85.7%であった。一方、2(3)「曲の音色、リズムなどを感じ取って、表現を工夫すること」に対して肯定的な回答をした教師は63.6%であった。

鑑賞の学習については、2(5)「曲の旋律やリズムなどの特徴を聴くこと」、2(6)「演奏の速度や強弱の変化を聴くこと」、2(7)「世界の諸民族の音楽の特徴を感じ取って聴くこと」、2(9)「曲の背景や他の芸術のかかわりを考えて聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ76.5%、92.4%、76.5%、80.0%であった。一方、2(8)「我が国の伝統音楽のよさを味わって聴くこと」に対して肯定的な回答をした教師は54.9%であった。

調査結果

IV 分析結果から見た 主な課題と指導上の改善

IV 分析結果から見た主な課題と指導上の改善

現行の小学校学習指導要領第2章各教科第6節音楽（以下「小学校学習指導要領」という。）及び中学校学習指導要領第2章各教科第5節音楽（以下「中学校学習指導要領」という。）（平成10年告示）においては、児童生徒一人一人が個性的で創造的な学習活動を行うことにより、音楽活動の喜びを味わうとともに、生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる基礎的な能力を養うことが重視されている。

その上で、小学校では、児童が本来もっている音や音楽を聴いたり表現したりしようとする潜在的な能力に働きかけ、児童の様々な可能性を引き出し、育て、伸ばしていくことが大切にされている。音楽の表現活動については、歌い方や楽器の演奏の仕方に興味・関心を深めながら、曲想や音の響きを感じ取って歌を歌ったり楽器を演奏したりする能力、音をいろいろと工夫して自分自身の音楽をつくって表現する能力を、また、鑑賞活動については、音楽を特徴付けている様々な要素を聴き分けたり、曲想や楽曲全体の構造を感じ取ったりする能力などを、直接的な音楽体験を通して児童が身に付けることのできるような指導が求められている。

また、中学校では、こうした小学校の学習を基にして、音楽についての知識や発声・楽器の奏法などの技能などと、音楽を形づくっている要素を知覚しそれらの働きによって生み出される曲想や音楽の美しさなどをイメージをもって感じ取る能力とを結び付けることによって、音楽活動の基礎的な能力を更にはぐくんでいくことが大切にされている。音楽の表現活動については、楽曲の構造などへの理解を深め、感性を働かせて曲想などを感じ取り、生徒自らが工夫して表現する能力、鑑賞活動については、音楽を形づくっている要素の働きによってもたらされる自分のイメージや感情を意識するとともに、音楽の背景にある文化・歴史、他の芸術とのかかわりなどを理解して聴く能力を高めていくことのできるような指導が求められている。

以上のような小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の趣旨を踏まえた学習の実現状況などを把握するために、本調査では、音楽科における基礎的・基本的な知識等を中心に把握する調査（調査Ⅰ）、感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心に把握する調査（調査ⅡA）、鑑賞する力を中心に把握する調査（調査ⅡB）を行った。なお、調査ⅡAについては、小学校では表現領域のうち創作（音楽づくり）の状況を見る調査、中学校では表現領域のうち歌唱の状況を見る調査を行った。また、学習内容に関連した児童生徒の意識を見る児童・生徒質問紙調査、教師の指導の実際等に関する学校質問紙調査もあわせて行った。それぞれの調査結果については、本報告書第2章（小学校）と第3章（中学校）に詳述しているが、ここでは、調査結果を全体的に見通して、今後、音楽科の指導を改善充実するため、小学校と中学校を貫いて特に重要と考えられることを3点述べる。

(1) 児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽活動の喜びを得ることができるよう指導を工夫する。

児童・生徒質問紙調査と、調査Ⅰ、調査ⅡA、調査ⅡBとの関連を見ると、質問紙調査のうち「音楽の学習が好きですか。」のように音楽を愛好する心情などに特にかかわる質問項目で肯定的な回答をした児童生徒は、否定的な回答をした児童生徒より、調査Ⅰ、調査ⅡA、調査ⅡBの各問題の通過率が高かった。この傾向は、小学校のほとんどの問題で、中学校ではすべての問題で見られたことから、児童生徒の音楽を愛好する心情などにかかわる意識と表現や鑑賞の学習状況には関連があると考えられる。

この傾向が顕著であったのは、音楽を聴いて自分が想像したことなどを述べるような問題（小学校の調査ⅡB問題2(3)、中学校の調査ⅡB問題5）であった。

音楽を聴いて自分が想像したことなどを述べるような問題を通過した児童生徒が、どのような学習の実現状況かを考えると、当該児童生徒には鑑賞に係る能力がはぐくまれていることはもちろん、例えば、学習の対象となる音楽に対して興味や関心をもつこと、その音楽によって喚起された自分のイメージや感情などを意識すること、感じ取ったことなどを言葉で表そうとしていることがうかがわれる。すなわち、音楽に対する情意的な面が育っており、興味や関心、意欲などをもって学習に取り組んでいると考えられる。

また、児童・生徒質問紙調査の中で、調査ⅡAと調査ⅡBに係る学習内容（小学校は創作及び鑑賞の学習内容、中学校は歌唱及び鑑賞の学習内容）に関する意識を尋ねた結果を見ると、質問項目の中で肯定的な回答の割合が最も高かったのは、小学校では「音楽をつくる活動のとき、友だちといっしょに活動することを楽しんでいますか。」（質問2(6)）、中学校では「合唱をするとき、友だちと一緒に表現することに喜びや楽しさを感じことがありますか。」（質問2(5)）であった。このことから、小学校、中学校ともに、児童生徒は友達と一緒に音楽活動を行うことによって、音楽を学習する楽しさや喜びを見いだしていることがうかがわれる。

なお、児童・生徒質問紙のうち、小学校において「ふだんの生活の中で、音楽（かん單なリズムや旋律など）をつくるとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」（質問1(11)）に対して肯定的な回答をした児童は51.7%、「ふだんの生活の中で、音楽をきくとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」（質問1(15)）に対して肯定的な回答をした児童は42.6%、また、中学校において「ふだんの生活の中で、歌を歌うとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」（質問1(12)）に対して肯定的な回答をした生徒は37.9%、「ふだんの生活の中で、音楽を聴くとき、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていますか。」（質問1(13)）に対して肯定的な回答をした生徒は31.3%であった。これらのことから、小学校、中学校ともに、音楽の授業で学んだことを、ふだんの生活の中で生かそうとしている児童生徒の割合は、低い傾向であることが分かった。

音楽科の目標を見ると、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の目標(1)

では「創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる」ことを、また、中学校学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標(1)では「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる」ことを掲げている。音楽の生活化といった情意面の育ちを大切にすることは音楽科の特徴の一つである。この学年の目標(1)は、平成20年3月に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）にも踏襲されており、このことからも音楽科において情意面を育成していく理念が大切にされていることが分かる。

以上のことから、本調査において肯定的な回答をした児童生徒や、各問題を通過した児童生徒だけではなく、すべての児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽活動の喜びを得ることができるよう指導を工夫することが求められる。また、音楽の授業で学んだことを、児童生徒が自らの生活の中に生かしていくとする態度を養うような指導の工夫も大切である。

具体的には、児童生徒一人一人にとって、音楽の学習内容に対する興味・関心が高まり、自ら取り組む意欲をもつことができるような授業の進め方、児童生徒のよいところを認めて伝えたり励ましたりするなど、よりよい学習を進めていくための評価などを工夫することが考えられる。また、教材の選択や提示の仕方、友達と一緒に音楽活動を楽しみ、互いのよさなどを認め合いながら音楽の喜びや楽しさを体験できるような学習の場を大事にすることなども考えられる。このような指導の工夫によって、音楽を愛好する心情を育てながら、音楽表現や鑑賞に係る諸能力をはぐくみ、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養うようにしていくことが大切である。

(2) 音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、言語活動を適切に取り入れるよう指導を工夫する。

本調査の各問題の中で、自分が感じ取ったことや考えたことなどを一定の条件に基づいて記述する問題については、小学校、中学校ともに通過率が低い傾向が見られた。特に、調査ⅡAでは、中学校の歌唱において「歌詞の内容及び上下の声部のかかわりを理由に挙げて表現の工夫を記述する」問題（問題3）の通過率が13.0%，また、調査ⅡBでは、小学校において「楽曲の強弱の変化によって、はなやかな行列や行進のどのような様子があらわされているのかについて記述し、紹介文を完成させる」問題（問題1(4)）の通過率が20.8%，中学校において「ピアノによる音楽を聴き、気持ちや想像したことを書くこと、2つの音楽の要素を使用することの2つを条件として、その音楽の紹介文を記述する」問題（問題5）の通過率が33.8%であった。

これらの問題は、例えば、適切なものを選択肢から選んで記号で解答する問題やイメージしたことや自由に記述する問題とは異なり、児童生徒が出題の趣旨を理解して、感じ取ったことや考えたことなどを音楽に関する言葉などを用いながら表す力が求められる。しかしながら、児童生徒の解答を見ると、例えば歌唱で

は、どのように工夫して歌うかの理由として、歌詞の内容や上下の声部のかかわりの記述などがあいまいになっていたり（中学校）、鑑賞では、紹介文として、楽曲の強弱の変化によって生み出されるとは言えない内容を記述したり（小学校）、自ら取り上げた音楽を形づくっている要素を適切に用いて記述していかなかったり（中学校）するなどの課題が見られた。このことから、児童生徒の発達の段階などに応じて、音楽に関する言葉を適切に用いて述べることのできるような指導の工夫が求められると考えられる。

また、児童・生徒質問紙調査の中で、鑑賞の学習に関する児童生徒の意識を見ると、小学校では「授業で音楽をきくとき、その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか」（質問2(7)）に肯定的な回答をした児童が78.3%であるのに対し、「授業で音楽をきくとき、その音楽の特徴や演奏のよさを言葉などであらわすことは好きですか」（質問2(12)）に肯定的な回答をした児童が48.5%であった。同様に、中学校では「その音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きですか」（質問2(7)）に肯定的な回答をした生徒が74.8%であるのに対し、「その音楽から感じ取ったことを言葉や文章などで表すことは好きですか」（質問2(12)）に肯定的な回答をした生徒が36.5%であった。

さらに、学校質問紙調査の中で、鑑賞の授業における教師の指導の工夫を見ると、中学校では「生徒が、その音楽のよさや美しさを積極的に感じ取ることのできるように指導を工夫していますか」（質問1(6)）に肯定的な回答をした教師が89.2%であるのに対し、「生徒が、その音楽から感じ取った曲想を、言葉で表すことのできるように指導を工夫していますか」（質問1(8)）に肯定的な回答をした教師が74.5%、「生徒が、音楽の諸要素やそれらの働きと曲想とを結び付けて、言葉で表すことのできるように指導を工夫していますか」（質問1(9)）に肯定的な回答をした教師が50.0%であった。

以上のことから、調査II A、調査II Bの調査結果においては、児童生徒が音楽に関する言葉を適切に用いて感じ取ったことや考えたことなどを表すことができるよう力の育成に課題があること、児童・生徒質問紙調査の結果においては、児童生徒は音楽のよさや美しさを感じ取ることは好きであるが、音楽の特徴や音楽から感じ取ったことなどを言葉で表すことは好きではない傾向にあること、中学校の学校質問紙調査の結果においては、音楽のよさや美しさを感じ取ることのできるような指導を工夫しているが、一方で曲想を言葉で表すことのできるような指導の工夫や、特に音楽を形づくっている要素やそれらの働きと曲想とを結び付けて言葉で表すことのできるような指導の工夫について十分にはなされていないことがうかがわれる。

音楽科の学習は、声や楽器で表現したり音で表すために創作をしたり楽曲を聴き味わったりするなど、音を媒体として成り立つものと言える。それは、音楽活動が音を媒体としたコミュニケーションとしての独自の特質をもっているからである。

したがって、児童生徒が、音楽に関する言葉を適切に用いることができるようになること自体は音楽の学習の直接的なねらいではないが、音楽の表現と鑑賞の

学習を充実するために、言語活動を適切に取り入れるよう指導を工夫することが重要となる。

具体的には、音楽のよさや美しさを生み出している様々な音楽を形づくっている要素やそれらの働きを言葉で表すこと、音楽の表現をどのように工夫するかについて楽曲の構造などを基にしながら考えて言葉で表すこと、音楽によって喚起された自分のイメージや感情などを意識し、生活経験などを通じて体験的に知っている情景にたとえるなどして言葉で表すことなどが考えられる。このような学習活動を、指導のねらいや児童生徒の発達の段階などに応じて積極的に取り入れるようにすることが大切である。その際に、言葉は他者と伝え合い共有する手段として重要な役割をもつことから、話し合いの場などを適切に設けることによって、児童生徒個人と集団全体の学習の質を高めていくよう配慮することが望まれる。

さらに、「ここの歌詞は最も大切なところなので、少しだけ rit.（リタルダンド）をするように表現したい」、「この楽曲が楽しく踊りたくなるように感じるのは、3拍子の音楽だからです」といった言語活動を取り入れることによって、「rit.（リタルダンド）」や「3拍子」が醸し出す音楽の表情を豊かに感じ取りながら、それぞれの意味を音楽活動を通して理解できるようすることも大切である。また、音楽を形づくっている要素とそれらの働き、それらから感じ取ったことを友達同士で伝え合う活動を行うことは、音楽には様々な感じ取り方があることなどに気付き、児童生徒一人一人の音楽に対する価値意識を広げていくことになる。

以上のような音楽の学習に即した言語活動を適切に取り入れることが、音楽の表現と鑑賞の学習を充実させ、生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる基礎的な能力の育成を確かなものにしていく。

なお、実際の授業での学習活動では、発言をする、記述をする、話し合いをするといった言語活動だけではなく、それらと音、体の動き、楽譜、絵などによる表現とが組み合わされることが少なくない。例えば、児童生徒が楽譜に記されている音符、休符、記号や用語などの意味を知ることが、音楽活動と一体的に行われたときに、その大切さや面白さを実感できると考えられる。

(3) 音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりする指導を充実する。

小学校の創作（音楽づくり）において、「変化の仕組みを使って2小節のリズムをつくる」問題（問題1(1)）では、児童が実際につくったリズムの表現（録音したデータによる。）を探点し、変化の仕組みを使ってリズムをつくることができたと判断できる児童は90.1%であったが、つくったリズムの表現と、「変化の仕組みを使ってリズムをつかったときの工夫を記述する」問題（問題1(2)）でその児童が記述した内容との関係について両者に整合関係が見られた児童は43.6%であった。

また、中学校の歌唱において、「表現の工夫を生かした歌唱」（歌唱実技）では、生徒が課題曲を実際に歌唱した表現（録音したデータによる。以下同じ。）を探

点し、「豊かな表現で歌うこと」が全体又はわずかに認められる生徒は61.3%であったが、実際に歌唱した表現と、自分が考えて楽譜に記入した強弱記号（問題4）との関係について両者に整合関係が見られた生徒は26.3%であり、また、実際に歌唱した表現と、自分が考えた表現の工夫を文章で記述した内容（問題3）との関係について両者に整合関係が見られた生徒（「自分が考えた表現の工夫を生かして歌うこと」が認められる生徒）は28.4%であった。

これらの調査結果から、児童生徒がどのように音楽を表現するかについて思考・判断することと、実際にリズムをつくったり歌ったりして音楽で表現することとの関係に課題があると考えられる。

一方で、中学校の歌唱において、生徒が課題曲を実際に歌唱した表現について、(1)音高、(2)音価、(3)強弱、(4)総合的な表現のそれぞれの視点で採点した結果と、「調査I」において音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号の理解などを問う問題（調査I問題3～8（全12問））との関係を見ると、(1)音高、(2)音価、(3)強弱、(4)総合的な表現のいずれについても、それぞれを通過した生徒は通過しなかった生徒よりも、調査I問題3～8の通過した問題数の平均が高かった。この調査結果から、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解することと、自分が考えた表現の工夫を生かして豊かな表現で歌うことやその表現を支える技能を身に付けることには関連があると考えられる。

さて、新学習指導要領は、小学校、中学校ともに平成21年度から移行期に入っています、小学校では平成23年度に、中学校では平成24年度に全面実施される。新学習指導要領では、内容の全体的な構成が見直され、表現領域の内容を歌唱、器楽、音楽づくり・創作の活動分野ごとに示すとともに、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となる〔共通事項〕を新設したことが大きな特徴である。

〔共通事項〕の事項アでは、「音楽を形づくっている要素のうち(ア)（音楽を特徴付けている要素）及び(イ)(音楽の仕組み)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること」（小学校）、「音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること」（中学校）と示されている。音楽を形づくっている要素に関する学習を基にして、感性を高め、思考・判断し表現することが大切にされている。

事項イでは、「音符、休符、記号や音楽にかかる用語について、音楽活動を通して理解すること」（小学校）、「音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること」（中学校）と示されている。要素や記号、用語などを単なる知識として取り出して教えるのではなく、音楽活動を通して理解することが大切にされている。

そして、「A表現」領域の学習では、〔共通事項〕を支えとしながら音楽表現を創意工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって歌唱、器楽、音楽づくり・創作で表すことができるようになると、「B鑑賞」領域の学習では、〔共通

事項】を支えしながら楽曲の特徴や演奏のよさなどを考えたり、音楽を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようになることが求められている。

新学習指導要領は、教育基本法や学校教育法の改正などで規定された教育理念に基づくとともに、これまで各学校が取り組んできた様々な実践の成果や課題を踏まえて示された。本調査の結果によって、新学習指導要領による指導に移行していくに当たり、今後、改善を図っていく課題が明確になったものと考えられる。

前述したように、本調査の結果において、児童生徒がどのように音楽を表現するかについて思考・判断することと、実際に音楽で表現することとの関係には課題があること、また、音楽を形づくっている要素の知覚やそれらの働きを表す用語や記号を理解することと、思考・判断したことを生かして表現することやその表現を支える技能を身に付けることには関連があると考えられる。このことから、今後は、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりする指導を充実することが重要である。

さらに、本章の(1)で述べた「児童生徒が楽しく音楽にかかわり、音楽活動の喜びを得ることができるよう指導を工夫すること」、(2)で述べた「音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、言語活動を適切に取り入れるよう指導を工夫すること」、(3)で述べている「音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりする指導を充実すること」を相互に関連付けた指導を行うことが期待される。

例えば、表現活動における「自分はこのように音楽で表現したい」という思いや意図を膨らませていくような学習や、鑑賞活動における「自分にとってこの音楽にはこのようなよさがある」といった思考・判断をしながら音楽を味わって聴くような学習は、児童生徒が学習内容に対する興味や関心を高め、それに向かって取り組もうとする意欲や態度をもつことによって成り立つ。またこのような学習は、新学習指導要領の【共通事項】に相当する音楽を形づくっている要素に関する学習が支えとなって、児童生徒が音楽の表現を試行錯誤したり、楽曲の特徴を考えたり音楽を解釈したりすることによって意味をもつものとなる。さらに、その過程で、思考・判断していることを音楽に関する言葉などを用いて表すことによって、自己の考えを深め、それを自ら確認したり友達と共有したりして個人と集団全体を高めていくことにもなる。

以上のような学習を実現する指導は、新学習指導要領の趣旨を生かした指導の実施と軌を一にしている。音楽を愛好する心情の育成など児童生徒の音楽活動に対する情意的な面を重視している音楽科の特徴を生かしつつ、児童生徒が音楽を形づくっている要素などの学習を支えとして、感じ取ったことを基に思考・判断し、言葉の活用を図りながら音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりすることができるよう指導の一層の改善充実が求められている。

委員名簿等

【特定の課題に関する調査問題作成委員会委員（小学校音楽）】（五十音順）

（平成21年3月末現在）

※は結果分析委員会委員と兼務

江田	司	和歌山大学教育学部附属小学校教諭（※）
小笠原	実代	高知市立春野東小学校教諭（※）
小川	容子	鳥取大学地域学部教授（※）
恩知	理加	大阪府立夕陽丘高等学校教諭兼大阪府教育センター指導主事（※）
片寄	晴弘	関西学院大学理工学部教授
坂田	映子	横浜市立さわの里小学校校長（※）
志民	一成	静岡大学教育学部准教授（※）
戸塚	浩恵	横浜市教育委員会指導主事
松本	徹	広島大学大学院教育学研究科准教授（※）
森田	恭子	武蔵野音楽大学准教授（※）
山野	昭正	美弥市立豊田前小学校校長（※）
吉川	武彦	福島市立笹谷小学校教諭（※）

【特定の課題に関する結果分析委員会委員（小学校音楽）】（五十音順）

（平成22年3月末現在）

安達	真由美	北海道大学大学院准教授
江田	司	和歌山大学教育学部附属小学校教諭
小笠原	仁美	徳島県立総合教育センター教職員研修課指導主事
小笠原	実代	高知市立春野東小学校教諭
小川	容子	鳥取大学地域学部教授
恩知	理加	大阪府立夕陽丘高等学校教諭兼大阪府教育センター指導主事
坂田	映子	横浜市立桜岡小学校校長
志民	一成	静岡大学教育学部准教授
鈴木	敦	福島県立白河旭高等学校教諭
真武	公司	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課主任指導主事
松永	洋介	岐阜大学教育学部教授
松本	徹	広島県立教育センター企画部主任指導主事
森田	恭子	武蔵野音楽大学准教授
山野	昭正	美弥市立豊田前小学校校長
吉川	武彦	福島市立笹谷小学校教諭

【特定の課題に関する調査問題作成委員会委員（中学校音楽）】（五十音順）

（平成21年3月末現在）

※は結果分析委員会委員と兼務

上野 正直	熊本市立東町中学校教諭（※）
臼井 学	安曇野市立豊科北中学校教諭（※）
勝山 幸子	東村山市立東村山第四中学校教諭（※）
小長井 博子	千葉県庁北総教育事務所指導主事（※）
三戸 誠	ヴィオラ奏者、国立音楽大学・洗足学園音楽大学各非常勤講師（※）
白石 文子	岩手大学教育学部准教授（※）
谷 政憲	高松市立一宮中学校教諭（※）
谷口 桃子	横手市立横手南中学校教諭
原 クミ	福岡県教育委員会義務教育課指導主事（※）
松村 澄人	群馬県教育委員会義務教育課指導主事（※）
松本 進	小松市立串小学校長（※）
水戸 博道	宮城教育大学教育学部教授（※）
宮下 俊也	奈良教育大学教育学部准教授（※）
山下 敦史	札幌市立南が丘中学校教諭（※）

【特定の課題に関する結果分析委員会委員（中学校音楽）】（五十音順）

（平成22年3月末現在）

上野 正直	熊本市立錦ヶ丘中学校教諭
臼井 学	安曇野市立豊科北中学校教諭
勝山 幸子	東村山市立東村山第四中学校教諭
小長井 博子	千葉県庁北総教育事務所指導主事
齊藤 忠彦	信州大学教育学部准教授
三戸 誠	ヴィオラ奏者、国立音楽大学・洗足学園音楽大学各非常勤講師
白石 文子	岩手大学教育学部准教授
谷 政憲	高松市立一宮中学校教諭
原 クミ	福岡県教育委員会義務教育課指導主事
松村 澄人	群馬県教育委員会義務教育課指導主事
松本 進	小松市立串小学校長
水戸 博道	宮城教育大学教育学部教授
薬袋 貴	山梨県教育委員会義務教育課指導主事
宮下 俊也	奈良教育大学大学院准教授
山下 敦史	札幌市立南が丘中学校教諭

出題ビデオ、出題プログラム作成に当たって、演奏等でご協力いただいた方々

(敬称略)

○小学校 演奏協力

石澤 洋平（オーボエ）

須田 寛（リコーダー）

園田 紗子（ピアノ）

前田 淳（指揮）

増田 加寿子（ヴァイオリン）

山口 賢治（尺八）

吉田 拓也（和太鼓）

吉原 佐知子（箏）

吉原 すみれ（打楽器）

武蔵野音楽大学 ほか

○中学校 演奏協力

青田 絹江（パイプオルガン）

工藤 俊幸（指揮）

佐藤 由里亜（ピアノ）

三戸 誠（ヴィオラ）

武田 忠善（クラリネット）

武田 朋子（ピアノ）

塙越 慎子（マリンバ）

藤堂 輝明（民謡）

中村 明一（尺八）

古山 和男（リコーダー）

山本 英助（トランペット）

国立音楽大学 ほか

<民謡の伴奏>

米谷 威正（尺八、笛）

澤田 勝成（三味線）

澤田 勝幸（三味線）

美鵬 那る駒（鳴り物）

美鵬 成る駒（鳴り物）

美鵬 香織（鳴り物）

根本 美希（お囃子）

佐藤 優里（お囃子）

飯塙 桂子（お囃子）

○中学校 音声資料、映像資料提供による協力

工藤 寛（能）

舟屋 五三郎（三味線）

宮下 伸（箏）

財団法人 井上バレエ団（バレエ）

財団法人 新国立劇場運営財団（オペラ）

財団法人 徳島県文化振興財団（人形浄瑠璃）

伶樂舎（雅楽） ほか

国立教育政策研究所においては、以下の者が本調査を担当した。

津田 正之 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
高須 一 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
(平成21年8月31日まで)
大熊 信彦 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
川田 弘人 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
(平成22年3月31日まで)

この他、本調査の全般にわたり、国立教育政策研究所において以下の者が担当した。

作花 文雄 教育課程研究センター長
中岡 司 教育課程研究センター長（平成21年7月13日まで）
大槻 達也 教育課程研究センター長（平成20年7月10日まで）
角屋 重樹 教育課程研究センター基礎研究部長
工藤 文三 教育課程研究センター基礎研究部長（平成22年3月31日まで）
三宅 征夫 教育課程研究センター基礎研究部長（平成21年3月31日まで）
小倉 康 教育課程研究センター基礎研究部総括研究官（平成21年3月31日まで）
長崎 榮三 教育課程研究センター総合研究官
萩原 康仁 教育課程研究センター基礎研究部研究員
梅澤 敦 教育課程研究センター研究開発部長
藤田 和光 教育課程研究センター研究開発部長（平成20年7月11日まで）
稻葉 敦 教育課程研究センター研究開発部研究開発課長
太田 知啓 教育課程研究センター研究開発部研究開発課長（平成21年3月31日まで）
澤田 佳代 教育課程研究センター研究開発部研究開発課企画係長
小田 孝仁 教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職
廣田 雅明 教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職（平成22年3月31日まで）
山口 大地 教育課程研究センター研究開発部研究開発課企画係長
(平成21年3月31日まで)